

2021年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

【発行日：2021/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【C2002】	民事法Ⅰ	[中川 義宏]	春学期授業/Spring	1
【C2003】	民事法Ⅱ	[中川 義宏]	秋学期授業/Fall	2
【C2004】	国際法Ⅰ	[岡松 暁子]	春学期授業/Spring	3
【C2005】	国際法Ⅱ	[岡松 暁子]	秋学期授業/Fall	4
【C2006】	市民社会と政治	[長島 美紀]	秋学期授業/Fall	5
【C2007】	行政学	[金井 利之]	年間授業/Yearly	6
【C2008】	国際関係論	[岡松 暁子]	春学期授業/Spring	7
【C2009】	アメリカ法の基礎	[永野 秀雄]	春学期授業/Spring	8
【C2010】	地方自治論	[阿部 慶徳]	春学期授業/Spring	8
【C2011】	憲法の基礎	[塚林 美弥子]	秋学期授業/Fall	9
【C2012】	刑法の基礎	[渡辺 靖明]	春学期授業/Spring	10
【C2013】	環境法Ⅰ	[横内 恵]	秋学期授業/Fall	11
【C2014】	環境法Ⅱ	[永野 秀雄]	秋学期授業/Fall	12
【C2015】	環境法Ⅲ	[横内 恵]	秋学期授業/Fall	13
【C2016】	環境法Ⅳ	[今井 康介]	秋学期授業/Fall	14
【C2017】	国際環境法	[岡松 暁子]	秋学期授業/Fall	15
【C2019】	労働環境法	[水野 圭子]	春学期授業/Spring	15
【C2020】	自治体環境政策論Ⅰ	[小島 聡]	春学期授業/Spring	16
【C2021】	自治体環境政策論Ⅱ	[小島 聡]	秋学期授業/Fall	17
【C2023】	アメリカ環境法	[永野 秀雄]	秋学期授業/Fall	18
【C2024】	エネルギー政策論	[菊地 昌廣]	春学期授業/Spring	19
【C2025】	地球環境政治論	[横田 匡紀]	春学期授業/Spring	20
【C2026】	地域協力・統合	[大中 一彌]	秋学期授業/Fall	21
【C2100】	ミクロ経済学Ⅰ	[芦田 登代]	春学期授業/Spring	23
【C2101】	ミクロ経済学Ⅱ	[芦田 登代]	秋学期授業/Fall	24
【C2102】	マクロ経済学Ⅰ	[今 喜史]	春学期授業/Spring	25
【C2103】	マクロ経済学Ⅱ	[今 喜史]	秋学期授業/Fall	26
【C2104】	現代企業論	[長谷川 直哉]	春学期授業/Spring	27
【C2105】	ビジネスストーリー	[長谷川 直哉]	秋学期授業/Fall	28
【C2106】	経営学入門	[金藤 正直]	春学期授業/Spring	29
【C2107】	環境経営と会計	[金藤 正直]	秋学期授業/Fall	30
【C2108】	公共経済学	[小田 圭一郎]	秋学期授業/Fall	31
【C2109】	簿記入門Ⅰ・Ⅱ (2015年度以前入学者)	[大下 勇二]	年間授業/Yearly	32
【C2110】	環境経済論Ⅰ	[國則 守生]	春学期授業/Spring	32
【C2111】	環境経済論Ⅱ	[國則 守生]	秋学期授業/Fall	33
【C2112】	環境経営論Ⅰ	[金藤 正直]	春学期授業/Spring	34
【C2113】	環境経営論Ⅱ	[金藤 正直]	秋学期授業/Fall	35
【C2116】	CSR論Ⅰ	[長谷川 直哉]	春学期授業/Spring	36
【C2117】	CSR論Ⅱ	[長谷川 直哉]	秋学期授業/Fall	37
【C2118】	国際環境政策Ⅰ	[國則 守生]	春学期授業/Spring	38
【C2119】	国際環境政策Ⅱ	[久谷 一朗・土井 菜保子・永富 悠・人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	39
【C2122】	国際経済協力論Ⅰ	[武貞 稔彦]	春学期授業/Spring	40
【C2123】	国際経済協力論Ⅱ	[武貞 稔彦]	秋学期授業/Fall	41
【C2126】	環境ビジネス論	[竹ヶ原 啓介]	秋学期授業/Fall	42
【C2127】	平和学	[植村 充]	春学期授業/Spring	43
【C2128】	人間の安全保障	[植村 充]	秋学期授業/Fall	44
【C2129】	環境マネジメントスタディーズⅠ	[池原 庸介]	春学期授業/Spring	45
【C2130】	環境マネジメントスタディーズⅡ	[池原 庸介]	秋学期授業/Fall	46
【C2131】	簿記入門Ⅰ (2016年度以降入学者)	[大下 勇二]	春学期授業/Spring	47
【C2132】	簿記入門Ⅱ (2016年度以降入学者)	[大下 勇二]	秋学期授業/Fall	48
【C2133】	行政法Ⅰ	[横内 恵]	秋学期授業/Fall	49
【C2134】	行政法Ⅱ	[横内 恵]	秋学期授業/Fall	50
【C2200】	現代社会論Ⅰ	[佐伯 英子]	春学期授業/Spring	51

【C2201】	現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	52
【C2202】	現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	53
【C2203】	NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	54
【C2204】	フィールド調査論 [笠原 良太] 春学期授業/Spring	55
【C2205】	フィールド調査論 [笠原 良太] 秋学期授業/Fall	56
【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 春学期授業/Spring	57
【C2208】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	58
【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	59
【C2210】	地域形成論 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	61
【C2211】	地域経済論Ⅰ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	62
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	63
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	64
【C2214】	都市環境論Ⅰ [難波 匡甫] 春学期授業/Spring	65
【C2215】	都市環境論Ⅱ [難波 匡甫] 秋学期授業/Fall	66
【C2216】	都市デザイン論 [佐谷 和江] 秋学期授業/Fall	67
【C2217】	環境社会論Ⅰ [黒田 暁] 春学期授業/Spring	68
【C2218】	環境社会論Ⅱ [黒田 暁] 秋学期授業/Fall	69
【C2220】	労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	70
【C2221】	労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 秋学期授業/Fall	71
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 春学期授業/Spring	72
【C2225】	ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	73
【C2226】	ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	74
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	75
【C2228】	科学技術社会論 [詫間 直樹] 秋学期授業/Fall	77
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	78
【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期授業/Spring	79
【C2232】	国際社会学 [新藤 慶] 秋学期授業/Fall	80
【C2233】	文化経営論 [武田 知也] 秋学期授業/Fall	81
【C2240】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	82
【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期授業/Spring	83
【C2301】	仏教思想 [小島 敬裕] 秋学期授業/Fall	84
【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	85
【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	86
【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	87
【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期授業/Fall	88
【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	89
【C2309】	応用倫理学 [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	90
【C2310】	環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	91
【C2311】	環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	92
【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	93
【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	94
【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [梅原 秀元] 春学期授業/Spring	95
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [梅原 秀元] 秋学期授業/Fall	96
【C2316】	環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	97
【C2317】	環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	98
【C2321】	環境人類学Ⅲ [難波 美芸] 秋学期授業/Fall	99
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	100
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	101
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	102
【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	103
【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	104
【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	105
【C2409】	環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	106
【C2410】	環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	107
【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	108
【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	109
【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	110

[C2414]	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	111
[C2416]	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	112
[C2417]	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	113
[C2418]	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	114
[C2419]	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	115
[C2420]	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	116
[C2421]	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	117
[C2423]	大気と社会Ⅰ [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	118
[C2432]	自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	119
[C2433]	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	120
[C2500]	環境管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	121
[C2501]	環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	122
[C2503]	環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	123
[C2504]	キャリア入門 [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	124
[C2505]	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	125
[C2506]	食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	126
[C2507]	食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	127
[C2508]	スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	128
[C2509]	スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	129
[C2554]	アーティストと社会貢献 [庄野 真代] 春学期授業/Spring	130
[C2559]	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	131
[C2560]	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	132
[C2563]	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	133
[C2564]	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	134
[C2570]	地域経済論Ⅱ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	135
[C2579]	人間環境特論(職業選択と自己実現) [才木 弓加] 春学期授業/Spring	136
[C2600]	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	137
[C2602]	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	138
[C2701]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	139
[C2703]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	140
[C2704]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	141
[C2706]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	142
[C2707]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	143
[C2712]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	144
[C2714]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	145
[C2716]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	146
[C2717]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	147
[C2718]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	148
[C2719]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	149
[C2720]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	150
[C2722]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	151
[C2724]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	152
[C2725]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	153
[C2726]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	154
[C2729]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	155
[C2730]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	156
[C2733]	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	157
[C2800]	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	158
[C2801]	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	159
[C2802]	情報処理基礎 [松本 倫明] 春学期授業/Spring	160
[C2803]	情報処理基礎 [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	161
[C2804]	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	162
[C2805]	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	163
[C2806]	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	164
[C2807]	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	165
[C2809]	統計とデータ分析 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	166
[C2812]	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 春学期授業/Spring	167

【C2900】	英語Ⅰ（スキルアップ科目）[平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	168
【C2903】	英語Ⅰ（スキルアップ科目）[板橋 美也] 春学期授業/Spring	169
【C2909】	英語Ⅱ（スキルアップ科目）[磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	170
【C2915】	英語Ⅲ（スキルアップ科目）[磯部 芳恵] 春学期授業/Spring	171
【C2921】	英語Ⅳ（スキルアップ科目）[磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	172
【C2950】	テーマ別英語1（スキルアップ科目）[王 川菲] 春学期授業/Spring	173
【C2956】	テーマ別英語3（スキルアップ科目）[R. G. ジェイムズ] 春学期授業/Spring	175
【C2959】	テーマ別英語4（スキルアップ科目）[R. G. ジェイムズ] 秋学期授業/Fall	176
【C3000】	研究会 A [朝比奈 茂] 年間授業/Yearly	177
【C3003】	研究会 A [板橋 美也] 年間授業/Yearly	178
【C3004】	研究会 A [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	179
【C3005】	研究会 A [岡松 暁子] 年間授業/Yearly	180
【C3006】	研究会 A [梶 裕史] 年間授業/Yearly	181
【C3010】	研究会 A [小島 聡] 年間授業/Yearly	182
【C3011】	研究会 A [小島 聡] 年間授業/Yearly	183
【C3012】	研究会 A [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	184
【C3015】	研究会 A [武貞 稔彦] 年間授業/Yearly	185
【C3017】	研究会 A [辻 英史] 年間授業/Yearly	186
【C3018】	研究会 A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	187
【C3019】	研究会 A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	188
【C3020】	研究会 A [長峰 登記夫] 年間授業/Yearly	189
【C3022】	研究会 A [西城戸 誠] 年間授業/Yearly	191
【C3023】	研究会 A [根崎 光男] 年間授業/Yearly	192
【C3024】	研究会 A [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	193
【C3025】	研究会 A [日原 傳] 年間授業/Yearly	194
【C3026】	研究会 A [平野井 ちえ子] 年間授業/Yearly	195
【C3027】	研究会 A [藤倉 良] 年間授業/Yearly	196
【C3028】	研究会 A [金藤 正直] 年間授業/Yearly	197
【C3029】	研究会 A [松本 倫明] 年間授業/Yearly	198
【C3030】	研究会 A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	199
【C3031】	研究会 A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	200
【C3034】	研究会 A [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	201
【C3035】	研究会 A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	202
【C3036】	研究会 B [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	203
【C3037】	研究会 B [岡松 暁子] 年間授業/Yearly	204
【C3038】	研究会 A [梶 裕史] 年間授業/Yearly	205
【C3040】	研究会 B [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	206
【C3043】	研究会 B [武貞 稔彦, 竹本 研史] 年間授業/Yearly	208
【C3047】	研究会 B [長峰 登記夫] 年間授業/Yearly	209
【C3048】	研究会 B [根崎 光男] 年間授業/Yearly	210
【C3049】	研究会 B [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	211
【C3052】	研究会 A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	212
【C3054】	研究会 B [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	213
【C3055】	研究会 B [日原 傳] 秋学期授業/Fall	214
【C3062】	研究会 B [金藤 正直] 年間授業/Yearly	215
【C3064】	研究会 B [高橋 五月] 年間授業/Yearly	216
【C3071】	研究会 A [高橋 五月] 年間授業/Yearly	217
【C3072】	研究会 A [竹本 研史] 年間授業/Yearly	218
【C3073】	研究会 A [横内 恵] 年間授業/Yearly	219
【C3074】	研究会 A [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	220
【C3075】	研究会 A [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	221
【C3076】	研究会 A [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	222
【C3081】	研究会 B [横内 恵] 年間授業/Yearly	223
【C3083】	研究会 B [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	224
【C3085】	研究会 B [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	225
【C3087】	研究会 B [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	226
【C3091】	研究会 B [西城戸 誠] 年間授業/Yearly	227

【C3095】	研究会 B [高田 雅之] 年間授業/Yearly	228
【C3128】	研究会修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	229
【C3150】	コース修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	230
【C3160】	プログラム修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	231
【C3200】	人間環境セミナー (都市の持続可能性) [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	232
【C3201】	人間環境セミナー (「持続可能な開発目標 (SDGs)」と私たちー 2030 年とその先を自分事化する) [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	233
【C3204】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	234
【C3300】	フィールドスタディ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	235
【C3301】	フィールドスタディ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	236
【C3455】	SCOPE Seminar [Masaatsu TAKEHARA] 秋学期授業/Fall	236
【C3458】	SCOPE Seminar [Masaatsu TAKEHARA] 春学期授業/Spring	237
【C3459】	SCOPE Seminar [Hidemi YOSHIDA] 秋学期授業/Fall	238
【C3460】	SCOPE Seminar [Hidemi YOSHIDA] 春学期授業/Spring	239
【C3461】	SCOPE Seminar [Shamik Chakraborty] 秋学期授業/Fall	240
【C3462】	SCOPE Seminar [Shamik Chakraborty] 春学期授業/Spring	241

LAW200HA

民事法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第 2 回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第 3 回	民法総則 (1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第 4 回	民法総則 (2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第 5 回	民法総則 (3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第 6 回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第 7 回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第 8 回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。
第 9 回	契約 (1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。
第 10 回	契約 (2)	民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用について学習する。
第 11 回	事務管理・不当利得	民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。
第 12 回	不法行為 (1)	民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。
第 13 回	不法行為 (2)	民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。
第 14 回	試験及び解説（実施できないときは民事法 I のまとめ）	試験を実施し、その解説をしながら、民事法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第 2 版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600 円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第 14 回目に期末試験を行い（実施できない場合はレポート課題）、成績評価はこの期末試験（又はレポート課題）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50 点、平常点 50 点の 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Through the study of “civil law”(mainly contract law and tort law), we can get the legal mindset. We will learn about trials as appropriate.

LAW200HA

民事法Ⅱ

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法的一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第8回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第9回	養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、内縁について学習する。
第10回	親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第11回	相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第12回	遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。

第13回	配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第14回	試験及び解説（実施できないときは民事法Ⅱのまとめ）	試験を実施し、その解説をしながら、民事法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第2版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い（実施できない場合はレポート課題）、成績評価はこの期末試験（又はレポート課題）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Through the study of “civil law”(mainly family law and law of succession), we can get the legal mindset. We will learn about trials as appropriate.

LAW200HA

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。
教室での講義が可能になるまでの間、オンデマンドによるビデオ講義のほか、ZOOM による質疑応答を行う。
詳細は、授業支援システムで確認のこと。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的关系、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年、4,730 円
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣、3,080 円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年、2,724 円

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%)
期末レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW200HA

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法（3）	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第12回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第13回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法〔第2版〕』有斐閣、2010年。4,730円
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。3,080円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第2版〕』有斐閣、2011年。2,724円

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

POL200HA

市民社会と政治

長島 美紀

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治に興味が無い」「自分とのつながりが分からない」そんなコメント聞くことがあります。果たして本当にそうでしょうか？ 私たちの日常は「政治」と密接にかかわっています。それはちょっとした疑問や要望から始まり、あなたの暮らす地域の町内会、市町村、県、国、そして国際社会へとつながる、大きなつながりです。

本講義（授業）では、市民社会における様々なテーマにおける「政治のあり方」について考えていきます。テーマは持続可能な開発目標（SDGs）のゴールから毎回1つ選び、授業でディスカッションします

授業を通じてぜひ政治を自分ゴトとして考えてもらうことを期待しています。

【到達目標】

私たちの日常で感じる疑問を社会課題とつなげて考え、議論する力を身につけることができる。

授業でのディスカッションを通じて、他の学生の意見をきくことでより自分の意見を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では毎回テーマに沿って講師からの講義とその後受講生同士の映像やレジュメ、パワーポイントを使った論点の提示の後、授業内で小グループに分かれ、テーマに沿ってディスカッションと発表を行います。授業内での発表は必須ではありませんが、みなさんの積極的な参加を期待しています。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回終了後にリアクションペーパーの提出があります。毎回授業の初めにリアクションペーパーを見ながら、振り返りを行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション「私たちと政治」	私たちのライフステージに合わせた様々な事柄を通じて社会と自分のかかわりを考えるイントロダクションです。
第2回	SDGsと市民社会「なぜ今「続かない」社会なのか」	持続可能な開発目標（SDGs）という言葉が良く聞かれるようになりました。授業でテーマで取り上げる前に、そもそもSDGsとは何か、SDGsにおける市民社会の役割を考えます。
第3回	貧困とは何か	相対的貧困、コロナによる非正規労働者の失業とその対策について考えます。
第4回	フードロス問題を考える	最近よく聞かれるフードロス問題。フードロスの根本課題と市民社会の役割を考えます。
第5回	医療と私たちの生活：コロナ、地域医療、ACPとは	COVID-19は日本で医療崩壊や地域医療のあり方への疑問を投げかけました。望ましい医療体制とは何でしょうか？
第6回	ジェンダー平等「女性が輝く社会」とは	#MeTooは私たちの問題でもあります。#MeTooや最近のSNSでの炎上テーマを通じて私たちの生きやすさ、社会の包摂を考えます。
第7回	ジェンダー平等「男性の生きづらさ」	ジェンダー平等が言われる一方で、「男性の生きづらさ」も語られています。ジェンダーを扱う2回目の授業では、男性の生きづらさを中心にジェンダー問題を深堀します。
第8回	ディーセントワーク	「人間としての尊厳ある働き方」に注目が集まっています。同一労働同一賃金の一方で、コロナによる非正規雇用の失業など、雇用環境は厳しいのが現状です。働くとはどういうことか、考えます。

- 第9回 エシカル消費とは何か 「エシカル消費」という言葉が良く言われる一方、このエシカル消費は何を意味するのでしょうか？消費を通じて私たちは社会をどう変えられるのでしょうか？
- 第10回 気候変動と私たちの暮らし 気候変動は町づくりや防災に大きな影響を与えています。気候変動に私たち何ができるのでしょうか？
- 第11回 差別はなぜ起きるのか 2020年はBlack Lives Matter問題に見られるように、コロナ禍での持たざる者への差別が起きました。差別はなぜ起きるのか、日本での問題は何か、考えます。
- 第12回 「自粛警察」「買い占め騒動」から考える コロナ禍で問題になった「自粛警察」。私たちが正しい判断を持ち、行動するにはメディアの情報を正しく判断する必要があります。自粛警察などを事例に問題を考えます。
- 第13回 民主主義を考える ポストトゥルースの時代 ポストトゥルースはトランプ政権の時に言われるようになりました。私たちは情報をいかに知り、判断すべきでしょうか？メディアの役割は？改めて情報と市民社会の関係を考えます。
- 第14回 民主主義を考える 2020年のアメリカ大統領選挙とその後の混乱は、民主主義への大きな課題を突き付けました。民主主義とは何か、そして今日本を含め世界各地で生じているポピュリズムは何でしょうか？そしてこの流れは市民社会にどう影響するのか、考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備学習】事前に次回講義のテーマとディスカッションテーマ、および必要に応じて参考文献を提示。

【復習】授業終了後に講義のコメントをオンライン提出。感想は次回授業で共有、振り返りを行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク編『基本解説 そうだったのか。SDGs 2020 一我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダから、日本の実施指針まで』（2020年、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク）

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、リアクションペーパーの提出やディスカッションへの参加度（30%）、試験（60%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、通信環境

【その他の重要事項】

授業は場合によってテーマが変更されたり、講義の順番が入れ替わることがあります。その場合は変更となる回の前までにお伝えします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, you can learn about social agendas in civil society, such as poverty, aging, gender, depopulation, racism, etc., and discuss the role of politics to solve these agendas. Politics relates closely with our daily life, so I expect you to deepen your thoughts about civil society and its possibility to change the world.

POL200HA

行政学

金井 利之

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は政策行政系の科目であり、政治学科の政治学基本科目群に属する。

現代日本の行政と官僚制の役割と活動の様々な特徴について解説する。学生が行政との相互作用をするときのための基礎的な知識を学習する。

【到達目標】

行政や官僚制あるいは行政職員の行動について、そのような現象として現れることを理解するとともに、そのような行政と対面したときに、どのように対処するかを考える能力を開発するための基礎体力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本行政の様々な特徴について、それぞれ、1回1テーマを採り上げて、逐次解説していく。ハイブリッド方式である。Zoomによるミーティングを活用して講義を行う。但し、何回かに一回は、教室での対面の回（討論会）を設ける予定である。討論会において、学生による報告、学生間討議、教員による解説などのフィードバックも行う。ただし、COVID-19の状況や交通機関・外出へのハードルなどによって変化するので、対面の回を具体的に何月何日に設定するかは、予定と変更になることも有り得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	この講義の基本的な狙いについて説明する
第2回	相対性	行政の役割と機能について、行政以外の様々な役割と機能との相対関係を論じる。
第3回	空間性	行政の空間との関係について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第4回	時間性	行政と時間との関係について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第5回	討論会（1）	対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。
第6回	権威性	行政の権威性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第7回	区別性	行政の区別性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第8回	専門性	行政の専門性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第9回	秘密性	行政の秘密性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第10回 討論会（2）

対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。

第11回 合法性

行政の合法性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第12回 自律性

行政の自律性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第13回 妥当性

行政の妥当性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第14回 討論会（3）

対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。

第15回 公平性

行政の公平性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第16回 民主性

行政の民主性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第17回 代表性

行政の代表性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第18回 中立性

行政の中立性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第19回 討論会（4）

対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。

第20回 総合性

行政の総合性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第21回 計画性

行政の計画性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第22回 調整性

行政の調整性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第23回 討論会（5）

対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。

第24回 必要性

行政における／対する必要性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第25回 限界性

行政の限界性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第26回 決定性

行政の決定性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第27回 責任性

行政の責任性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第28回 総括討論会

対面を原則とする。1年間の講義を踏まえて、総括討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の序盤から中盤にかけては教科書の該当部分を事前に読んでおくさまざまな行政現象に関して、新聞、インターネット、テレビ、雑誌（できるだけ週刊誌）等の情報に接するように努力する。特に、紙媒体としての新聞を読むことを強く求める。

本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲覧毎日15分×7日＝115分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金井利之『行政学概説』放送大学教育振興会、2020年、本体3100円

【参考書】

講義のなかにおいて、必要に応じて適宜、言及する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（0%）

討論会での報告・発言（0%）

夏休み課題レポート（後期冒頭提出）（30%）

学年末試験（対面試験の実施が困難など、状況を見ながら形式を検討する。レポートに振替する可能性もある）（70%）

【学生の意見等からの気づき】

発言については、文脈を踏まえ、真意を付度した上で、傾聴と理解の精神が重要である。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン受講できるようなデバイス／周辺環境

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む

【Outline and objectives】

This is a class regarding public policy and administration.

I aims at providing characteristics of roles and activities of modern Japanese public administration and bureaucracy. Students could study basic knowledge when they would interact with public administration.

POL100HA

国際関係論

岡松 暁子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。前半は、「戦争と平和」をテーマとし、世界史、冷戦期の国際関係、冷戦後の国際秩序、を中心に学ぶ。後半は、戦争がなくても平和ではない、という認識の下、よりよい国際社会の構築をめざした国際社会の取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史の変遷	南北問題と東南アジア
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特徴
第14回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で行った範囲をよく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The course provides an introduction to international peace studies. The themes of this course are; “War and Peace” and “Human Security”.

LAW200HA

アメリカ法の基礎

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、社会問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。その後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

なお、本授業は、対面授業として実施される予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第2回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第3回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第4回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第5回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第6回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第7回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第8回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第9回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第10回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第11回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第12回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第13回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第14回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布するか、HoppiでPDFファイルとして配布します。

【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第8版）』（有斐閣、2018年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思っております。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will give you the fundamental principles that comprise the American legal system. We will examine the United States Constitution, centering on the issues of the federal government and civil rights. For each issue we will learn important judicial precedents.

POL200HA

地方自治論

阿部 慶徳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方自治の基礎を学ぶことにより、他の自治体政策に関する科目を理解できるようになることを目的とする。地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【到達目標】

他の自治体政策に関する科目を理解できるように、地方自治に関連する基礎知識を幅広く学習する。このことにより、地方自治体が様々な公共サービスを提供し、自らの生活といかに関連しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義方式で授業を行う。映像や新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを伝える。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求める場合がある。当講義はオンデマンド方式で授業を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地方自治の理念・基本的な考え方	地方自治の理念の重要性や、地方自治がなぜ必要なのかを講義する。
2回	地方自治の基本制度	二層制、行政機構・公務員、広域行政、指定都市・中核市制度など、基本的な制度の解説する。
3回	府県関係と地方分権	国と地方政府としての都道府県、市町村の関係や、地方分権がどのように進展したかを解説する。
4回	地方財政	中央政府と比較して、地方政府の財政がいかに関与されているかを解説する。
5回	法令と条例・規則・要綱	中央政府が制定する法律の範囲内、地方政府がいかに関与しているかを解説する。
6回	直接請求権・市民参加	自治体に対して認められている直接請求権制度について解説するほか、同制度を利用した市民参加などについても講義する。
7回	自治体とNPO等との協働	様々な行政課題に対し、NPOや地域社会との協働がいかになされているのか、またその課題について解説する。
8回	自治体の政策体系と行政サービス	自治体の政策が、各行政分野ごとにいかに異なり、自治体内で「調整」されているかを解説する。
9回	地方自治と地域社会の今 日的問題のトピック	実際の社会現象を取り上げ、これまでの講義で学んできた地方自治論の観点からどのような分析が可能なかを解説する。
10回	地方政治	首長と地方議会などの地方政治における政治アクターの活動を解説する。
11回	戦後の地方自治の歴史的な流れ	戦後の地方自治制度・地方政治の変化について解説する。また、革新自治体についても講義する。
12回	戦前の地方自治の歴史的な流れ	戦前の地方自治制度について解説する。
13回	現代の地方自治の課題	現在の地方自治の課題を、これまでの講義をふまえて解説し、1 - 12回の講義のまとめを行う。
14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。講義で取り扱った内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努めること。自分の住んでいる自治体の財政状況などを調べること。

日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。プリントなどは学習支援システム上で配布する。

【参考書】

特に参考書は指定しない。必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（70％）に授業内の小レポート・リアクションペーパーの提出状況等（30％）を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式での授業となるため、適宜質問時間を設ける予定である。また、メール等を通じた質問も歓迎する。地方自治に関心が持てるよう、身近なニュース等をお伝えするよう努める。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the basics of local autonomy so that you can understand subjects related to other lectures of local government policies. It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

LAW200HA

憲法の基礎

塚林 美弥子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の基本原理、ものの見方、そして立憲主義とは何かを理解し、「憲法に基づいたものの見方」を養うことが本授業の目標です。これは公的空間に参加するために必要な一つの見識です。そもそもなぜそのような力が求められるかを併せて学びましょう。

【到達目標】

- 1) 日本国憲法の基本原理、ものの見方を理解する。
- 2) 自身の見解を論理的に表現する。
- 3) 日常に潜伏する「憲法問題」を見抜く力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書や参考書のほか、項目ごとにレジュメや資料をもとに解説を行う。但し、担当の一方通行の授業にならぬよう、授業内で受講生に発言を求めるほか、授業後に感想などを提出してもらおう可能性もあります。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	憲法とは何か？	講義担当者の自己紹介、講義の進め方と講義内容の全体像についての説明等に加え、そもそも憲法とは何かを学びます。法律との違いがわかればさしあたり OK です。
国民主権	国民主権と天皇の地位	日本国憲法の基本原理の一つとしてなぜ「主権」が挙がるのか、憲法成立の歴史的経緯を含めて学びます。
平等 (1)	憲法上の平等について	憲法上の「平等」とはなにか、具体的判例を用いて学びます。とくに第 24 条の制定に奔走したベアテの思想を追います。
平等 (2)	(1) の続き 思想良心 思想良心の自由について の自由	判例の検討。 個人の良心や信仰がなぜ憲法上保障されるのか、具体的判例を用いて学びます。とくに「学校」で生じる問題を扱います。
表現の自由	表現の自由について	表現の自由はなぜ憲法上保障されるのか、「保護されない」言論はあるのか、争点を整理します。
人身の自由	人身の自由について	将来の裁判員候補である受講生が、憲法的に考えるべきことは何であるかを学びます。
経済的 自由	職業選択の自由・財産権 について	経済的諸権利が保障される根拠と同時に、制限される場面がいかなるものかを検討します。
生存権 (1)	社会権という権利の性質 について。	「貧困は自己責任」なのか。憲法によって保障されるべき「健康で文化的な最低限度の生活」について、判例も交えながら憲法的に考えます。
生存権 (2)	(1) の続き	(1) の続き
平和主義 (1)	「平和的生存権」について	日本国憲法の「平和主義」の世界史的意義を理解し、判例や学説を通じて、とくに「平和的生存権」について学びます。
平和主義 (2)	(1) の続き	(1) の続き
議院内閣制	議院内閣制について	国会と内閣の関係を検討します。
裁判所	司法権について	裁判員制度を念頭に、司法権について検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

項目ごとに教科書を一読し、何がわかるか／わからないかを整理してください。日々のニュースを新聞やネットの記事などを通じてチェックしてください。

【テキスト（教科書）】

斎藤一久・城野一憲編『教職のための憲法』（ミネルヴァ書房、2020年）

【参考書】

岡田順太・淡路智典・今井健太郎編『判例キーワード憲法』（成文堂、2020年）
安念潤司/小山剛/青井未帆/穴戸常寿/山本龍彦・編『憲法を学ぶための基礎知識 論点日本国憲法』（第2版）など。
適宜、授業を通じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験… 70 %

授業への参加度… 30 %

※受講者数や新型コロナウイルス感染拡大に伴う大学の方針などに従い、一部変更（中間レポートの作成など）が生じる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

担当者が容易するレジュメを各自印刷して臨んでください。

【その他の重要事項】

受講者数や新型コロナウイルス感染拡大による大学の方針により、授業内容や成績評価の実施方法など一部変更する可能性があります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

To understand the essence and the fonction of Constitutional law.

LAW200HA

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなもののでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例をつづりながら、刑法の社会における意義と役割とを考えます。

新型コロナ・ウイルスの世界規模での感染拡大によって、私たちは、「新しい生活様式」に順応することがもてられています。ワクチンの開発によって脱コロナへの光がすこしみえてきたとはいえ、まだまだいろいろと先がみとせず、不安な日々をおくっている人もおおいでしょう。

もっとも、新型コロナ発生前から、私たちの現代社会は、環境の変動、AIの加速度的な発展などにより、VUCAとよばれる、変動し、不確定、複雑で曖昧な時代にはいつていると指摘されてきました。つまり、私たちの未来は、予測不可能で不透明なものになっているというのです。

そのようなVUCA時代において未知の課題に対応するためには、これまでの価値観や伝統にとらわれず、新しく多様な発想がもてられているともいわれています。そのような発想を伸ばし育てるには、私たちの個性をより一層尊重し、多様性を重視する社会にならなければならないというのです。

しかし、そうだとしても、個性の尊重と多様性の重視は、他の人や社会にどんなに迷惑をかけても、自分さえ幸せで自由でありさえすればいいということとおなじ意味でしょうか。

たとえ予測不可能で先行き不透明な時代であっても、私たちがお互いに助けあい、誰でも幸せに生きていける「共存の社会」が理想だとすれば、そのために変わらず守るべきものとは何かをよく理解しておく必要があるのではないのでしょうか。

刑法は、このことを考えるうえでうってつけの法律です。何しろ、いまの日本の刑法ができたのは1907年であり、110年以上基本的小おきな改正をされることなく、現在でも重要な法律として通用しているからです。

それでは、この「古い」刑法が、いまも変わらず守るべきものだと考えていることは一体何でしょうか。また、このことを前提として、現代の社会で、刑法（あるいは法）でできることと、できないこととは何でしょうか。そしてその理由とはどのようなものなのでしょうか。

刑法の概要をまなぶことをつづり、こうしたことを理解することは、VUCA時代でも他の人と仲良く共存しながら誰もが幸せに生きていくためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係をふまえて、刑法の一般原則および犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれにかんする判例（裁判所の判断）および学説の議論を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜もうけます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、遠隔授業での講義となる予定です。

各回ごとに、講義録音とレジュメをアップし、具体的事例について検討して、各回のテーマごとの理解をはかります（第1回はレジュメのみアップする予定）。

録音は、OATubeにアップする予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系および「刑法」の意義をまなぶ。
第2回	殺人罪①－犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件および刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などをまなぶ。
第3回	殺人罪②－犯罪の故意・過失	犯罪の故意と過失、故意犯処罰の原則、責任主義などについてまなぶ。

第4回	殺人罪③－罪刑法定主義	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などをまなぶ。
第5回	傷害罪	傷害の意義および傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などをまなぶ。
第6回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義および同意の有効性と刑法の最終手段性の原則との関係などをまなぶ。
第7回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などをまなぶ。
第8回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当な根拠をめぐる議論などについてまなぶ。
第9回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎をまなぶ。
第10回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎をまなぶ。
第11回	名誉毀損罪・侮辱罪真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎および刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係をまなぶ。
第12回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則および個別の犯罪の基礎をまなぶ。
第13回	放火罪・偽造罪	放火罪（公共危険犯）、偽造罪（取引の安全に対する罪）の基礎をまなぶ。
第14回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎をまなぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をする。とくに復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。おすすめの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業であつかった基礎知識を問う期末の最終レポート 80%、適宜評価する小課題 20% の総合評価でおこなう予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も録音聴講形式の遠隔授業でしたが、受講生からは、はじめはこの形式で理解ができるか不安だったものの、最終的には刑法の基礎知識が深くまなべた、録音形式なのでわからないところは繰り返し確認できたのでよかったという感想を書いてくれた人もすくなくありませんでした。その一方で、講義録音の聴講数は、小課題や最終レポートの提出期限内に集中することもおおかつたです。ゆとりをもって聴講でき、一層理解のしやすい講義となるように努力をかせなたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで、レジュメや課題・レポートの提示をします。また、ネットをつうじて講義録音を聴講できることが受講の前提となります（OATube の視聴方法については、開講時に支援システムをつうじて連絡します）。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目もあわせて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪についてまなびます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

なお、刑法にかぎらず、法律学は、条文、判例、学説の理解が基本です。これらを十分に理解せずに、自分のこれまでの断片的な知識・経験による見解だけを一方的に主張しても、法律をまなだことにはなりません。受講にあたり、またレポートの作成・提出時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

LAW300HA

環境法Ⅰ

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説する。

【到達目標】

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業だが、オンラインでの質問対応の機会も確保する予定である。その詳細については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。

学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に対応した授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第2回	環境法の基本的な考え方	当該テーマについて解説する
第3回	環境法の手法	当該テーマについて解説する
第4回	わが国の環境法の歴史	当該テーマについて解説する
第5回	わが国の環境法の歴史	当該テーマについて解説する
第6回	環境基本法	当該テーマについて解説する
第7回	大気汚染防止法	当該テーマについて解説する
第8回	水質汚濁防止法	当該テーマについて解説する
第9回	土壌汚染対策法	当該テーマについて解説する
第10回	環境アセスメント	当該テーマについて解説する
第11回	循環基本法・リサイクル法	当該テーマについて解説する
第12回	廃棄物処理法	当該テーマについて解説する
第13回	自然公園法	当該テーマについて解説する
第14回	まとめ	授業のまとめを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、スライドや解説ノートと教科書をよく読んでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第5版〕』（弘文堂、2020年）。（本体 3,300円＋税）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。履修に際しては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in environmental administrative law.

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.

LAW300HA

環境法Ⅲ

横内 恵

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、産業廃棄物、高レベル放射性廃棄物の各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深める。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指す。

【到達目標】

「環境法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

状況次第では対面授業を実施する可能性もあるが、少なくとも本シラバス執筆時点の計画としては、オンデマンド授業を行う予定である。オンデマンド授業の場合でも、オンラインでの質問対応の機会を確保する予定である。詳細については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・イントロダクション	本講義を受講するにあたっての注意事項等を説明する
第 2 回	環境アセスメント（1）	当該テーマについて解説する
第 3 回	環境アセスメント（2）	当該テーマについて解説する
第 4 回	環境アセスメント（3）	当該テーマについて解説する
第 5 回	環境アセスメント（4）	当該テーマについて解説する
第 6 回	廃棄物処理法（1）	当該テーマについて解説する
第 7 回	廃棄物処理法（2）	当該テーマについて解説する
第 8 回	廃棄物処理法（3）	当該テーマについて解説する
第 9 回	廃棄物処理法（4）	当該テーマについて解説する
第 10 回	高レベル放射性廃棄物（1）	当該テーマについて解説する
第 11 回	高レベル放射性廃棄物（2）	当該テーマについて解説する
第 12 回	高レベル放射性廃棄物（3）	当該テーマについて解説する
第 13 回	高レベル放射性廃棄物（4）	当該テーマについて解説する
第 14 回	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書や参考資料の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、スライドや解説ノートと教科書をよく読んでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第5版〕』（弘文堂、2020年）。（本体 3,300 円＋税）

【参考書】

必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象とします。履修に当たっては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しない。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students special knowledge and skills within several environmental fields.

LAW300HA

環境法Ⅳ

今井 康介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。

環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチ、特に刑事罰の独自性、特殊性、有効性、そしてその限界を扱います。

環境刑法の基本的な問題や現在の制度の問題点等を学ぶことにより、自らが将来、会社や企業で環境犯罪を行わないようにするだけでなく、多角的な視点から環境問題や環境法制を考えられるようになることが、最終的な目的です。

【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、不法投棄（廃棄物処理法違反）です。それでは、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ コンビニのゴミ箱に家のゴミを捨てたら犯罪なのでしょうか？ 従業員が環境犯罪を犯した場合、会社や会社の社長は処罰されるのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業になります。授業では、適宜、身近な問題を例にして、考えながら講義を受けてもらえるようにします。

教科書や参考書については、第1回の講義で詳しく案内します。講義で配付資料は、授業支援システムで公開しています。多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス スタート環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明します。 環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのか、環境刑法を学ぶと将来どのような場合に役に立つかについて説明します。
第2回	環境刑法の基礎理論	法律とはどういうものか、法律に違反するとどうなるのかを学びます。また、刑罰はなぜ科されるのか、どのような環境を保護するために刑罰は利用されるのかを学びます。
第3回	動物の保護	2019年に改正のあった、動物愛護法を中心に、なぜ動物を保護するのか、人間が作る法律は、本当に動物を保護しているのかという点を学びます。
第4回	水の保護	我々の飲料水や、川の水質はどのように保護されているのかを学びます。また浦安事件などの、水質汚濁事件も学びます。
第5回	大気汚染の保護	大気汚染とは、どのようなものか、大気汚染に対し法律はどのような対応をしているか、アスベストによる大気汚染規制を学びます。
第6回	土壌汚染	土壌汚染とは、どのようなものか、農用地の汚染と市街地の汚染は何が違うか、豊洲市場の移転で問題となった土壌汚染とはどのようなものかを中心に、土壌汚染対策法の罰則を学びます。
第7回	廃棄物の処理①	廃棄物の処理を規制しなければいけない理由を、廃棄物関連の事件から学びます。また、行政対象暴力事件についても学びます。

第8回	廃棄物の処理②	廃棄物処理法が規制している「廃棄物」とは何かについて学びます。
第9回	廃棄物の処理③ +会社の罰則（法人処罰）	廃棄物の不法投棄や焼却は、いつから禁止されているのか、どのような行為が禁止されているかを学びます。また、会社をどのように処罰するのか、会社はどれくらい重く処罰されるのかを学びます。
第10回	廃棄物の処理④ +現代社会における環境犯罪対策	工場や企業が注意すべき、廃棄物を受け渡す際の罰則について取り扱います。また、環境保護法制をサポートする組織犯罪処罰法や課税通報を学びます。
第11回	環境犯罪の捜査と刑事裁判の仕組み	誰が環境犯罪を捜査するのか？ どのタイミングで捜査するのか？ 逮捕とは？ 被疑者となった場合に何が出来るか？ 刑事裁判はどのように進むかを学びます。
第12回	有罪判決と有罪判決後の問題	裁判で有罪判決を受けた場合、さらに争うことが出来るか、有罪判決を受けるとどのような影響があるか、さらに廃棄物再審事件を題材として、環境犯罪の司法実務の問題を探ります。
第13回	総復習と補足	12回の講義までで終わらなかった箇所や補足が必要な箇所を取り上げます。また2021年に発生した事件を取り上げて、環境刑法の視点から、実際の事件を分析します。
第14回	試験・まとめと解説	学生からの質問に回答した後、評価のための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前あるいは講義の後に、テキストの該当部分を読むと理解が深まります。

環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。本授業の準備学習・復習時間は、大学設置基準に鑑み、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

今井康介『ニュースから読み解く環境刑法 入門編』（大日本法規、2019年）、2000円（税抜）、ISBN:978-4991111600 を使用する予定です（改訂が予定されています）。詳しくは、初回の授業時に指示します。

【参考書】

環境刑法の重要問題を取り上げた参考書として、長井圓編『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）、4200円（税抜）、ISBN:978-4797286748 をおすすめします。講義の後に同書を読むと、より一層深い理解をすることが出来ます。その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として講義の最後に行う授業内試験で評価します。場合によっては（履修者の数が多くない場合）、レポートや課題等も加味して、判断します。詳しくは、初回の講義の際に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

反響が強かった、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺靖明先生）の履修をおすすめしています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

There are three legal approaches.

In this lesson, we deal with the peculiarity of the criminal approach, identity and its limitations.

The goal of this lesson is to learn the basics of the environmental criminal law and to think about environmental problems from the perspective of penalties.

LAW200HA

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第14回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法I」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300HA

労働環境法

水野 圭子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメントなど人格権に対する対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。パンデミック禍の感染症予防対策が取られる中、労働と環境がどのように変化するかという点についても検討する。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】

1. 「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようにする。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くはないものであれば、解答できるようにする。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、本講義は、オンライン ZOOM での開講となります。

基本的には、教科書と配布レジュメに沿って講義形式で授業を行います。そのほか1、2回程度、ドキュメンタリーといった視聴覚教材を利用します。この場合は、リアクションペーパーの提出を求めます。

また、今年度は、労災事件を担当した弁護士の方に話を聞くといった実践的な機会を設ける予定です。

履修人数がそれほど多くないのであれば、講義内において、ブレイクアウトルームを利用したグループディスカッションを予定しています。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「労働環境法」はどのような分野を対象とするか。パンデミック下における労働環境法とは	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第2回	労働法の基礎知識と労働環境を構築する労働法の仕組み	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第3回	過労死や過労自殺の発生原因とその予防について	過労死・過労自殺とはどのようなものか。どのように予防するのか。過労死・過労自殺の事例検討
第4回	労働時間制度の概略・休憩時間、休日	労働時間規制について法定労働時間と時間外労働法定休日について
第5回	労働時間制度と休息の確保 休憩時間・休日・休暇、柔軟な労働時間制度と休息	休憩時間・休日・年次有給休暇すなわち休むことについて。変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制と休息について
第6回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか。過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について

第7回	過労自殺について 講演	電通事件を担当した弁護士の話を開く(都合により7回から日程が変更される場合があります)
第8回	少子化対策に成功した諸外国のワークライフバランス政策	少子高齢化の問題と女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する少子化を克服することができた国では、どのような政策がとられてきたのか検討する
第9回	障害・マイノリティと労働環境・障害者雇用	現実に生じている労働力不足に対して、どのような労働政策が行われているのか障害者雇用について検討する。また障害を持った労働者に対する合理的配慮等について検討する
第10回	高齢者雇用と外国人労働者	労働力不足と社会保障といった観点から、高齢者雇用と外国人労働者の雇用について検討する
第11回	人権権侵害とハラスメントセクシャルハラスメントとマタニティハラスメント	セクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメントに対する法的規制と判例
第12回	人権権侵害とパワーハラスメント	パワーハラスメントに対する法規制と判例
第13回	科学技術の発展と就労の変化	加速するIT技術の発展や通信、運輸の変化によって、労働はどのように変化しているのか。
第14回	パンデミックと労働	コロナ感染症の予防対策の中で、失業対策や雇用保障などどのような労働政策がとられたのか検討する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので。予習として、教科書の該当する部分を熟読し講義に臨むよう準備すること。また、指示された判決については、図書館の判例データベース(D1-Law)を利用し実際に判決を読むことが望ましい。復習として、配布されたレジュメ、資料を確認し、理解すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

高橋賢司『労働法講義 第2版』(中央経済社 2018年) 3800円 改定がある場合は、新しいものを準備してください。六法を用意すること。六法は今年度のものを準備してください。六法についてはガイダンスでも説明します。

【参考書】

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法(第8版)』(有斐閣、2020年) 2090円

【成績評価の方法と基準】

授業に付随して行われる小テスト(労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題(ワークルール検定・法学検定レベルを予定している)(40%)とレポート(「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について論述したもの)60%)による評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

近年の経済的な変動や労働環境の変化もあり、学生の皆さんからは、労働法に対して、とくにアルバイトや労働時間関係など、身近な労働問題に対して強い関心が寄せられている。有給休暇の取得や時間外労働に対する割増賃金未払い、ハラスメントやなど、実用的な法知識についても同様である。

このような点についても、各単元において対応することとしたい。その一方で、コロナ下での解雇など今現在起きている労働問題にも強い関心が寄せられた。このような最新の問題についても、言及することを心掛けたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や質問、理解度に応じて、適宜変更する場合があります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

As symbolized by the Dentsu suicide case, the working environment created by working conditions such as working hours, breaks and annual paid vacations poses a very important issue in the workplace. Measures to address not only conventional issues such as mental and physical health of workers, but also human rights such as power, sexual, and maternity harassment are also required to be considered from the viewpoint of improving the working environment. In an aging society with a declining birthrate, a work environment with a good work-life balance is required. In addition, rational consideration for workers with disabilities is also an issue that has been required in recent years. These new issues will also be considered from the perspective of improving the working environment. We will also consider how labor and the environment will change as coronavirus infection prevention measures are taken. The aim is to acquire basic knowledge and understanding of laws and precedents that form such a working environment.

POL300HA

自治体環境政策論 I

小島 聡

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

公共政策学の視点で、都市空間における自然環境の保全、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第2次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

- 学生の到達目標は以下のとおりである。
- ・地域環境政策と自治体の役割について理解する。
- ・現代史と地域の未来への広い視野を形成する。
- ・地域の課題発見や課題解決に関する政策型思考を身につける。
- ・地域人(市民、自治職員、NPO関係者、事業者など)としての知的感受性を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー(感想や意見)等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能(「お知らせ」「課題」「掲示板」)を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※2021年度春学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション~そもそも「政策」とは何だろうか?	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であることをふまえて、「政策」の概念とその基本構造を確認する。
第2回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景に喩えて、体系性と総合性という視点から構図を確認する。
第3回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全について、里山、宗教空間、農地などの緑資源について検討する。
第4回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間施設の緑化について検討した後、現代都市の緑戦略の方向性について総括する。
第5回	都市の水辺と地域の総合プロデューサー	都市空間における水辺環境の保全、水と緑を一体的にとらえる都市環境政策と自治体の役割について検討する。
第6回	自治体政策のドラマと問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政策過程のモデルと、政策が対象とする公共問題の構造について確認する。
第7回	ヒートアイランドの問題構造と都市政策	21世紀の都市問題であるヒートアイランドを手がかりとして、公共問題の構造と政策アプローチについて検討する。
第8回	自治体環境政策と社会資本整備~下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道について検討する。
第9回	自治体環境政策と社会資本整備~都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園について検討する。
第10回	自治体環境政策と環境規制	廃棄物や公害をケースとしながら、自治体環境政策における環境規制について検討する。
第11回	第1世代の自治体環境政策と高度経済成長の時代	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した第1世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第12回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった20世紀に対して、21世紀の課題である地域の「環境再生」と政策について検討する。

- 第13回 第2世代の自治体環境政策から現代の景観政策へ 1960年代後半から80年代において、地域空間の質の高めるために登場した第2世代の自治体環境政策について、歴史的町並み保全を中心について検討し、さらに現代の景観政策に言及する。
- 第14回 アーバンデザインから考える都市の未来 第2世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・ミニレポートを作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）+参加姿勢（5%）+ミニレポート（10%）で評価する。

※2021年度春学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

- ・地域社会や自治体を通して現代社会を理解する機会になるようです。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていききたいと思います。
- ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思えます。2020年度については、Zoomのチャット機能をかなり活用し、学習支援システムの「掲示板」を補完的に利用しましたが、2021年度については、授業の実施形態の変更をふまえた対応を検討します。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目をあわせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんです、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, control of "Heat island", sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of local environmental policy and the method of a policy ideation.

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、循環型社会の構築など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「持続可能性」、「持続可能な地域社会」の含意について理解する。
- ・「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策の動向について理解する。
- ・地域の持続可能性課題の発見や解決に関する政策型思考を身につける。
- ・地域人（市民、自治体職員、NPO関係者、事業者など）としての知的感受性を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※2021年度秋学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示する。
第3回	「グローバル」言説を再考する	「グローバル」に考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第4回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第5回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第6回	地域分散型エネルギーシステムと自治体政策	東日本大震災を契機として全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向について検討する。
第7回	責任共有の政策論理と自治体政策	「環境ガバナンス」にかかわる多面的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第8回	持続可能性の多面的構成と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第9回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第10回	SDGsと自治体政策	国連で採択されたSDGsの自治体政策への反映について検討する。

第 11 回	「持続可能な都市」への政策動向	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱や国内の動向を確認した後、政策実践のケースとして、地域交通政策などについて検討する。
第 12 回	21 世紀における都市の持続可能性リスクと政策的対応	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害や、人口減少社会における「縮小都市」など、長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討し、空き家対策やコンパクトシティ政策などにも言及する。
第 13 回	都市と農山漁村の地域間連帯への政策的展望	過疎地域の持続可能性問題を再確認し、都市-農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策のありかたについて展望する。
第 14 回	循環型社会への自治体の政策責任	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任と政策展開について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外活動を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・ミニレポートを作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85 %）＋参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

※ 2021 年度秋学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

- ・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役立つようです。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていききたいと思います。
- ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思います。
- ・2020 年度については、Zoom のチャット機能をかなり活用し、学習支援システムの「掲示板」を補完的に利用しましたが、2021 年度については、授業の実施形態の変更をふまえた対応を検討します。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, we will examine the public policy of local government synthetically towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy, environmental policy integration, “SDGs”, sustainability risk of urban society, traffic policy, construction of a recycle-oriented society, etc. The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community”, and the method of a policy ideation.

LAW300HA

アメリカ環境法

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。なお、この授業は、Hoppi を通じたオンデマンド方式で行われる予定です。リアルタイムのライブ型配信授業を主とします。授業の曜日・時限に Zoom で授業を配信しますので、できる限り参加してください。Zoom のミーティング ID とパスコードは、こちらの「お知らせ」に前日までに掲示します。また、ライブ授業に参加できなかった方のために、パワーポイントと音声は、1 週間だけ開示しておきます。なお、授業内容を詳しく書いたプリントを別途配布します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境 NGO の果たす役割
第 2 回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第 3 回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第 4 回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第 5 回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第 6 回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第 7 回	土壌汚染対策に関連する規制	スーパーファンド法等
第 8 回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第 9 回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第 10 回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第 11 回	自然保護（3）	絶滅危惧種の保護
第 12 回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第 13 回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第 14 回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたパワーポイント等で、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したパワーポイントと、まとめ PDF ファイルを Hoppi にて配布します。

【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996 年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992 年）。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、毎回のリアクションペーパー（感想・意見・指定された動画を見た感想）を 40 % とし、期末の論述式のレポート課題の評価を 60 % とします。リアクションペーパーは、毎回、授業支援システム内の課題のところで記入して下さい。入力方法（提出タイプ）は、直接に入力してもらおうインラインで、各課題（意見・感想と動画の感想）をそれぞれ 2 行以上でお願いします。

【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業を見るためのパソコン又はスマホを準備して下さい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will give you the fundamental principles of United States environmental law. Among those, the National Environmental Policy Act, Superfund (CERCLA) and nature conservation law are highly evaluated. On the other hand, the prevention of air pollution is lagging behind the global tide.

POL300HA

エネルギー政策論

菊地 昌廣

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 6/Wed.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。講義に使用するパワーポイント資料は、事前に学習支援システムを介して配信する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第 2 回	エネルギー消費と産業構造	GDP とエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第 3 回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第 4 回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第 5 回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第 6 回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。

第7回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。
第8回	電力自由化政策と電力自由化のメカニズム	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第9回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ協定の内容を比較しつつ議論する。
第10回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第11回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第12回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第13回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第14回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビューし、質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
毎回の講義で使用する資料等を必ず予習・復習をすること。
授業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までその内容をよく予習することを求める。
エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

- 本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。
- 1) 十市 勉 (2005) 『21世紀のエネルギー地政学』(産経新聞出版)
 - 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』(勁草書房)
 - 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』(養賢堂)
 - 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』(松岳社)
 - 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所 (最新年度版)
 - 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10点
期末試験結果90点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、事前に学習支援システムで配布する講義レジュメ内容を予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムで配信する講義レジュメのプリント。

【その他の重要事項】

学習支援システムを有効に活用する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Through learning of histories and energy statistic data, to consider the energy policy to be used in future world.

POL300HA

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐると様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス（1）	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス（2）	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント
第5回	地球環境ガバナンスの課題（1）：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるとグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるとグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題（2）：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧（Haze）
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、エネルギー政策、環境正義

第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス (1)	NGO や企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス (2)	NGO や企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG 投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第13回	地球環境政治の見方 (1)	リアリズムとリベリズム
第14回	地球環境政治の見方 (2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第3版）』弘文堂、2018年

【参考書】

環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』九善出版、2018年
 リチャード・E. ソーニア、リチャード・A. メガング編『グローバル環境ガバナンス事典』明石書店、2018年
 竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会、2020年
 高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
 亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年
 亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015年
 小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016年
 小西雅子『地球温暖化を解決したい』岩波書店、2021年
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016年
 宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017年
 蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
 鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
 ナオミ・クライン『これがすべてを変える上・下』岩波書店、2017年
 J. リフキン『グローバル・グリーン・ニューディール』NHK出版、2020年
 齊藤幸平『「人新世」の資本論』講談社現代新書、2021年
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015年
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年
 西谷貞規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。
 今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017年
 鈴木吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
 鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017年
 西谷貞規子編『国際規範はどう実現されるか』ミネルヴァ書房、2017年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験90%、平常点10%で評価する。期末試験については、オンディマンドのため、期末試験はレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリー動画を随時用いています。進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

ARSA400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2020年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ統合論」「EUの政治と社会」）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」「EU経済とドイツ」）。農業経済学の観点から EU の共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論A」）。グローバル教養学部（GIS）には、連合王国の外交関係の観点から、英語を使用言語として、対 EU 関係を論じている授業もあります（「UK: Society and People」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあると言えます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとでの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる人権や民主主義にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（10-15分）と講義（45-55分）にあてている（2020年度実績）。
- ・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてている（2020年度実績）。
- ・第14回（最終回授業）では、希望する学生（強制ではない）による報告や発表を行ってきている（2020年度まで毎年継続している）。
- ・毎回の授業資料は学習支援システムや Google Classroom をつうじて事前に配布している（2020年度実績）。
- ・学習支援システムを利用し、小テスト（全員必須）や期末レポート（希望者のみ）の提出を行う（2020年度まで毎年継続している）。
- ・この授業は秋セメスター（後期）科目である。このシラバスを執筆している2021年1月の段階で、2021年9月～2022年1月の感染拡大状況を予想するのは困難であり、教室における対面授業ができる場合、オンライン授業になってしまう場合、両方を想定しているが、どのような比率になるかは秋セメスター開始以降の感染状況、法政大学の方針を踏まえ決定する。ただし、いずれの授業形態の場合も、授業の進め方や方法には、あまり影響はないと考えている。
- ・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有している（2020年度実績）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わりを「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・小テストを実施します。これは全員必須で、学習支援システム（インターネット）上で受験します。
 ・本授業の準備・復習時間：準備に関しては、次回授業の資料をダウンロードする時間、復習に関しては、学習支援システムにおいて小テストを受験するのに必要な時間が、最低限必要である。ただし、日本語を必ずしも母語としない学生を含め、多様な学生が受講する授業であり、また情報環境やITリテラシーにも学生間で違いがあるため、一律の時間数の形で表記しない。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格（レターグレードでC マイナス以上）とする。

- ・期末テストは行わない 0%
- ・小テストの受験【全員必須：授業終了後、次回授業の開始時刻までの1週間を受験期間として設定するので、その間に必ず受験してください。Hoppii を使うので、体育会や就職活動中の学生、多摩キャンパスの学生もネット上で受験できる】45%
- ・運営への協力【希望者のみ：配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業となった場合は、オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】10%
- ・グループディスカッション&学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】10%
- ・期末レポート【希望者のみ】35%。（ただし、教員に指名され期末レポートの内容を口頭発表した人には、特別点を加算する。）

【学生の意見等からの気づき】

・オンラインで行う授業回が混じた場合、あまり過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
 ・「成績評価の方法と基準」の「グループディスカッション&学生間の共働」は10%と低めの配点にしています。これは、オンライン授業となった場合に、システム側の接続障害や、学生の操作ミスでうまく参加できないことが予め想定されているためです。グループディスカッションに熱心に参加してくれる受講者が多数派ですが、配点は10%であり、あまり点数にはなりません。ただし、対面授業ができない状況でも、講義に加え、学生同士の対話や交流ができる環境を整備するという意味で、重要だと考えています。

・2020年度、1年間オンライン授業をやりましたが、初めての体験でした。そこから感じたのは、ソフトウェアを使って文章を書いたり、プレゼンテーションを行ったりすることに加え、リアルタイムのビデオ会議や録画を使って、みずからの考えや思いを伝えていくことが、学生にも教員にも、これからの時代は必須になっていくのだろうということでした。オンライン授業があまり好きでない、苦手と感じている学生さんも一部おられることは承知していますが、オンライン上でのコミュニケーション・スキルを身に付けていくことも、大学における学びの一環であると前向きに捉えていただければ幸いです。
 ・特に4年生以上でみられる現象ですが、1月に入ってから、単位がとれないと困るという相談をしてくる方がいます。定期試験の欠席が認められるような疾病等の正当な事情がある場合に限り配慮を致します。この場合は、教員に直接メールを送信する前に、まずは所属学部の事務室にご相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

・対面授業の場合も、教材の配布や小テストの受験は、すべて LMS（学習支援システム-Hoppii と Google Classroom）上で行うため、スマートフォンでも可だが、できればパソコンやタブレットの利用に習熟していることが望ましい。
 ・感染拡大の状況によるが、ブレイクアウトルーム（学生数名でのグループディスカッション用）機能を含め、オンライン授業の場合は Zoom（バックアップとして Google Meet）を使う。そのため、できれば有線接続で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。
 ・この科目を単位履修する場合、学習支援システム-Hoppii や Google Classroom といった LMS に、初回授業後、仮登録を各自行ってください。
 ・学習支援システム>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることが出来る。ただし、期末レポートの得点を除く（成績入力が間に合わないことが多い）。
 ・連絡はメールをお願いします。メールアドレスは学習支援システムを見てください。

【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent”, students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

ECN200HA

ミクロ経済学 I

芦田 登代

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、需要曲線と供給曲線が導かれることを学ぶ。また、それが、現実の経済問題に対して果たしている役割を理解することで、家計・企業・政府が、どのような行動基準に基づいた行動をとっているのか、それぞれの最適な選択を理解することが目的である。経済学を初めて学ぶ人を対象に、ミクロ経済学の基本を、分かりやすく解説したい。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な用語を理解し、説明できるようになる
- ・個々の経済主体の意思決定が、市場や制度を通してどのような影響をもたらしているのかを体系的に理解し、説明できるようになる
- ・ミクロ経済学の考え方を使って、日常生活の中における事象を説明することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大への対処のため、オンラインでの開講となる。教材の視聴や資料の配布、諸連絡等は、すべて学習支援システムを通じて行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の概要や進め方の説明、人間環境学部としてのミクロ経済学を学ぶ意義についての解説
第 2 回	経済学の十大原理	経済学の基盤となる考え方の整理
第 3 回	経済政策	科学的判断における相違・価値観の相違・認識と現実
第 4 回	相互依存と貿易からの利益	比較優位の理論
第 5 回	市場機能（市場における需要と供給の作用）	競争市場、需要曲線と供給曲線
第 6 回	市場機能（弾力性）	需要の弾力性、供給の弾力性
第 7 回	市場機能（需要・供給および政府の政策）	価格規制、税金
第 8 回	復習	経済学の概念、市場機能の復習
第 9 回	市場と厚生（効率性）	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性
第 10 回	公共部門（外部性）	市場の失敗
第 11 回	公共部門（公共財と共有資源）	様々な種類の財、フリーライダー問題、共有地の悲劇
第 12 回	公共部門（税制の設計）	税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ
第 13 回	復習	市場と厚生・公共部門の復習
第 14 回	試験・まとめ	試験・まとめ（市場の働きと限界を考える）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2019) 『マンキュー経済学：ミクロ編 [第 4 版]』東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』勁草書房
アセモグル・レイブソン・リスト (2020) 『ミクロ経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題（30%）および期末試験（70%）によって評価します

【学生の意見等からの気づき】

レジュメと資料は web サイトに掲載し、授業時にも配布します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

ECN200HA

ミクロ経済学Ⅱ

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、それが現実の経済問題に果たしている役割の理解を深める。本講では企業理論や労働市場を中心に解説し、身近な出来事や、政治・経済の動向をもとに経済の仕組みを理解できるように授業を進める。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な用語を理解し、説明できるようになる
- ・日本の経済の取り巻く問題や身近な出来事を経済学の考え方に基づいて理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大への対処のため、オンラインでの開講となる。教材の視聴や資料の配布、諸連絡等は、すべて学習支援システムを通じて行う。具体的には、初回の授業時に説明する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要や進め方の説明、経済学の考え方の復習
第2回	ミクロ経済学Ⅰの復習 1	市場機能
第3回	ミクロ経済学Ⅰの復習 2	公共部門の経済学
第4回	企業行動と産業組織（生産の費用）	費用とは何か
第5回	企業行動と産業組織（競争市場における企業）	競争の意味、利潤最大化と競争企業の供給曲線
第6回	企業行動と産業組織（独占・独占的競争）	独占が生じる理由と弊害
第7回	企業行動と産業組織（寡占）	寡占とは何か
第8回	復習	企業行動と産業組織の復習
第9回	労働市場の経済学（生産要素市場）	企業の労働需要、労働供給、労働市場の均衡
第10回	労働市場の経済学（勤労所得と差別）	均衡賃金に関する決定要因
第11回	労働市場の経済学（所得不平等と貧困）	不平等の尺度、所得再分配に関する政治哲学、貧困を減らすための政策
第12回	復習	労働市場の経済学の復習
第13回	ミクロ経済学のフロンティア	行動経済学
第14回	試験・まとめ	企業行動と産業組織、労働市場の経済学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2019) 『マンキュー経済学：ミクロ編 [第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』勁草書房
アセモグル・レイブソン・リスト (2020) 『ミクロ経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメと資料はwebサイトに掲載し、授業時にも配布します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

ECN200HA

マクロ経済学 I

今 喜史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の日本経済は、どれほど深刻な状況にあるのか。政府の行う財政政策には、景気を回復させる効果が見込めるのか、そして増え続ける日本の財政赤字はほんとうに持続可能なのか。これらの問いに答えるには、一国全体の経済を分析対象とするマクロ経済学の正確な理解が必要である。この講義は、国内総生産（GDP）などの統計データの意味や標準的な経済理論を学ぶことにより、受講者の一人ひとりが日本経済の全体像を把握できるようなマクロ経済学の思考力を身につけることを目的とする。経済政策の是非を自分なりに判断できることは、他の学問分野を学ぶためにも、そして善き市民として生きるためにも有用だろう。

【到達目標】

- ①統計データを的確に使用し、日本の直面するマクロ経済問題を自分の言葉で説明することができる
- ②日本のマクロ経済政策の現状を理解し、財政の持続可能性について考察することができる
- ③マクロ経済学の理論に基づき、経済政策の是非について自分の意見を感情的ではなく論理的に述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

資料配信によるオンデマンド方式の講義とし、対面授業やリアルタイムでの通信を必要とする講義は行わない。毎週 10 ページ程度の PDF 形式による教材と、その内容を解説した mp3 形式の音声ガイドを学習支援システムに掲載する。受講者は教材を自習し、学習支援システムの「テスト/アンケート」に出題されるクイズに任意で回答する。クイズの解説および講義内容に関する質問への回答は、次週に学習支援システム上に公開する。また、遠隔会議システム Zoom を活用したオフィスアワーを設ける（利用は任意とする）。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学への導入	社会科学としてのマクロ経済学の分析手法について理解する
第 2 回	一国全体の経済活動を測る指標	国民経済計算（SNA）の概要を学ぶ
第 3 回	40 年前と「豊かさ」を比べる	国内総生産（GDP）の歴史的な推移をデータから確認する
第 4 回	GDP が見落としているもの	環境への負荷や健康状態など、統計で金銭評価されにくい「豊かさ」を把握する方法について議論する
第 5 回	財政とマクロ経済	政府のマクロ経済政策が必要とされる理由を考える
第 6 回	ふたつのマクロ経済学	国内総生産の恒等式について、解釈する方法がひとつではないことを理解する
第 7 回	政府支出の「乗数効果」	政府支出の増加により景気が改善するはずだという主張の根拠（ケインズ経済学）を理解する
第 8 回	乗数効果の応用	簡単な数値例を用いて、政府支出の効果を計算しグラフに表現する
第 9 回	財政政策の有効性	政府支出を増やしても景気は回復しないと主張の根拠を理解する
第 10 回	政府の借金とは何か	財政政策にともない発生する政府の予算の問題を議論する
第 11 回	財政破綻に陥らないためには	財政赤字が持続可能ではない場合にどのような問題が生じるのかを理解する
第 12 回	経済成長の鍵は何か	日本の経済成長の歴史を、外国と比較する
第 13 回	資本蓄積と技術革新	経済成長のメカニズムを、新古典派経済学に基づいて理解する
第 14 回	経済成長と所得分配	豊かな国ほど所得不平等が拡大する可能性があるのかを議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（新版）』有斐閣、2020 年。
大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018 年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣、2016 年。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 % とする。なお、毎週のクイズに回答した場合には、ボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくとも読み進めやすいよう配慮する。また音声ガイドの音量や速度などを、聞き取りやすいように調整する。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 形式の資料を読み、mp3 形式の音声ガイドを聞くことのできるパソコンなどの機器が必要である。なお、質問は学習支援システムでも受け付けるため、マイクは必須ではない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course provides a concise introduction to the macroeconomic issues, especially taking account of modern Japanese economy. Topics covered are following: How to measure the wealth of nations? What determines the long-run economic growth of nations? Why should we care about the government debt? Students are asked to form their opinion based on rigorous theoretical foundations and relevant empirical studies.

ECN200HA

マクロ経済学Ⅱ

今 喜史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融緩和政策は政府によるマクロ経済政策の大きな柱であり、物価や利子率などの変化を通じて私たちの暮らしに大きな影響を及ぼす。しかしその効果に対しては、現在でも賛否両論が存在する。この講義では、金融の基礎的な概念を理解したうえで、インフレ目標をはじめとする新たな金融緩和の手段の有効性と懸念される副作用について議論する。とくに、中国やヨーロッパ諸国の金融政策と比較しつつ、グローバル経済の中で金融緩和の意味がどのように変化してきたのかを学ぶ。日本のバブル経済やアメリカ発の金融危機（リーマン・ショック）など、金融がマクロ経済を大きく揺るがした事例についても触れる。

【到達目標】

- ①銀行や証券などの金融システムが、マクロ経済においてどのような役割を果たしているのかを説明できる
- ②金融緩和政策の有効性と副作用について、経済理論と統計データに基づいて考察することができる
- ③国際的な観点から、日本のマクロ経済政策の課題を位置づけることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

資料配信によるオンデマンド方式の講義とし、対面授業やリアルタイムでの通信を必要とする講義は行わない。毎週 10 ページ程度の PDF 形式による教材と、その内容を解説した mp3 形式の音声ガイドを学習支援システムに掲載する。受講者は教材を自習し、学習支援システムの「テスト/アンケート」に出題されるクイズに任意で回答する。クイズの解説および講義内容に関する質問への回答は、次週に学習支援システム上に公開する。また、遠隔会議システム Zoom を活用したオフィスアワーを設ける（利用は任意とする）。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マクロ経済と金融政策をめぐる論点を整理する
第 2 回	景気変動の読み方	マクロ経済の姿を把握するための指標として国内総生産（GDP）の意味を理解する
第 3 回	金融の基礎知識	銀行のしくみや利子率など、金融の基本概念を学ぶ
第 4 回	利子率とはなにか	利子率の決定メカニズムを、資金需要と資金供給のグラフを用いて理解する
第 5 回	日本銀行と「伝統的」金融政策	準備預金制度の概要を学び、金融緩和政策の意味を理解する
第 6 回	「非伝統的」金融緩和政策	量的緩和やマイナス金利など、日本銀行が採用した新たな政策手段の意図と効果を理解する
第 7 回	インフレ・デフレと貨幣	政府が「デフレからの脱却」を政策目標として掲げることを考える
第 8 回	金融緩和の副作用	金融緩和がバブル経済の一因となったことを理解し、リーマン・ショックの経緯を学ぶ
第 9 回	国際金融と為替レート	外国為替市場のしくみを学び、円高や円安とは何かを理解する
第 10 回	金融政策と円高・円安	金利裁定の理論を学び、為替レートの決定要因を理解する
第 11 回	為替レートのマクロ経済学	為替レートの変化が国内の景気に与える影響を学ぶ
第 12 回	ヨーロッパの通貨統合	共通通貨ユーロを導入したヨーロッパの金融政策を日本と比較する
第 13 回	中国の資本規制	国際金融のトリレンマの考え方に基づき、中国の通貨制度の将来を議論する
第 14 回	金融の視点からみるマクロ経済	講義全体を総括し、日本の金融政策の今後について展望する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（新版）』有斐閣、2020 年。
大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018 年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣、2016 年。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %とする。なお、毎週のクイズに回答した場合には、ボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくとも読み進めやすいよう配慮する。また音声ガイドの音量や速度などを、聞き取りやすいように調整する。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 形式の資料を読み、mp3 形式の音声ガイドを聞くことのできるパソコンなどの機器が必要である。なお、質問は学習支援システムでも受け付けるため、マイクは必須ではない。

【その他の重要事項】

同じ担当者による春学期「マクロ経済学Ⅰ」とは独立した内容で講義を行うが、「マクロ経済学Ⅰ」も併せて履修することで理解が一層深まると思われる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Macroeconomics II gives students a thorough introduction to monetary policy issues. Starting from the basic concepts of monetary economics, we overview both the proponents and opponents of the current monetary policy conducted by the Bank of Japan. We also study some international macroeconomic policies, including the effectiveness of monetary policy under the flexible exchange rate regimes, capital controls, and currency unions.

MAN200HA

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs やパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業は SDGs を達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、SDGs が求める持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業とは何か ケーススタディ①サントリー	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能 ケーススタディ：スポーツドリンク開発
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ②本田技研工業	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：ステーションワゴン開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ③キヤノン	株式会社は誰のものか ケーススタディ：デジタルカメラ開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ④スズキ	所有と経営の分離 ケーススタディ：原付自転車開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ⑤ヤマハ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：電子楽器開発
第6回	日本の経営の構造 ケーススタディ⑥黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生
第7回	経営管理の理念と機能 ケーススタディ⑦日清食品	マネジメントの実践 ケーススタディ：カップめん開発
第8回	外部講師による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル革命と企業経営 ケーススタディ⑧ミツカン	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：食品開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑨ジブリ	市場競争力の本質 ケーススタディ：アニメーション制作
第11回	製品開発戦略 ケーススタディ⑩海洋堂	製品開発のコンセプトとプロセス ケーススタディ：食玩開発
第12回	サステナビリティ経営① ビジネスの脱炭素化 ケーススタディ⑩家庭用VTRを巡る企業間競争	パリ協定の内容 脱炭素化を巡る国内外の企業動向 ケーススタディ：VHSvs ベータマックス
第13回	サステナビリティ経営② SDGs と ESG 投資 ケーススタディ⑩ビールを巡る企業間競争	SDGs の概要 非財務情報を反映した企業評価のあり方 ケーススタディ：キリン vs アサヒ

第14回 社会から選ばれる企業とは何か
日経ストックリーグへの挑戦

ビリーフドリブ消費者の台頭
共感と信頼の経営
学生が選ぶサステナビリティ企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs で読み解く責任経営の系譜 - 時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15%

期末試験：85%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連視角】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline and objectives】

The emergence of the SDGs and the Paris Agreement have called for a shift from a fossil fuel-based economy to a decarbonized economy. Companies are positioned as key partners in achieving the SDGs, and the role they need to play is expanding more than ever. This lecture focuses on various issues surrounding companies, based on the changes in the external environment, such as the end of the age of mass production and mass consumption, the growing An overview of corporate management, taking up contemporary issues.

MAN200HA

ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や CSR（企業の社会的責任）や SDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、企業を評価するために必要な情報や知識を提供します。

【到達目標】

日本企業の成長プロセスを振り返り、企業が長年培ってきた「知の蓄積」の実像や SDGs を先取りした事例を理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義を的確に評価する知識を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じて DVD 等を視聴します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 高峰謙吉 [三共商店]	ビジネスヒストリーを学ぶ意義 「創業ベンチャー」の先駆者
第 2 回	伊庭貞剛・鈴木馬左也 [住友財閥]	サステナビリティ経営の先駆者
第 3 回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	経済と道徳の融合を目指した社会企業家
第 4 回	金原明善 [金原治山治水財団]	水害に対する防災・減災を目指した社会企業家
第 5 回	ウイリアム・メレル・ヴォーリス [近江兄弟社]	「スチュワードシップ」に基づく経営の実践
第 6 回	豊田佐吉 [豊田式織機]	「ニンベンのついた自動化」の実現
第 7 回	鈴木道雄 [鈴木式織機]	社会の変化を掴む「経営構想力」
第 8 回	石橋正二郎 [ブリヂストン]	「理想」を目指して「独創」の道を進む経営
第 9 回	武藤山治 [カネボウ]	「人道主義経営」の実践
第 10 回	大原孫三郎 [倉敷紡績・クラレ]	「労働理想主義」の実践
第 11 回	波多野鶴吉 [グンゼ]	「人材マネジメント」を通じた価値創造
第 12 回	小林一三 [阪急東宝グループ] 鳥井信治郎 [サントリー]	宝塚歌劇を生み出した私鉄経営の先駆者 洋酒文化の開拓者
第 13 回	樋口廣太郎 [アサヒビール]	スーパードライの生みの親
第 14 回	立石一真 [オムロン] 稲盛和夫 [京セラ]	考えるオートメーションの開発 アメバ経営の実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料と参考書を使用して必ず復習して下さい。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉『SDGs で読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命－』文真堂,2021 年
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs で読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021 年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文真堂, 2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂, 2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016 年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂, 2019 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR 経営の先駆者に学ぶ』文真堂, 2016 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂, 2013 年

長谷川直哉著『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会, 2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 : 80%

リアクションペーパー : 20% (3 回)

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト (CMA)

【Outline and objectives】

This lecture describes the activities of leading entrepreneurs who have led the development of the Japanese economy before and after the war. By looking back on the development of corporate and entrepreneurial activities from the Meiji era to the present, we will learn about the relationship between business and society, corporate social responsibility (CSR), and the relationship between the SDGs (Sustainable Development Goals) and business. It also provides the information and knowledge needed to evaluate a company.

MAN200HA

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴やその課題について履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業の概念とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営戦略の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。
第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	ケーススタディ①	日本企業の実践的な取り組み（実践的事例）を説明し、その内容を理解する。
第13回	ケーススタディ②	第12回の内容について、第11回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。

そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明してもらう場合もありますので、メモできるもの（付箋など）も持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

MAN200HA

環境経営と会計

藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（企業内外のステークホルダー）に伝達するための情報システムである。その領域は、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。本講義では、マイクロ会計のうち、企業を対象とした会計をもとに、環境会計またはサステナビリティ会計を学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、企業会計（財務会計や管理会計）、環境会計、サステナビリティ会計の機能や構造を、環境省や GRI（Global Reporting Initiative）などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書、統合報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などを配布し、会計の仕組みをより詳細に理解していく。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業経営と会計－会計学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、会計学を学習することの意義を説明する。
第2回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第3回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第4回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第5回	経営分析の方法	経営分析の必要性と、分析方法を説明する。
第6回	ケーススタディ①	第2回から第4回までの講義内容をもとに、企業の会計情報を分析し、その結果を説明する。
第7回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第5回までの講義内容との関係を説明する。
第8回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。
第9回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第10回	環境経営分析	環境会計情報を活用した経営分析の方法を説明する。
第11回	ケーススタディ②	第7回から第10回までの講義内容をもとに、企業の環境会計情報を分析し、その結果を説明する。
第12回	環境会計情報の開示方法	環境会計の情報開示の意義とその方法（開示媒体）を説明する。
第13回	新たな環境会計 サステナビリティ会計	新たな環境会計（マテリアルフロー・コスト会計など）と、サステナビリティ経営のための会計システムを説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、今後の活動（ゼミナール活動など）で必要とされる研究・調査の方法の基礎基本を身に付けてもらうために、配布資料を用いて会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

ECN200HA

公共経済学

小田 圭一郎

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

【到達目標】

学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。

具体的には、以下の事項を説明できる：

- ・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決
- ・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引
- ・情報非対称性問題へのゲーム理論的解決方法の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。数回程度の課題を課す。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第 2 回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第 3 回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第 4 回	市場の失敗	市場メカニズムが適切に機能しない状況
第 5 回	公共財①	定義・効率的配分条件
第 6 回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第 7 回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第 8 回	外部効果①	定義、コースの定理
第 9 回	外部効果②	市場的解決方法
第 10 回	環境政策①	環境問題の定式化
第 11 回	環境政策②	環境税と排出権取引
第 12 回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第 13 回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第 14 回	試験・まとめと解説	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。

佐藤主光（2017）『公共経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：

- ・期末試験（80%）
- ・課題（20%）

【学生の意見等からの気づき】

分析の基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布・課題提出を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students the basic ideas of public economics. Students will develop theoretical knowledge for analyzing public policies.

MAN100FA

簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

大下 勇二

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回 テーマ 内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN300HA

環境経済論Ⅰ

國則 守生

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場経済を取りまく重要な構成要素（基盤）であるさまざまな環境をいかに安定的、持続的に維持していくのかという問題意識を背景として、環境経済学で取り扱われる重要な概念やアプローチを学び、環境政策を考える機会とする。なかでも、近年、国際的な環境問題を取り扱ううえで注目されている経済的手段（economic instruments）を理解し、その役割を評価する。そのために、市場経済のパフォーマンスの検討から始めて、環境問題に対処するためにどのように捉え、環境政策が行わなければならないか、市場経済を補完・超克するための基礎的な視点を検討・議論する。

【到達目標】

さまざまな経済活動にともなって発生している環境問題の軽減・解決を考えるためには、環境問題と経済活動との関わりを体系的に理解する必要がある。この授業では、経済学の側面から環境問題の捉え方や問題の解決・軽減のためにどのような対処方法があるのかを幅広い立場から検討することを目標とする。具体的には、最初に、環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また現在でも困難であり続ける要因は何なのか、そして対処するにはどのような枠組みが必要なのかなどを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解する。その後、近年、注目を浴びている環境問題に対する経済的手段を理解するために必要とされる基礎的事項を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義（オンデマンドなどのオンラインを含む）および資料に基づく学習形式で行う。各回の授業計画については、学習支援システムで提示する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方および経済における環境の果たす役割の概観
第 2 回	日本を中心としたローカルな環境問題	公害問題やその後の環境問題についての概観
第 3 回	ミクロ経済学のレビュー (1)	「市場」とは何かについて考える
第 4 回	ミクロ経済学のレビュー (2)	分析道具として、限界概念、余剰概念などを議論
第 5 回	ミクロ経済学のレビュー (3)	パレート効率性による市場での効率性の評価とその前提条件
第 6 回	公共財の課題 (1)	環境問題の公共財的側面
第 7 回	公共財の課題 (2)	リンダール均衡の考え方と現実への対応と課題
第 8 回	環境問題の捉え方 (1)	負の外部性問題としての環境問題の視点
第 9 回	環境問題の捉え方 (2)	環境税の基礎理論（そのメリットと限界）
第 10 回	環境問題の捉え方 (3)	規制的手段と経済的手段の比較
第 11 回	環境問題の捉え方 (4)	環境税の種類（ビゲー税、ボーモル・オーツ税など検討）、排出権取引の基礎
第 12 回	環境問題の捉え方 (5)	環境問題における当事者間交渉の可能性とコース定理
第 13 回	環境問題の捉え方 (6)	その他の経済的手段
第 14 回	まとめ	環境問題に対する政策等の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。とくに、重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物にもよく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。受講に当たっては、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しないが、担当教員が作成した資料を授業支援システムにて配布。

【参考書】

以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社（¥3,190）

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣（¥2,640）

【成績評価の方法と基準】

授業後のエクササイズ（20%）および期末に実施される定期試験での筆記試験（80%）の総合評価とする。ただし、オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、すみやかに学習支援システムに提示する。

【学生の意見等からの気づき】

重要な概念についてはできるだけいくつかの解説方法も含めて繰り返し説明したい。

【その他の重要事項】

授業後、必要に応じてエクササイズ（課題ホームワーク）を課すので、必ず提出すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture deals with how to modify the market to keep the environment in good shape. Special attention is paid to economic instruments such as environmental taxes as a proper measure for the local and global environment.

ECN300HA

環境経済論Ⅱ

國則 守生

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では社会的共通資本とは何かの基礎を学んだあと、自然資源などの持続可能な利用組織としてのコモンズのあり方、環境改善のメリットとその対策のための費用負担との関係、市場評価の難しい環境評価の課題などを通じて、コスト・ベネフィット分析を学び、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組みや課題について考える。なかでも、長期の環境問題などに対して残された課題は何なのか、市場が存在しない環境を経済評価する際の問題点などについて、基礎的な考え方を議論し、持続可能な社会の構築に向けて環境経済学の側面から議論する。

【到達目標】

この授業は、環境経済学における基礎的かつ重要な考え方や概念などを環境経済論Ⅰに引き続き学習し、それらを適用する力を身につけることを目指す。とくに、持続可能な資源利用、長期の環境問題、環境の経済的な評価などに注目して現在社会で環境との共生を目指すための経済的対応を理解することをテーマとする。

具体的には、自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎的理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を学習する。とくに、長期の環境問題などに対して、残された課題は何なのか、市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかなどに関して、その基礎を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義（オンデマンドなどのオンラインを含む）および資料に基づく学習形式で行う。各回の授業計画については、資料を通じて学習支援システムで提示する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと社会的共通資本の考え方
第2回	環境とコモンズ (1)	「コモンズの悲劇」とローカル・コモンズ、グローバル・コモンズ
第3回	環境とコモンズ (2)	ローカル・コモンズの長期的な存立条件
第4回	再生可能資源の課題	漁獲（努力）モデルと過剰漁獲問題
第5回	資源価格と利子率の関連 (1)	非再生可能資源におけるホテリング・ルール
第6回	資源価格と利子率の関連 (2)	長期的な資源価格推移とバックストップ技術
第7回	環境とコスト・ベネフィット分析 (1)	潜在的パレート改善の考え方とその限界
第8回	環境とコスト・ベネフィット分析 (2)	前提条件と社会的効用関数からの解釈
第9回	環境と割引率	割引の基本的な考え方、長期の社会的割引の考え方など
第10回	環境とリスク	リスクの考え方とコスト・ベネフィット分析への応用
第11回	環境の価値評価 (1)	伝統的トラベル・コスト法の考え方
第12回	環境の価値評価 (2)	ヘドニック価格法の考え方
第13回	環境の価値評価 (3)	表明選考法（CVM, choice experiment method など）の考え方
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。学習毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。とくに、重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。講義は環境経済論Ⅰに連続して組み立てられている。また、受講に当たってはマイクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。作成した資料を授業支援システムにて配布する。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣 (¥2,640)

宇沢弘文 (2000)『社会的共通資本』岩波新書 696 (¥ 924)

【成績評価の方法と基準】

授業後のエクササイズ (20%) および期末に実施される定期試験での筆記試験 (80%) の総合評価とする。ただし、オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、すみやかに学習支援システムに提示する。

【学生の意見等からの気づき】

重要な概念についてはできるだけいくつかの解説方法を含めて繰り返し説明したい。

【その他の重要事項】

授業後、必要に応じてエクササイズ (課題ホームワーク) を課すので、必ず提出すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Following Environmental Economics I, this lecture covers the topics of the theory of commons, natural resource management, and cost-benefit analysis for the environment. Since there's no market for the environment, how to evaluate it plays a vital role in environmental economics. The theory of social common capital is also explained at the outset.

MAN300HA

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営の現状やその取組みについても触れていく。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取り組みについても触れるために、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて経済的価値と社会的価値の向上を目指す方針 (戦略) をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み (組織) を作り、その仕組みの中でどのように運営 (管理) しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、企業で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の内容・進め方と、企業における環境経営やサステナビリティ経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営やサステナビリティ経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	従来の経営戦略や企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	企業が策定すべき環境経営戦略やサステナビリティ経営戦略 (例えば、CSR経営やSDGs経営のための戦略) を説明する。
第6回	経営組織①	従来の経営組織や企業の実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。
第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織 (ネットワーク、コラボレーション、パートナーシップ) を説明する。
第8回	経営管理①	環境に関する国際規格 (ISO14001) などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格 (ISO26000) や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム (サプライチェーン・マネジメント (SCM)) を説明する。
第10回	環境経営と会計	環境経営やサステナビリティ経営を支援する会計システムを説明する。
第11回	ケーススタディ①	企業の実践的取り組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。
第12回	ケーススタディ②	第11回での検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。

第13回 新たな環境経営

現在注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、健康経営、地域循環共生圏、ソーシャル・ビジネスなど）を説明する。

第14回 講義のまとめ

講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配付資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

MAN300HA

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、従業員の健康維持・増進、地域循環共生圏、地方創生経営、ソーシャル・ビジネスなど）を、経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの現状とその特徴を理解することを目指す。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境・サステナビリティ経営の現状	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営またはサステナビリティ経営の現状を説明する。
第2回	新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法（サプライチェーン・マネジメント（SCM）、産業クラスター・マネジメント（ICM）、バランス・スコアカード（BSC））を説明する。
第3回	サプライチェーン・マネジメント（SCM）	SCMの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なSCMの概念と仕組みを説明する。
第4回	産業クラスター・マネジメント（ICM）	ICMの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なICMの概念と仕組みを説明する。
第5回	バランス・スコアカード（BSC）①	BSCの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なBSCの概念と仕組みを説明する。
第6回	バランス・スコアカード（BSC）②	第2回から第4回の内容に基づくBSCの作成方法を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業	資源エネルギー庁で整理されている再生可能エネルギーの概念や現状とともに、国内の先進事例（飯田市や下川町など）とその特徴を説明する。
第8回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010運動など）とその特徴を説明する。
第9回	食と健康経営	経済産業省や厚生労働省の取り組みを紹介し、また、日本企業の先進的な取り組みとその特徴を説明する。
第10回	地域循環共生圏	環境省の取り組みを紹介しつつ、国内の先進事例を取り上げ、その特徴を説明する。
第11回	地方創生経営	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。

- 第12回 ソーシャル・ビジネス 途上国で展開されているソーシャル・ビジネスやBOP (Base of the Pyramid) の実践例やその課題を説明する。
- 第13回 ケーススタディ 第7回から第12回までの実践的な取組事例を1つ選定し、その事例を第2回から第6回までの内容をもとに検討しつつ、新たなビジネスモデルを提案する。
- 第14回 講義のまとめ 講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけでなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけでなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

MAN300HA

CSR 論 I

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。SDGs（持続可能な開発目標）やCSR（企業の社会的責任）に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱えているからに他なりません。サステナビリティ（持続可能性）という視点から、社会と企業の関係について理解を深めることを目指します。将来の企業選択にも役立つように、企業を見る目を養います。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

サステナビリティという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、社会課題の解決に向けて、企業はいままで以上に幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティ意義とビジネスモデル変革の方向性を説明します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像および進め方 企業と社会の関係
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定を中心とする社会経済システムの変化への対応
第3回	SDGs（持続可能な開発目標性）と企業経営	企業と社会の関係性の変遷 SDGsが求める企業像とは何か
第4回	脱炭素革命（パリ協定）の意義	パリ協定の内容 炭素生産性と企業経営
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則と企業評価	責任投資原則が機関投資家の投資行動と企業経営に及ぼす影響について
第9回	サステナビリティ金融①	SRI（社会的責任投資）について
第10回	サステナビリティ金融②	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	ISO26000、統合報告書、SBT、TCFDについて
第13回	企業経営とサステナビリティの相克	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	サステナビリティ・トランスフォーメーション	ビジネスのサステナビリティ化とルールメイキング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂、2017年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30 %

期末試験： 70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline and objectives】

This lesson examines the social issues facing businesses in modern society. The growing interest in SDGs and CSR is due to the perception that society is not necessarily going in the right direction. We aim to deepen our understanding of the relationship between society and companies from the perspective of sustainability. Cultivate the eyes of companies to help them choose future companies.

MAN300HA

CSR 論 II

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論 I で習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）や Business Ethics（経営倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割と企業経営者の倫理観について理解を深めることとします。

【到達目標】

SDGs が求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決に必要とされる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が求められます。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観や社会に対する責務について検討していきます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 社会構造の変化と企業が直面する課題	講義の進め方 現代企業が直面する事業環境の変化について
第 2 回	近代産業の勃興と経済倫理 [1] 「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理 [2] 「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J. ベンサム・J. ミル「功利主義思想」と M. ウェーバー「資本主義の精神と倫理」
第 4 回	日本社会における企業倫理の形成 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理感の醸成（明治～昭和前期）
第 5 回	日本社会における企業倫理の形成 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第 6 回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第 7 回	CSR・SDG との登場と企業社会の変容	資源エネルギー多消費型経済との訣別と企業活動の変容
第 8 回	新自由主義の展開と経済のグローバル化	レーガノミックス・サッチャリズムの功罪とは何か
第 9 回	CSR の胎動	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第 10 回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第 11 回	CSR・SDGs と企業経営	サステナビリティ先進企業の取組事例の検討
第 12 回	シェアリングエコノミー・デジタルトランスフォーメーションの台頭と企業経営	AI・IOT の進化によるビジネスの構造変化
第 13 回	SDGs 時代の企業評価	SDGs 時代に社会から選ばれる企業とは何か
第 14 回	企業価値を高める「SDGs・脱炭素」戦略	日本企業が取り組むべき課題とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景に SDGs に取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂、2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出入りし、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline and objectives】

In this lesson, based on the knowledge acquired in CSR theory, we will follow how the SDGs (Sustainable Development Goals) and Business Ethics (Business Ethics) have changed with the times. We aim to deepen our understanding of the role of companies required in a sustainable society and the ethics of business executives.

ECN300HA

国際環境政策 I

國 則 守 生

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では環境問題を国際的な観点、地球規模の観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。具体的には、前半で環境問題を軽減・解決を図るために先進各国で採用されてきたさまざまな経済的手段（economic instruments）について、規制的手段や自主的手段などの比較を含めて、学習する。とくに各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税、排出権（量）取引などの効果と課題等について議論する。後半では、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に、経済的手段の国際協調の側面を取り扱う。

【到達目標】

本授業は国際的、越境のおよび全地球的な観点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな特徴と課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義（オンデマンドなどのオンラインを含む）および資料に基づく学習形式で行う。各回の授業計画については、資料を通じて学習支援システムで提示する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境問題の広がりとその類型
第2回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代の変遷とその特徴
第3回	環境税賦課の影響	経済的手段による負担の帰着問題
第4回	環境と経済的手段 (1)	OECD 諸国での課徴金と環境税
第5回	環境と経済的手段 (2)	OECD 諸国での排出権（量）取引の種類
第6回	環境と経済的手段 (3)	その他の環境に関する経済的手段
第7回	環境と経済的手段 (4)	環境関連税制（environmentally related taxes）
第8回	越境環境問題 (1)	国内環境問題との対比
第9回	越境環境問題 (2)	酸性雨問題
第10回	国際環境協定の可能性	完全協力解、非協力解、提携（coalition）など
第11回	地球環境問題 (1)	オゾン層破壊と国際協定
第12回	地球環境問題 (2)	地球温暖化問題と現状実施されている経済的対応の評価
第13回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題と地域間、世代間対立の課題、社会的割引率のあり方など
第14回	まとめ	国際的対応の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の資料等を使用して必ず予習・復習をすること。とくに、復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論Ⅰ、Ⅱの履修（同時も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しないが、担当教員が作成した資料を授業支援システムにて配布する。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他 (2001) 『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社（¥ 3,190）

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣（¥ 2,640）

【成績評価の方法と基準】

授業後のエクササイズ（20%）および期末に実施される定期試験での筆記試験（80%）の総合評価とする。ただし、オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、すみやかに学習支援システムに提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。授業後、必要に応じてエクササイズ（課題ホームワーク）を課すので、必ず解答・提出すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

教員は政府系政策金融機関の研究部門にて地球温暖化問題に関する研究経験があり、本講義中の地球温暖化問題の一部に考え方、分析などが反映されている。

【Outline and objectives】

This lecture is concerned with the multifaceted, international aspects of environmental problems. Especially the lecture finds that global environmental problems are typically susceptible to intra- and inter-generational equity agenda.

ECN300HA

国際環境政策Ⅱ

久谷 一郎・土井 菜保子・永富 悠・人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境政策およびエネルギー政策の国内の状況、国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。国際環境政策Ⅰの内容を踏まえ、エネルギー問題を含む環境問題について統計などの諸資料を活用しながら現状について客観的な理解を深めます。また、国内外の環境政策、エネルギー政策の経緯や潮流を理解することで、地球環境問題と環境問題と一体となっているエネルギー問題の解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

【到達目標】

各種統計資料等に基づいた国内の状況および国際比較を通じて、各学生が将来に向けて現代社会の重要課題である環境問題と環境問題と一体となっているエネルギー問題について、データと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになること、そして、将来に向けて新たな問題意識の発掘や醸成および課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。特に環境問題と表裏の関係にあるエネルギー問題を合わせて、国際環境政策Ⅰで扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等をスライドを利用しながら講義形式で解説します。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の狙い、構成、成績評価としてのレポートの概要など
第 2 回	エネルギーセキュリティ (1)	エネルギー安全保障とは（概念と歴史的経緯）
第 3 回	エネルギーセキュリティ (2)	今日のエネルギー安全保障（至近の情勢、注目点）
第 4 回	エネルギーセキュリティ (3)	途上国のエネルギー安全保障（途上国固有の課題）
第 5 回	エネルギーセキュリティ (4)	安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス（政策の選択肢、国際協力）
第 6 回	エネルギー市場 (1)	エネルギー市場の概要
第 7 回	エネルギー市場 (2)	国際的なエネルギー市場
第 8 回	エネルギー市場 (3)	国内のエネルギー市場
第 9 回	エネルギー市場 (4)	エネルギー・環境政策と市場
第 10 回	環境政策 (1)	地球温暖化とエネルギー
第 11 回	環境政策 (2)	省エネ、日本の取り組みと世界動向
第 12 回	環境政策 (3)	脱炭素政策、EV 化、デジタル化
第 13 回	環境政策 (4)	ビジネス界の取り組み
第 14 回	まとめ	質疑、フリーディスカッションなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に資料を読んでおくこと。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて、関心を持ったトピックスについて、関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めることで授業の内容理解と授業への積極的な参加が期待されます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料（スライド）をもとに毎回授業を進めます。

【参考書】

特定の参考書はありません。担当教員が作成した個々のテーマの資料（スライド）に参考とすべき書籍・論文があれば個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

合計 3 回のレポート提出（各 33・1/3 %）をもとに総合判断します。定められたレポートの提出期限をまもること。

【学生の意見等からの気づき】

質問を受け付ける方法、機会を、オンデマンドなどの方法を通じて、しっかりと提供したい。レポート課題の内容や回数・提出期限などの周知を講義を通じて徹底することとしたい。

【その他の重要事項】

春学期開講の「国際環境政策Ⅰ」の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

教員（3名）はエネルギー経済に関する（一財）日本エネルギー経済研究所での研究活動に従事しており、本講義はそこでの研究活動の考え方、分析方法などが一部反映されている。

【Outline and objectives】

Themes of this lecture series are on (1) environment and energy policies in Japan and the world, and (2) approaches for overcoming the challenges for so-called 3Es (Energy Security Enhancement, Economic Efficiency, and Environmental Protection). Those themes will be analyzed from Japan's past experiences/current undertakings as well as other countries' approaches. Engagement of the international community to such a framework as UNFCCC is also an important theme to be analyzed in this lecture series.

The objectives of this lecture series are:

- to objectively understand the current energy and environmental issues with the use of statistical data as well as policies analyses,
- to understand the global environment and energy policies from both historical and current perspectives, and
- to establish views for overcoming those challenges surrounding global environment and energy issues from multilateral/ bilateral approaches as well as Japan's approaches.

ECN300HA

国際経済協力論Ⅰ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようにすることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「D4」に関連がかなりある。

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅰにおいては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力（開発協力）とは？	国際経済協力（開発協力）とはどのような仕組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにとどこで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第3回	国際社会と開発協力の歴史（1）（1945年～1960年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の開発協力の取り組みについて概観する。
第4回	国際社会と開発協力の歴史（2）（1970年～1980年代）：経済協力への失望と変化の兆し	開発協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第5回	国際社会と開発協力の歴史（3）（1990年代～現在）：冷戦後の世界とグローバリゼーション	冷戦終結後の国際秩序と、グローバリゼーション下における開発協力の位置づけを概観する。
第6回	日本の開発協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の開発協力に与えた影響について理解する。
第7回	日本の開発協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	日本の開発協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第9回	開発協力の仕組みと方法	日本の開発協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。

- 第10回 開発協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO) 日本の開発協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府(「官」)ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
- 第11回 開発協力をめぐる議論の大きな流れ(1)：経済成長と人間開発 開発協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略(アプローチ)の変遷およびSDGsのような国際目標を通じて理解する。
- 第12回 開発協力をめぐる議論の大きな流れ(2)：持続可能な開発と環境 開発協力の分野で環境をめぐる問題がとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
- 第13回 開発協力の評価と効果をめぐる議論 これまでの開発協力には効果があったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
- 第14回 日本が開発協力を行う理由 日本は途上国への開発協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト(教科書)】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦(2005年)『国際開発論』(日本評論社)
 勝間靖編著(2012年)『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)
 牧田東一編著(2013年)『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』(学陽書房)
 外務省(毎年発行)『日本の開発協力』(ODA 白書)

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(20%)と期末試験(80%)による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is the first part of the course on economic cooperation for developing countries putting an emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic concept and background of economic cooperation for developing countries.

ECN300HA

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることが期待される。加えて「持続可能な開発目標(SDGs)」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようにすることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
 経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「D4」に関連がかなりある。

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

またリアクションペーパー(教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの)を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅱの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標(SDGs)」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問いつつ視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化/社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による開発協力(1) NGO(NPO)と市民社会	近年、開発協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による開発協力(2) 民間企業	一般に営利を追求すると思われている民間企業が、開発協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	開発とジェンダー/マイクログレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行(バングラデシュ)を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	人間の安全保障と開発協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	開発協力と紛争/平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ(1)：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ(2)：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後への課題について概観する。
第10回	フェア・トレード(1)：なぜ今、フェア・トレードが重要か?	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。

第 11 回	フェア・トレード (2) : フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第 12 回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避/最小限にするためにとられる対策について理解する。
第 13 回	地球環境問題と経済協力 : 気候変動 (地球温暖化) を中心に	気候変動 (地球温暖化) を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第 14 回	まとめ : 持続可能な開発目標 (SDGs) と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦 (2005 年) 『国際開発論』 (日本評論社)
 勝間靖編著 (2012 年) 『テキスト国際開発論 : 貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』 (ミネルヴァ書房)
 牧田東一編著 (2013 年) 『国際協力のレッスン : 地球市民の国際協力入門』 (学陽書房)
 外務省 (毎年発行) 『日本の国際協力』 (ODA 白書)

【成績評価の方法と基準】

中間レポート (20%) と期末試験 (80%) による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力を携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is the second part of the course on economic cooperation for developing countries putting an emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries including contemporary topics in the international society regarding Sustainable Development Goals (SDGs).

MAN300HA

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第 2 回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第 3 回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第 4 回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRR などの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第 5 回	環境と金融③ / プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第 6 回	ケース 1 : 再生可能エネルギービジネス 1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第 7 回	ケース 2 : 省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO などを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第 8 回	ケース 3 3 R ビジネス 1 / 企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。

第9回	ケース3 3Rビジネス2 / 企業分析プレゼン②	前回の続き。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス / 企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス / 企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス / 企業分析プレゼン⑤	自然資本 / 生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1 / 企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めている ESG 投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ / 企業分析プレゼン⑦	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分に関心を持つ業界 / 企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（次回までに提出）。また、チーム又は個人で企業の環境ビジネスを分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で1時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html
 このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じた知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（40%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（40%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、オンデマンドのオンライン方式にはなじまないため、2021年度秋学期は対面式を予定しています（感染状況次第では変更の可能性あり）。分析・プレゼン社数は受講生数に応じて増減しますが、例年は6～7件程度を実施しています。教員は現役の銀行役員であり、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に関する実務経験を有しているほか、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc, we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

POL200HA

平和学

植村 充

配当年次 / 単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業 / Spring | 曜日・時限：金 6 / Fri.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安住の地を求めて移動する難民、混迷を極める内戦、頻発するテロ事件、そして感染症の世界的流行などのニュースに私たちは日常的に触れています。越境的に生じるこれらの諸問題を解決するには、事象の正確な把握とその分析が不可欠です。本講義においては、平和学がこれまでに積み重ねてきた知に触れ、これらの問題に対するアプローチを探ります。これによって国際社会に生じる問題に主体的に取り組み姿勢を身につけます。

【到達目標】

第1に、平和学の誕生から現在までの変遷、その特徴、他学問領域との関連、そして平和学における諸論点を横断的に理解します。また平和を希求する各主体（アクター）の特徴と関係性について理解します。第2に、それらの知識を活用して、紛争、平和構築、難民、多文化共生社会、といった具体的な課題に取り組む主体と手法の多様性を主体的に考察できるようにします。最終的に各受講者が世界の諸問題について自身で学びを深めていける能力を養成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採用します。オンデマンド配信形式による講義となりますが、教材は毎回アップロードされます。また毎回、簡単なリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーに書いて頂いた内容は次回の講義においてコメントします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：平和学とは何か	平和学誕生の背景、その特徴、現代社会における役割と課題を概説する。特に「平和」とはどのような状態を指すのか、平和学が対象とする課題はなにかを理解する。
第2回	紛争と平和研究 (1)	主権国家体制の成立から現代にいたるまでの暴力発生様態の変容を理解する。従来、暴力の主な発生要因といえば国家間の戦争であったが、現代はより要因が多様化している点を理解する。
第3回	紛争と平和研究 (2)	崩壊国家と内戦の様相を植民地主義の歴史と各地域の事例を踏まえて概説する。
第4回	人道支援・人道的介入・平和構築 (1)	国家の崩壊や諸々の内戦に対して国際社会が用いてきたアプローチを理解し、具体的な事例からその問題点と展望を理解する。第4回は人道支援・人道的介入を考える。
第5回	人道支援・人道的介入・平和構築 (2)	内戦の終結した国にとって次なる課題は平和状態をいかに構築し、維持するかということである。第5回は国家建設をはじめとする平和構築のアプローチを考える。
第6回	国連と平和	国際平和を希求する目的をもって誕生した国連の平和に関する取り組みと現代的課題を理解する。
第7回	市民・NGOと平和	従来より平和研究における主要なアクターとして市民やNGO活動の重要性が指摘されてきた。国境を越えた彼らの連帯と国際平和への関りについて理解する。
第8回	地域共同体と平和	国際社会を形成するアクターとして地域共同体の役割と性質を理解する。特にアフリカ連合 (AU) や欧州連合 (EU)、ASEANを取り上げ近隣の紛争や難民危機についていかに対処してきたかを理解する。

- 第9回 差別・排除の克服と平和 世界では社会の分断をおおるような差別や排除が日々行われ、時に深刻な暴力的状況を生み出されている。ここでは差別・排除の生じる要因を理解し、解決への取り組みを考える。
- 第10回 グローバルな経済格差と開発援助 戦争の不在だけでは平和とは言えない。ここでは発展途上国と先進国の間にある経済格差に注目し、「積極的平和」などの概念も踏まえ、現在の課題と国際社会のアプローチを理解する。
- 第11回 人の移動と平和研究(1) 現代社会において、人の移動は重要なトピックとなっている。ここでは特に世界各地で生じる難民問題について、難民発生メカニズムを理解し、日本そして国際社会がいかに難民問題に対応してきたかを理解する。
- 第12回 人の移動と平和研究(2) 難民に限らず、世界には多様な理由で越境を行う人々がいる。日本でいえば技能実習生の問題など、脆弱性を持つ移動する人々の権利保障に焦点をあてる。
- 第13回 平和研究の日本的文脈(1) 核軍縮や日米安全保障条約の変容を理解し、日本を取り巻く国際社会の様相について考察する。
- 第14回 平和研究の日本的文脈(2) 日本国憲法の平和主義や戦後賠償問題を巡る学術界の議論を踏まえ、主体的に日本に関わる問題の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を適宜すること。また本講義で取り上げる国際社会における諸課題には、普段のニュースや他講義でも触れることがあると思います。主体的な取り組みのためにも、アンテナを張って積極的に知識を吸収してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。事前に読んで欲しい資料は授業支援システムに掲載します。

【参考書】

日本平和学会編(2018)『平和をめぐる14の論点 - 平和研究が問いつけること -』法律文化社
 児玉克哉・佐藤安信・中西久枝(2004)『初めて出会う平和学 - 未来はここからはじまる -』有斐閣アルマ
 長有紀枝(2012)『入門 人間の安全保障 - 恐怖と欠乏からの自由を求めて -』中公新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)と小レポート(30%)および出席・リアクションペーパー(20%)による。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講者から、講義の最後にリアクションペーパーを書くことにより理解が深まったとの意見を頂きました。自分で学習した知識をアウトプットするのは重要な学習方法ですので、積極的に記述を行ってください。また講義中に近年の研究動向を理解するために論文講読を行います。積極的に読み解いてください。

【その他の重要事項】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【関連の深いコース】

履修の手引「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We always come in contact with the news such as refugee issues, civil wars and terrorism. In order to solve these cross-border problems, it is essential for us to understand these incidents precisely and analyze them critically. In this course, we study the knowledge which has been accumulated in the field of peace studies, and research the methodological approach to these issues. By so doing, students acquire a positive attitude to work on the problems in international society.

POL300HA

人間の安全保障

植村 充

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1994年に「人間の安全保障」という概念が提唱されてから、およそ25年が経過しました。この間同概念を基盤として、国際社会では多様な試みがなされてきました。安全保障の焦点を従来の国家安全保障から個人の人權や生命、そして生活に当てる試みが生まれたことで、何が達成され、また課題として残されているのか。本講義では、この「人間の安全保障」について関連学問分野に体系的に学習します。

【到達目標】

安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家・NGOの政策、人間の安全保障という概念を基軸として見つめ直される諸課題について理解します。特に諸課題の現状を冷静に把握し、これを解決する手段として国際社会がどのような方策を立ててきたのかを学習します。これによって、越境に生じる政治経済社会問題を学生自身が主体的に考察し、当事者の視点を踏まえて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。オンデマンド配信形式による講義となりますが、教材は毎回アップロードされます。

また毎回、簡単なリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーに書いて頂いた内容は次回の講義においてコメントします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：人間の安全保障とは何か	「人間の安全保障」の概念が成立した経緯、その意義、他の学問領域との関連を概説する。
第2回	安全保障の歴史と概念の変容	従来、安全保障は伝統的に国家同士の戦争から国家の主権をいかに守るかという国家安全保障を想定してきた。しかしその後、安全保障の対象は多様化する。その多様化の歴史的経緯を理解する。
第3回	現代世界における人間の安全保障	1990年代以降に確立された「人間の安全保障」概念が誕生してから25年が経過しようとする今、どのような成果を残し、課題を抱えているのかを理解する。
第4回	崩壊国家と内戦の様相	人間の安全保障の重要性が最も顕わになるのは、国家が国民の安全を保障できない、崩壊国家や内戦の場合である。ここでは、冷戦終結後に生じた内戦や脆弱な国家の出現とその原因を理解する。
第5回	人間の安全保障と国際法	人間の安全保障の概念は国際法の発展にも寄与してきた。特に国家主権や人道的介入、平和に対する権利など、従来の概念に対する影響を看過することはできない。ここでは人間の安全保障と既存の国際法の関係を理解する。
第6回	国際機関と人間の安全保障	人間の安全保障を推進する主体として、国際連合をはじめとする国際機関の活動は重要な論点である。特に国際連合が果たしてきた成果とその限界について理解する。
第7回	国際社会・NGOと人間の安全保障	国際社会を構成する日本以外の諸外国とNGOが人間の安全保障という概念に基づきいかに活動してきたか、理解する。
第8回	日本と人間の安全保障	1990年代後半以降、人間の安全保障は日本外交の柱の一つとなってきた。この回では、人間の安全保障に対する国際社会への日本政府の取り組みを概説する。

第9回	貧困と開発援助の諸相	人間らしく生きるためには、暮らしの安定性と持続性が必要である。しかしながら、主に途上国で深刻な貧困状態が継続し、人間の安全保障に対する脅威の一つになっている。今回は、貧困の実態と開発援助の諸相を考える。
第10回	テロリズムと人間の安全保障	現代国際社会で人間の安全保障に対する著しい脅威として、世界各地で生じるテロリズムがある。この回では、越境的に生じるテロの問題を理解し、国際社会の取り組みを考える。
第11回	難民・国内避難民問題 part1	世界各地には紛争や内戦によって移動を余儀なくされた避難民が多く存在する。この回では難民の発生要因、難民キャンプでの生活、解決策について考える。
第12回	難民・国内避難民問題 part2	2015年に発生した欧州難民危機では地中海やバルカン半島を経由して多くの避難民が欧州地域に押し寄せた。大量の避難民を前にEUはいかに対処したか。各構成国の反応も踏まえつつ概説する。
第13回	人間の安全保障の日本の文脈	日本で発生する自然災害や避難所で生じる問題も重要な人間の安全保障である。この回では日本で生じる脅威について検討する。
第14回	講義の振り返りとまとめ	第13回までの講義内容と議論をまとめながら、人間の安全保障に関する今後の展望を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず学習・復習をすること。「人間の安全保障」という概念は聞きなれないかもしれませんが、関連する諸課題は講義で説明するように我々の身近にあります。積極的に新聞やニュースに触れ、主体的な授業参加を奨励します。また適宜英語資料を用います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。講義前に読んで頂く資料がある場合には授業支援システムを活用します。

【参考書】

東大作編著 (2017) 『人間の安全保障と平和構築』2017年 日本評論社
高橋哲哉・山影進編 (2008) 『人間の安全保障』2008年 東京大学出版会
長有紀枝 (2012) 『入門 人間の安全保障-恐怖と欠乏からの自由を求めて-』中公新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、小レポート (40%)、出席およびリアクションペーパー (20%)。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度受講者から、講義の最後にリアクションペーパーを書くことによって理解が深まったとの意見を頂きました。自分で学習した知識をアウトプットするのは重要な学習方法ですので、積極的に記述を行ってください。また講義中に近年の研究動向を理解するために論文講読を行います。積極的に読み解いてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。講義までに読んでくる関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Twenty five years have passed since the concept, "human security," was proposed in 1994. Various attempts have been made on the basis of this concept in international society. We consider what has been achieved, and what are left as uncompleted agendas, by shifting the focus from issues concerning nation states to the human right and life of people. In this course, we study about "human security" with a systematic method.

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズ I

池原 庸介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、気候変動による人類や生態系への影響が激甚化しており、「気候危機」という言葉が定着しつつある。いよいよ2020年よりパリ協定がスタートし、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが世界的に加速しています。本講では、気候変動問題に係る国際交渉や国内外の政策動向、そして近年国際舞台で重視されている非国家アクターと呼ばれる自治体、企業、投資家、そしてNPO（非営利組織）の取り組みについて理解を深めます。講義では、世界の最新動向も交えた解説を通じて、活きた知識を身につけます。

【到達目標】

気候変動問題を正しく理解し、2016年に発効した国際枠組み「パリ協定」の下で、世界が脱炭素社会の実現に向けてどのように取り組んでいるか、政府や企業、NPOなど様々な切り口から包括的に理解すること。3ヶ月間の学習で、気候変動問題に詳しくなり、他者に説明し議論できるレベルに到達することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会科学・自然科学の両面から気候変動問題およびその解決に向けた世界の取り組みについて全体像を概観します。講義形式で理解を深めてゆき、環境マネジメントスタディーズⅡ（秋学期）のディスカッションにおいても議論に貢献できる十分な知識を涵養します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 深刻化する気候変動問題	講義の進め方 気候変動問題とは
2	気候変動の科学①	IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次評価報告書が示す将来予測、炭素予算など
3	気候変動の科学②	予測される気候変動の影響
4	国連気候変動枠組み条約と国際交渉	国際的な気候変動交渉の流れ
5	京都議定書と市場メカニズム	法的拘束力を持つ削減目標と柔軟性メカニズム
6	パリ協定の成立	国際合意の難しさ、全員参加型の気候変動対策、脱炭素に向けた取り組み
7	パリ協定下での各国の政策動向	主要各国の気候変動・エネルギー政策
8	日本の気候変動・エネルギー政策	日本の中長期目標とその課題、世界からの評価
9	非国家主体による気候行動①	非国家主体による取り組みの重要性、リマ・パリ行動アジェンダ
10	非国家主体による気候行動②	世界の産業界の動向、各種国際イニシアチブ
11	非国家主体による気候行動③	ESGの観点から企業に求められる取り組み
12	世界のエネルギー政策	『脱炭素』を実現する世界のエネルギーのあり方
13	再生可能エネルギー普及拡大の動き	各国の再生可能エネルギー政策、企業などによる再生可能エネルギーの活用
14	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当日授業内容の予習は不要だが、各回講義資料（毎回配布）の復習は必須です。次の授業までに復習を行っておくことで、後の授業の理解度は格段に高まります。復習の際は、講義資料を表面的になぞるだけでなく、他者に教えるつもりで自分の言葉で説明できるよう心掛けると効果的です。これを継続することにより、春学期の3ヶ月間で、気候変動問題への理解度は高いと自負できるレベルに到達可能。

※ 気候変動は、視野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは関心のある企業の取り組みや再生可能エネルギーなどのトピックにふれ、少しずつ深掘りしていくことが重要。下記の参考書を活用し、徐々に全体像をとらえていくと効果的。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、担当教員が作成した印刷資料（ハンドアウト）を配布。

【参考書】

- 小西雅子『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ』 岩波ジュニア新書、2016年（¥946）
- WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、金融・保険業編など 11編を発行済み）
- ※各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能
<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/214.html>
- 植屋 治紀『これからのエネルギー』 岩波ジュニア新書、2013年（¥902）
- 小宮山 宏、山田 興一『新ビジョン 2050 地球温暖化、少子高齢化は克服できる』 日経 BP 社、2016年（¥1,980）

【成績評価の方法と基準】

①平常点（小テスト含む）：50%

②期末レポート：50%

①小テストでは、気候変動問題に関する基礎的事項や用語を理解しているかを問う。

②パリ協定の下での世界の脱炭素化に向けた動向、各主体の取組みなどについて理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価。

【学生の意見等からの気づき】

・国際組織に勤務する担当教員の経験等に基づく国連会議の話題や企業の取組み事例などが分かり易かったとの声が得られているため、今年度もそうした内容を積極的に取り扱います。

・授業で配布するハンドアウトは白黒印刷のため、グラフなどが読みにくい箇所があったとの声を受け、資料の PDF ファイルを授業後に学習支援システムにアップロードすることとします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上に掲載する講義資料の PDF ファイルを閲覧する場合はパソコンが必要。

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅡ（秋学期）の履修予定者は、本科目を事前に履修することを推奨。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

企業および国際組織における実務経験あり（計 20 年以上）。気候変動問題の解決に向けた国際交渉や企業による取組みなどに関して、実務経験（環境部署での業務、国連会議への参加など）に基づいた実践的な内容を取り扱う。

【Outline and objectives】

As adverse effects of climate change become far more serious recently, a new term "climate crisis" has become widely used. With the Paris Agreement starting in 2020, climate actions toward a zero-carbon society are accelerated globally than ever before. Students can learn about UN climate negotiations, climate policies in and outside Japan as well as ambitious efforts to address the issue by non-state actors such as cities, businesses, investors and NPOs, which are considered to play pivotal roles to realize a zero-carbon society.

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズⅡ

池原 庸介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境マネジメントスタディーズⅡで学んだことをベースに、気候変動問題をはじめ、森林の伐採、水産物の過剰漁獲などの問題にも範囲を広げ、人間活動が地球環境や自然資本に与えている負荷の大きさを理解し、持続可能な社会の実現に向けて求められる解決策、課題等について、演習（ゼミ）形式で理解を深めます。

【到達目標】

人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを示す指標『エコロジカル・フットプリント』を用いて地球環境の実情を理解し、森や海を守り、気候変動問題を解決していくために何が必要かを自ら考え議論することができる。企業の取組みについて調べ、発表を行うことで、プレゼンテーションスキルを向上。（調べるポイント等については、事前に授業の中で詳しく解説）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

人間活動、特に企業活動や生活者の消費行動が、どのようなかたちで地球環境に負荷を与えているかに焦点を当て、様々なトピックの資料を読みディスカッションを行う演習（ゼミ）形式で理解を進めていきます。グループ対抗での疑似交渉やロールプレイなども実施する予定です。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※下記の授業計画は、履修状況などに応じて変更や入れ替えを行う場合があります。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス エコロジカル・フットプリント（EF）	LPI（生きている地球指数）、EF を通じた地球環境の実情の理解
2	気候危機の解決に向けたエネルギーのあり方	エネルギーのあり方を各人が考え、グループ対抗で疑似交渉を実施
3	企業の温暖化対策①	企業の取り組みを評価する際に重視すべき視点（長期目標、ライフサイクルなど）
4	企業の温暖化対策②	学生による発表とディスカッション
5	企業の温暖化対策③	学生による発表とディスカッション
6	企業の温暖化対策④	学生による発表とディスカッション
7	企業の温暖化対策⑤	学生による発表とディスカッション
8	企業の温暖化対策⑥	学生による発表とディスカッション
9	持続可能な森林資源の活用に向けて①	森を守る調達・消費行動（紙パルプ調達と F S C 認証）
10	持続可能な森林資源の活用に向けて②	森を守る調達・消費行動（バーム油調達と RSPO 認証）
11	持続可能な森林資源の活用に向けて③	ロールプレイとディスカッション（RSPO）
12	持続可能な水産資源の活用に向けて①	海を守る調達・消費行動（水産物調達と MSC）
13	持続可能な水産資源の活用に向けて②	海を守る調達・消費行動（養殖水産物調達と ASC）
14	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- 企業の温暖化対策について、下記の【参考書】に示す『企業の温暖化対策ランキング』の報告書の中から関心のある業種を選び、少しずつ読み進めていく。各社の取り組みレベルを見極める力が養われ、この分野の理解が深まる。
- 4 回～8 回の授業において、企業の温暖化対策に関する発表を実施（各人 1 回）。パワーポイントによる発表資料を準備
- ※日ごろから、環境に関するニュースや記事などを読み、興味関心のある分野を増やしていくと効果的。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として、担当教員が作成した印刷資料を配布。

【参考書】

- WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、食料品編など 11 編の報告書を発行済み）
- ※各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。

<https://www.wwf.or.jp/activities/2017/10/1392731.html>

● WWF『生きている地球レポート 2020』

※ レポートは、ウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4402.html>

● 小西雅子『地球温暖化を解決したい—エネルギーをどう選ぶ?』 岩波書店、2021年(¥1,595)

【成績評価の方法と基準】

①平常点(発表含む)：50%

②期末レポート：50%

①企業の環境対策について調査し発表(調査するポイント等については、授業内であらかじめ解説)。

②各回で取り上げた内容を通じ、エコロジカル・フットプリントを用いて地球環境の実情を理解し、与えられた課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価。

【学生の意見等からの気づき】

発表やグループディスカッション、ロールプレイなどを通じて、とても理解が深まったという声が多かったため、今年度も踏襲する。

ディスカッションやグループワークをもう少し増やしてほしいという声もあったため、グループ対抗での交渉体験の機会を盛り込む。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は原則として、学習支援システム上に掲載。それらを閲覧する場合はパソコンが必要。また、発表資料(原則としてパワーポイント)の作成にもパソコンが必要。

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅠ(春学期)を事前に履修することを推奨。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

企業および国際組織における実務経験あり(計20年以上)。気候変動問題の解決に向けた国際交渉や企業による取組みなどに関して、実務経験(環境部署での業務、国連会議への参加など)に基づいた実践的な内容を取り扱う。

【Outline and objectives】

By referring to the Ecological Footprint indices, students can learn about to what extent human activities burden the global environment and natural capital from the viewpoint of climate change, deforestation, excessive fish catch, etc. You can also foster better understanding of what are needed toward realizing a truly sustainable society through small-group discussion and role-playing methods.

MAN100FA

簿記入門Ⅰ(2016年度以降入学者)

大下 勇二

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは簿記の基礎と日商簿記3級程度の修得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりまぜながら習得する。

なお、今年度の春学期の授業はオンデマンド形式で実施します。学習支援システム上にアップロードする授業のコンテンツ(音声付パワーポイントスライド)を視聴し、学習支援システム上の小テスト(第1回~第12回)を受ける形で学習していきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	簿記の意義としくみ(1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第2回	簿記の意義としくみ(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	簿記の意義としくみ(3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第4回	仕訳と転記(1)	勘定の意義、勘定科目の分類、勘定記入を学習します。
第5回	仕訳と転記(2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳と転記(3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」と「転記」について学習します。
第7回	仕訳帳と元帳(1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	仕訳帳と元帳(2)	勘定記入、仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第9回	決算(1)	決算の意味と手続き、試算表の作成、合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第10回	決算(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きを学習します。
第11回	決算(3)	精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	現金と預金	現金・預金の記帳、現金出納帳、現金過不足、当座預金、その他の預金、小口現金の処理を学習します。
第13回	総括(1)	小テストの解答を解説します。
第14回	総括(2)	小テストの解答を解説します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

オンデマンドによる授業を視聴した上で、学習支援システム上で小テストを受ける必要があります。また、課題レポートを提出してもらいます。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義3級』(最新版)中央経済社。

【検定 簿記ワークブック 3 級】(最新版) 中央経済社。

【参考書】

最初の授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」(第 1 回～第 12 回)、「課題レポート」(1 回程度)および「最終テスト」(7 月実施)の 3 つに基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解を深めながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイントを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2 年次の会計学入門 I/II、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、監査論 I/II、原価計算論 I/II、管理会計論 I/II、経営分析論 I/II、経営分析論 III/IV など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

【その他注意事項】

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

MAN100FA

簿記入門Ⅱ (2016 年度以降入学者)

大下 勇二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。簿記入門Ⅱでは、簿記入門Ⅰで学習した仕訳から決算までの簿記の基礎を前提として、さまざまな取引を取り上げその具体的な処理を学習していきます。

【到達目標】

簿記入門Ⅱでは、簿記入門Ⅰで学習した簿記の基礎に基づいて、日商簿記 3 級程度の修得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを前提に、具体的な取引の会計処理、帳簿組織の仕組み、決算と決算書の作成方法を、テキストに従い、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおりませながら習得する。簿記入門Ⅱはオンデマンド形式で実施します。学習支援システム上にアップロードする授業のコンテンツ (音声付パワーポイントスライド) を視聴し、学習支援システム上の小テスト (第 1 回～第 12 回) を受ける形で学習していきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を学習します。
第 2 回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第 3 回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳、売掛金・買掛金、人名勘定、売掛金元帳・買掛金元帳などを学習します。
第 4 回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券等の処理を学習します。
第 5 回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、受取手形記入帳・支払手形記入帳、手形貸付金・手形借入金、電子記録債権・電子記録債務等の処理を学習します。
第 6 回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却、減価償却の計算と会計処理を学習します。
第 7 回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れの処理、貸倒れの見積りと引当の処理を学習します。
第 8 回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金、配当等の処理を学習します。
第 9 回	収益と費用	収益と費用の未収・未払と前受けと前払いの処理とその意義、消耗品の処理等を学習します。
第 10 回	税金、伝票	税金の処理と伝票を用いた記入方法を学習します。
第 11 回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理およびその意義を学習します。
第 12 回	財務諸表 (2)	決算整理から 8 桁精算表および財務諸表の作成方法を学習します。
第 13 回	総括 (1)	小テストの解答を解説します。
第 14 回	総括 (2)	小テストの解答を解説します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

オンデマンドによる授業を視聴した上で、学習支援システム上で小テストを受ける必要があります。また、課題レポートを提出してもらいます。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

渡部・片山・北村【検定 簿記講義 3 級】(最新版) 中央経済社。

【検定 簿記ワークブック 3 級】(最新版) 中央経済社。

【参考書】

最初の授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」(第 1 回～第 12 回)、「課題レポート」(1 回程度) および「最終テスト」(1 月実施) の 3 つに基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕事トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイントを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2 年次の会計学入門 I/II、3・4 年次の財務会計論 I/II、税務会計論 I/II、国際会計論 I/II、監査論 I/II、原価計算論 I/II、管理会計論 I/II、経営分析論 I/II、経営分析論 III/IV など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

【その他注意事項】

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

LAW200HA

行政法 I**横内 恵**

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは、行政の活動を根拠づけたり規制したりする法の体系である。本講義ではそのうち、行政の組織のあり方や、行政法の基本原則、行政活動の種類などについて、具体例を示しながら解説する。

【到達目標】

行政の様々な活動を法的に理解・考察できるようになることを、本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業だが、オンラインでの質問対応の機会も確保する予定である。その詳細については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。

学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、行政組織の基礎概念	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	国の行政の仕組み、地方の行政の仕組み	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	法律による行政の原理	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	行政法の一般原則	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	行政の規範定立	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	行政行為（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	行政行為（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	行政契約（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	行政契約（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政指導	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	行政計画	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	行政の実効性確保手段	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	行政手続	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、教科書や判例集とともに、スライドや解説ノートをよく読んでください。そして、復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書：北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第 7 版〕』（法律文化社、2019 年）。（本体 2,700 円＋税）

・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017）。（本体 1,800 円＋税）

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。「行政法 II」の履修希望者は、先に本講義を履修してください。

2017年度以前に「行政法の基礎」の単位を修得済の場合、本科目の履修はできません。履修にあたっては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

LAW200HA

行政法Ⅱ

横内 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政法Ⅰ」の授業内容を前提として、違法または不当な行政活動を是正したり、国民の権利を保護したりするための救済制度について、具体的な事例を取り上げながら解説する。

【到達目標】

行政と国民の間の紛争をいかに法的に解決するかについて、論理的に考えられるようになることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

状況次第では対面授業を実施する可能性もあるが、少なくとも本シラバス執筆時点の計画としては、オンデマンド授業を行う予定である。オンデマンド授業の場合でも、オンラインでの質問対応の機会を確保する予定である。詳細については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	当該テーマについて解説する
第2回	行政救済法概説	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第3回	取消訴訟：処分性	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第4回	取消訴訟：原告適格	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第5回	取消訴訟：判決の効力	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第6回	無効等確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第7回	不作為の違法確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第8回	義務付け訴訟と差止訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第9回	当事者訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第10回	民衆訴訟・機関訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第11回	国家賠償法：公権力の行使、公の营造物	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第12回	国家賠償法：違法性、故意・過失	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第13回	国家賠償法：規制権限不行使	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第14回	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、教科書・判例集と同時に、スライドや解説ノートをよく読んでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書：北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本（第7版）』（法律文化社、2019年）。（本体2,700円＋税）
・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例50！』（有斐閣、2017）。（本体1,800円＋税）

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート45%、期末レポート55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「行政法Ⅰ」履修済みの人を主な対象とします。公務員試験の受験を考えている人には、本科目の履修を強く推奨します。履修にあたっては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しない。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

SOC200HA

現代社会論Ⅰ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を獲得することで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、その他のアクティビティを行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「社会を社会的に考える」とは	社会的想像力、理論と概念の重要性、持続可能な社会の構築のために
第2回	社会とは何か	近代化により社会はどのように変化したのか。分業、連帯、支配の諸類型
第3回	個人とは何か	アイデンティティはどのように形成されるのか。自己と他者
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、社会化
第5回	資本主義	労働をめぐる諸問題
第6回	経済的格差と貧困	日本社会の現状と国際比較から考える
第7回	教育、試験 1	格差との関係、文化資本、文化的再生産
第8回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第9回	ジェンダー	女らしさ、男らしさ、平等を考える
第10回	セクシュアリティ	異性愛規範と現代社会
第11回	人種とエスニシティー	日本社会における多様性と人権
第12回	ディアスポラとグローバル化	移民と難民
第13回	社会はどう変わるのか	民主主義と政治
第14回	まとめ、試験 2	内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、課題 (40%)、試験 (30%) から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society. Specific topics to be covered include inequality, education, gender, race and ethnicity, and globalization. Each class consists of lectures, discussions, and activities, and it is essential that each student is prepared to participate actively.

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論でき、共有することで主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッションやその他のアクティビティを行いながら進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとは何か	性別と性差、ジェンダーの規範
第3回	ジェンダーとセクシュアリティ	性自認とセクシュアリティ
第4回	家族の歴史と現在	多様な家族のかたち、家長長制、少子高齢化
第5回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか
第6回	学校教育	顕在的カリキュラムと潜在カリキュラム
第7回	知識；試験1	科学、医療、テクノロジー；内容の理解度を試験
第8回	賃金労働	長時間労働と家族、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	ケア・ワーク	家事労働、育児と介護
第10回	生殖	リプロダクティブ・ライツ
第11回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第12回	グローバル化と多様化する社会	差異、人権
第13回	政治	民主主義、政治参画、持続可能な社会の構築
第14回	試験2；まとめ	内容の理解度を試験；全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015 『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013 『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)；課題 (40%)；試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, we examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender. Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることでできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることでできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要とねらい；なぜ「身体」を社会学するのか；「生命」とは何か；私たちのからだは「自然」か
第2回	身体社会学とは何か；階級と身体	社会学的想像力；ハビトゥスと文化資本；労働と身体；貧困と身体；消費活動；食；健康と病
第3回	人種と身体	植民地主義と人種；レイシズム；人種に関するカテゴリーの歴史の変遷
第4回	現代日本社会と人種	Blacks Lives Matter ；人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体
第6回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体；異性愛規範
第7回	ボディイメージ、摂食障害と美容医療；試験1	「美」のための産業；体重と美に関する基準の変化
第8回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい；スティグマ；結合双生児；心身二元論；「個人」とは何か；医療介入の決定権は誰が握るか
第9回	優生思想	優生政策；優生思想は過去のものか；日本におけるハンセン病の歴史
第10回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ；人工妊娠中絶；いのちの始まりをどう理解するか；出生前診断
第11回	生殖補助医療	不妊治療の社会的意味；第三者の関わる生殖補助医療（精子・卵子提供と代理出産）とその倫理的側面
第12回	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植	いのちの終わりは誰が決めるか；死に関する権利；「いのちの神聖さ」と「いのちの尊厳」；臓器移植の国際比較；技術は私たちの「いのち」に関する理解をどう変えるか、その倫理的側面
第13回	身体と未来	どこまでが身体か；サイボーグ；機械と人間の融合；技術と身体（義肢；人工内耳）；身体は誰のものか

第14回 まとめ; 試験2

学びの振り返り; 身体のこれから; ナラ
タイプを変えるには

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回
に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復
習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版（2012年）
小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えたい脳死・臓
器移植』岩波書店（2010年）

磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋
社（2015年）

谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社（2008年）
柘植あづみ『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みず
ず書房（2012年）

マーゴ・デメッロ『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健
康/病の身体学への招待』（2017年）

アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未
来』緑風出版（2004年）

毎日新聞『境界を生きる 性と生のはざまで』毎日新
聞社（2013年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーも含む）60%; 試験20%; 課題20%

【学生の意見等からの気づき】

前回は引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有
しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine
sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body.
Through the considerations of topics including social class, gender, race,
eugenics, and bioethics, we will grapple with issues for which there are
no easy answers.

SOC200HA

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、
ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角
的に理解していることで、社会との向き合いの幅を広げることができます。
日本において、NPO が一般的になってきたのは、ここ20年ほどです。
ボランティアは、「奉仕」を越えて、ソーシャルグッド、ソーシャルビジネス、
NPOの担い手として、ますます注目を集めています。また、NPO・ボラン
ティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。
この授業では、NPOやボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs
達成に向けて活動する、NPOの実践者、ボランティアの実践者からの情報提
供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどの
ように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

・NPOの意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係な
どについて理解を深めるとともに、現代社会の持続不可能性と持続可能性に
ついて考えます。

・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPOとの関係について理解
するとともに、SDGsとボランティア、SDGsと市民について、考えます。

・NPO・ボランティアが取り組んできた課題への理解を通して、社会の変化
や現代社会の課題について問題意識をもち、自分たちひとりひとりができる
ことについて考えます。

・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一
人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて
考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います（ZOOMのときは、
ブレイクアウトセッションを行います）。

・毎回、小グループで話し合い、グループの意見をリアクションペーパーに書
き、提出してもらいます。

・毎回、リアクションペーパー（感想・質問・意見）を提出してもらいます。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで
お知らせします。

・リアクションペーパーの質問については、次々回の授業の冒頭でコメントし、
前回授業の振り返りの時間をとります。また、リアクションペーパーの意見
等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを
学びあいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティア、NPO、 SDGsに関する基礎知識	・授業の目標、内容、進め方について の説明 ・私たちの生活と、持続可能性
第2回	NPOの基礎知識～NP Oとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類 (NPO、NGO、CSOなど)
第3回	SDGsの基礎知識 ～SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と意義 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボ ランティアの意味
第4回	ボランティア・ボラン タリー活動とは何か?	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して①	・差別/格差の問題と向き合う、NPO・ ボランティアの実践事例（LGBT等） を通して、持続可能性について考える
第6回	ソーシャルビジネスと ソーシャルグッド	・ソーシャルビジネスとは ・営利、非営利をNPOから見るとは ・NPO法の制定過程 と他の法人制度との比較
第7回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して②	環境問題（プラスチックごみ問題）と 向き合う、NPO・ボランティアの実践 事例（クリーンアップ等）を通して、 持続可能性について考える

第 8 回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して③	生物多様性と向き合う NPO・ボラン ティアの実践事例（希少種保全等）を 通して、持続可能性について考える
第 9 回	市民社会とは何か 中間発表	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・中間発表
第 10 回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問 題と向き合う NPO・ボランティアの 実践事例（学習支援等）を通して、持 続可能性について考える
第 11 回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ ボランティアの実践事例（路上生活者 支援）を通して、持続可能性について 考える
第 12 回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解 決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパー トナーシップの概念を理解する 全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきた NPO・ボ ランティア活動の発表
第 13 回	授業の振り返りと発表①	全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきた NPO・ボ ランティア活動の発表
第 14 回	授業の振り返りと発表② と補足	・半期を通じて、調べてきた NPO・ボ ランティア活動の発表 ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします
・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内
容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理していただくこと。疑問
点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。
・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容
を把握しておくこと。
・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
・各自で、関心のある分野の NPO の事例をインターネット等で調べたり、N
PO 支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみる
ことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのか SDGs」SDGs 市民社会ネットワーク発行 10
00円

「知っておきたい NPO のこと基本編」日本 NPO センター発行 5000円
その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれか
を購入するか、各自で NPO に関する本や小冊子を手し、授業とあわせて
理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢など）：40 %
テスト・レポート：60 %
なお、原則として、4 回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・現在も SDGs を達成するために活動している CSO のネットワーク組織で
活動をしています。
・また、20 年間、NPO として NPO を支援し、活動を行ってきた経験をも
とに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更す
ることもあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

SOC200HA

フィールド調査論

笠原 良太

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、社会調査の基礎的知識を学んだうえで、調査票の作成とインタ
ビュー調査を行い、社会調査の考え方を実践的に学ぶ。具体的には、量的調
査・質的調査の方法論、調査倫理、問いの立て方などを講義形式で学んだうえ
で、質問紙調査の調査票作成ならびに受講生同士のインタビュー調査を演習
形式で行う。以上の学習を通して、社会調査の意義と課題、可能性を理解し、
社会・環境と人間に関する考察力・想像力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①メディアリテラシーおよびリサーチリテラシーを身につける
- ②既存調査の結果やインタビュー調査の結果を分析し、わかりやすく的確に
報告できる
- ③社会・環境と人間に関するリサーチクエストを持ち、社会調査（のデー
タ）を活用して解明・考察できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、グループワークまたは個人ワークも行う。提出され
たリアクションペーパー、課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対
してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態
の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会調査の基礎（1） — ガイダンス、社会調査 の概要	本授業の目的、進め方、成績評価につ いて説明する。また、社会調査の歴 史、種類、意義について講義する。
第 2 回	社会調査の基礎（2） — 問題関心、「問い」の立 て方	社会科学における「問い」の立て方、 先行研究に関する情報収集の方法につ いて講義する
第 3 回	社会調査の基礎（3） — 「因果関係」「仮説」	社会科学の基礎的用語である「概念」 「変数」「因果関係」「仮説」につ いて解説する。
第 4 回	社会調査の基礎（4） — 調査方法の選択、 フィールドの選定	リサーチクエストの解明に最適な 調査方法、フィールド選定の基準につ いて確認する
第 5 回	量的調査入門（1） — 特徴と調査サイクル	サンプリング調査の設計・準備・実 査・分析・報告のサイクルを、実際の 調査事例を検討しながら学ぶ
第 6 回	量的調査入門（2） — 調査票の作成・ワー ディング	調査票の作成方法を講義したうえで、 簡易の調査票を作成し、受講生同士で 確認・検討する
第 7 回	量的調査入門（3） — 実査・集計の方法	調査票の配布と回収、エディティン グ、コーディング、データ入力を実践 的に学ぶ。また、実際の調査報告書 をもとに集計と報告について講義す る
第 8 回	質的調査入門（1） — 特徴と調査サイクル	実際の調査事例をもとに、量的調査と の相違・共通点を確認する
第 9 回	質的調査入門（2） — インタビュー調査の技 法	インタビュー調査の設計・準備・実 査・分析・報告のサイクルを、実際の 調査事例（モノグラフ）を検討しな がら学ぶ
第 10 回	質的調査入門（3） — 参与観察法	参与観察調査の設計・準備・実査・分 析・報告のサイクルを、実際の調査事 例（モノグラフ）を検討しながら学ぶ
第 11 回	演習（1） — 調査設計	受講生の問題関心に基づいたインタ ビュー調査を設計し、調査依頼書、調 査票の作成を行う（グループワーク）
第 12 回	演習（2） — 実査・トランスクリ プト作成	受講生同士でインタビュー調査を行 い、トランスクリプトを作成する（授 業時間外の実査（グループワーク）・ テープ起こし（個人ワーク）を要する）
第 13 回	演習（3） — データの整理・分析	トランスクリプト作成のつづき。マス キングを施し対象者に内容の確認を行 う。データを分析し、仮説の検証を行 う。

- 第14回 演習（4）および総括
ーフィールド調査の意義
と可能性
- データ分析・仮説検証のつづき。レ
ポートとしてまとめる。総括として、
フィールド調査の意義と可能性につ
いてディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に配布したレジュメや資料等を予め読んで予習・復習をすること。授業内で実施するグループワーク・個人ワークの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が適宜資料・レジュメを配布する

【参考書】

岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。

佐藤郁哉, 2015, 『社会調査の考え方 上』東京大学出版会。

佐藤郁哉, 2015, 『社会調査の考え方 下』東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の課題（50%）、最終レポートの提出（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PCを用いることがあるため各自用意すること

【その他の重要事項】

本授業は定員が30名程度である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。グループワークを実施するため、欠席しないことが受講条件である

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to social research methodology for beginners. In this course, the instructor will explain how to establish the research question, quantitative/qualitative research methodology and ethics in social research. Students will conduct a pilot interview survey and establish the sociological thinking habit.

SOC200HA

フィールド調査論

笠原 良太

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、社会調査の基礎的知識を学んだうえで、調査票の作成とインタビュー調査を行い、社会調査の考え方を実践的に学ぶ。具体的には、量的調査・質的調査の方法論、調査倫理、問いの立て方などを講義形式で学んだうえで、質問紙調査の調査票作成ならびに受講生同士のインタビュー調査を演習形式で行う。以上の学習を通して、社会調査の意義と課題、可能性を理解し、社会・環境と人間に関する考察力・想像力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①メディアリテラシーおよびリサーチリテラシーを身につける
- ②既存調査の結果やインタビュー調査の結果を分析し、わかりやすく的確に報告できる
- ③社会・環境と人間に関するリサーチクエストを持ち、社会調査（のデータ）を活用して解明・考察できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、グループワークまたは個人ワークも行う。提出されたリアクションペーパー、課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会調査の基礎（1） ーガイダンス、社会調査の概要	本授業の目的、進め方、成績評価について説明する。また、社会調査の歴史、種類、意義について講義する。
第2回	社会調査の基礎（2） 社会調査における「問い」の立て方、一問題関心、「問い」の立て方	社会科学における「問い」の立て方、先行研究に関する情報収集の方法について講義する
第3回	社会調査の基礎（3） ー「因果関係」「仮説」	社会科学の基礎的用語である「概念」「変数」「因果関係」「仮説」について解説する。
第4回	社会調査の基礎（4） ー調査方法の選択、フィールドの選定	リサーチクエストの解明に最適な調査方法、フィールド選定の基準について確認する
第5回	量的調査入門（1） ー特徴と調査サイクル	サンプリング調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例を検討しながら学ぶ
第6回	量的調査入門（2） ー調査票の作成・ワーディング	調査票の作成方法を講義したうえで、簡易の調査票を作成し、受講生同士で確認・検討する
第7回	量的調査入門（3） ー実査・集計の方法	調査票の配布と回収、エディティング、コーディング、データ入力を実践的に学ぶ。また、実際の調査報告書をもとに集計と報告について講義する
第8回	質的調査入門（1） ー特徴と調査サイクル	実際の調査事例をもとに、量的調査との相違・共通点を確認する
第9回	質的調査入門（2） ーインタビュー調査の技法	インタビュー調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例（モノグラフ）を検討しながら学ぶ
第10回	質的調査入門（3） ー参与観察法	参与観察調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例（モノグラフ）を検討しながら学ぶ
第11回	演習（1） ー調査設計	受講生の問題関心に基づいたインタビュー調査を設計し、調査依頼書、調査票の作成を行う（グループワーク）
第12回	演習（2） ー実査・トランスクリプト作成	受講生同士でインタビュー調査を行い、トランスクリプトを作成する（授業時間外の実査（グループワーク）・テーク起こし（個人ワーク）を要する）
第13回	演習（3） ーデータの整理・分析	トランスクリプト作成のつづき。マスキングを施し対象者に内容の確認を行う。データを分析し、仮説の検証を行う。

- 第14回 演習（4）および総括
ーフィールド調査の意義
と可能性
- データ分析・仮説検証のつづき。レ
ポートとしてまとめる。総括として、
フィールド調査の意義と可能性につ
いてディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に配布したレジュメや資料等を予め読んで予習・復習をすること。授業内で実施するグループワーク・個人ワークの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が適宜資料・レジュメを配布する

【参考書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、2016、『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。

佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 上』東京大学出版会。

佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 下』東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の課題（50%）、最終レポートの提出（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PCを用いることがあるため各自用意すること

【その他の重要事項】

本授業は定員が30名程度である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。グループワークを実施するため、欠席しないことが受講条件である

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to social research methodology for beginners. In this course, the instructor will explain how to establish the research question, quantitative/qualitative research methodology and ethics in social research. Students will conduct a pilot interview survey and establish the sociological thinking habit.

SOC200HA

社会統計論

藤本 隆史

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、社会統計の基礎として、調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、オンラインで授業資料を配布し、指示された課題に取り組んで提出してもらう。リアルタイムの講義は行わない。データの集計・分析には、エクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。学期末に確認テストを実施する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第4回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第5回	確率分布および統計的推定について	確率分布の考え方と、標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第6回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第7回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第8回	カイ2乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の検定や関連の測定方法を学ぶ
第9回	平均値の差の分析（1） t検定	独立変数の値が2値の平均値の差の分析方法（t検定）を学ぶ
第10回	平均値の差の分析（2） 分散分析	独立変数の値が3値以上の平均値の差の分析方法（分散分析）を学ぶ
第11回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第12回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第13回	集計結果のまとめ方	集計結果を利用・加工する方法を学ぶ
第14回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜紹介する。

【参考書】

向後千春、2007、『統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学』技術評論社。

その他、講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業資料で指示した課題の提出を求める（60%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関する確認テストを実施する（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the basics of statistics, which include how to read and use data. Also, the basics of data analysis will be introduced, using statistical software, such as Excel.

SOC200HA

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

- ・第 1 回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第 2 回～第 3 回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第 4 回～第 10 回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第 11 回～第 13 回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第 14 回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。

*第 1 回～第 13 回は、各授業時間の最後の 10 分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にコメントの上で返却する。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
4	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
10	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
11	ファシリテーション実践①	参加型の場（ミーティング）の運営を体験する（演習）
12	ファシリテーション実践②	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
13	ファシリテーション実践③	参加型の場（オンライン）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

・第2回～第3回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(各120分程度)

・第4回～第10回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(各120分程度)

・第11回～第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(北樹出版、2021年、1,600円+税)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとコツ』(岩波書店、2009年)

・堀公俊『ファシリテーション・ベーシック：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約40%)、レポート課題(授業内試験)(約30%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約30%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください。

◎RSP生は、本科目は履修不可です。火曜2限のファシリテーション論(C2240)を受講してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

SOC200HA

グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

他学部公開：グローバル 成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

【到達目標】

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture

第 4 回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication	<p>【Outline and objectives】 This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.</p>
第 5 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures	
第 6 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures	
第 7 回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture	
第 8 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture	
第 9 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock	
第 10 回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power	
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context	
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management	
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming interculturally competent / The future of intercultural communication	
第 14 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Jackson, Jane. (2020). Introducing language and intercultural communication (2nd Edition). Routledge.

James W. Neuliep. (2020). Intercultural Communication: A Contextual Approach (8th Edition). SAGE Publications.

Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). Intercultural Communication: A Reader (14th Edition). Wadsworth Publishing.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), a group project (20%), two short written assignments (20%), and a take-home exam (20%).

* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

ADE300HA

地域形成論

小島 聡

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の持続可能性に関する高度な学習への入門として、様々な視角から地域について検討する。特に、地域学のイメージ、地域に関する近現代史と現在の課題、ローカルキャリアとローカルプロジェクト、21世紀の都市コミュニティ、新たな実践としてのソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて取り上げる。この授業の目的は、学生が地域学の基礎について学びながら、自分のキャリアを考えることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・高度な専門学習に必要な地域に関する広い視野、基礎教養を身につける。
- ・現代の地域課題の発見、課題解決に関する思考力を身につける。
- ・地域を手がかりとした現代社会のリテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。またゲストスピーカーによる最新の情報提供も予定している。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※ 2021年度秋学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地域」の解剖学～「地域」のとらえかた	講義のプロローグとして、地域を空間スケールと時間スケールから多角的に俯瞰する。
第2回	地域の解剖学～「地域」「地域社会」の構造	環境、経済、社会、文化、政治など、人間活動の総体としての「地域」「地域社会」を構造的にとらえる。
第3回	地域と記憶～原風景から始まるライブストーリーとパブリックストーリー	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の関係性について検討し、オーラルストーリーによる地域づくりについても言及する。
第4回	地域形成の近現代史 150年～明治の近代化から戦前期	19世紀後半から20世紀初頭の日本における地域形成史について検討する。
第5回	地域形成の近現代史 150年～敗戦から高度経済成長期	20世紀半ばの日本における地域形成史について検討する。
第6回	地域形成の近現代史 150年～20世紀後半から世紀転換期・21世紀前半	20世紀後半から21世紀前半の日本における地域形成史について検討する。特に「東京一極集中」とその行方について考える。
第7回	郊外と住宅からみた都市の軌跡と現代	地域形成の近現代史の各論として、郊外と住宅の変遷に焦点をあて、さらに、21世紀前半の逆都市化・郊外の危機について検討する。
第8回	ローカルキャリアを生きる	地域にコミットする人間のキャリアについて、ゲストとともに考える。
第9回	現代都市のキーワードとしてのコミュニティ	高齢社会、格差社会、多文化共生社会など、いくつかの視点から、21世紀の都市コミュニティ問題について多角的に検討する。
第10回	都市コミュニティを耕す	ソーシャルキャピタルやサードプレイス、プレイスメイキング、コミュニティデザインなどの概念とともに、コミュニティカフェやこども食堂をはじめとする「居場所」づくりなどの地域実践について検討し、さらにコミュニティの拠点としての商店街の再生にも言及する。

第11回	ローカルプロジェクトとソーシャルイノベーション	地域の課題解決に関する実践について、ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインの視角から検討する。
第12回	持続可能な過疎地域と内発的発展	持続可能な過疎地域・農山漁村に向けた1970年代から21世紀前半に至る内発的発展論の展開について検討する。
第13回	過疎地域の挑戦～「懐かしい未来」に向けて	過疎地域の内発的発展・持続可能な発展に向けた挑戦の動向と可能性について検討する。
第14回	あらためて地域に向きあうということ	講義のエピローグとして、「定住人口」「交流人口」「関係人口」など、地域との多様ななかかわりについて考えながら、地域と向きあう人生について問い直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・授業中に指示した事項について調査する。
- ・ミニレポート等の演習課題を作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（80%）＋参加姿勢（5%）＋ミニレポート（15%）で評価する。

※ 2021年度秋学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

- ・身近でありながら、日常においてあまり意識することがない地域について考える機会になるようです。
- ・日々、報道される地域に関する出来事は、現代社会の様々な課題と関係しているため、地域に関する学習を通して、時事問題に関するリテラシーを身につける機会になるようです。
- ・さらに、地域をめぐって考え、対話し、ワークする方法と機会を模索していきたいと思います。2020年度については、Zoomのチャット機能をかなり活用し、学習支援システムの「掲示板」を補足的に利用しましたが、2021年度については、授業の実施形態の変更をふまえた対応を検討します。

【その他の重要事項】

- ・ローカル・サステナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目・基幹科目として、コース履修の導入的かつ基盤的な位置にあるため、2つのコース登録者または履修予定者の履修を強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースと人間文化コース以外にもサステナブル経済・経営コースなどでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
- ・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide an introduction to the advanced studies about "Sustainable community". Especially, we will examine the various themes, such as the image of local studies, "Local career" and "Local project", the modern history and the present agenda of community, the urban community in the 21st century, "Social innovation" and "Social design" as new practice. The purpose of this course is for students to consider one's career while learning about the foundation of local studies.

ECN300HA

地域経済論 I

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では地域経済の基盤である産業とその担い手に焦点を当てて、地域の経済発展の基礎と論理について論じます。

【到達目標】

拡大するグローバル社会の中では、国家経済的な視点だけでなく、地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）も同時に求められています。本講義では①地域の経済理論、②事例分析にもとづいた昨今の課題を通して、地域の経済に対する具体的な分析能力と企画立案能力を習得し、サステナブルで豊かな地域社会のありかたについて考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する理論と実践について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な範囲で対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地域経済」とは何か、「豊かさ」とは何か、今なぜ地域経済を考えるのか
第2回	日本の地域構造	データ（人口・家族・所得・産業など）からみた地域経済と地域構造
第3回	地域経済を支える基盤	地域の環境・経済・社会・文化的側面から地域経済を読み解く
第4回	第一次産業（1）ぶどうとワインからみた地域経済	山梨県甲州市を事例として地域経済の展開について考える
第5回	第一次産業（2）地域づくりの実践と理論	ワインの共同醸造、観光果樹園、住民イベントから地域づくりを考える
第6回	第一次産業（3）持続的 社会と地域産業の役割	熊本県水俣市の甘夏生産組合の歴史と現状から環境配慮型地域産業と「内発的発展論」について考える
第7回	第二次産業（1）日本経済と地域産業	産業地域社会論について考える
第8回	第二次産業（2）伝統織物生産地域の構造と展開	ライフヒストリーからみた小規模家族経営と日本経済について考える
第9回	第二次産業（3）在来的 経済発展論の射程と課題	地域の経済発展とは何か？ 在来と近代から「複線的発展論」を考える
第10回	第三次産業（1）商店街 からみた地域経済	商業と地域の経済について考える
第11回	第三次産業（2）まちづくり の実践と理論	千葉県酒々井町、茨城県取手市などを事例として社会的企業の実践と理論について考える
第12回	第三次産業（3）住民組織の ネットワーク	非営利経済セクターの活動事例と組織化について考える
第13回	まとめ（1）地域の経済 についての比較研究	日本と海外の比較研究を通して、モールビジネス、コミュニティビジネスについて考える
第14回	まとめ（2）地域の主体性 （ローカル・イニシアティブ）の可能性	地域の主体性とは何か。その意義と可能性について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「地域」や「産業」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁

・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつめ朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（用語説明30%、論述30%程度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の考えを知ることで講義内容が深まりました。引き続き毎回配布するリアクションペーパーを通して、相互的な講義を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will focus on regional economic activities and their workers, which is the foundation of the regional economy, and discuss the foundation and logic of the regional economy.

SOC300HA

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができるところを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業です。

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。
第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第4回	町に暮らす人々(1)～認知症と地域社会～	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第5回	街に暮らす人々(2)～高齢者と地域社会～	介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第6回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会①～	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第7回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会②～	子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第8回	街に暮らす人々(4)～生活困窮者と地域社会～	野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第9回	差別と偏見を見つめる	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。
第10回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会①～	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第11回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会②～	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。

第12回 街に暮らす人々(6)～LGBTと地域社会～

15人に1人と言われるLGBTへの理解と、地域社会で共に生きる方策を探る。

第13回 地域福祉の推進主体～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司

住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。

第14回 地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク

住民参画のあり方を学ぶ留意点と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27巻（講談社）、『ヘルプマン！！』1～10巻（朝日新聞）

さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）

柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館） 他

随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業映像の視聴と課題）が40%、途中に取り入れる小レポート（主に映像に関するもの）が10%、学期末レポート50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えません）。

レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

授業は、映像を視聴し、それと共に課題に取り組み、その双方を持って出席とします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course on local welfare community. We deepen our understanding of difficulties of children, people with disabilities, elderly people, poor people and people who cannot use adequate social service in between different institutions/social services (such as inhabitants of "garbage residence", "hikikomori" (isolating oneself from society), LGBT, foreign migrants etc.). Students will learn the techniques to support those people and analyze the welfare education practices and regional welfare plans that will transform the community.

SOC300HA

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では、具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まず、コモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、主に講義形式で進める。また授業内容についてのリアクションペーパーを授業終了後回収する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。
第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は授業で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class engages with studies on “commons.”

ADE300HA

都市環境論 I

難波 匡甫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。総合的なプランニングの議論へと進む秋学期の都市環境論Ⅱの準備段階としての位置づけである都市環境論Ⅰでは、都市環境に関わる具体的な視点を通し、多角的な都市の見方を構築する。

【到達目標】

都市づくりにおける人口減少・高齢化といった新たな局面を迎え、これからの政策に必要な基本的なセンスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論Ⅰでは、都市への興味と探求心を深め、地域の課題発見を自律的に導く基礎力を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではいくつかの視点を通して、都市環境に関わる基本的な考え方を探っていく。講義における国内外の都市環境（地形・地質、水、居住、歴史・文化、産業、地域データなど）に関する配付資料（PDFデータ・音声データ）を活用しながら多様な事例に接し、重層的な都市環境を包括的に捉える力を身につける。授業でのミニペーパー実施（インターネットでの実施）により、講義の理解度を確認する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

オンデマンド形式の授業になるため、履修者各自の都合にあわせ聴講する。具体的な授業の進め方や方法などについては、第1回イントロダクションでの説明において理解する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市環境論の視点から都市の見方に関する説明を受ける
第2回	都市の見方：地形・水	地形・水を通して都市形成の変遷を捉える
第3回	都市の見方：緑	都市における緑の価値を読み解く
第4回	都市の見方：居住	住宅地開発の系譜を概観する
第5回	都市の見方：用途・機能	土地利用の用途や都市の機能を理解する
第6回	都市の見方：境界	都市における様々な境界を考える
第7回	都市の見方：歴史遺産・景観	都市の記憶や都市美に触れる
第8回	都市の見方：文化	都市で育まれる文化について考える
第9回	都市の見方：往来	都市を支える人の往来・物の流れ・情報通信インフラを理解する
第10回	都市の見方：産業	都市発展における産業の姿を観る
第11回	都市の見方：災害 ※ミニペーパー予行演習（第1回）	都市形成に関わる災害を知る ※ミニペーパーに関する予行演習を行う
第12回	都市の見方：地域データ ※ミニペーパー予行演習（第2回）	都市分析における地域データの価値に迫る ※ミニペーパーに関する予行演習を行う
第13回	ミニペーパー復習	第2回～第12回までの講義の理解度を確認する ミニペーパー後は各自復習とする
第14回	まとめ ※ミニペーパー（予備）	講義全体のまとめを行う ※ミニペーパー（第13回）に参加できなかった履修者を対象にミニペーパーを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。第1回イントロダクションにおいて、授業全体の流れと学習の仕方の説明を受ける。講義に関する文献等に目を通し、その成果をミニペーパーで発揮する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。配付資料（PDFデータ・音声データ）はシステムから適宜ダウンロードする。ダウンロードの方法等については、第1回イントロダクションでの説明において理解する。

【参考書】

多岐にわたるため、講義時に紹介される文献を参考にする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業でのミニペーパー提出）100%。定期試験の実施はない。ミニペーパーはインターネットで実施するため、事前に予行演習（2回）を行う。具体的な方法と基準等については、第1回イントロダクションでの説明において理解する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料での音声データにおける「音質」「話す速度」等に留意し、聴講しやすい資料づくりを目指します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

It is required to think concretely and comprehensively about urban environment that focus on human and environment. In city life, we do not recognize everything we saw. In order to deepen our thoughts on urban environment, it is necessary to know the various constituent elements of cities such as topography, geology, green, and waterside. In this course, we learn how to recognize urban environment by watching at the concrete components related to urban environment.

ADE300HA

都市環境論Ⅱ

難波 匡甫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、都市環境論Ⅰでの個別的な都市の見方を踏まえ、基本的かつ総合的な理解を深める。

【到達目標】

都市環境論Ⅰでの目標達成を礎として、新しい都市づくり政策に必要な、都市環境問題への対応や政策を含めたプランニングの基礎的な知識や感覚を身につけ、自らが都市の展望を描けるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回イントロダクションでは、授業全体の流れと学習の仕方についての説明を受ける。

講義では、現在に至る近代都市計画の系譜や現在の都市づくりに関する制度や主体の多様化、テーマ毎の都市づくりに関する制度や手法の骨子を理解する。講義全体を通して、都市環境の改善について、各種の理論、法規、技法を踏まえ、都市の展望を描くために必要となる基本的事項を習得する。また、授業でのミニペーパー実施（インターネットでの実施）により、講義の理解度を確認する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンデマンド形式の授業となるため、履修者各自の都合にあわせ聴講する。具体的な授業の進め方や方法については、第1回イントロダクションでの説明において理解する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	人間重視の都市環境とは何かについての説明を受ける。 配付資料についての概説を受ける
第2回	都市計画概説	日本の近代都市計画の系譜を理解する
第3回	都市づくりの技法	都市づくりに関する制度の骨子を理解する
第4回	都市づくりの主体	都市づくりに関わる主体の多様化を理解する
第5回	都市の配慮	バリアフリー、ユニバーサルデザインについて知る
第6回	都市の移動	都市基盤としての交通計画を理解する
第7回	都市の記憶	都市における歴史資産の保存と活用計画を理解する
第8回	都市の美学	都市の美しさとしての都市景観計画を理解する
第9回	都市の緑地	都市づくりに関わる緑地計画を理解する
第10回	都市の水辺 ※ミニペーパー予行演習（第1回）	都市における水辺のポテンシャルについて考える ※ミニペーパーに関する予行演習を行う
第11回	都市の防災 ※ミニペーパー予行演習（第2回）	防災から減災の流れを理解する ※ミニペーパーに関する予行演習を行う
第12回	ミニペーパー 復習	第2回～第11回までの講義の理解度を確認する ミニペーパー後、各自復習する
第13回	都市計画概説補足 ミニペーパー（予備）	都市計画概説（第2回）の補足を理解する ミニペーパー（第12回）に参加できなかった履修者を対象にミニペーパーを実施する
第14回	都市の展望（まとめ）	講義全体のまとめ、都市再生ビジョン・コンパクトシティについて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
第1回イントロダクションにおいて、授業全体の流れと学習の仕方の説明を受ける。

都市環境論Ⅰでの議論を踏まえ、各テーマに関する理論、法規等の理解を深めるため、参考となる文献や資料に目を通す。

授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。配付資料（PDF データ・音声データ）はシステムから適宜ダウンロードする、ダウンロードの方法等については、第1回イントロダクションでの説明において理解する。

【参考書】

多岐にわたるため、講義時に紹介する文献を参考にする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業でのミニペーパー提出）100%。定期試験の実施はない。
ミニペーパーはインターネットで実施するため、事前に予行演習（2回）を行う。具体的な方法と基準等については、第1回イントロダクションでの説明において理解する。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料での音声データにおける「音質」「話す速度」等に留意し、聴講しやすい資料づくりを目指します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

It is required to think concretely and comprehensively about urban environment that focus on human beings and environment. We do not know that urban environment is established by rules such as various laws and regulations. In this course, we understand how urban environment is maintained by studying numerous plans such as urban planning, green area planning, waterside planning, landscape planning. Understanding the conditions for establishing urban environments is important for thinking about urban environment.

OTR200HA

都市デザイン論

佐谷 和江

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①本講義では、都市デザインにおける「参加・協働」に焦点をあて、多様な人々が関わりながら都市をデザインし、実現していることを、具体的なケースを踏まえて理解する。
- ②また、市民として、都市にオーナーシップを持ち、関わるための考え方や手法を学ぶ。
- ③さらに、都市デザインに取り組む人々の考え方の背景や価値観を理解し、自分なりの価値を見出す。

【到達目標】

- ①都市をデザインする動機、プロセス、実現、その後の評価について学び、それを踏まえて、都市環境への洞察力を高める。
- ②都市デザインへの関わり方を具体的に知るにより、当事者として関わる意識を高める。また、足がかりを把握する。
- ③都市デザインの背景やそれを生み出す価値感を知るにより、デザインされた都市を評価するための判断基準を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド形式で行う。
- ・授業の前日（水曜日）までに Hoppii でレジュメや動画を配信する。
- ・講義を聞き、それに関連した質問に対する意見を書き、送付する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	都市デザインと参加・協働	授業の概要や進め方を紹介する。また、都市デザインにおいて重要なキーワードを理解する。
2回	都市全体のデザインとは？	市町村などの都市全体をデザインする方法について理解する。また、市民の関わり方について理解する。
3回	景観デザインとは？	美しく秩序ある景観を形成するための方法について理解する。また、景観の基準を実現する取り組みについて理解する。
4回	計画を承認するための仕組みのデザインとは？	計画を進めるためには市長や議会、審議会などが関わっており、これらの仕組みや市民の関わり方を理解する。
5回	身近な地域でのデザインのルールとは？	身近な地域で自分たちで環境に関するルールをつくることのできることを知るとともに、そのプロセスや結果について理解する。
6回	身近な地域でのルールづくりがうまく行かない場合とは？	身近な地域で自分たちでまちづくりを始めたが、結果がでないこともある。それらの事例分析からうまくいかなかった要因を知るとともに、それを回避する方法について理解する。
7回	復興まちづくりとは？	東日本大震災の被災地で、復興に地域住民がどのように取り組んだか、また、その支援方法について理解する。
8回	コミュニティのデザインとは？	孤独死や引きこもりなど、地域での孤独が問題となる中、コミュニティのデザインに関する行政の対応について理解する。
9回	住まいのデザインとは？	住宅政策について知るとともに、多様な事業主体の関わりや、住まいづくりやマンション管理など住み手の主体的な取り組みについても理解する。
10回	ひろばのデザインとは？	多様な意見がある中で、意見をまとめながらデザインしていくプロセスや、その結果としての環境について理解する。

11回	地域での居場所のデザインとは？	衰退傾向にある商店街の中で、地域の居場所をつくったプロセスを把握するとともに、継続のための工夫を理解する。
12回	地域での三世代の居場所づくりと運営とは？	高齢者施設を三世代の居場所へとデザインを変更したプロセスや、その運営について理解する。
13回	市民活動への支援とは？	暮らしやすいまちにするために、市民活動を支援する取り組みについて理解する。
14回	試験と総括	都市デザインに関する記述式の試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。

各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

○第2回：練馬区都市計画マスタープラン

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/index.html>

○第3回：大田区景観計画

https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/ota_plan/kobetsu_plan/

sumai_machinami/keikan/keikankeikaku.html

○第4回：横須賀市土地利用調整審議会

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4805/tokei/chosei/chosei.html>

○第5回、第6回：横浜市地域まちづくり

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/>

ここまで

○第7回：授業の事前に知らせる

○第8回：川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000097375.html>

○第9回：港区住宅基本計画

<https://www.city.minato.tokyo.jp/jutakuseisaku/kankyo-machi/sumai/kekaku/3jutakukihon.html>

○第10回：川崎市カッパーク鶯沼

<http://www.city.kawasaki.jp/miyamae/category/117-10-2-5-0-0-0-0-0-0-0.html>

○第11回：墨田区寺島・玉ノ井まちづくり協議会/玉ノ井カフェ

<https://www.facebook.com/teratama/>

<http://ameblo.jp/tamanoicafe/>

○第12回：新宿区落合三世交代交流サロン

<http://wp.3sedai.com/>

○第13回：江戸川総合人生大学

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】

- ・都市のイメージデザイン リンチ 岩波書店 新装版 (2007/5/29)
- ・都市計画とまちづくりがわかる本 彰国社 (2017/7/1)
- ・縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望 山崎亮 PHP 新書 (2016/11/16)
- ・BIOCITY (2018 No.74) 特集エコロジカル・デモクラシーのデザイン ブックエンド (2018/4/1)
- ・新・公民連携最前線 PPP まちづくり <https://project.nikkeibp.co.jp/ppp/>
- ・COLOCAL リノベのスズメ <https://colocal.jp/category/topics/lifestyle/renovation>

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、平常点 (50%)

平常点は、毎回の授業後に提出してもらったコメントで総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

新規のためなし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

- ① In this lecture, we will focus on "participation / collaboration" in urban design, and understand that the city is designed and realized while various people are involved, based on specific cases.
- ② Also, as citizens, we will have ownership in the city and learn the way of thinking and methods to get involved in the city.
- ③ Furthermore, we will understand the background and values of the way of thinking of people who work on urban design, and find their own value.

SOC300HA

環境社会論 I

黒田 暁

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、環境問題の構造を明らかにしてその解決の道筋を探るとともに、人と自然のかかわりのこれらについて解明しようとする。本講義では、とくに「環境問題の社会学」/「環境共生の社会学」と大別される環境社会学の基礎理論を広い視野から学ぶとともに、生活を取り巻く環境の身近な問題を理解するための方法（論）の基礎を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

本講義の受講を通して、社会的な環境問題への基本的なアプローチ法を説明できること。環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能を修得できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、環境と社会のかかわりの動態を明らかにするとともに、両者の結びつきやその問題のあり方を論じようとする。まず、そのための有用なツールになりうる「環境社会学」の成り立ちとその視点が、どのようなものなのかについて、その諸アプローチを概観する。具体的には、環境社会学が「環境問題の社会学」と「環境共生の社会学」に大別されることを踏まえ、まず環境問題の発生原因とその対処の構造を把握することによって、「加害-被害構造論」「受益圏-受苦圏」「社会的ジレンマ論」といったキーワードについてレクチャーを行う（環境問題の社会学）。続いて、私たちが身の回りの環境をどのように利用・管理してきたか、そのかわりに注目しながら、「身近な生活をめぐるつながりとその不可視性」「commons論」「自然再生事業」といったキーワードについてレクチャーを行う（環境共生・共存の社会学）。最後にこうした環境社会学の方法論と知見がどのように「環境政策・計画論」に結びつくのか、について取り上げ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルに沿って学びを深めていく。

【本講義は、オンライン授業（フルオンデマンド形式）を実施する予定です。詳細は学習支援システムの「お知らせ」などを参照すること】大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：環境社会学へのいざない	環境社会的なアプローチと講義の概要について示す。
第2回	環境社会学の成り立ちとそのまなざし	環境社会学の2つに大別されるアプローチに関する概要と、学としての環境社会学の成立の背景について講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造（1）：江戸時代から戦後まで	日本社会と環境の関係の変化という観点から、日本の環境問題の出自とその歴史について概説する。
第4回	日本の環境問題の歴史とその構造（2）：被害構造論の胎動	戦後日本の環境問題の歴史について、水俣病の事例から環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について講義する。
第5回	環境問題を社会学する（1）：加害-被害関係で捉える	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害-被害論と、被害構造論について講義する。
第6回	環境問題を社会学する（2）：受益圏-受苦圏概念の定義とその適用	環境問題を加害-被害の構図、という視点から捉える受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第7回	環境問題を社会学する（3）：事例から考える受益圏と受苦圏	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第8回	環境破壊と社会的ジレンマ（1）：なぜ環境問題が発生するのか	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第9回	環境破壊と社会的ジレンマ（2）：社会的不可視性	私たちの身近な生活環境の事例を通じて、社会的ジレンマの実際にかんして講義する。
第10回	環境共生の社会学（1）：生活環境問題から生活環境論へ	環境問題の社会学から、環境共生の社会学へ、生活環境主義の視点を取り上げ、講義する。
第11回	環境共生の社会学（2）：人びとと自然はどう付き合ってきたか	日本の自然環境とはどのように捉えられるのか、自然再生事業の事例から捉えなおす。

- 第12回 環境共生の社会学（3）：環境保全はなぜうまくいかないのか
「環境保全」が一般化したように思える一方で、なぜ「環境保全」がなかなかうまくいかないのか、commons論の観点から検証する。
- 第13回 環境計画・政策に向けて（1）：環境ガバナンスの形成
「環境」をめぐる多様な立場と認識はどのように議論され、共有されていくべきなのか、政策科学としての側面もつ環境社会学を論じる。
- 第14回 環境計画・政策に向けて（2）：環境社会学のスタイルに何を学ぶか
「環境ガバナンスの実態について取り上げたいうえで、これまで学んだ環境社会学から引き出せる知見についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、環境問題を取りあげるニュースや新聞記事などに目を通しておくこと。復習としては、講義内容および毎回の講義で紹介される講義資料をもとに必ず振り返りを行うこと。参考文献を各自で入手し、講読すること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

鳥越浩之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房、2017年出版

【成績評価の方法と基準】

論述式の期末レポート（50%）+平常点（講義中に課すワークシートなど）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

講師は本授業をはじめて担当する

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Environmental sociology seeks to clarify the structure of environmental problems, to find ways to solve them, and to understand the future of the relationship between humans and nature. The purpose of this course is to learn the basic theories of environmental sociology, which are broadly classified as "sociology of environmental issues" and "sociology of environmental coexistence" and to acquire the basics of methods (theories) for understanding the environmental problems that surround our daily lives.

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

黒田 暁

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境社会学と地域社会学という2つの社会学の領域が交差するところを、「環境と地域の社会学」の視点で考え、現実には発生している環境問題や、地域社会の抱える現代的な課題について説明しようとする。さらに、それらの問題群の解決のあり方を探ることで、臨床的で実践的な社会学の知見を学びとることを目標としている。

【到達目標】

現代の環境と地域（社会）をめぐる諸課題に対して、社会的な「問い」を持ち、それを鍛え、かたちにしていく過程を身に付けることを到達目標とする。環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能の習得を目指す。持続可能な自然環境及び地域社会に貢献できる能力を育むための知見を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに現在の「環境問題」と「地域（社会）の課題」にどのようなものがあり、また問題の構造と課題解決に向けた「環境と地域の社会学」のアプローチとはどうあるべきか、概観する。本講義は、環境と地域をめぐるいくつかの重要キーワードに基づいたオムニバス式の構成で進められる。「災害」：2021年3月11日をもって東日本大震災から10年が経過したが、もはや「災害」を忘却することはかなわず、つねに私たちの生活の脅威になりうる存在となった。講師のフィールドワークの経験と事例紹介から、「災害としての津波被災」、「地域復興とは何か」ということを捉えなおし、つねに災害と社会が重なり合う「災間社会」の今後を見据える。「地域コミュニティ」：都市・地方ともにそれぞれの地域がコミュニティの課題を抱える現代において、その解決や共同に向けて何が必要とされているのか、「コミュニティ論」や「郊外社会（化）」を切り口に事例分析を試みる。「多様な関係性」：環境と地域社会のかかわりのバリエーションについて、「歴史的環境」や「半栽培」といった多彩なキーワードで読み解き、生物多様性と地域文化の多様性をつなごうとする試みに焦点を当てて実践的に考える。「地域社会と環境の危機」：現在進行形で、地域と環境の関係が断片化し、持続性が途絶えようとしている事象「縮小社会」「災害問題」といった危機を捉え、私たちがどのように対応すべきなのか、議論を深めていく。「合意形成」：たった1つの正解が存在しない環境と地域の課題に対して、どのように分け入っていったらいいのか。「合意形成論」の観点から、社会科学的に問題解決・改善への道筋を探っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：環境と地域の関係を読み解く	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、環境と地域（社会）の関係性を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	環境と災害（1）：大震災から10年と「災間」にあるもの	東日本大震災によって生じた「被害」の諸相を概説し、とくに「津波被害」によって生じた「被災」の実態について、ケーススタディから述べる。
第3回	環境と災害（2）：「地域復興」とは何だろうか	震災の「被災地」ではさまざまなアプローチや制度・しくみによって「復興」が目指されている。「復興」のメカニズムについて取り上げる。
第4回	環境と災害（3）：災間社会をどう生きるか	「震災から10年」が経過した現在と、つねに災害リスクと向き合う現代社会のこれからを位置づけ、ケーススタディで捉えなおす。
第5回	環境と地域のコミュニティ（1）：コミュニティの生成と現実	「地域」が強調され、「コミュニティ」が渴望される中で、私たちの生活の共同体は、実態としてどうなっているのか、ひもとく。
第6回	環境と地域のコミュニティ（2）：郊外化する地域社会の現在	地域コミュニティの現在を捉えるため、地域社会を構成する要素とその複合に着目し、それらが現在どのような動態にあるのかを示す。
第7回	環境と地域のコミュニティ（3）：都市農業の展開にみる環境と地域	東京都日野市における都市農業の展開と、「農のあるまちづくり」が抱える課題と可能性について、ケーススタディから論じる。

第8回	環境と地域の多様な関係性（1）：地域社会における歴史的環境のあり方	私たちを取り巻く生活環境としての「歴史的環境」の定義と実像について講義し、その来し方行く末を展望する。
第9回	環境と地域の多様な関係性（2）：「自然」と「野生」のあいだにある視点	自然環境と地域社会の関係性は一様ではなく、「半栽培」という多様でインタラクティブな社会過程として捉えられることを示す。
第10回	環境と地域の多様な関係性（3）：世界遺産指定にみる自然と文化のリンク	奄美大島のケーススタディをもとに、自然と文化の関係性について、その諸相にわけいて考える。
第11回	地域社会と環境の危機（1）：縮小を余儀なくされる地域社会	現代において、予見から実態へと、急峻化する一方の人口減少傾向が、地域社会にどのような影響を及ぼすのか、検証していく。
第12回	地域社会と環境の危機（2）：縮小社会は地域と自然に何をもたらすか	「縮小社会化」が引き起こす地域と自然のあいだの軋轢としての災害問題に注目して、講義を行う。
第13回	環境と地域の課題解決にむけた合意形成（1）：問題・課題解決の技法	自然環境と地域社会をめぐる現場において試みられる合意形成の方向性を整理・議論して実践的思考を深めていく。
第14回	環境と地域の課題解決にむけた合意形成（2）海は誰のものか？ 総合的に検討する	環境と地域のあいだのせめぎ合いの実例について取り上げ、どのような解決の方向性がありうるのか、これまで培った経験や認識によって総合的に検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、現在の社会で実際に起きている事象について、ニュースや新聞で自主的に情報を収集すること。そのために、平日頃から情報に対する知的好奇心のアンテナを拡げておくこと。復習としては、講義のあと、学んだことに対して、自分で咀嚼して理解しておくこと。また、とくに講義で触れた具体事例について、関心をもった事例を自分で調べてみたり、事例に対する自分なりの切り口についても考えてみたりすること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書等は使用しない。必要に応じて、プリント資料を配布する。

【参考書】

西城戸誠・宮内泰介・黒田暁編、『震災と地域再生——石巻市北上町に生きる人びと』法政大学出版局、2016年出版ほか

【成績評価の方法と基準】

論述式の期末レポート（50%）＋平常点（講義中に課すワークシートなど）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

講師は本授業をはじめて担当する

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

【その他の重要事項】

本講義を履修しようとする学生は、あらかじめ「環境社会論Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture will focus on the intersection of two sociological fields: environmental sociology and regional sociology.

We will try to elucidate the environmental problems that are actually occurring and the contemporary issues of local communities from the perspective of "sociology of environment and community. In addition, we aim to learn the clinical and practical knowledge of sociology by exploring how to solve these problems.

SOC300HA

労働環境論 I

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「仕事を通して労働環境と生活を考える」

【到達目標】

本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関する基本的な概念や現象を理解でき、職業人としての基本的な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用しながら、その時々話題になっていて、この科目に関連したアップトゥデートな諸問題をも随時紹介しつつ、本講との関連や現実社会への理解を深める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
2	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
3	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
4	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
5	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
6	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
7	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
8	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
9	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
10	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加が大きな問題となっている。非正規雇用の現状や問題点について考える。
11	障がい者の支援	2016年に障がい者差別解消法が施行されて以降、障がい者の就職や就労支援の見直しがなされている。それに関する基本的な事項や現状について学ぶ。
12	コロナ禍と雇用問題	新型コロナウイルスの感染拡大は雇用にも大きな影響をもたらした。歴史上これほど全世界に大きな影響をもたらした疫病はなかったと思われる。その現状を簡単にふり返る。
13	日本の雇用慣行とは何か	日本の雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的にふりかえる。
14	日本の雇用システムのまとめ	これまで見てきた日本の雇用システムの全体をふり返り、その特徴をまとめ、日本の労働環境やそこで働く人々の生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認し授業中に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年、2310頁。

【参考書】

テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリントやその週の関連する新聞記事等で補う。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験もしくはレポート（80%）によりそれぞれのテーマについての程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等をもとに、平常点（20%、出席を含む）をも加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目に関連した時事的事象についてはほぼ毎時間紹介しているが、これには学生からの要望も多く今後も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすればその問題を解決できるのか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステイナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステイナビリティコース」です。コースについては履修の手引き「7.1 コース概要」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The lecture aims to help students understand various features of the Japanese employment system and, through it, relationships between work environments and private life through daily working life after graduation. For that, students will learn to get basic knowledge about various issues relating to employment starting from job searching to wages, promotion, job training, retirement, career changes, trade unions and so on.

SOC300HA

労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仕事を通して労働環境と生活を考える。

【到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解をいっそう深める。そして、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいかを考えながら、卒業後の職業人としての基礎的な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1～2回で授業を進める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第2回	日本の雇用慣行 1	日本の雇用に関する種々の統計、図表を中心に見ながら、日本の雇用慣行の特徴をさぐる。
第3回	日本の雇用慣行 2	前週に続いて、日本の雇用慣行をどう理解すればよいか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去数十年の間に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのかを考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と、近年話題になっているグローバル人材の問題を考える。
第6回	労働環境と安全衛生 1	職業あるいは仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第8回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第9回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、ホワイトカラー・エグゼンプション（残業代ゼロ制度）や最近の高度プロフェッショナル制度、働き方改革などをめぐる議論についても学ぶ。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状および対応策について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職問題を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。震災で雇用が何が起こり、当事者や行政等はどう対処したのかみていく。
第14回	労働環境論Ⅱのまとめ	本講で扱ったいくつかのテーマをふり返る中で、卒業後就職してからの労働環境や私たちの生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

学期の初めに毎回使うテキストを指示する。授業は、労働環境論Ⅰを受講済みであること、本講で指定されたテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習が必須である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学期はじめに授業で使用するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本を教科書として使うことはしない。ただし、授業は労働環境論Ⅰを修了していること、そこで使用したテキスト（下記の参考書）を読んでいることを前提に進める。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方（改訂版）』有斐閣ブックス、2012年、2310円。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験もしくはレポート（80%）によりそれぞれのテーマについての程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等をもとに、平常点（20%、出席を含む）をも加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が現実に即して理解しやすいよう、時事的な問題にも関連づけて授業をおこなう。毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースに、いくつかのテーマに分けてそれらをより掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性雇用など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステナビリティコース」です。コースについては履修の手引き「7.1 コース概要」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Based on what the lecture dealt with in the class Work Environment I, the lecture aims to take several topics so that students can get deeper knowledge about work environment. For that, the lecture will take up current topics and help students think what and how they should do to perform their job smoothly in compliance with the law.

SOC300HA

NGO活動論

小野 行雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。

毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NGOの基礎	グループづくりワークショップ NGOについての基礎情報確認ワークショップ
第2回	NGO活動の基礎－支援の方法	インド山岳民族をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」とグループ討議
第3回	NGO活動の基礎－開発と近代	インド山岳民族の事例をめぐる介入と近代化についてのグループ討議
第4回	NGO活動の基礎－グローバル化の影響	インド・ラダック開発に関わるビデオ視聴とグループ討議
第5回	NGO活動の基礎－緊急支援	フィリピン緊急支援事例についてグループ討議
第6回	NGO活動の基礎－地域支援	フィリピン地域支援をめぐるワークショップ「24人にインタビュー」とグループ討議
第7回	NGOの理論	NGOの分類枠組みについて学ぶ
第8回	NGOシミュレーション1	フィリピン地方題材のドキュメンタリー視聴とグループによる支援の検討
第9回	NGOシミュレーション2	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画作成
第10回	NGOシミュレーション3	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画発表
第11回	NGO事例研究－日本のNGO 2	その他日本NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第12回	NGO事例研究－国際NGO	国際NGOとNGOネットワークについてグループによる事例調査と発表および講義
第13回	NGO事例研究－「途上国」NGO	「途上国」NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回渡される課題ペーパーを読んでくること。次の回の最初に、そのペーパーを巡って討論を行うこととする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。平常点(発表等)40%、毎時間のレポート40%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

毎時間10分程度のレポート作成の時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートフォン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Understanding modern issues of the world and situations of NGOs. Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, and developing the positive attitude toward the participation.

SOC300HA

ローカルスタディーズ I

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

【到達目標】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようになることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）を使い、毎回、それぞれ1章分を受講生に発表をもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。ゼミ形式を導入するため受講者の定員を30名程度とする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第1回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第2回	テキストの輪読・発表・討論(1)	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第3回	テキストの輪読・発表・討論(2)	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第4回	テキストの輪読・発表・討論(3)	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集团的土地利用」をとりあげる。
第5回	テキストの輪読・発表・討論(4)	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第6回	テキストの輪読・発表・討論(5)	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第7回	テキストの輪読・発表・討論(6)	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第8回	テキストの輪読・発表・討論(7)	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第9回	テキストの輪読・発表・討論(8)	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第10回	テキストの輪読・発表・討論(9)	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第11回	テキストの輪読・発表・討論(10)	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。

- 第12回 テキストの輪読・発表・討論(11) 『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。
- 第13回 テキストの輪読・発表・討論(12) 『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。
- 第14回 テキストの輪読・発表・討論(13) 『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）
日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容、討論への参加姿勢など）を50%として評価する。さらに学期末に課すレポートを50%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

受講者が30名程度を超過する場合、初回授業にて選抜する。「地球環境ケーススタディ I」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Studies on the present conditions and the problem of the farming and mountain villages

SOS300HA

ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

悪化する海洋環境、地球環境。その原因を一つずつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。

【到達目標】

海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、またどのように我々に影響するのか。そしてその結果 現在どうなっているのかを探り出します。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤（添加剤）、農業等の問題点を探り、これからの時代、自分の未来環境をどう思慮するかを勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主に PPT を使用し DVD 視聴等で進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物体系を知る	生物の状態、そして問題点を探ります。
3	海洋ゴミ問題①	現状に海洋ゴミに関し探ります。
4	海洋ゴミ問題②	講義3に続き、海洋ゴミ問題に関し探ります
5	震災ゴミ	2011年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？を探ります。
7	マイクロプラスチック	5mm以下に小さくなったプラスチックの現状を探ります。
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります。
9	海藻 アマモ	海藻の役目と海洋環境改善策を探ります。
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を会部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には『ゴミ特番』を視聴します。
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を会部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には市民団体の1年の活動を振り返ります。
12	海藻 ワカメ	海藻 その役目と海洋環境改善策を探ります。
13	農業	農業がどのように地球環境、生物環境を破壊しているかを探ります。
14	総括	1～13までの総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

ありません。

【成績評価の方法と基準】

13回目の講義において、レポート課題を発表し、最終講義（第14回）にレポートを回収し評価いたします。成績評価はこのレポートのみ。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

ありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当します。

【Outline and objectives】

Deteriorating ocean and global environment.

Analyzing the causes one by one. Identifying the current problems.

I would like to draw out ideas for leaving the earth rich in nature and the ocean

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。

そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展、課題を学んで理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出して、今後の実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンラインを並行しての開講となる。教室に置いて、スマホを使うことも推奨。オンとオフを合わせたグループ討議もやりたい。豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応や経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第 2 回	自然現象と災害=社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象=人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第 3 回	身近な景観と災害=理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。

第 4 回 3つの大震災と伊勢湾台風=阪神大震災前まで

日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。

第 5 回 3つの大震災と伊勢湾台風=阪神大震災とその後

日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。

第 6 回 3つの大震災と伊勢湾台風=東日本大震災

東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。

第 7 回 近年の風水害から、課題を考える

2020 年 7 月豪雨や台風 10 号、2019 年台風 15 号や 19 号、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。

第 8 回 近年の地震災害から、課題を考える

2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。

第 9 回 近年の火山噴火災害から、課題を考える

登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。

第 10 回 災害報道・災害情報

かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。

第 11 回 市民防災・ボランティア

この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。

- 第12回 災害と恵み・防災教育・ジオパーク
自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになつたり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
- 第13回 これからの大災害への備え
南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。自ら関係する市区町村の地域防災計画を読んで課題を見つけるレポートを試験日までに提出する、
- 第14回 試験レポート
「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験(レポート)を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでもOK。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関する情報やニュースに関心を持っていて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。

【参考書】

授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】

平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリアベで授業内容の理解を評価）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価20%、期末試験（試験レポート）評価40%。

【学生の意見等からの気づき】

災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、Zoomのブレイクアウトルームやチャットの活用でディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン参加の場合はパソコンが望ましい。講義室で参加する場合も、スマホを使うこともある。

【その他の重要事項】

試験レポートの作成時には、時間内であればどういう資料を参考に書いても良い。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与。その後も、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組み、内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザーも務める。一方で、災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当してきた。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline and objectives】

- 1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
- 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.

3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

SHS300HA

科学技術社会論

託問 直樹

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術のアウトプットは、社会に多大な正負両面の影響を与える。逆に、研究費の調達や人材の供給、研究活動の社会的承認などを巡って、社会の側から科学技術への影響も存在する。従って、科学技術と社会は相互に影響を及ぼしながらお互いを形成していくのであり、このようなプロセスを「共進化」と呼ぶ。この「共進化」のプロセスを解明し、関連する問題点を広く知らしめることが、科学技術社会論の使命の一つである。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために有用な諸概念を学ぶとともに、それらの概念を用いて具体的事例を理解する能力を養う。

【到達目標】

科学技術と社会との関わりを理解するために有用となる概念を学ぶとともに、それらを用いて具体事例を論じる能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキスト—平川秀幸著『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書、2010年）をベースとして、重要概念と関連事例の解説を行う。

また、質疑応答を適宜行う。そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

また、毎回、授業の終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。授業中に触れたトピックの中から一つ選んで、ごく簡単な考察をしてもらう。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	当科目の目的と背景、授業の進め方についての説明。科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第2回	「統治」から「ガバナンス」へ（その1） （テキスト対応箇所：第2章序盤）	なぜ今ガバナンスなのか、科学技術ガバナンスの登場、日本の転機：1995年、双方向なコミュニケーション、ほか。
第3回	「統治」から「ガバナンス」へ（その2） （テキスト対応箇所：第2章中盤）	参加型テクノロジーアセスメント、市民が参加するコンセンサス会議、市民陪審とシナリオワークショップ、ほか。
第4回	「統治」から「ガバナンス」へ（その3） （テキスト対応箇所：第2章終盤）	BSE問題が引き起こした「信頼の危機」、理解から対話・参加へ、「アウェー」としてのサイエンスカフェ、ほか。
第5回	科学技術は「完全無欠」か（その1） （テキスト対応箇所：第3章序盤）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病を悪化させた完璧主義、実験室の科学はまだ途半ば、知識の品質管理、「ファイナルアンサー」までのさらなる道のり、ほか。
第6回	科学技術は「完全無欠」か（その2） （テキスト対応箇所：第3章中盤）	それでも残る科学の不確実性、不確実性における二つの無知（Known UnknownsとUnknown Unknowns）、科学知識の制約、理想化にともなう不確実性、ほか。
第7回	科学技術は「完全無欠」か（その3） （テキスト対応箇所：第3章終盤）	誠実な科学者は白黒つけられない、理想系と現実系とのギャップ、ほか。
第8回	科学技術と社会のディープな関係（その1） （テキスト対応箇所：第4章序盤）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生」という考え方、科学技術の純潔主義、研究開発の国家総動員体制、ほか。

第9回	科学技術と社会のディープな関係（その2） （テキスト対応箇所：第4章中盤）	「価値中立的な科学技術」から「善い科学技術」へ、人工物に埋め込まれた政治性（アーキテクチャの権力、環境管理型権力）、ほか。
第10回	科学技術と社会のディープな関係（その3） （テキスト対応箇所：第4章終盤）	「緑の革命」の光と影、作動条件への不適合、技術の囲い込み症候群、利益構造の不平等、構造的問題としての市場の力、ほか。
第11回	科学の不確実性とどう付き合うか（その1） （テキスト対応箇所：第5章序盤）	リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準をどこに置くか、ほか。
第12回	科学の不確実性とどう付き合うか（その2） （テキスト対応箇所：第5章中盤）	挙証責任が映し出す利害の対立、遺伝子組換え作物の環境影響、挙証責任の逆転、評価基準を変えた政治的・社会的理由、ほか。
第13回	科学の不確実性とどう付き合うか（その3） （テキスト対応箇所：第5章終盤）	事前警戒原則、欧州組換え作物規制が示唆するもの、問いのフレーミングと答えの解釈、価値中立性を再定義する、とるべきリスクと避けるべきリスク、「賭け」を「実験」に変える知恵、ほか。
第14回	知ることと、つながること （テキスト対応箇所：第6章）	どうやって科学技術問題に関わるのか、次の一歩が踏み出せない、「一人一人の心がけ」でよいのか、不自然な省略、知的協働のアクションチャート、信頼できる資料の見つけ方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。
・授業時間中に理解を深めるためQ&Aの時間を適宜とるが、そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように、特に入念に準備してきてもらう。
（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準とされている。）

【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す—』、NHK出版生活人新書、2010年。
本授業を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。
（紙媒体は品切れなので、電子書籍を購入されたい。）

【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点40%、中間レポート20%、期末レポート40%。
・平常点は、毎回提出してもらいリアクションペーパーをもとに採点する。白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。
・中間レポートの概要：身近にある、製作者の意図が埋め込まれている人工物の事例およびユニバーサルデザインの事例を探し、その写真を撮ってきてもらう。
・期末レポートの概要：

テキストに関連する好きなトピックを選び、そのトピックに関連する文献を選んでその概要を紹介してもらった後、自説を展開してもらう。A4用紙5枚程度。

【学生の意見等からの気づき】

気候変動問題に関して「一人一人の心がけ」ではダメだということを伝えていたが、十分に伝わっていないように見受けられるので、今年度はさらに強調していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

教科書は、紙媒体が品切れなので、電子書籍を購入してもらうことになる。（紙媒体を好む場合は、古本がまだ売られていれば、そちらを購入してもよい。）電子書籍を購入・使用する場合は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PCなど）も毎回の授業に持参してもらうことになる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Outputs of S&T (science and technology) have both positive and negative impacts on society. Conversely, society has impacts on science and technology through funding of research and so on. Thus, S&T and society influence and co-produce each other. We call such process "co-evolution."

STS (Studies on Science, Technology and Society) is engaged in the mission of elucidating this "co-evolution" process and pointing to the problems related to it.

The objective of this course is to provide students with useful concepts to understand such co-evolution process, and to cultivate students' abilities to apply these concepts to concrete examples.

SOC300HA

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかしSDGsで言及されるように、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGs、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号[]で記す。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 社会開発の概要 1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs全体】
2	社会開発の概要 2 国連とSDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs全体】
3	社会開発の概要 3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs #1, 2, 3, 4 & 5】
4	社会開発の概要 4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs #17】
5	社会開発の概要 5 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs #16】
6	社会開発の分野 1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs #1 & 11】
7	社会開発の分野 2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs #1】
8	社会開発の分野 3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs #10】
9	社会開発の分野 4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs #8 & 10】

10	社会開発の分野 5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs #3 & 5】
11	社会開発と社会変容 1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs #4】
12	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
13	社会開発と社会変容 2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs #8】
14	まとめ	全体の内容のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習します（特に重要な点は、授業動画でも強調します）。

各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料をリンクします。授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化します。

【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）『SDGsを学ぶ-国際開発・国際協力入門』法律文化社
南博・稲場雅紀（2020）『SDGs-危機の時代の羅針盤』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%

期末試験：40%

毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当しています。2020年度のオンデマンド授業では、毎回の提出物で「他の学生との考えも知りたい」という希望が複数の学生からあったため、提出された中間レポートの内容を題材に、履修生どうして互いにコメントをする機会を作りました。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is to learn the theory and practice of social development. It is structured as follows:

- 1) Students will review the definition and the history of social development, the theories influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc..
 - 2) Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
 - 3) Several case studies are introduced so that students can discuss on the practice of social development.
- Students are expected to be cooperative and active during the group discussions and presentations.

SOC200MA

開発教育

福田 紀子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）、SDGsのテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観=大切にしているもの”に近づきたいと思えます。

特に世界で脅威となった「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」に私たち自身の生活が大きく影響される今、関連する「人道支援の国際基準 スフィア基準（Sphere Standards）を学ぶことから始めたいと思えます。特にその中の Coor Humanitarian Standard から公共サービスの質と説明責任について人道支援のコンテキストから学びます。他にも参加とコミュニケーションに関するテキストを順次読んでいきます。

また特に日本での参加の文化を阻害するものについては Conflict Resolution を学びながら考えます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法（Governance と Accountability）に必要な思考と行動のスキルを自分の生き方からし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中のディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation self-introduction Humanitarian- Standards-and- Coronavirus-2020- ONEPAGER	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。人権とは。人道支援の国際基準スフィア基準関連の文書を読みます
2	Disaster & Humanitarian Response Basic Concept and Background	災害とは何か 人道支援とは何か 人道支援の背景 ～歴史と国際基準
3	Sphere Standard 1 Sphere's structure 4 Principles of Humanitarian Response	スフィアの構造と 前提となる人道支援の4原則について
4	What's Sphere ～ Vulnerability and Capacity	「スフィアとは」 ～脆弱性と能力について
5	Gnder Issue ～ Image and reality	人権問題の共通理解としてジェンダー の課題について
6	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ①	人道支援団体の国際基準 Spherega が 示すサービスの質と“アカウントビリティ” を必須基準（CHS）から学びま す。①～③

7	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ②	人道支援団体の国際基準 Spherega が 示すサービスの質と“アカウントビリティ” を必須基準（CHS）から学びま す。④～⑥
8	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ③	人道支援団体の国際基準 Spherega が 示すサービスの質と“アカウントビリティ” を必須基準（CHS）から学びま す。⑦～⑨
9	Activity ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から CHS の課題 と対応を考えます
10	Communication & Participation ① w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考 え方やスキルを学びます（前編）
11	Communication & Participation ② w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考 え方やスキルを学びます（中編）
12	Communication & Participation ③ w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考 え方やスキルを学びます（後編）
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知 識・スキル・姿勢と参加を阻害する要 因について考えます
14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価値 観を超えるため変化の要因やアドボカ シーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおくください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
Communication Tool Box ~ Practical Guidance for Program Managers
to Improve Communication with participants and Community Members,
Catholic Relief Service,2013
<https://resourcecentre.savethechildren.net/node/13717/pdf/communication-toolbox.pdf>
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える 12
のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 40 %
翻訳課題 25 %
発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など）10 %、
レポート 25 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。Accountability など、慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Students are expected to read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Main text would be the Sphere Standards-Humanitarian Charter and Minimum Standards of Humanitarian Response.

SOC300HA

国際社会学

新藤 慶

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本における在留外国人の現状と課題を、特に政策・教育・労働の観点から把握する。このことを通じて、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、在留外国人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	移民という現象	移民が生じるメカニズムについて講義する。
第 2 回	日本における移民 (1)	日本における移民受け入れの前史と高度人材について講義する。
第 3 回	日本における移民 (2)	単純労働者としての移民や福祉国家を支える移民について講義する。
第 4 回	移民の経済的影響 (1)	移民受け入れによる労働条件の変化について講義する。
第 5 回	移民の経済的影響 (2)	移民受け入れの経済成長や社会保障への影響について講義する。
第 6 回	移民の社会的影響 (1)	移民受け入れの地域社会への影響について講義する。
第 7 回	移民の社会的影響 (2)	移民受け入れと治安や犯罪との関係について講義する。
第 8 回	移民と統合 (1)	移民の文化的権利と社会統合の関連について講義する。
第 9 回	移民と統合 (2)	移民の居住者としての権利と社会統合の関連について講義する。
第 10 回	エスニシティと教育 (1)	在日外国人の教育機会をめぐる歴史的背景について講義する。
第 11 回	エスニシティと教育 (2)	公立学校や外国人学校での外国につながる子どもに対する教育について講義する。
第 12 回	エスニシティと教育 (3)	ニューカマー二世世代の大学進学について講義する。
第 13 回	外国人労働者政策の展望	外国人労働者政策の現状と展望について講義する。
第 14 回	国民国家とシティズンシップの変容	国民国家とシティズンシップの変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会的な関心を持ちながら生活することも重要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】

宮島喬ほか編, 2015, 『国際社会学』有斐閣。
永吉希久子, 2020, 『移民と日本社会』中央公論新社。
小内透編, 2009, 『講座トランスナショナルな移動と定住』（全 3 巻）, 御茶の水書房。

【成績評価の方法と基準】

論述試験 (70%) + 毎回のリアクションペーパー (30%)

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、写真や図のさらなる活用の要望が出されていたので改善したい。また、遅刻者や私語への対応の不十分さも指摘されていたので、改善し、授業環境の整備に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実施が難しい場合には、Zoom 等を使った授業やオンデマンド型の授業を行うので、そのための機器や接続環境が必要になる可能性がある。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course provides an understanding of the current situation and issues facing foreign residents in Japan, particularly from the perspectives of policy, education and labor. The purpose of this course is to deepen the understanding of transnational migration and settlement, a major theme in international sociology.

EDU200MA

文化経営論**武田 知也**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年 2 月 26 日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。

本授業では、この状況で起きたいいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体（創り手・企業・行政・NPO等）の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー（小レポート）の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進みます。また、授業の初めに、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

初回のみリアルタイム型のオンライン授業とし、概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行いますので必ず出席してください。ヴァーチャルあるいはリアルでのフィールドワークを課すことも検討していきます。具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第 3 回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第 4 回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた 2020 年までの最新の文化政策の動向を探る。
第 5 回	芸術文化と行政（地方自治体）	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第 6 回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第 7 回	芸術文化と NPO、	芸術文化を通じた NPO の多彩な活動
第 8 回	ソーシャルアクション フィールドワーク	ここまでの学びを通じた、オンライン、あるいはリアルでのフィールドワークを行う。特徴や課題を調査、検討する。（フィールドワークの具体的内容については授業内で指示）
第 9 回	アーティストという存在—アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か？なにをする人たちなのか？アーティストという存在を考える

第10回	アーティストという存在—アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第11回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	芸術文化にまつわる「お金」の構造、仕組みを学ぶ（主に舞台芸術）
第12回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	マネジメント、プロデュースの実践を知る（主に舞台芸術）
第13回	芸術文化とキャリア形成	芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第14回	授業内試験 まとめと解説	自身と芸術文化の関わりについて考察をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業（劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等）の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験（30%）と授業内の小レポート、課題レポートなどの平常点（70%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当するためデータなし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアートNPOに就職し、その後フェスティバル/トーキョー（国際舞台芸術祭）、ロームシアター京都（公立劇場）、さいたま国際芸術祭2020（国際芸術祭）などで、企画・制作、キュレーターなどを行ってきました。
そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline and objectives】

On February 26, 2020, the Japanese government requested that the arts and culture are "unnecessary and Unurgent" from the perspective of preventing the spread of the COVID-19 infection, and that it should be activities should be refrained from being held along with sporting events. On the other hand, many people who want art and culture have also raised their voices, and it can be that this was an opportunity to re-visualize the position of art culture in Japanese society.

In this class, we will start by unraveling the current location of art and culture in Japan while referring to some cases that occurred in this situation, and then consider the relationship between art and society.

SOC200HA

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第2回～第3回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第4回～第10回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第11回～第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
*第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にコメントの上で返却する。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
4	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
10	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
11	ファシリテーション実践①	参加型の場（ミーティング）の運営を体験する（演習）
12	ファシリテーション実践②	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
13	ファシリテーション実践③	参加型の場（オンライン）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第3回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(各120分程度)

・第4回～第10回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(各120分程度)

・第11回～第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を学ぶ技法』(北樹出版、2021年、1,600円+税)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとコツ』(岩波書店、2009年)

・堀谷俊『ファシリテーション・ベーシック：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約40%)、レポート課題(授業内試験)(約30%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約30%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください。

◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生(含むRSP生)を優先的に受け入れます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

PHL200HA

西欧近代批判の思想

越部 良一

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を導くことである。

【到達目標】

西欧近代批判として、この授業では主として2つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在(イデア、神など)の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観
第2回	プラトンの思想Ⅰ	人間の魂の在り方と正義
第3回	プラトンの思想Ⅱ	様々な国家体制と民衆制(民主制)批判
第4回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第5回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第6回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第7回	ヘーゲルの思想Ⅰ	人間理性は絶対者(神)である
第8回	ヘーゲルの思想Ⅱ	人間精神(=神)の展開としての歴史
第9回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第10回	キルケゴールⅠ	現代の批判(神を見失うことと主体性の喪失)
第11回	キルケゴールⅡ	ヘーゲル哲学批判(人間精神は神でない)
第12回	ニーチェⅠ	「神は死んだ」(「ニヒリズム」としての近代西洋批判)
第13回	ニーチェⅡ	近代西洋の大衆化批判
第14回	授業のまとめ	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の資料等を使用して予習・復習をすること。また解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作(むしろ翻訳でよい)に少しでも接することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキスト(教科書)は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート課題(40%くらい)と期末のレポート課題(60%くらい)によって成績を評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながらいち講義するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

レポートはワードもしくはPDFで作成・提出してもらう予定なので、レポート提出時までは、これら二つのどちらかで文書が作成できるようにしておいてほしい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course deals with the modern Western thought and the philosophical critique to it in the history of Western civilization. The aim of this course is to understand some of the modern Western thoughts and some of the philosophical critiques to them. It also enhances students' understanding of the modern Japanese society under a great influence of the modern Western society.

PHL200HA

仏教思想

小島 敬裕

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、東南アジアの大陸部諸国（タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・ベトナム）において信仰されている仏教への理解を深めることを目的とします。東南アジアの上座仏教徒社会においては、男子の大部分が一時出家を経験し、托鉢する出家者に対して在家者が食物を寄進する姿も毎朝のように見られます。またベトナムでは大乘仏教も広く信仰されています。いずれにせよ、仏教が世俗の人々の生活に根ざし、「生きられて」いることが特徴です。こうした東南アジアの地域社会における仏教思想のあり方について、本講義では写真を用いながら具体的に説明していきます。また、大陸部の各国における仏教実践の地域差や、政治との関係の多様性について理解を深めます。さらに、日本における上座部仏教の受容や、日本に在住する東南アジアの人々にとっての仏教の役割について考察します。人・モノ・カネ・情報の越境が増加しつつある現在において、日本人と東南アジアの人々とのより良い関係を築くためには、仏教に対する理解を深めておくことが重要な意義を持っているためです。

【到達目標】

教理としての仏教と、東南アジアの地域に生きる仏教徒の思想について、具体的な事例をもとに論じることができる。

また東南アジアにおける仏教実践の現実を知ることにより、自らの「仏教」イメージを相対化するとともに、日本人の「仏教思想」に対する認識も深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の3日前（月曜日）に Hoppii でレジュメを配信するので、授業前までにプリントアウトまたはダウンロードしておいてください。授業内容の理解を深めるために、多くの写真を提示しながら説明するので、レジュメを手元に置いて視聴してください。授業後に提出するリアクションペーパーのうち、重要な質問やコメントに対しては、翌週の授業の冒頭で解説を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と受講方法について
第2回	仏教教団の成立と東南アジアへの普及	ブッダの人生ならびに仏教教団成立の経緯、そして東南アジアへの普及の歴史的過程
第3回	精霊信仰と仏教	東南アジアにおける宗教の基層としての精霊信仰
第4回	出家者の仏教	上座仏教の教理の基本と出家の目的
第5回	在家者の仏教	出家者を支える在家者と功德の観念
第6回	ミャンマーにおける仏塔（バゴダ）信仰と輪廻転生の観念	積徳行の位置づけの地域差と地域経済への影響
第7回	ミャンマーにおける在家者の人生と出家者	上座仏教の冠婚葬祭
第8回	タイの王権・近代国家と仏教	上座仏教の政治社会学
第9回	タイの現代社会と仏教	仏教の社会貢献活動と比丘尼復興運動
第10回	ラオス・カンボジアにおける社会主義の急進化と仏教	仏教実践の断絶と国境を越えるネットワークによる復興
第11回	ミャンマーにおける軍・民主化運動と仏教	政治的正統性との関わり
第12回	戦中から戦後にかけての日本人とミャンマー人仏教徒の交流	遺骨収集活動と戦没者慰霊バゴダの建立
第13回	欧米と日本における上座仏教瞑想の受容	ティクナットハンのマインドフルネスとヴィパッサナー瞑想の普及
第14回	日本に在住する東南アジアの人々と仏教	難民・留学生・技能実習生にとっての寺院

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

石井米雄.1975.『上座部仏教の政治社会学—国教の構造』創文社。
石井米雄.1991.『タイ仏教入門』めこん。
NHK「ブッダ」プロジェクト編.1998.『ブッダ—大いなる旅路 2』日本放送出版協会。
奈良康明・下田正弘編.2011.『新アジア仏教史 04 スリランカ・東南アジア—静と動の仏教』佼成出版社。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）、平常点（50%）
平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するリアクションペーパーで総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの見やすさを工夫するようにします。

【その他の重要事項】

授業に関する相談がある場合は、授業後にお伝えください。メールでもかまいません。アドレスは最初の授業でお伝えします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will focus on the Theravada Buddhist thoughts in everyday life. Theravada Buddhist societies are located in mainland Southeast Asia, Sri Lanka and southwest China. In these lectures, we will focus not only on the Buddhist philosophy written in texts, but also on ideas of Theravada Buddhists by paying close attention to how they practice themselves every day. Furthermore, we will explore the relationship between Japanese society and Theravada Buddhism through visual materials including photos and documentary videos.

LIT200HA

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「川柳」等を実作する機会も設ける予定である。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にはほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。
※ 2021年度はオンデマンドで授業を行なう予定である。
※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切字
第2回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学 I	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学 II	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌・俳句）
第8回	漢詩と俳句／俳句と川柳	漢詩の影響を受けた俳句、俳句と川柳の違い／実作（俳句・川柳）
第9回	子規の後継者（碧梧桐と虚子）	碧梧桐と虚子、新傾向俳句・自由律俳句、「ホトトギス」黎明期／実作（俳句）
第10回	虚子とその弟子たち	「ホトトギス」黄金期、4S、秋桜子の「ホトトギス」批判、連作、新興俳句運動／実作（俳句）
第11回	戦後の俳句	社会性俳句・前衛俳句・伝統回帰／実作（俳句）
第12回	現代俳句 I	鑑賞（攝津幸彦・田中裕明など）／実作（俳句）
第13回	現代俳句 II	鑑賞（平成・令和に詠まれた俳句）／実作（俳句）
第14回	国際俳句	外国の歳時記、鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家を見つけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回2～3句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）

馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・提出作品）50 %
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作を素材として解説する時間を多くとりたい。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース、

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems.

ART200HA

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いています。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。それにより選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 3 回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 4 回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第 5 回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第 6 回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第 7 回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第 8 回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第 9 回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第 10 回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 11 回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 12 回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第 13 回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第 14 回	期末試験（記述式）と復習	13 回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、

必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ―日本人の美意識―』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します。）

ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムまたは Google Classroom に提出していただきます。）

【期末試験】 60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室にて実施する。

学習支援システム、Google Classroom を利用する。

【その他の重要事項】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
- ・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

ART300HA

比較演劇論 II

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論 I」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確保するためのジャーナルを書いていただきます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。
第 2 回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第 3 回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第 4 回	ギリシャ悲劇： ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第 5 回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 6 回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 7 回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 8 回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 9 回	翻案劇とは何か	日本におけるシェイクスピア受容を中心に、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第 10 回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第 11 回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリズムと様式表現について考えます。
第 12 回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第 13 回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第 14 回	復習と期末試験	13 回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。オンラインでも楽しめる動画があります。講義でもご紹介します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 日本人の美意識』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します。）

ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムまたは Google Classroom に提出していただきます。）

【期末試験】 60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、2013年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」の単位取得をしていない学生の履修は認めていません。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室での授業です。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
・春学期の「比較演劇論Ⅰ」の単位取得をしていない学生の履修は、一切認めていません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

ART200HA

日本美術史論

豊田 和乎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、まず江戸時代（近世）までの伝統的絵画の歴史を概観する。ついで近代日本画に焦点をあわせ、その歴史をたどる。近代日本画は、伝統的絵画にくわえて明治時代以降本格的に流入した西欧の絵画をも自由に学ぶことで、新時代にふさわしい新しい日本画の創造を目指した。近代日本画作品と豊富な資料をもとにして、近代日本画の美術史的意義を考察し、わが国の美術史に対する理解と愛着を醸成する。

【到達目標】

学生個々のこれまでの学習体験により、日本美術史に対する知識に不均衡があることが予想されるため、まず日本美術史に対する教室内での共通認識を深める。私たちの先人が生み出してきた絵画の歴史についてたどることで、わが国の伝統と文化の特色の一端を味わい理解することを目標とする。諸資料の講読などによってさまざまな近代日本画の用語と基礎知識を理解し、日本美術に対する教養を身につけることを目的とする。さらに授業で取り上げる絵画に関する意見を表現するトレーニングなどを通して、美術作品の読解力や近代日本画の意義を論じる力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の形態については、オンデマンドによるオンライン授業を実施する。授業では、近世以前の日本美術史、特に絵画の各様式における作品例を概観する。そのうち近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べた姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。また、授業で取り扱う近代日本画に関する意見を表現するトレーニングとして、適宜課題提出を予定している。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／日本美術のながれ～日本美術の“特色”は何か	オンデマンド授業への対応に伴うガイダンスを実施し、その後本講義の導入として、日本美術の特色と言えるものは何か、検討する。
第2回	日本美術史の概観、古墳時代から奈良時代	前回に引き続き、導入として主として古墳時代から奈良時代における絵画の代表例を概観する。
第3回	日本美術史の概観、平安時代～鎌倉南北朝時代	主として平安時代から鎌倉南北朝時代における絵画の代表例を概観する。
第4回	日本美術史の概観、室町時代～安土桃山時代	主として室町時代から安土桃山時代における絵画の代表例を概観する。
第5回	日本美術史の概観、江戸時代を中心として	江戸時代における絵画の代表例を概観する。
第6回	日本美術のながれ～日本美術の一系譜としての“近代日本画”	近代日本画というジャンルが、日本絵画史上に有する意義を考察する。さらに日本の絵画の伝統的な技法、材料や装丁方法などを概観し、“すがた、かたち”の面から日本画に関する基礎知識を共有する。
第7回	“日本画”のイメージ～重要文化財指定などによる“歴史化”	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第8回	近代日本画の“誕生”	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。これに関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第9回	東京美術学校の創設と草創期の近代日本画	東京美術学校開校前後の近代日本画壇の状況を概観する。

第10回	近代日本画の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第11回	近代日本画の勢力～官展の京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第12回	大正期の近代日本画～あたらしい絵画への動き	大正期の日本画壇、特に日本美術院の再興、金鈴社と国画創作協会の結成について、それらの意義を考察する。
第13回	大正期の近代日本画～官展の改革	大正期の日本画壇、特に帝国美術院設置と帝展の開催について、それらの意義を考察する。
第14回	試験、まとめと解説	授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業に際して配布されるプリント等を使用し必ず予習・復習をすること。このプリント等の内容をしっかりと理解することが重要となる。特にプリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ 一 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか関連のある美術展覧会等の情報とともに、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業期間の半ばに、中間レポートの提出を実施する。ここまでの作品検討、史料購読によって近代日本画の用語と基礎知識などが正しく理解できているか、確認する。授業の最終回に、期末試験を実施する。近代日本画の用語や基礎知識を使って絵画や画家を評価し、近代日本画の歴史的意義を論じることができているか、確認する。成績評価は、以上二つの要素によって実施する。両者の配分は、中間レポートの成績を30%、期末試験の成績を70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

【その他の重要事項】

・授業では、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上はそれら用語も丹念に調べ、積極的に参加することを期待します。
・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修できません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is to learn about positioning of modern Japanese paintings in Japanese art history by contrasting with traditional painting until the Edo period. Through lectures, students will deepen understanding of Japanese traditions and culture.

ART200HA

西洋美術史論

板橋 美也

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのジャポニスムの歴史を通して、「日本」がどのように表象されてきたのか、そして異文化理解のあり方について考察します。

【到達目標】

現在では、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外に広く浸透しましたが、今からおよそ1世紀半前の日本の開国直後、ジャポニスムと呼ばれる現象が起り、日本の物事に対する高い関心が欧米諸国で湧き起りました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分の創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、各々の支持する美術・デザイン思想の裏付けとして日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、1860年代から1930年代までの時期、このジャポニスムという現象が、世界に覇権を広げた帝国としての威容を誇っていた国、そして産業化・近代化による弊害にいち早く気づくこととなった国としてのイギリスで、どのような美術・デザイン思想と連関しながら変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そして、現代の文化の多様性をめぐる問題と関連付けながら、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（当時の社会状況や美術潮流）を解説します。そのうえで、その社会状況や美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを随時書き、提出してもらいます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	(1) ジャポニスムとは？ (2) 授業の進め方 (3) 成績評価
第2回	ジャポニスム前史 (1)	シノワズリーからジャポニスムへ（磁器・漆器を中心に）
第3回	ジャポニスム前史 (2)	シノワズリーからジャポニスムへ（建築・室内装飾・織物を中心に）
第4回	デザイン改革運動におけるジャポニスム (1)	デザイン改革運動の背景説明
第5回	デザイン改革運動におけるジャポニスム (2)	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第6回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム (1)	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第7回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム (2)	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第8回	唯美主義におけるジャポニスム (1)	唯美主義の背景説明
第9回	唯美主義におけるジャポニスム (2)	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第10回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明と、同運動の影響下のもと日本の美術工芸品の諸要素を取り入れた芸術家たちによる「日本美術」観の分析
第11回	民芸運動をめぐる日英交流 (1)	民芸運動の背景説明
第12回	民芸運動をめぐる日英交流 (2)	Bernard Leach その他の「民芸」観を分析
第13回	まとめ	学期を通して学んだ内容のおさらい・質問
第14回	試験と解説	授業内容に基づいた試験と解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を聴きながらとったノートをもとに、よく復習をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いざりす）日英美術の交流 1850-1930』展』、世田谷美術館、1992 年
谷田博幸、『唯美主義とジャバニズム』、名古屋大学出版会、2004 年
小野文子、『美の交流—イギリスのジャボニズム』、技報堂出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（リアクション・ペーパー）（70%）と期末試験（30%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受験で世界史を選択しなかった人も分かるように工夫します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

By looking at the history of Japonisme in Britain, this course encourages students to think about how "Japan" has been represented and how we can understand other cultures.

PHL200HA

応用倫理学

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学について生命倫理と動物倫理を中心に学ぶ。

【到達目標】

応用倫理学の一つである医療倫理（生命倫理）と動物倫理の議論を理解し、自分なりに現代社会における生命に対する倫理を考えることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。コメントペーパーに意見を書いてもらい、随時それに答えていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	応用倫理学について	応用倫理学の特徴について説明する。
2	インフォームドコンセント：専門家と素人の関係	医療倫理のキーワードであるインフォームドコンセントについて説明する。
3	美容整形とスマートドラッグ：治療と改造	美容整形とスマートドラッグを題材に治療と改造の線引きについて考える。
4	遺伝子治療と脳手術：治療と改造	遺伝子治療と脳手術を題材に治療と改造の線引きについて考える。
5	脳死と臓器移植：先端技術の倫理	脳死と臓器移植を題材に先端技術がもたらす倫理問題について説明する。
6	安楽死と尊厳死：生と死の倫理	安楽死と尊厳死を題材に生と死について考える。
7	出生前診断と優生思想：生命の価値	出生前診断と優生思想を題材に生命の価値について考える。
8	法律上のペットの位置づけ	ペットを題材に動物倫理について説明する。
9	工場畜産と動物実験：動物解放論	工場畜産と動物実験を題材に動物解放論について説明する。
10	肉食とベジタリアン：文化とライフスタイル	肉食を題材に動物の福祉と食について考える。
11	生態系保全と動物愛護運動の対立と協働	環境倫理学における全体論と個体主義について説明する。
12	「自然の権利」と「動物の権利」	環境倫理学における自然と権利と動物の権利の違いについて説明する。
13	その他の応用倫理学：情報倫理学	情報倫理学の概説を行う。
14	その他の応用倫理学：ビジネス倫理学	ビジネス倫理学について「内部告発」を中心に紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

生命や動物に関するニュースを把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年。
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年。
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年。
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

内容理解レポート（50%）と書評レポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You learn medical ethics and animal ethics.

PHL200HA

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は 1970 年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では 1990 年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学の基礎：功利主義、	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	倫理学の基礎：義務論、徳倫理学	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	自然の権利訴訟	アメリカと日本における自然の権利訴訟の概要を紹介する
7	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
8	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
9	環境倫理学の隣接分野	環境倫理学の隣接分野（社会学、経済学、法学など）の議論を紹介する
10	公害と環境正義	公害の歴史をふりかえり、環境正義の観点から分析する
11	リスク論	リスク論の概要を紹介する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年（第 1 章～第 10 章の内容を扱います）

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年（第 1 章と第 2 章の内容が関連します）

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

【成績評価の方法と基準】

書評レポート（50 点）と内容理解レポート（50 点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You can understand history and contents of environmental ethics.

PHL300HA

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論を学ぶとともに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、
3	人間主義地理学	ボルノウの空間論を紹介する トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論：和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論：ベルク	オグユスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論：ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する。
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップ概論	アメニティマップの作り方を説明する
10	アメニティマップの作成例	過去につくられたアメニティマップを紹介する
11	環境と観光	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
12	世界遺産とエコツーリズム	世界遺産とエコツーリズムについて概説する
13	アメニティマップの講評	作成したアメニティマップについて講評し議論する
14	ローカルからグローバルへ	「地域環境保全」から「地球環境保全」への道筋をさぐる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年
(第11章、第13章、第14章の内容を扱います)

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
(第3章と第6章の内容を扱います)

【成績評価の方法と基準】

マップ作成（50%）とレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You find answering the question "What is a good environmental?"

HIS300HA

日本環境史論 I

根崎 光男

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：人と自然の環境史

本授業では、人間と自然との歴史的なかわりを、近世日本の政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史研究の新しい成果を把握しながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につけられるようにする。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を用いて、資料から具体的な歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の論理的構成方法を学び、自然・環境などにかかわる根拠資料を読解し、資料解読のほか、環境史を論理的に説明できる。また人間と自然とのかわりを歴史的に知るために、地域性や時代性を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた環境史の具体像を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行い、時としてリアクション・ペーパーを提出してもらおう。リアクション・ペーパー提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出されたリアクション・ペーパーからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境歴史学とは	環境歴史学の歩みとその役割について学ぶ
第2回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林利用の関係について学ぶ
第3回	山林荒廃と人間社会への影響	山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第4回	自然をめぐる環境思想	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第5回	山林保護をめぐる政策と地域慣行	幕府の山林保護政策の歩みとその具体的な内容について学ぶ
第6回	持続可能な山林保護の諸相	幕府・諸藩・地域社会で実践された山林保護の諸相について学ぶ
第7回	植林をめぐる政策と地域性	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性について学ぶ
第8回	共有資源の利用と紛争	山野河海の所有・利用をめぐる幕府の裁定方針について学ぶ
第9回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質について学ぶ
第10回	狩猟の歴史と自然環境保全	狩猟の歴史と自然環境保全とのかわりについて学ぶ
第11回	狩猟の文化と地域社会	狩猟文化の歩みと地域社会とのかわりについて学ぶ
第12回	農業と害鳥獣対策	鳥獣被害対策と領主・地域社会の対応関係について学ぶ
第13回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係から共生のあり方について学ぶ
第14回	公害と領主・地域社会	公害の多様性と領主・地域社会とのかわりについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

『生類憐みの世界』（根崎光男、同成社、2006年）

『犬と鷹の江戸時代』（根崎光男、吉川弘文館、2016年）

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（90%）、リアクション・ペーパー（10%）により評価を行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またリアクション・ペーパーは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom に接続可能な機器・接続環境が必要になることがある。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Considers the history of the relationship between humans and the natural environment in the early modern period based on politics, economics, society and culture.

HIS300HA

日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境史

本授業では、江戸の都市環境の全体像を、政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は近年の環境史の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につけられるようにする。また資料の読解によって「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の理論的構成方法を学び、都市・環境などにかかわる根拠資料を解説するので、資料読解のほか、江戸の都市環境史を論理的に説明できる。また江戸という地理的条件や日本の伝統的な生活文化を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史や文化の具体像を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行い、時としてリアクション・ペーパーを提出してもらおう。リアクション・ペーパー提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出されたリアクション・ペーパーからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー江戸の都市環境について	江戸の町の歴史の基礎とその特質を学ぶ
第2回	江戸の都市化と地域の特徴	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第3回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第4回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第5回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第6回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史の変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第7回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第8回	産業の発達と地域社会	物直し産業の業態と同業組織の特質について学ぶ
第9回	巨大都市とゴミ問題	ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第10回	江戸のゴミ処理システム	幕府のゴミ処理システムの運用と課題を学ぶ
第11回	火災と地域社会	災害都市江戸のありようを学ぶ
第12回	江戸の消防と防火対策	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方と多様な防火対策について学ぶ
第13回	江戸の生活文化と都市空間	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を癒し空間の視点から学ぶ
第14回	試験と総括	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

『環境』都市の真実（根崎光男著、講談社＋α新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（90%）、リアクション・ペーパー（10%）により評価する。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またリアクション・ペーパーは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom に接続可能な機器・接続環境が必要になることがある。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Considers various environmental problems with the urbanization of Edo and the solutions based on politics, economics, society and culture.

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論 I

梅原 秀元

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学が環境を環境史として積極的に研究対象とするようになってから、まだ半世紀も経っていない。しかし、他方で、環境史の研究の対象・方法は日々革新を遂げている。本講義では、地理的にはヨーロッパを、時間的には近現代を対象として、環境を歴史的に考えるとどのようなことかを学ぶ。

【到達目標】

ヨーロッパ環境史について、まず、ヨーロッパにおける戦後の歴史学の展開について概観し、その中で環境やそれに関連するテーマがいつ頃、どのように扱われるようになったのかを理解する。次に、とくに近現代に焦点を絞った場合、環境の歴史を考える上で避けて通ることのできない、近現代のヨーロッパ経済の変化について西洋経済史の成果から学ぶ。これらの基礎作業ののち、近現代のヨーロッパの環境の歴史を、マクロの視点から検討する。この作業を通じて、ヨーロッパの環境の歴史について理解を深めるとともに、それとの対比で、今の世界や日本における環境について考えるための参照軸を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド方式で行われる。
週1回定期的に3つのデータを、本講義の所定のところにアップし、履修者はそれを視聴する。
データのアップは、毎週月曜日から火曜日の間を予定している。
データは、講義のパワーポイントのPDFファイル、パワーポイントに書かれているものをプリントにしたPDFファイル、講義の音声ファイルの3つである。
履修者は、音声ファイルを聞きながら、パワーポイントのファイルを見ることで講義を受ける。プリントを印刷すると、基本的なノートとなる。これに、講義で聞いたことをメモすることで、ノートができることになる。
そののち、履修者はリアクションペーパーに考えや感想を書いて、講義後、所定の期日（データアップ後、3ないし4日後を考えている）までにリアクションペーパーを提出すること。内容をまとめて、次の講義の時に紹介する。また、提出状況出席確認にも使う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールング	講義の構成などを提示するとともに、本講義のテーマを「ヨーロッパ」「環境」「史」に分解し、テーマがいったい何を意味しているのかを議論する。
第2回	歴史学の成立－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（1）	19世紀後半以降のヨーロッパにおける歴史学の確立と展開を検討する
第3回	政治の向こうへ－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（2）	20世紀前半における、社会史と呼ばれる新しいアプローチの出現とそれ以後の歴史学の展開について検討する
第4回	政治の向こうへ－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（3）	主にイギリスの社会史について概観する
第5回	政治の向こうへ－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（4）	主にドイツの社会史について概観する
第6回	環境史への入り口	第2－5回の講義を踏まえて、環境史とはどのような研究領域なのかを検討する
第7回	森と木と（1）	ヨーロッパにおける森林と木材産業についての歴史を2回にわたって概観する
第8回	森と木と（2）	ヨーロッパにおける森林と木材産業について。後編。
第9回	呼吸できない？（1）	19－20世紀における大気汚染の歴史について概観する
第10回	呼吸できない？（2）	引き続き、大気汚染について概観する
第11回	寒い？！－気候の歴史（1）	気候の歴史について概観する（1）

第12回 寒い？！－気候の歴史 気候の歴史について概観する

(2)

第13回 農業をめぐって

近代のヨーロッパの農業について、環境との関係に注目しながら考える

第14回 総括

講義を踏まえて、人間と環境の関係を動かした・動かすものについて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、19・20世紀のヨーロッパ史をベースにしている。高等学校の世界史の教科書などで該当部分を読んでおくだけでも、講義の理解の助けとなるだろう。その他、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと背景がわかってよい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

講義中に指示するので、それを参考に各自で読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】

レスポンスシートによる平常点（0－10％）と学期末のレポート（90-100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド方式での講義になるので、必要な通信環境およびパソコンなどの機材について、各自で準備すること。わからなかったり、個人で準備することが難しいなどの問題がある場合は、すぐに大学のほうに相談してください。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として講義を進めますが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにするので、ためらわずに履修してください。

・秋学期のヨーロッパ環境史論IIも合わせて受講できるとよいです。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The environmental history is very young discipline. It is not until 1990s years that historians have dealt with environment. Before the background the lecture tries to explore some topics from the history of environment in modern Europe to learn how to study and discuss environment historically.

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

梅原 秀元

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19・20世紀のヨーロッパ、とくにドイツを中心とした地域における環境の歴史について、いくつかのテーマを選んで議論する。

【到達目標】

本講義では、19・20世紀のドイツを中心とする地域の環境をめぐる諸問題から、環境と人間の経済活動・資源（森林と木材）、都市と環境（都市と生活環境）、労働と環境、科学技術と環境、ナチスと環境、環境と政治 というテーマを通じて、環境と私たち人間の営みとが、どのような関係を作っていたのか、その関係が作られていく中で、それぞれがどのように変わっていったのか/変わらなかったのか、それぞれがどのように影響しあったのか、といったことを一緒に議論・考える。それを通して、現在の環境をめぐる問題を考える際の手掛かりを身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド方式で行われる。

週1回定期的に3つのデータを、本講義の所定のところにアップし、履修者はそれを視聴する。

データのアップは、毎週月曜日から火曜日の間を予定している。

データは、講義のパワーポイントのPDFファイル、パワーポイントに書かれているものをプリントにしたPDFファイル、講義の音声ファイルの3つである。

履修者は、音声ファイルを開きながら、パワーポイントのファイルを見ることで講義を受ける。プリントを印刷すると、基本的なノートとなる。これに、講義で聞いたことをメモすることで、ノートができることになる。

そののち、履修者はリアクションペーパーに考えや感想を書いて、講義後、所定の期日（データアップ後、3ないし4日後を考えている）までにリアクションペーパーを提出すること。内容をまとめて、次の講義の時に紹介する。また、提出状況を出席確認にも使う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールング-ドイツ近現代史と環境	ドイツ近現代史研究とそこでの環境について概観するとともに、本講義についての概要を説明する。
第2回	19世紀のドイツ	19世紀のドイツ史について概観する
第3回	20世紀前半のドイツ	20世紀前半のドイツについて概観する
第4回	20世紀後半のドイツ	20世紀後半のドイツについて、主に、ドイツ連邦共和国（旧西ドイツ）を中心に概観する
第5回	「おらが森」と「私の森」-森林を巡って（1）	18世紀末から19世紀初めのドイツにおける森林とその利用をめぐる問題について、検討する。
第6回	森と産業-森林を巡って（2）	19世紀初頭にドイツにも到来し、19世紀後半以降著しく進む工業化を背景にして、経済と木材・森林の関係を考える
第7回	「都市は病気にする」-都市と生活環境（1）	19世紀にヨーロッパを席卷したコレラを例に、伝染病と、その原因となった都市の生活環境について論じる
第8回	都市文化と都市批判-都市と生活環境（2）	19世紀後半から20世紀初めにかけて、ドイツをはじめとするヨーロッパで見られた都市文化への批判とそれによる自然への回帰・自然の賞賛について概観する
第9回	労働と環境	産業革命による生産現場の状況-労働の環境-の変化とそれへの対応を概観する
第10回	科学技術と環境	人間の生活世界を科学や技術によって変えることができる・べきであるという考え方がどのように出てきたのかを、19・20世紀のドイツを例に検討する
第11回	ナチスと環境保護-ナチスと環境（1）	ナチス期の環境保護について検討する

第12回	ナチス期の農業-ナチスと環境（2）	ナチス期に最終的には弾圧の対象となった有機農業運動を取り上げ、ナチス期における農業を通して、環境について考える。
第13回	原子力開発を巡って-1960年代以降の西ドイツにおける環境と政治（1）	戦後西ドイツにおける原子力エネルギーの利用について検討する
第14回	緑の党と市民運動-1960年代以降の西ドイツにおける環境と政治	戦後西ドイツにおける反原発運動を取り上げ、その後のドイツの環境政党の出現や市民運動の展開について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近現代ドイツ史の概観については、矢野久/アンゼラム・ファウスト（2001）『ドイツ社会史』（有斐閣）が参考になる。また、高校での世界史の教科書で、19・20世紀のドイツについての部分を読むことも、本講義の理解の助けになるだろう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

参考書として、以下のようなものがある。

ただし、これらは、必ずしも買う必要はない。

大学図書館や公立図書館で借りるなどして読むことができれば、講義の理解の助けになるだろう。

19・20世紀のドイツ史：

矢野久/アンゼラム・ファウスト（2001）『ドイツ社会史』（有斐閣）

ドイツ環境史について

フランク・ユケッター（2014）『ドイツ環境史 エコロジー時代への途上で』（昭和堂）

フランツ＝フランツ・ブルュッケマイヤー/トーマス・ロンメルスバッハー（2007）『ドイツ環境史 19世紀と20世紀における自然と人間の共生の歴史』（リール出版）

ナチス期の農業について

藤原辰史（2012）『ナチスドイツの有機農業』（柏書房）

ナチス期の環境について

フランク・ユケッター（2015）『ナチスと自然保護 景観美・アウトバーン・森林と狩猟』（築地書館）

戦後西ドイツにおける原子力開発および反原発運動について

ヨアヒム・ラートカウ/ロータル・ハーン（2015）『原子力と人間の歴史 ドイツ原子力産業の興亡と自然エネルギー』（築地書館）

ヨアヒム・ラートカウ（2012）『ドイツ反原発運動小史 原子力産業・核エネルギー・公共性』（みすぶ書房）

がある。

【成績評価の方法と基準】

レスポンスペーパー（0 - 10%）と学期末のレポート（90 - 100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド形式で行います。そのため、通信環境やパソコンなどの機材については、受講する学生各自で整えてください。個人では難しい場合は、すぐに大学の方に問い合わせ・相談してください。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めます。高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにすすめるので、ためらわずに聞きに来て下さい。

・春学期にヨーロッパ環境史論Ⅰを履修しているとよいです。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture deals with some topics from the history of environment in Europe, especially German in the 19. and 20. century.

CUA200HA

環境人類学 I

高橋 五月

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学 I では、人間と自然の関係について探求してきた人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。また、環境人類学のアプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深めます。

【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について文化人類学のアプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながら行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します。
第 2 回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第 3 回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介します。
第 4 回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第 5 回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第 6 回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第 7 回	中間試験	中間試験を行います。
第 8 回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第 9 回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義します。
第 10 回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。
第 11 回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第 12 回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第 13 回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第 14 回	期末試験	期末試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用される文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用するスライドをもとにした「レジュメ」を支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりのレジュメを完成させてください。映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。リアクションペーパーの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を聞くことができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii（学習支援システム）と Google クラスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn environmental anthropology and related discussions on human-environment relations.

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能な社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライズメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します
第2回	サステナビリティとは？（1）	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します
第3回	サステナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します
第7回	中間試験	中間試験を行います
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論します
第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論します
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します
第14回	期末試験	期末試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後できるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全てHoppii(学習支援システム)とGoogle クラウドスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability."

CUA300HA

環境人類学Ⅲ

難波 美芸

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅲは、担当教員による講義（オンデマンド）と、学生によるディスカッション（学習支援システム等を用いる）で構成される講義とゼミ一体型の授業のため、定員は40名を上限とします。定員オーバーの場合は初回授業の際に抽選を行いますので、必ず確認してください。質問がある方はメールで連絡をしてください。

2021年度のテーマは開発と環境の人類学です。開発と聞くと、先進国が途上国で行う「開発」援助や、都市「開発」といったより身近な国内のケース、あるいはアプリケーションの「開発」といったものを思い浮かべるかもしれません。人間は開発を通して、環境に様々な形で手を加え、人間社会・文化を築き上げてきました。人間と環境の関係は開発を通してどのように変化してきたのでしょうか。また、開発によって環境をゼロから構築することは可能でしょうか。開発による環境への影響が世界各地で報告されているなか、近年では持続可能な開発の必要性も強く訴えられ始めていますが、そこでは地域的に異なる文化や価値観、認識はどのように捉えられているのでしょうか。

この授業では、人類学的な視点を用いて、(1) 開発によって変化する人間と環境との関係を理解するとともに、(2) 「持続可能性」という理念が果たして普遍的な価値を有するのかを考え、(3) 改めて「開発」とはなんなのか、「環境」とはなんなのかを考えます。この授業では、担当教員の調査対象地である東南アジアのラオスを始め、世界各地の民族誌的事例を扱うと同時に、受講生の身近な経験から、人間がいかにして環境に働きかけ、多様な生を築いているのかを考えていきます。

【到達目標】

- ・人間と自然、環境との関係についての先入観を捨て、人類学的な視点から自らに引き寄せて理解し、考える。
- ・開発の人類学の基本的な視点を身につける。
- ・開発によって改変される人間と環境との関係について多角的な視点から理解し、今日の私たちが置かれた状況について考える能力を身につける。
- ・途上国において行われている開発援助の実態を理解し、自らの問題として引き受け、批判的に考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業形態：講義スタイルの授業（オンデマンド）に加えて、学習支援システム（Google Classroom も併用する可能性あり）を使用したディスカッション、希望した学生によるプレゼン（録画したビデオの共有と学生同士の質疑応答）を行う。

・双方向的なコミュニケーション：リアクションペーパー、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行っていく。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
2	環境と開発①	開発で変わる人と自然の関係
3	環境と開発②	「手付かずの自然」は存在するか？
4	環境と開発③	森は資源か友達か？
5	民族誌映画に学ぶ①：森林伐採	映画と参考文献からディスカッションを行う
6	環境と開発④	SDGs は普遍的な価値か？
7	人新世①	新たな地質年代
8	人新世②	自然と文化の境界は？
9	民族誌映画に学ぶ②：先住民と土地の関係	映画と参考文献からディスカッションを行う
10	開発の人類学①	なぜ開発が必要なのか？
11	開発の人類学②	開発の非政治化
12	開発の人類学③	環境ジェントリフィケーション
13	学生による研究発表①	「環境と開発」をテーマに発表
14	学生による研究発表①	「環境と開発」をテーマに発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
- ・授業内容の理解度を上げるための参考図書の精読。
- ・授業内で課された課題の提出。

【テキスト（教科書）】

特に指定の教科書は用いない。

【参考書】

- (1) 関根久雄編『持続可能な開発における〈文化〉の居場所：「誰一人取り残さない」開発への応答』（2021年）春風社。ISBN:978-4861107115
- (2) 『現代思想』『人類学の時代』2017年3月臨時増刊号 Vol.45 - 4、青弓社。ISBN:978-4791713387

【成績評価の方法と基準】

授業（ディスカッション）への参加・貢献：30%

リアクションペーパー：20%

最終課題：40%

最終課題は、「環境と開発」をテーマとする研究発表を行っていただきます。具体的な事例を授業内から、あるいは自ら探し、調べ、口頭発表もしくはリサーチペーパーとして期限までに提出します。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムでのオンライン授業は、対面授業との併用となった場合に学生への負担が大きいため、行いません。インタラクティブな授業を求める声が大きかったため、オンラインツールを用いたディスカッションと授業内でのフィードバックを重点的に行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して随時変更点や授業形態等について連絡をするため、必ずメールの通知が行くように設定してください。

【その他の重要事項】

開発人類学Ⅰ・Ⅱ、あるいは他の人類学科目を履修済みであることが望ましいですが、その限りではありません。1年生も積極的に参加してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to a set of key questions and challenge in the anthropological study of the environment and development. Anthropology of environment is a study of different cultures and societies which are constituted of not only human but also various non-human entities such as artifacts, animals, ghost and spirit. With reference to ethnographic cases of development from around the world, including Laos, where the course instructor has conducted a long-term anthropological fieldwork, this course will provide students diverse anthropological approaches to understand various human/non-human relations and how they are changed and affected by developmental projects and to use these approaches to think about our own lives.

BSC200HA

サイエンスカフェ I

石井 利典

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

2021年度の授業は、すべてオンラインでの開講になります。春学期開講後に、授業形態を変更する場合には、授業内または学習支援システムで予告します。提出された課題（確認テストなど）からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子とは何か	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元（1）	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元（2）	COD（化学的酸素要求量）値およびDO（溶存酸素量）値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物（2）	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物（3）	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物（4）	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ
第14回	期末テスト、まとめ	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト、およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストをオンラインで実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加算します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたは Google classroom から各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.textkyoukyuu.or.jp/kaiin/tokuyaku13.html>

【成績評価の方法と基準】

オンラインで実施する確認テスト（10分間程度で解答）（20%）、オンラインで実施する期末テスト（指定日時の時間内に60分程度で解答）（60%）、課題レポート（800字程度×2）（20%）の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Google classroom にアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（化学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

BLS200HA

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。
学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。
講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第13回	感覚・知覚	視覚について ビデオ鑑賞
第14回	発達・まとめ・期末試験・解説	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・まとめ・期末試験・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。
関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を行う（100%）。持ち込みは不可。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果などを反映させた授業改善を行うものとする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（生物学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みについて、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカ
第12回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性	生物多様性とは、レジリエンス
第14回	保全生態学	生態学を保全にどう生かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as organic evolution, wildlife and ecosystems in Japan.

GEO200HA

自然環境論 I

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれをとりまく自然環境（地形や気候、植生、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できる。
人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	自然地理学、環境決定論、環境可能論
第2回	大気大循環	風の時空間スケール、地球のエネルギー収支、3つの循環、偏西風
第3回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第4回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリのソフの区分
第5回	日本列島の気候（1）	気団、海流、四季
第6回	日本列島の気候（2）	偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第7回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、花粉、珪藻
第8回	気候変動と海水準変動（1）	気候と生活、氷期と間氷期、酸素同位体比、海水準変動
第9回	気候変動と海水準変動（2）	気候変動の要因、昨今の温暖化
第10回	プレートテクトニクス	地球のしくみ、地球表面のヒブソメトリとその要因、プレートテクトニクス
第11回	日本列島の地形環境	島弧海溝系、地形の時空間スケールと種類、地形をつくる力、日本列島の現在の地形形成環境、日本列島の地形と地質
第12回	日本列島の地震	海溝の地震、活断層の地震
第13回	土壌・水文	さまざまな土壌、風化土壌と堆積土壌、地球上の水、水循環・水収支・滞留時間、地下水
第14回	植生・動物相	暖かさの指数、日本列島の植生、植生遷移、気候変動と植生、自然植生とその衰退、日本列島の動物相、気候変動と動物相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）・期末レポート（60％）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。期末レポートは、(1) 自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できるか、(2) 人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Natural environments (topography, climate, vegetation, water circulation, and so on) around our human societies vary in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the long history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environments in the Japanese island, with in mind the relationship between natural environments and human societies (life, industry, culture, and so on).

GEO200HA

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/ Mon.5

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。本授業では、いかなる社会もその大地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できる。
土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を総合的に見渡しながら、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含むスライドも活用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会	自然環境と人間社会、土地条件、土地利用、東京の自然史
第2回	「湿潤変動帯」日本列島(1)	地球のエネルギー収支、大気大循環、海洋大循環、気候因子、日本列島の気候環境
第3回	「湿潤変動帯」日本列島(2)	プレートテクトニクス、島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の地形形成環境
第4回	地図	地図の歴史、測地系、地図投影法、一般図と主題図、縮尺と表示項目、空中写真、1:25,000地形図、時系列比較
第5回	地理院地図	電子国土基本図、基盤地図情報、基盤地図情報数値標高モデル、GNSSと電子基準点、GIS、地理院地図の掲載情報と活用
第6回	河川地形の成り立ちと土地利用(1)	扇状地、天井川、土地利用
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用(2)	氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用、海底地形
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	断層変位地形、離水海岸地形、マグマの組成・噴火様式・火山体、山体崩壊
第10回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用
第11回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第12回	山地の成り立ち	山地の形成、風化と侵食、地形輪廻、水河地形
第13回	関東平野の地形発達史と古地理	段丘面の分布と成り立ち、沖積面の分布と成り立ち
第14回	人間社会が土地に及ぼす影響	江戸・東京の地形と土地利用、埋立て、造成、鉄穴流し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）・期末レポート（60％）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。期末レポートは、(1) 大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できるか、(2) 土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The land is our stage of life, on which our human societies stand. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to our human societies.

GEO200HA

自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。変動地形は大地震と密接に関わって成立している。変動地形の研究は、日本列島の自然環境の理解のみならず、大地震が発生する場所や歴史の理解、また長期予測において不可欠である。本授業では変動地形の成り立ちを理解し、日本列島の自然環境および地震発生環境の地域的個性、ひいては人間社会のあり方を見つめなおす。

【到達目標】

地震発生繰り返しモデルを説明できる。

日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる地形的知見を踏まえ、変動地形学・古地震学のアプローチを通じて日本列島の地形的枠組みと地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地震発生環境	島弧海溝系、プレート境界、活断層、活火山
第2回	変動地形と古地震の調査法	地形学・地質学、史料地震学、地震考古学
第3回	地震発生繰り返しモデル(1)	地震の歴史を復元する取り組み、変位量分布の規則性と固有地震モデル
第4回	地震発生繰り返しモデル(2)	時間-変位ダイアグラム、時間予測モデル、変位予測モデル、長期評価
第5回	活断層の認定	地震規模と地表変位、活断層地形判読
第6回	相模トラフの地震ほか	1923年大正関東地震、1703年元禄関東地震、首都直下地震（狭義）
第7回	南海トラフの地震	1944・1946年昭和、1854年安政、1707年宝永ほか
第8回	琉球海溝の地震	地震発生可能性、1771年明和ほか
第9回	日本海溝の地震	2011年東北地方太平洋沖地震、869年貞観地震ほか
第10回	千島海溝の地震	17世紀型超巨大地震ほか
第11回	地震と活断層(1)	活動期と静穏期、1995年兵庫県南部地震ほか
第12回	地震と活断層(2)	2016年熊本地震ほか
第13回	日本列島の活断層(1)	別府-島原地溝帯、中央構造線断層帯、近畿三角帯ほか、歴史地震
第14回	日本列島の活断層(2)	糸魚川-静岡構造線断層帯、日本海東縁ほか、歴史地震

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。

自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)・期末レポート(60%)。平常点はアクションペーパーによって評価する。期末レポートは、(1)地震発生繰り返しモデルを説明できるか、(2)日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The existence of tectonic landforms is one of the most significant features on the natural environment of the Japanese islands. These tectonic landforms have mainly developed related to recurrent large earthquakes. We examine spatial variation, mechanism, and history of tectonic landforms as well as seismogenic environments in the Japanese islands, in order to understand natural environment of the Japanese islands and to improve our social resilience.

BOM200HA

環境健康論 I

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。今後高齢化社会が進むにつれて、課題とされる健康寿命の延長に何か必要であるか？健康で過ごすにはどうすればよいか？適度な運動、自然素材の食事、十分な睡眠など、自らが考え実践できることは沢山ある。

本講義では、普段何気なく過ごしているその内容に焦点をあて、いかに生活習慣が大事であるかを、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに考察していく。

【到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスターシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. 人間のがんに関わる要因について説明する。
5. 創傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 治癒と排出の関係を説明できる。
11. 治癒を妨げるものを列挙できる。
12. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 自らの健康感を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスターシスと病気ー病気になる人となりにくい人ー	人間に備わっているホメオスターシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。
第3回	がんの基礎知識 I	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。
第4回	がんの基礎知識 II	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第5回	免疫系と自律神経系:免疫力アップは腸内細菌の元気から	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第6回	治癒の本質:治癒の3局面(反応・再生・適応)	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力(自然治癒力)について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第7回	創傷の治癒:線維の増殖、瘢痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを解説する。

第8回	食べることの重要性:なぜ人は食べ続けるのだろうか?	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について解説する。
第9回	治癒を促進する食生活:免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性を解説する。
第10回	摂取と排出:排出不足が病気を招く	人間は日々の摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第11回	治癒力を妨げるもの:人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。
第12回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
第13回	ところが治癒に果たす役割:治癒とところの相関関係(笑いが地球を救う)	精神のおよび感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
第14回	成熟した成人になるために:治療は外から、治癒は内から	治療(cure, treatment)と治癒(healing)の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
講義の前日 22 時まで、学習支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。
1) 毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 80 %
2) 授業への参画状況 20 %

- ・課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
- ・授業に出席しても課題が提出されていない場合は、欠席扱いとする。
- ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのがぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。また配布資料、課題の提出は学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週月曜日 15 時～17 時の 2 時間を設ける。オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Japan is well-known for the best longevity in the world. However, as oppose to the reputation from the world, it is unfortunate that there are not many Japanese people who can actively enjoy till their end-stage of life. It has been known that the healthy life can be obtained by quality life activities such as moderate exercise or physical activity, quality sleep and rest, and well-balanced diet. This course will provide the knowledge and skills necessary to prevent from illness and acquire such a healthy life. Upon the completion of this course, students will be able to learn and enjoy such a lifestyle.

BOM200HA

環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しがなされ、多くの人が日常的にとり入れ、その効果を実感している。

本講義では、世界におよそ600種あると言われている補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追求する。

【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第3回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状をDVDを視聴しながら解説する。
第4回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第5回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。

第9回	補完代替医療システム ：インド伝統医学（ヨーガ）	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるヨーガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療 ：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禪」との関連性を解説する。
第11回	生物学的療法 ：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われて、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第12回	手技および身体を介する療法 ：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第13回	手技および身体を介する療法 ：カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第14回	エネルギー療法 ：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
講義の前日22時までに、学習支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】

『補完代替医療入門』 上野圭一著 岩波アクティブ新書
『ホメオパシー医学への招待』 松本丈二著 フレグランスジャーナル社
『標準東洋医学』 仙頭正四郎 金原出版
『近代中国の伝統医学』 ラルフ・C・クローツァー著 創元社
『傷寒論を読もう』 高山宏世著 東洋学術出版社
『アーユルヴェーダとヨーガ』 上馬場和夫著 金芳堂
『ヨーガ根本教典』 佐保田鶴治 平河出版社
『人はなぜ治るのか』 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。
1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど） 80%
2) 授業への参画状況 20%

- ・ 課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
- ・ 授業に出席しても課題が提出されていない場合は、欠席扱いとする。
- ・ 出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することががのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。
また配布資料、課題の提出は学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週月曜日15時～17時の2時間を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることががのぞましい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The body can heal itself. Natural healing is not a miracle but a fact of biology - the result of the innate healing system in the human body. The opportunity to experience this spontaneous healing can be increased by giving proper exercise and adequate rest to the body. In this lecture, from the perspective of oriental medicine, students learn about the natural healing system.

PLN200HA

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。具体的には（1）気候変動科学のこれまでの経緯、（2）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（3）温暖化予測の概要、（4）大気と海洋の循環と熱収支、（5）炭素循環、（6）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（4）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第11回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第12回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第13回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第14回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。履修者数が多い場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

EAE200HA

気候変動論 II

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。具体には（1）気温の変化とその測定方法、（2）温室効果ガスの増加とその原因、（3）エアロゾルの影響、（4）降水・積雪への影響、（5）海洋への影響、（6）気候変動の予測と不確実性、（7）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論 I を履修した後にこの授業を履修することを推奨する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第 3 回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第 4 回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第 5 回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第 6 回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第 7 回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第 8 回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第 9 回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第 10 回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第 11 回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第 12 回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第 13 回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第 14 回	まとめ	講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様の実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

DES300HA

自然環境政策論 I

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 I（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論 II（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 4 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 5 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 6 回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 7 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 8 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第 9 回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 10 回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第 11 回	日本の自然環境保全政策 1	ワイルドライフマネジメント
第 12 回	日本の自然環境保全政策 2	自然公園、自然環境保全地域など
第 13 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第 14 回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を広げよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしておりますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのピオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第13回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光
第14回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。

毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を高めるよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしておりますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

ENV300HA

環境科学Ⅰ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第3回	大気汚染・その2（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染（第3章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2（第5章）	産業廃棄物
第12回	リサイクル（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第16巻，第1号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 50 %、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップしますので、事前にダウンロードしてください。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席（50%）と期末試験（50%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壤汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第 2 回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第 5 回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第 6 回	エネルギー（3）	石炭、水力
第 7 回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第 8 回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第 9 回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第 10 回	リンと窒素	循環、機能、存在
第 11 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第 12 回	遺伝資源	食料、医薬品
第 13 回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第 14 回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第 15 巻第 2 号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テストを行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 50 %、期末試験 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、学生が取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起るのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～III の内容は若干重複することがある。

春学期はオンラインとオンデマンドの組み合わせの開講となる。具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念・予防医学の基礎について
第 2 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病各論
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 6 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第 7 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第 8 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 9 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第 10 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第 11 回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第 12 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 13 回	感染症	性感染症・食中毒
第 14 回	まとめ・期末試験	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する（対面式で行う場合）。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, such as cardiovascular diseases, severe cardiac diseases, malignant tumors, and diabetes, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその 3 本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。

さらに、日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。

また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来、家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。授業は講義形式で行う。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第 2 回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第 3 回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第 4 回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第 5 回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第 6 回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第 7 回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第 8 回	環境保健	環境と健康
第 9 回	社会保障	日本の医療制度について
第 10 回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊
第 11 回	生命倫理②	患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死
第 12 回	生命倫理③	医療訴訟 遺伝子関連問題
第 13 回	生命倫理④	遺伝病、色覚異常 終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第 14 回	授業内試験	試験を実施し、その後講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

レポート（90％）。

映画の感想文の提出を平常点として評価する（10％）。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する（対面の場合）。

【学生が準備すべき機器他】

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNS が利用可能な PC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, we offer students the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。現在、我が国においては、年間の自殺者数が 1998 年から 14 年間連続して 3 万人を超えていた。現在減少傾向であり、2019 年には 2 万人を切ったが、いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では、とくに精神関連の話題を取り上げ、メンタルヘルスについての幅広い知識を身につけていくことを目的としている。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。

ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。

精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインとオンデマンドの組み合わせの講義となる。具体的な講義の方法などは、学習支援システムで提示する。

必要な資料は学習支援システムにアップする。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第 2 回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第 3 回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 過重労働、過労自殺、過労死
第 4 回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について
第 5 回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第 6 回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第 7 回	精神障害③	新型うつ病について
第 8 回	精神障害④	摂食障害について
第 9 回	精神障害⑤	不安障害
第 10 回	精神障害⑥	統合失調症
第 11 回	精神障害⑦	発達障害
第 12 回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第 13 回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第 14 回	授業内試験	試験を実施し、その後講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業後に復習を行う。新聞をよく読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012 年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。

【学生が準備すべき機器他】

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNS が利用可能な PC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In Japan, the number of suicide in the year had been over 30,000 for 14 consecutive years since 1998. Although it is currently on a downward trend, many people still lose their lives by suicide. In addition, it is said that the number of people who have mental problems has increased greatly. However, it is regarded as a problem that these people are not appropriately treated by psychiatry medicine.

The purpose of this lecture is to acquire a wide range of knowledge about mental health. Students can aware of their own or their family's mental disorders in the early stage. Students also learn how to be mentally stable by changing the way of thinking and also support it by nutrition therapy.

EAE300HA

大気と社会 I

丸本 美紀

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気象や気候は古代より人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしてきました。「大気と社会 I」においては、人間が住む空間において気候がどのように形成されているのか、気候の構成要素や特性についてと、日本の気象災害の事例を中心に気候や気象の人間社会への影響について学んでいきます。

【到達目標】

1. 気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2. 日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明することができる。
3. 日常生活において、どのように気候の影響を受けているのか、功罪両面から考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、オンライン授業として開講予定。学習支援システム上で動画・資料をオンデマンドで配信し、毎回ミニレポートを提出してもらいます。各自、学習支援システムで情報をこまめに確認するようにしてください。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	気象・気候の基礎	気候・気象と人間の歴史
第 2 回	大気構造	大気の垂直構造、大気大循環、地球の熱収支と水収支
第 3 回	気候の表現方法 1	気候要素と気候因子、気候のスケール、世界の気候区分、日本の気候区分
第 4 回	気候の表現方法 2	熱収支と水収支、気候指数（WBGT、体感気候、温量示数）
第 5 回	日本の気候 1	気象観測の歴史、日本の気象観測網
第 6 回	日本の気候 2	日本周辺の気圧配置と季節による分類、シンギュラリティー、二十四節気七十二候
第 7 回	局地風、生物季節	海陸風、日本の局地風と風害、屋敷林、自然エネルギーへの転換、生物季節観測、
第 8 回	春の気象災害	春の天気図パターンとメイストーム（雹、竜巻、ダウンバースト）
第 9 回	夏の気象災害 1	梅雨の天気図パターンと集中豪雨、やませと冷害、エルニーニョ
第 10 回	夏の気象災害 2	盛夏期の天気図パターンと猛暑、ラニーニャ、干害
第 11 回	秋の気象災害 1	秋の天気図パターンと秋雨前線、霧
第 12 回	秋の気象災害 2	台風の特徴と被害
第 13 回	冬の気象災害	冬の天気図パターンと山雪・里雪、局地不連続線
第 14 回	まとめ	気候風土—人間を取巻く環境としての気候、環境決定論と環境可能論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。各回、資料をオンデマンドで配信します。

【参考書】

荒木健太郎『雲の中では何が起きているのか』ベレ出版
仁科淳司『やさしい気候学：気候から理解する世界の自然環境』古今書院
その他、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70％）、授業内のミニレポート＋平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

平常点も成績に反映するようにします。

【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修できません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Weather and climate have been influential in the human activity since the ancient times. The human race has been endeavoring to adapt to the changes of weather and climate. In this lecture, we will learn about climatic impacts on the human environment such as the structure of the atmosphere, various climatic features and climatic disasters in Japan.

GEO200HA

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。リスクに配慮した防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。

災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそれを踏まえて人間社会のあり方を見つめなおす。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第 2 回	土地条件評価	地形、表層地盤、土地条件に関する情報
第 3 回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第 4 回	地震災害の諸相 (1)	地殻変動、地震動、液状化
第 5 回	地震災害の諸相 (2)	地震火災、津波、津波火災
第 6 回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第 7 回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第 8 回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第 9 回	土地利用と社会基盤 (1)	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転
第 10 回	土地利用と社会基盤 (2)	耐震基準と耐震等級、活断層の直上とその近傍
第 11 回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第 12 回	避難	避難情報、避難場所、避難所
第 13 回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、震災遺構
第 14 回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップとは、想定、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。自然災害と防災に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）・期末レポート（60％）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。期末レポートは、(1) 自然災害リスクを決定づける要因を説明できるか、(2) 災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable societies. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster damages.

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の自然環境全体について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの生物と生態系の特徴と、取り巻く問題
- ③森林・湿地・海洋・都市における人と自然との共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「森林・湿地・海洋・都市における人と自然の共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	北米の自然	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中南米の自然	中南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	オセアニアの自然	オセアニアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	アジアの自然	アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第6回	ロシアとヨーロッパの自然	ロシア・ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	大洋の島々の自然	主に海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	森林における人と自然との共生	熱帯林の管理と利用を取り巻く現状と諸課題
第11回	湿地における人と自然との共生	湿地の管理と利用を取り巻く現状と諸課題
第12回	海洋における人と自然との共生	海洋生物と人間との関わりを取り巻く現状と諸課題
第13回	都市における人と自然との共生	都市の自然と人間との関わりを取り巻く現状と諸課題
第14回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

ENV300HA

環境管理論Ⅰ

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では水質汚濁防止の技術や法令などの基本知識を学ぶ。湖沼、河川、海および地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の実務知識もマスターする。企業経営や環境行政、海外活動で環境の知識は不可欠であるが、社会ですぐに役立つような実務知識を本講座で習得することができる。

授業では公害防止管理者の国家資格を得るのに役立つ基礎知識の解説をするが、国家試験を受験しない文系学生も興味深く学ぶことができる分かりやすい授業内容とする。

授業では、水質汚濁メカニズムや水環境の保全策などを学び、物理化学・生物学的な排水処理技術のスキルを習得する。本講座の受講は、国家試験や民間の環境検定などの受験に役立ち、活性汚泥法や凝集沈殿など汚水処理法、さらに企業や行政の環境担当者によって日常使用されるBOD/COD,ORP,SSなど技術用語や環境管理の専門知識を理解できるようになる。

【到達目標】

新聞やTVなどマスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど水質浄化技術の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。

実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害総論や水質概論など公害防止管理者国家試験や民間検定などの水環境の問題を解く訓練も時々行い、授業終了段階では水環境の技術と法規の専門用語や基本概念を問う基本的問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則オンデマンド方式になるが、毎回、テーマに関するパワーポイントスライドを提供する。専門誌の記事クリッピング、関連画像や図表などビジュアルを多く利用する。学んだ内容を確認するため適宜課題を出し理解度を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

各論のテーマでは、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の汚水処理の実例、有害物質規制の概要、汚染メカニズム、環境分析等を解説する。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。

テーマは1回の授業でなるべく完結させるので、1コマ飛ばしても（欠席しても）次回授業がスムーズに理解できるようにする。重要事項や難解かつ苦手のテーマは繰り返し説明して理解できるようにする。学生からの建設的なコメントや要望などは回次の講義資料になるべく反映する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体概要。地球の水環境、廃棄物と水質、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国などの環境など	当講座の概要について説明。国内外の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から水環境の重要性を理解する。
第2回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。
第3回	水質汚濁防止法と排水基準	公害防止者管理法等についても触れる。水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第4回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのようになっているのか、事例を中心に検討。
第5回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水の汚染メカニズムを理解する。
第6回	物理化学的処理法1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。

第7回	物理化学的処理法2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第8回	化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎	化学処理法を学ぶ。pH調整、酸化還元、膜分離などの基本知識及び逆浸透RO等高度な技術も解説。
第9回	生物処理法1 概要と基礎	排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第10回	生物処理法2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。
第11回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理について学ぶ。
第12回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。
第13回	環境法令など授業の復習と最終テスト	授業の要点復習および最終テスト実施(問題は主に簡単な選択問題)。
第14回	水質管理のパラメータと水質測定(河川水質調査の映像)	BOD/COD、pH、DO、溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習と全体のまとめ。また、最終テストのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。Web公開されている公害防止管理者等国家試験などの過去問を授業中に時々使用することがある。国家試験受験希望者は市販の書籍(産業環境管理協会発行)またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用せず、毎回プリントをオンデマンドで配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

上記3冊の発行所 (一社) 産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題提出に対し、その記載内容を評価する(30%)。択一式中心の簡単な最終テスト(70%)で評価。60点以上が合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の共通する質問や意見は可能な限り次回授業の資料に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要。

なるべくパソコンで週に1回以上は必ず資料をダウンロードして学習すること。

【その他の重要事項】

高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業を進める。環境法令は理屈でなく、製造工場の視点で実務的内容を解説する。(過去に経済・経営など他学部の学生が数多く受講し受講後の満足度も高い。)

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

講師は大規模な汚水処理事業所の責任者も経験しており、その経験と知識で複数の海外政府向けに環境教育をしている(JICA 専門家派遣など)。そういった世界レベルのトピックスや教材も授業で時々利用する。

【Outline and objectives】

This course is designed to help you learn and understand the basic methods for water pollution control. You will also learn the various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), lectures on the environmental laws and regulations will be provided.

You can learn practical environmental knowledge required for corporate management, environmental administration, and international activities, etc. The main goal is to teach you the introductory-level knowledge useful for acquiring the national qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically.

By this course, you can gain useful knowledge such as Activated Sludge process and Clarifier thickening methods. Also you will understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, ORP, and SS, that are used by the Pollution Control Managers and government/public officers.

ENV300HA

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

近年、世界中で集中豪雨や大型台風等の異常気象が増えており、気候変動への関心が高まっています。16歳の環境活動家のグレタさんに触発され、自分に何かできることはないかと考えている人も多くいるのではないのでしょうか。公害防止管理論Ⅱでは、企業の生産活動による大気汚染を防止するための法律や技術について学びます。現在の企業の環境管理は従来の公害防止だけではなく、気候変動の緩和や適応にまで範囲が広がっています。COP21でパリ協定が採択されて以降は企業への投融資においても、ESG(環境、社会、ガバナンス)への取組が益々重要視されてきています。そのため、企業は従来の大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

現代の環境問題を解決するには、革新的科学技術だけに頼るのではなく、経済や社会が連動して低炭素社会に向けて移行していく必要があります。

本講義では、我々が直面している環境問題をより深く思考できるようにすることし、幅広い視点で企業の大気汚染管理について学びます。大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。また、大気関連の法律体系や行政施策及び、硫酸酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄を中心として学びます。

本講義は、公害防止管理者国家資格(大気)の取得を目指す学生にとって基礎となる知識を取得します。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週提供されるオンデマンド教材を聴講し、講義の最後の本講義のポイントで理解確認を行う。3回程度課題を出すので、レポートを提出する。提出されたレポートに対しては、学習支援システムを通じてフィードバックする。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題	国際的な気候変動への取組、国内の大気環境問題について学ぶ。
第3回	大気保全のための各種法律及び大気状況	大気に関する各種法律の概要(環境基準、退出基準等)を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第4回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第5回	アクティブラーニング課題1	企業内における公害防止管理者の役割を調べる。不祥事の事例を調査し、その原因と改善策について考える。
第6回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃焼計算について学ぶ。効率的な燃焼管理方法及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第7回	硫酸酸化物の処理技術	排ガス中の硫酸酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第8回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第10回	アクティブラーニング課題2	近年の大気環境汚染の課題から一つテーマを出すので、それについて調べる。
第11回	大気モニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリング方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。

第12回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第13回	アクティブラーニング 課題3	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴を比較する。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第14回	課題提出	本講義の理解度を確認するための問題を出すので、レポートとして提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）で講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

3回程度の課題に対してのレポート及び第14回目の課題提出レポートの総合点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるように工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（オンデマンド講義を聴講するため）

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法律制定支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法律制定支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【Outline and objectives】

Recently, awareness of the climate change is raising due to increasing serious floods and super big typhoons worldwide. And someone may be stimulated by the sixteen years old environmental activist, Ms. Greta, and then thinks how to take actions against this issue.

In the lecture of the pollution control II, you study about air pollution prevention in enterprises. Recent environmental managements of enterprises should take not only conventional pollution controls but also climate change mitigation and adaptation. After Paris agreement in COP21, contribution for ESG (Environment, Social, Governance) have been becoming more significant for financing to the enterprises. Therefore, enterprises try to take various actions for reduction of GHG such as CO₂, in addition to pollution controls such as prevention of qualities of air, water and soil, prevention of sound/vibration and waste managements.

Recent environmental issues can't be resolved by only innovative science technologies. It is necessary to transfer to low carbon society by linking with economy and society also.

This lecture is structured from a wide viewpoint concerning air pollution managements of enterprise to aim for making students consider environmental problems deeply which we are facing now. You can learn causes and challenges of air pollution subjects from global warming problems to PM_{2.5} pollution, structure of laws and regulations related to prevention of air pollution, treatments and measurements of pollutants such as sulfur oxide and dust.

The student who will take the national examination of pollution control manager can study fundamental knowledge to provision for the examination.

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義及び参加型（受講者同士のディスカッションや発表）授業で行う。提出されたリアクションペーパーは、授業内でいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の基礎と導入	環境教育の基本と参加型授業の進め方を説明します。
第3回	環境教育の歴史と概要(1)	環境教育の歴史と実践について講義します。
第4回	環境教育の歴史と概要(2)	環境教育の歴史と実践について講義します。
第5回	持続可能な開発と教育・(1)～持続可能な開発のための教育ESD	環境教育・ESDの概要と実践について講義します。
第6回	持続可能な開発と教育(2)	持続可能な開発の概念を深めます。
第7回	中間まとめ	これまでのまとめと受講者同士のディスカッションを行います。
第8回	批判的環境教育論について学ぶ	環境教育に関する論文を読み、講義やディスカッションを通じて理解を深めます。
第9回	自然と関わる環境教育(1)	自然体験など自然に関わる環境教育について理解を深めます。
第10回	自然と関わる環境教育(2)	自然学校について講義します（ゲストトークの可能性あり）
第11回	環境教育の多様な展開(1)	学校や学校以外におけるさまざまな環境教育について講義します。
第12回	環境教育の多様な展開(2)	環境教育教材について意義や課題などを考えます。
第13回	これからの環境教育；SDGsとソーシャルアクション	これからの環境教育の役割や在り方について考えます（ゲストトークの可能性あり）
第14回	これからの環境教育；環境教育の可能性と課題	まとめになります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『知る・学ぶ・伝えるSDGs・1』阿部治・野田恵編著、学文社
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学習支援システムを通じた評価を基本とします（テスト、コメントペーパー、最終レポートなどの課題を学習支援システムで提出）。

要素ごとの配分は

- ・最終レポート（8000文字以上、60%）
- ・小テスト・コメントペーパーなど小課題（30%）
- ・授業貢献（10%）

詳細については第1回目のガイダンスで説明を行うので受講する方は必ず第1回のガイダンスに参加してください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点⇒成績評価を変更しました。双方向性を高めました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。授業資料・教材の配布や連絡、課題の提出などで授業支援システムを利用します。
- ・動画の閲覧に十分な通信環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

CAR200HA

キャリア入門**長峰 登記夫**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【到達目標】

This class aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, students will become able to consider about their own careers and understand issues regarding career making so that they can better make their own careers in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be run in English and basically in the form of lecture. However, if the number of students is not large, discussion will be an essential part of the class. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make presentations in class. The lecture will deal with issues mainly in Japan and partly English speaking countries focusing on career making in the global stage. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Intorduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	English words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent three sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed. This will be particularly important for students who will try to find a job in Japan or at a Japanese company overseas.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.
week 6	International students at Hosei	Students will look at international students studying at Hosei and Hosei students studying overseas and think why they are studying overseas.
week 7	How to make a job career (1)	Students will briefly learn how people make a job career in Japan and in the overseas students' home countries.
week 8	How to make a job career (2)	Students will briefly learn how people make a job career in the global stage.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.

week 11	What will be my career? (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	What will be my career? (2)	Continued from the previous week.
week 13	Employment situation in the global business area in Japan	Employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.
week 14	Final examination or essay and comments.	Final examination or essay and comments on it.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are supposed to read provided materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions about them, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk. They are also supposed to review what they learned in each class. The usually expected time for the preparation and review of the study in class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

【参考書】

References will be presented at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made by short exams (20%), a final exam or an essay (70%) and participation in the discussion in class (10%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words. It will be decided in the class in consideration of some factors such as the number of students.

【学生の意見等からの気づき】

The lecturer, if conditions allow, will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences including work experiences overseas or work experiences in English in Japan.

【学生が準備すべき機器他】

Nothing.

【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn job careers in English, not to learn the English language itself.

Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer. Students also must bring their results of English language proficiency tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei Shiken or other similar tests.

If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties and courses.

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステナビリティコース」です。コースについては履修の手引き「7.1 コース概要」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

ASS300HA

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガ FTA の締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

後日公表する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ：現代日本の農業問題	先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第 2 回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980 年代の GATT ウルグアイ・ラウンドから近年の FTA に至る過程を、世界経済構造の転換に注目しながら解説する。
第 3 回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加した TPP 及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済的特質が見られたのか検証する。
第 4 回	アメリカ農業の歴史と現状	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第 5 回	アメリカとカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第 6 回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況を、食料安全保障に注意を払って解説する。
第 7 回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第 8 回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに形成されつつある農業の担い手について、地域的な多様性や農地政策改革に注目して検討する。
第 9 回	農業労働力の脆弱化と確保のための課題	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による確保の動きについて解説する。
第 10 回	農業者に対する支援システム	農業者を支援してきた農業協同組合と協同農業普及事業について、実態と課題を他の先進国の事例とも比較しながら解説する。
第 11 回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第 12 回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯するのが日本の農山村である。農山村再生のために求められる政策について検討する。

- 第13回 食品安全問題の理論と政策 消費者の食への安心・安全意識への高まりと対応する政策の枠組みを、流行している家畜疾病にも注意を払いながら解説する。
- 第14回 エビローグ：現代日本の農業政策 これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。学生は、授業の前に学習支援システムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前に学習支援システムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。
- ③山崎亮一『農業経済学講義』、日本経済評論社、2016年（本体2,800円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%（レポートの内容は授業内で指示する）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを適宜導入、学生との双方向の授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を授業の前に学習支援システムにアップするので、定期的にチェックをすること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of the contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の経済を支える「地域資源」とその利用システム、地域資源を利用管理する基礎集団としてのイエヤマラについて、近世から現代までの歴史をふまえて理解することを目的とします。

【到達目標】

「食」と「農」の議論の前提となる農村社会の歴史と現状を理解し、循環型社会のシステムや、持続可能な社会のあり方、豊かなコミュニティの形成などについて考える基礎知識を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域資源から考えるローカリズムとグローバリズム
第2回	「社会的共通資本」としての地域資源	豊かな社会、持続可能な社会を考えるための基礎的視点を得る
第3回	伝統的環境観と地域資源利用システム	自然環境と社会環境、「環境観」をめぐる時代の変化について考える
第4回	近世農業の確立と農村社会の形成	ムラの誕生と百姓の時代、農業技術と地域資源利用の関係について考える
第5回	ムラの構造と論理	共同と共有の論理、ソーシャルキャピタル論について考える
第6回	イエの構造と論理	伝統家族と近代家族、家族経営における女性、子ども、高齢者の役割について考える
第7回	日本社会の地域的多様性	環境、文化、社会から地域の多様性を示し、「地域づくり」を考え実践するための知識を共有する
第8回	農村と都市の歴史的変遷と現代社会	現代社会形成の背景となる農村と都市の関係について考える
第9回	家族・地域・産業の関係と展開についての史的分析	第一次、第二次、第三次産業の歴史的変遷とその影響を考える
第10回	戦後改革と農山漁村の変化	農地改革、農業基本法の影響、食と農の戦後史について考える
第11回	高度経済成長期と農山漁村の変化	岐路に立つ日本の農山漁村、ニュータウンの形成、人間と環境の関係変化について考える
第12回	国土開発と地域構造	「地域」が個性を失っていく背景としての国土開発の歴史を論じ、地域の個性について考える
第13回	暮らしの再編と新たなコミュニティ	近年の暮らしと地域の再編について考える
第14回	ローカリズムとグローバリズム	「グローバル」という視点の可能性について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

- ・湯澤規子『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』古今書院、2009年
- ・湯澤規子「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- ・湯澤規子「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステナビリティ—地球と人間の課題』朝倉書店、2018年、104-113頁

・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末試験（用語説明 30 %、論述 30 %程度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、農村社会を考えるいくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Regarding the "local resources" that support the local economy, its utilization system, and Ie and Mura as a basic group that uses and manages local resources, consider the history from early-modern period to today.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅲ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を論じ、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

フィールドワークにもとづいた地域経済学の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション—1 番身近なSDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える
第2回	食と農の現代的課題—ア フリカとインドと日本の 現場から	身近な現代的課題から食と農とSDGsについて考えるきっかけを得る
第3回	環境を考える「環」の視 点—私たちは何者なのか	食べるという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える
第4回	近世日本の食と農と環境 —下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える
第5回	近代日本における循環構 造の再編—都市化と疫病 と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える
第6回	戦後日本の環境行政—清 掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係史を清掃事業から考える
第7回	現代日本の食と農と環境 —「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する
第8回	講義前半についてのオー プンダイアローグ	リアルタイムの双方向講義として、簡単なワークショップを実施する予定
第9回	食べものはどこから来た のか—「種子」から考え る	現代の食と農について考える
第10回	食べものとは何か（1） —胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える
第11回	食べものとは何か（2） —土と農業	山形県山形市の米農家の戦後史を事例に、戦後農政と農村について考える
第12回	食べものはどこへ行くの か（1）—食の再考	食べもの、食べること関わる現代社会の状況を把握する
第13回	食べものはどこへ行くの か（2）—食の可能性	食と農と環境の今後の展望を考える
第14回	私たちはどこへ行くのか	講義内容を総括し、今後の課題を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに興味を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
 その他、随時紹介します。

・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのか—人糞地理学ことはじめ』ちくま新書、2020年
 ・佐藤大介『13億人のトイレ—下から見た経済大国インド』角川新書、2020年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な史料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will discuss the history of society and economy from the viewpoint of "food" and "agriculture", it aims to obtain a perspective to think about modern society and the future.

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。授業内の小テストは学習支援システムを用いて行います。課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価
第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、アスリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを読んだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第 6 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第 6 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course isto understand basic theory etc in the sports business which has been developed together with sports marketing original theory.

HSS212LB

スポーツビジネス論 II

岩村 聡

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。

授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。

受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論 I」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第 2 回	グループワーク I ①	課題 I の説明、グループ分け、情報収集
第 3 回	グループワーク I ②	情報収集、ディスカッション
第 4 回	グループワーク I ③	ディスカッション、発表準備
第 5 回	プレゼンテーション I	グループごとに発表をおこなう
第 6 回	グループワーク II ①	課題の説明 II、グループ分け、情報収集
第 7 回	グループワーク II ②	情報収集、ディスカッション
第 8 回	グループワーク II ③	ディスカッション、発表準備
第 9 回	プレゼンテーション II	グループごとに発表をおこなう
第 10 回	グループワーク III ①	課題の説明 III、グループ分け、情報検索
第 11 回	グループワーク III ②	情報収集、ディスカッション
第 12 回	グループワーク III ③	ディスカッション、発表準備
第 13 回	プレゼンテーション III	グループごとに発表をおこなう
第 14 回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
原田宗彦編「スポーツ産業論第 6 版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、プレゼンテーション 40%、学期末の課題 20%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen understanding through information gathering, discussion and presentation on set issues on various problems of modern sports business

SOC300HA

アーティストと社会貢献

庄野 真代

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても 20 世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通じた社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動から、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第 2 回	アーティストとは？ 社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第 3 回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史 (1)	1960 年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯を知る。ビートル・シーガーなど。
第 4 回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史 (2)	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」(1984 年)を契機に「USA フォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ボブ・ゲルドフ、ボノなど。
第 5 回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史 (3)	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取りくむアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第 6 回	国際社会とアーティスト～親善大使としての役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第 7 回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について考察する。レディガガなど。
第 8 回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっている NPO/NGO、市民団体について考察する。

第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。
第10回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について考察する。
第11回	社会貢献活動の企画ワークショップ	社会貢献イベントなどを自分で企画してみる。
第12回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまじさキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト55億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストの活動を知る。
第13回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を考察し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第14回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望 授業内試験の実施	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の講義にて全講義に関するリサーチレポートをアップロードしますので、翌週、それを書いて提出してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回の教材は、学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

その都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①リサーチレポート 30 %、②課題レポート 40 %、③授業内試験 30 % による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・履修希望者は、初日に配布したリサーチレポートを翌週必ず提出していただきます。
リサーチレポートの提出がない場合は履修できません。
・動画の紹介もあるので、時間の余裕を十分持って受講してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course to learn social contribution by artists through music and other performances. Students will learn the footprints of artists, who have developed social contribution and support activities through music while analyzing their messages and will explore ways to engage with their own society.

PHL200HA

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものである。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や、映画作品、絵本、マンガ、文学作品、美術作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討する。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握する。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、授業中ならびにアクションペーパー提出による質疑・次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がける。
単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定である。

学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内にフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	個人の自由と反植民地主義 (1)	ジャン＝ポール・サルトルの思想 (1) ———
第2回	個人の自由と反植民地主義 (2)	『存在と無』を中心に ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) ———
第3回	個人の自由と反植民地主義 (3)	『弁証法的理性批判』を中心に ジャン＝ポール・サルトルの思想 (3) ———
第4回	個人の自由と反植民地主義 (4)	『ユダヤ人問題についての考察』、『黒いオルフェ』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (1) ———
第5回	フェミニズムの思想 (1)	『全体主義の起源』を中心に フランツ・ファノンの思想 — 『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に オランブ・ド・グージュ、メアリ・ウルストンクラフト、J・S・ミルの思想を中心に
第6回	フェミニズムの思想 (2)	シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想 — 『第二の性』を中心に
第7回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題 (2)	ハンナ・アーレントの思想 (1) ———
第9回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	『全体主義の起源』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (2) ———
第10回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	『エルサレムのアイヒマン』、クロード・ランズマン『シオア』、ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン『スペシャリスト』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (3) ———
第11回	規律と権力 (1)	『人間の条件』、『革命について』を中心に ミシェル・フーコーの思想 — 『監視と処罰』を中心に

第12回	規律と権力(3)	ミシェル・フーコーの思想——『社会は防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に
第13回	規律社会から管理社会へ	ジョージ・オーウェル [1984]、ジル・ドゥルーズの管理社会論
第14回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルと2010年代の現代ヨーロッパ社会、アキ・カウリスマキ『希望のかなた』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつと時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布する。

【参考書】

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013年。
 宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013年。
 坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014年。
 坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017年。
 仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキャベリからサンデルまで』、法律文化社、2013年。
 同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014年。
 山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004年。
 同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009年。
 同『公共哲学からの応答——3・11の衝撃の後で』、筑摩選書、2011年。
 ほか
 ＊各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート(20%) + オンライン試験(80%)

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくすよう努力する。また、パワポを使う際は、もう少し視覚的にわかりやすいようにポンチ絵などを使うようにする。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom に接続可能な機器・接続環境が必要になることがある

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅰ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme : Contemporary Social Philosophy
 We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「労働」の思想的系譜

フランスでは、リセ（高校）の最終学年で哲学を学ぶことが必修とされています。大学入学資格試験に当たるバカロレアにおいても、人文系であれば、社会科学系であれば、自然科学系であれば、哲学は受験必須科目であり、生徒たちは4時間かけて、ディセルタシオンというフランス式小論文の形式で問題に取り組んでいます。

本講義では、人間環境学部、ならびに学部の主軸理念である「サステイナビリティ」の学問内容とも関わりの深いテーマを選び、みなさんと一緒に考えていきます。今年度は、2016年度バカロレア試験の理系の選択問題だった「労働を減らせば、より善く生きることになるのか(Travailler moins, est-ce vivre mieux?)」をテーマとして設定します。

ただし、あくまで大学の学部専門科目として、それにふさわしいレベルで「労働」についての思想的知識を身につけたうえで、設定したテーマについてみなさんが見解を示すことが目的です。

社会では「働き方」について見直されつつある昨今、改めて「労働」とは何かについて根本的に考えてみましょう。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

＊「労働」についての思想的系譜を把握したうえで、その知識を基にして「労働を減らせば、より善く生きることになるのか」という問題設定に対して自分自身の見解を示すことができるようになること。

＊その際に、日本語のかたちであれ、ディセルタシオンの形式を身につけて、論理的に上記に関する見解を論じることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑×次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内にフィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	映画作品から考える「労働」	ダルデンヌ兄弟『サンドラの週末』、ケン・ローチの作品などを中心に
第2回	近代の思想家が見る「労働」(1)	ジョン・ロックの労働所有権論と十分性条件
第3回	近代の思想家が見る「労働」(2)	ルソーの『人間不平等起源論』と『社会契約論』における「労働」について
第4回	近代の思想家が見る「労働」(3)	アダム・スミスの労働価値説
第6回	近代の思想家が見る「労働」(4)	ヘーゲルにおける「主人と奴隷の弁証法」および、市民社会と労働について
第7回	近代の思想家が見る「労働」(5)	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	近代の思想家が見る「労働」(6)	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	近代の思想家が見る「労働」(7)	カール・マルクス『資本論』
第9回	近代の思想家が見る「労働」(8)	マックス・ヴェーバー、プロテスタンティズムと禁欲的労働

第10回	現代の思想家が見る「労働」(1)	ハンナ・アーレント、ジャン＝ポール・サルトル、ミシェル・フーコーそれぞれの労働論を春学期の復習も兼ねて学び直す
第11回	現代の思想家が見る「労働」(2)	ジル・ドゥルーズの「管理社会」論
第12回	現代の思想家が見る「労働」(3)	アントニオ・ネグリ／マイケル・ハートの「非物質的労働」と「マルチチュード」論
第13回	現代の思想家が見る「労働」(3)	イヴァン・イリイチの「シャドウ・ワーク」論
第14回	まとめ	今学期のテーマに関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

市野川容孝・渋谷望編『労働と思想』、堀之内出版、2015年。
 ラース・スヴェンセン『働くことの哲学』小須田健訳、紀伊國屋書店、2016年。
 立正大学文学部哲学科編『哲学 はじめの一步：働く』、春風社、2017年。
 市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013年。
 宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013年。
 坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014年。
 坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017年。
 仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサンデルまで』、法律文化社、2013年。
 同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014年。
 山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004年。
 同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009年。
 同『公共哲学からの応答——3・11の衝撃の後で』、筑摩選書、2011年。
 ほか
 ＊各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）＋学期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom に接続可能な機器・接続環境が必要になることがある。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme : Philosophical Genealogy of " Work" and "Labor"
 We consider the following issues on the basis of philosophical knowledge; "Labor" and "Work".

CAR300HA

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修(1)	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修(2)	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）・レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から「選択必修科目」（6単位）の対象科目になります。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

CAR300HA

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講習会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）・レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から「選択必修科目」（6単位）の対象科目になります。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

OTR200HA

地域経済論Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では空間軸とともに時間軸を加えて、地域経済を立体的に把握し、考える事を目的とします。

【到達目標】

長期的な視野から、国土開発の歴史を概観し、「地域」や「地方」という概念がいかに登場し、その意味がどのように変遷しながら現在に至るのかを考えます。特に戦後の全国総合開発計画の歴史、高度経済成長期における地域構造の大転換、明治・昭和・平成の合併などが地域に与えた影響をふまえて、今、なぜ地域の経済を論じる必要があるのかを議論してみたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域や地方の構造や論理に関する歴史について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションーキミとボクとセカイとチイキ	「地域」とは何か
第2回	「地方」をめぐる思想と実践ー近世・近代・現代	地域・地方の主体性（ローカル・イニシアティブ）の意義
第3回	開発と地方ー全国総合開発計画	戦後国土形成の歴史を考える
第4回	改造と沈没ー開発の光と影	全国総合開発計画による地域構造の形成、中央と地方の格差について考える
第5回	発展と不安ー成長と汚染	高度経済成長と公害問題、内発的発展について考える
第6回	中央と地方ー裏日本と表日本	東京一極集中と地方との格差について考える
第7回	「地域」をめぐるメディア情報について考える 【ディスカッションペーパー提出】	産業構造の変化、過疎と過密の要因と影響について考える
第8回	再考と発見ー「地方」へのまなざし	一極集中経済の是正と地域主義の関係、「地方の時代」の背景を考える
第9回	喪失と創造ー失われる地方の個性と「地」の商品化	地域文化と固有性の衰退の一方で進む「地」の消費現象について考える
第10回	過疎と限界ー周辺発の日本社会論の可能性	地域経済がもつ固有価値の再評価が進む現象について考える
第11回	危機と希望ー「ちほう」から「じかた」への発想転換	新しい「地方」論について考える
第12回	「地方」について考え、行動するとはどういうことか【ディスカッションペーパー提出】	身近な地域にもとづいて「地方」について考える
第13回	地方の経済と地域づくり	担い手、組織、ネットワークなどについて近年の議論にふれる
第14回	まとめ	今、地方から経済を考える意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各30分を標準とします。各講義内容に関係のある情報を集め、考察を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

・講義中に配布する資料を用いて進めます。

【参考書】

・『在来産業と家族の地域史ーライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・『ジェンダーから再考する地域と人間』『サステナビリティー地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁

・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつめ朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、ディスカッションペーパー(40%)、期末レポート(30%)によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションペーパーを活用する講義方式です。自分自身の問題意識を深めることができたというリアクションがありましたので、今年度も引き続き実施したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we aim to understand and think about the regional economy in three dimensions. To achieve that, we focus on region and era.

OTR200HA

人間環境特論（職業選択と自己実現）

才木 弓加

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一人ひとりが自分らしいキャリアを考え、納得のいく職業選択を行うための準備を行います。企業研究、自己分析に加え、人間環境学部での学びを就職活動でどう活かしていくかについて自らが考え、それをカタチにしていきます。これらの事前準備が進むことで、就職活動がスムーズにそして有意義なものとなるよう講義を行います。

【到達目標】

キャリアについて考え、職業選択を行うために必要なことを理解し、人間環境学部での学びを今後の就職活動に活かせることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

2022年卒以降の就活環境が大きく変化し、自己理解、企業理解が深く求められるようになります。本講義では2021年卒の就職活動の変化を具体的に示し、主として2023年卒以降の学生がスムーズに事前準備できるよう方法と進め方を説明します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方・就活の全体像
第2回	就活の状況について	就活環境の変化と求人倍率について
第3回	インターンシップについて	職業選択に重要なインターンシップについての理解
第4回	インターンシップ参加について	インターンシップと就活、選考のつながりについて
第5回	企業研究①	確立されていない企業研究の方法論を学ぶ
第6回	企業研究②	確立されていない企業研究の方法論を学ぶ
第7回	自己分析①	自己理解の重要性を学ぶ
第8回	自己分析②	自己理解のための方法論を学ぶ
第9回	エントリーシートの意味と重要性	自己分析と企業研究の活かし方
第10回	ゲストスピーカー	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第11回	ゲストスピーカー	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第12回	グループワーク・グループディスカッションについて	人間環境学部での学びの活かし方
第13回	企業の採用方法とポイント	オンライン面接が加速することで及ぼす影響について
第14回	これからの就活に向けて	インターンシップ、企業研究、自己分析、エントリーシート、選考について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中、講義後に出された「企業分析シート」、「自己分析シート」などの課題を進めること。

関連する話題について、常に意識を高く持って情報を収集すること。

本授業の準備学習、復習時間は各2時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

レジメを配布

【参考書】

- ① 就活 自己分析の「正解」がわかる本、実務教育出版、才木 弓加(著)、2013年
- ② サプライズ内定、角川 SSC 新書、才木 弓加(著)、2012年
- ③ オンライン就活本、実務教育出版、才木 弓加(著)、(2021年5月末刊行予定)

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末レポート:70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドでの講義につき、パソコンやスマートフォンなどの情報機器

【その他の重要事項】

就活セミナー等の講師を務める傍ら、就職情報サイトでの動画等のコンテンツへの出演や、直接学生への指導にあたる。長年のキャリアに基づいた独自の指導方法は、徹底した自己分析を行うのが特徴。最新の就活トレンドに適應したオンライン就活の指導にあたる。企業の採用コンサルティング等も担当。受講した学生の就活に直結するような実務的な授業を目指す。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Each student thinks about his or her own career through and prepares to make a convincing career choice. In addition to corporate research and self-analysis, the student will think about how to utilize what he/she learned at the Faculty of Sustainability Studies in his/her career development and put it into shape. Lectures will be given so that career development activities will be smooth and meaningful as these advance preparations proceed.

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索するとともに、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。

人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。

多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	人間環境学部における学び方（1）	人間環境学部とは・「人間環境学への招待」の概要
2	人間環境学部における学び方（2）	カリキュラム・コース制・講義概要
3	人間環境学部における学び方（3）	レポートの書き方（理論編）・プレゼンテーションの基本（理論編）
4	人間環境学部における学び方（4）	レポートの書き方（実践編）・プレゼンテーションの基本（実践編）・図書館ミニガイド（文献や情報の集め方）・就職関連（キャリア形成）ミニガイド
5	人間環境学部における学び方（5）	語学学習・海外で学ぶことの意義・SCOPEと留学プログラム
6	コースにおける学び（1）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
7	コースにおける学び（2）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
8	コースにおける学び（3）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
9	コースにおける学び（4）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
10	コースにおける学び（5）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
11	テーマによる学び（1）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
12	テーマによる学び（2）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
13	テーマによる学び（3）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
14	テーマによる学び（4）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

小島聡・西城戸誠・辻英史編著、2021、『フィールドから考える地域環境- 持続可能な地域社会をめざして- [第2版]』、ミネルヴァ書房、378p。
その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーの提出など）40%、期末試験 60%、で総合的に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

To gain an overview on the Faculty of Sustainability Studies and basic academic skills and to learn about approaches towards a "sustainable society"

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索するとともに、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。

人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。

多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	人間環境学部における学び方（1）	人間環境学部とは・「人間環境学への招待」の概要
2	人間環境学部における学び方（2）	カリキュラム・コース制・講義概要
3	人間環境学部における学び方（3）	レポートの書き方（理論編）・プレゼンテーションの基本（理論編）
4	人間環境学部における学び方（4）	レポートの書き方（実践編）・プレゼンテーションの基本（実践編）・図書館ミニガイド（文献や情報の集め方）・就職関連（キャリア形成）ミニガイド
5	人間環境学部における学び方（5）	語学学習・海外で学ぶことの意義・SCOPEと留学プログラム
6	コースにおける学び（1）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
7	コースにおける学び（2）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
8	コースにおける学び（3）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
9	コースにおける学び（4）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
10	コースにおける学び（5）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
11	テーマによる学び（1）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
12	テーマによる学び（2）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
13	テーマによる学び（3）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
14	テーマによる学び（4）	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

小島聡・西城戸誠・辻英史編著、2021、『フィールドから考える地域環境- 持続可能な地域社会をめざして- 〔第2版〕』、ミネルヴァ書房、378p.
その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーの提出など）40%、期末試験 60%、で総合的に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

To gain an overview on the Faculty of Sustainability Studies and basic academic skills and to learn about approaches towards a "sustainable society"

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表 10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表 10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表 10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表 10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部HPなどにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生に対して調査する希望コース等、または語学クラスをもとにして学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。(詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。)

【その他の重要事項】

希望コース等の調査は5～6月に行われる予定。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。

講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の環境について/スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第2回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第3回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2.Google の各種サービス活用 Googleトレンド、Google フォーム等応用的な Google サービスの活用
第5回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第6回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第7回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成 1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作
第8回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方

第 9 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 10 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 11 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 13 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 14 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills (MS Word, Powerpoint, Excel, and Security). We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の環境について/スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1. Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第 4 回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2. Google の各種サービス活用 Googleトレンド、Google フォーム等応用的な Google サービスの活用
第 5 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1. Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 6 回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 7 回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成 1. Powerpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powerpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方

発行日：2021/5/1

第9回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第10回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第11回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第12回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数と書式の応用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則
第14回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills (MS Word, Powerpoint, Excel, and Security). We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

情報処理基礎

松本 倫明

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第3回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第4回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第5回	Excel の応用：表計算 (1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第6回	Excel の応用：表計算 (2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第7回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第8回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第9回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第10回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第11回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第12回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第13回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第14回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn basic skills to operate PCs. We focus on the skills required in the campus life.

COT100HA

情報処理基礎

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算 (1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算 (2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとつによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn basic skills to operate PCs. We focus on the skills required in the campus life.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。

・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。

・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。

・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。

・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。

講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第 4 回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2.Google の各種サービス活用 Google トレンド、Google フォーム等 応用的な Google サービスの活用
第 5 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 6 回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 7 回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成 1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作
第 8 回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方

第9回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第10回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第11回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第12回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第14回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills (MS Word, Powerpoint, Excel, and Security). We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の環境について/スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第2回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1. Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第3回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2. Google の各種サービス活用 Googleトレンド、Google フォーム等応用的な Google サービスの活用
第5回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1. Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第6回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第7回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第8回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powerpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方

第 9 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 10 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 11 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 13 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 14 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills (MS Word, Powerpoint, Excel, and Security). We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の環境について/スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1. Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第 4 回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2. Google の各種サービス活用 Googleトレンド、Google フォーム等応用的な Google サービスの活用
第 5 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1. Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 6 回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 7 回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成 1. Powerpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powerpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方

第 9 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 10 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 11 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 13 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 14 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills (MS Word, Powerpoint, Excel, and Security). We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Python は世界でもっとも普及しているプログラミング言語である。小さなスクリプトから、深層学習、人工知能、ビッグデータなどその用途は多岐にわたる。Python が使える人材は様々な分野で需要がある。この授業で得た経験は厳しい時代を生き抜く実践知となるだろう。

この授業では、Python を用いてプログラミングの初歩を学ぶ。プログラミング言語に共通する知識を学び、簡単なゲームを作り、データ解析を行う。

春学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得されるプログラミング技術は以下のとおりである。

1. プログラミング言語の初歩を理解できる。
2. オブジェクト指向の初歩を理解できる。
3. 簡単なゲームを作成することができる。
4. データを解析して可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	プログラムとは	プログラムにおける命令を学ぶ。
第 3 回	文字列	文字列の操作を学ぶ。
第 4 回	変数	変数の使い方を学ぶ。
第 5 回	繰り返し	ループ (for while) を学ぶ。
第 6 回	応用問題	理解度を確認するための課題を解く。
第 7 回	条件分岐	if 構文を学ぶ。
第 8 回	応用問題	理解度を確認するための課題を解く。
第 9 回	関数	関数を自作して使う。
第 10 回	応用問題	簡単なゲームを作る。リストを学ぶ。
第 11 回	モジュール	モジュールの利用を学ぶ。numpy と配列を学ぶ。
第 12 回	可視化	matplotlib による可視化を学ぶ。
第 13 回	データ解析	データを解析して可視化をする。
第 14 回	応用問題	データ解析の応用問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

いちばんやさしい Python 入門教室、大澤文孝（著）、ソーテック社、2017 年、2,508 円

【参考書】

ウェブから教材を提示する

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新しい内容の授業なので、学生からの意見はまだない。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キーボードの操作やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn both basic knowledge and skills on Python programming.

PRI100HA

統計とデータ分析

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフト Excel を使い、統計学の基礎とデータ分析手法を学び各種データの扱いを理解する。

平均値や最頻値、中央値、分散、標準偏差といった基本統計量について理解し、相関分析や回帰分析、推計統計の基礎とデータ処理について学ぶ。また、統計資料の検索や活用の手法についても演習を行う。

【到達目標】

本科目では Excel を利用し、統計的知識に基づき環境や社会、経済その他幅広いデータの分析・活用を行える力を身につけることを目標としている。

- ・統計的な知識を身につける。
- ・各種情報・データを収集し、活用可能な形にデータ処理ができる。
- ・Excel を用いて基本的な統計処理ができる。
- ・Excel の基本的・応用的な活用を行い、データの表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

実習と課題の作成を通じてデータ処理能力を身につける。

課題の提出は授業支援システムを通じて行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・評価について、スキルレベルの確認
第 2 回	実習環境について	各自の情報環境について 情報実習室や学内の情報システム、授業支援システム等の利用の仕方、注意点
第 3 回	Excel 演習 1	Excel の基本の確認 表の作成と演算/相対参照と絶対参照/グラフ作成
第 4 回	Excel 演習 2	各種関数の利用 基本的な関数の確認/条件分岐と複雑な条件判断/端数処理
第 5 回	Excel 演習 3	データベース機能 Excel のデータベース機能/検索関数
第 6 回	Excel 演習 4	Excel 応用 データの操作/グラフの応用
第 7 回	データの検索と活用 1	環境・社会・自然等の分野における各種データの検索と活用
第 8 回	データの検索と活用 2	取得したデータの加工・編集/オープンデータ
第 9 回	統計基礎 1	記述統計と推測統計/代表値について（平均値、中央値、最頻値等）
第 10 回	統計基礎 2	散布度・値のばらつきについて（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数等）
第 11 回	統計基礎 3	値のばらつき（正規分布について）
第 12 回	統計基礎 4	相関分析と因果関係/回帰分析
第 13 回	統計基礎 5	推測統計/母集団と標本/信頼区間など
第 14 回	統計基礎 6	統計的検定（仮説と検定、有意水準等）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて参考書もしくは Web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験は行わず、100%課題で評価する。

課題は内容ごとに提示するので確実に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is to learn the fundamentals of statistics and data processing methods.

Excel will be used in this course. In the earlier stage of this course, we master the utilization techniques of it.

After that, we learn descriptive statistics (mean, median, mode, variance, standard deviation, and so on), correlation, regression analysis and fundamentals of inferential statistics.

COT100HA

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。

近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにもない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。

この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

秋学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理：Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作：HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

ホームページ辞典 第 6 版 HTML・CSS・JavaScript、株式会社アଙ୍କ (著)、翔泳社、2017 年、2,200 円

【参考書】

WWW を通じて教材を配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn both basic and practical skills on the internet and multimedia.

LIN100HA

英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、e-learning 教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

最初は、後述のテキストと同 e-learning 教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにし authentic な英語表現に親しむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。 e-learning 教材のデモンストレーションもあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。希望者多数の場合、選抜を行う可能性もあります。
第 2 回	テキスト Chapter1・2 (旅行編)	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel)
第 3 回	テキスト Chapter3・4 (旅行編)	‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car)
第 4 回	テキスト Chapter5・6 (旅行編)	‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第 5 回	テキスト Chapter7・8 (旅行編)	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘Good to See You!’ (Meeting a friend)
第 6 回	テキスト Chapter9・10 (旅行編)	‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel) ‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference)
第 7 回	テキスト (旅行編) の復習小テストと応用	テキスト (旅行編) の Model Dialogue についての小テスト。テキスト (旅行編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 8 回	テキスト Chapter13・14 (留学編)	‘So, What’s Your Major?’ (Self-introduction) ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
第 9 回	テキスト Chapter16・17 (留学編)	‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account) ‘How about Sea Mail?’ (Sending a package)
第 10 回	テキスト Chapter18・19 (留学編)	‘Would You Like to Join Us?’ (Inviting a friend) ‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine)

- 第 11 回 テキスト（留学編）の復習小テストと応用
テキスト（留学編）の Model Dialogue についての小テスト。テキスト（留学編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
- 第 12 回 復習（1）
映画やドラマによる応用タスクと、今期全体についてのポイント講義を行います。
- 第 13 回 期末試験と復習（2）
1 2 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。直前にポイント講義と質疑応答・復習をします。
- 第 14 回 復習（3）
期末試験を返却して徹底解説します。これに基づく学習アドバイスも行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL 等を利用して予習・復習をしてください。授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。配布プリントがある日は、その復習も必要です。授業内でのタスクのために、Model Dialogue は確実に覚える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)
written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.
2,000 JPY

【参考書】

URL (例)
<https://www.expedia.co.uk/>
<https://www.ox.ac.uk/gazette/>
<https://www.londontheatre.co.uk/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

平常点には、テキスト学習回の音声ファイル提出と、対面での小テスト（2 回程度）等が含まれます。音声ファイルの提出方法は、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「実践的な英語表現が身につけてよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2021 年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合は、BT0309 教室にて実施の予定。
学習支援システム、Google Classroom を利用する。音声ファイルの提出のため、スマホの他に PC またはタブレット端末が 1 台必要である。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。受講を希望する方は、最新情報を Hoppii「お知らせ」で確認し、必ず初回授業に出席して下さい。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You will be encouraged to improve your everyday conversation in English. Learning materials include those for CALL(Computer-assisted-language-learning) and authentic movies and drama which can be adult learner-friendly.

LIN100HA

英語 I（スキルアップ科目）

板橋 美也

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の日常会話表現のリスニング力を向上させ、耳で覚えた表現を適切に発音することができるように練習していく、初級日常会話の授業です。

【到達目標】

日常生活に必要な基本的なリスニング力が身に付き、日常の様々な状況で適切な英語の表現を適切な発音で用いることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることができるように、repeating, overlapping, shadowing などによる練習を適宜行います。そして、練習の成果を各自のスマートフォンや PC で録音して提出します。提出の仕方については、第 1 回のガイダンスで説明します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Unit 1	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話を聞き取る練習をしながら、位置・場所に関する表現をおぼえます。乗り物に関する会話を聞き取る練習をしながら、時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Unit 2	ショッピングに関する会話を聞き取る練習をしながら、数量・距離・長さに関する表現をおぼえます。
第 4 回	教科書 Unit 3	スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聞き取る練習をしながら、感情に関する表現をおぼえます。
第 5 回	教科書 Unit 4	食事に関する会話を聞き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Unit 5	旅行・レジャーに関する会話を聞き取る練習をしながら、判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 7 回	教科書 Unit 6	ビジネス・オフィス関連の会話を聞き取る練習をしながら、経験・完了に関する表現をおぼえます。
第 8 回	教科書 Unit 7	インターネット・コンピュータ関連の会話を聞き取る練習をしながら、情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Unit 8	金銭・費用関連の会話を聞き取る練習をしながら、方法・手段に関する表現をおぼえます。
第 10 回	教科書 Unit 9	ホテルでの会話を聞き取る練習をしながら、原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 11 回	教科書 Unit 10	天候に関する会話を聞き取る練習をしながら、予定・日程に関する表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 11	電話での会話を聞き取る練習をしながら、許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 13 回	教科書 Unit 12	授業の内容に基づいた試験を行います。
第 14 回	試験とまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書付属の自習用 CD を用いて、よく予習・復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Listening Practice for Daily Expressions (鶴見書店)

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み(授業中に行うリスニング問題・質問への回答・課題の提出状況)(70%)と期末試験(30%)から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数にすらなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

授業によってリスニングの時間を確保することができたという感想が多くみられましたが、「継続は力なり」ですので、授業以外にも自主的にリスニングの時間を作ることで、さらにスキルアップをめざしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

発音の録音・提出のためのスマートフォン・PC等の機器やオンライン環境を準備してください。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course focuses on improving basic listening and pronunciation skills in English through the textbook on daily expressions.

LIN100HA

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about American culture and society. By paraphrasing and acting out students should be able to develop communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1. Listening

Students are taught: general comprehension(listening for gist, looking for detailed information, dictation close)

2. Speaking

Students are taught: paraphrasing and acting out

3. Writing(a reaction paper and the favorite line in each unit)

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Andy Meets Miranda	About the course, Words & phrases, first viewing, listening exercise
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Second viewing, exercises and acting out
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第4回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Second viewing, exercises and acting out
第5回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第6回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Second viewing, exercises and acting out
第7回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第8回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Second viewing, exercises and acting out
第9回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Second viewing, exercises and acting out
第11回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第12回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Second viewing, exercises and acting out
第13回	Review	Vocabulary review and discussion about
第14回	Feedback	Overall review and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to be prepared for exercises A, B & E. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

The Devil Wears Prada (松柏社、2,200円)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:

<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation 30 %

Acting out 30 %

Final test 40 %

Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.

The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring general stationery (e.g. pen, pencil, glue, paperclips).

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook and accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

LIN100HA

英語Ⅲ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

【到達目標】

The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English and to be able to express one's thoughts clearly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度はカレンダー通りに始まり、原則としてキャンパスで行います。Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form.

During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction Unit 1	Grammar and vocabulary
第2回	A great read Unit 1	Conversation
第3回	A great read Unit 1	Reading
第4回	A great read Unit 1	Review
第5回	Unit 2 Technology	Grammar and vocabulary
第6回	Unit 2 Technology	Conversation
第7回	Unit 2 Technology	Reading
第8回	Unit 2 Technology	Review
第9回	Unit 3 Society	Grammar and vocabulary
第10回	Unit 3 Society	Conversation
第11回	Unit 3 Society	Reading
第12回	Unit 3 Society	Review
第13回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3
第14回	Wrap-up and final exam	Wrap-up and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Viewpoint 2(Cambridge University Press)

『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 40 %、授業内テスト 40 % スピーキングテスト 10% オ
パマのスピーチ暗唱 10 %。欠席は減点とする。

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.

The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime

【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

LIN100HA

英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

【到達目標】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context and be able to give a convincing presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students practice listening and speaking using the news digest and then moves on to the main textbook. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction & Unit 1	Mini lesson
第 2 回	Unit 1 Working life	Vocabulary
第 3 回	Unit 1 Working life	Video and discussion
第 4 回	Unit 2 Projects	Vocabulary
第 5 回	Unit 2 Projects	Key expressions
第 6 回	Unit 4 Services & systems Leisure time	Vocabulary
第 7 回	Unit 4 Services & systems	Key expressions
第 8 回	Unit 5 customers	Vocabulary
第 9 回	Unit 5 customers	Key expressions
第 10 回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第 11 回	Unit 8 Working together	Key expressions
第 12 回	Unit 12 Innovation	Vocabulary
第 13 回	Unit 12 Innovation	Key expressions
第 14 回	Review	Presentation and in-class test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students will do the reading part at home and get prepared for presentations. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Business Result Intermediate(Oxford University Press)

【参考書】

Students must have access to a computer with internet connection in order to complete some home research tasks.

【成績評価の方法と基準】

授業での参加度 50 %

授業内テスト 40 % プレゼンテーション 10%

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given more opportunities to study the current news.

【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

LIN100HA

テーマ別英語 1 (スキルアップ科目)

王 川 菲

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course helps students establish the ability of using English. It focuses on the skills of English reading comprehension and self-expression in English writings with a topic of modern Japanese food history and culture. It deconstructs contemporary Japanese culinary culture and traces the historical underpinnings of its contemporary scenes. Through the lens of food, some key concepts in the contemporary global society, including localization, transnational flows, global and local interactions, and food sustainability are explored. The topic of food safety/security in the pandemic age is also covered. Students will also learn to make a social contribution by their academic skills.

【到達目標】

Students will acquire and practice the following skills.

1. Cultivate the abilities of individual and group work
2. Read Academic English
3. Write to express personal opinions in English
4. Understand modern Japanese food history and culture.
5. Understand some key concepts in global society and use them to critique contemporary social issues
6. Express academic opinions to the public (web-report)
7. Improve oneself through the practices of peer-review

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

On-demand online classes. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course orientation and philosophy	Course introduction, rules, and requirements. Learning philosophy in this course. There are no required readings in week 1.
Week 2	Traditional and modern Japanese cuisine	Rath, Eric C. (2016) "What is Traditional Japanese Food?" In Japan's Cuisines: Food, Place and Identity, pp.17-33. Reaktion Books, 2016.
Week 3	The historical roots of contemporary Japanese food	Brau, Lorie. (2018) "Soba, Edo Style: Food, Aesthetics, and Cultural Identity," in Nancy K. Stalker edited, Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity, pp. 65-80. Oxford University Press.
Week 4	Cafe as a social space in contemporary Japan	White, Merry. (2012) "Japan's Cafes: Coffee and the Counterintuitive," "Modernity and the Passion Factory," in Coffee Life in Japan, pp. 19-41. University of California Press.
Week 5	Contemporary Japanese culinary culture	Bestor, Theodore C. (2006) "Kaitenzushi and Konbini: Japanese Food Culture in the Age of Mechanical Reproduction," in Richard Wilk (ed), Fast Food/Slow Food: the cultural economy of the global food system, pp. 115-139. Altamira Press.

Week 6	Gender and Japanese food	Corbett, Rebecca. (2018) "Introduction," in Cultivating Femininity: Women and Tea Culture in Edo and Meiji Japan, pp. 1-24, University of Hawaii Press, 2018.	Students will design research project and write a proposal including research topic, question, method, preliminary findings, if any, and expected results. 3. Final report (as final exam)(at least 750 words, excluding references list) Students will submit their reports in the form of webpage.
Week 7	Discussion and writing (including mid-term exam)	Students complete and submit research proposal(in group)	4. Peer-review Students will evaluate their classmates' work according to grading rubrics.
Week 8	Food waste in Japan	Siniawer, Eiko Maruko. (2018) "Discarding Cultures: Social Critiques of Food Waste in an Affluent Japan," in Nancy K. Stalker (ed.) Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity, pp. 287-301. Oxford University Press.	【実務経験のある教員による授業】 本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。 【None】 None
Week 9	Food inequality in Japan	Kimura, Aya H. (2018) "Hungry in Japan: Food Insecurity and Ethical Citizenship," in The Journal of Asian Studies Vol. 77, No. 2: 475 - 493.	【None】 None
Week 10	Japanese food nationalism	Stalker, Nancy K. (2018) "Rosanjin: The Roots of Japanese Gourmet Nationalism," in Nancy K. Stalker (ed.), Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity, pp. 133-149. Oxford University Press.	【None】 None
Week 11	Japanese food politics	Bestor, Theodore C. (2018) "Washoku, Far and Near: UNESCO, Gastrodiplomacy, and the Cultural Politics of Traditional Japanese Cuisine," in Nancy K. Stalker (ed.), Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity, pp. 99-117. Oxford University Press, 2018.	【Outline and objectives】 This course helps students to acquire and practice skills of English reading comprehension and self-expression in English writings with a focus on the topic of modern Japanese food history and culture. It deconstructs contemporary Japanese culinary culture and traces the historical underpinnings of its contemporary scenes. Through the lens of food, some key concepts in the contemporary global society, including localization, transnational flows, global and local interactions, and food sustainability are also explored. The topic of food safety/security in the pandemic age is also covered.
Week 12	The globalization of Japanese culinary culture	Farrer, James, Chuanfei Wang, Christian Hess, Mónica R. de Carvalho, and David Wank. (2019) "Culinary Mobilities: The Multiple Globalizations of Japanese Cuisine," in Cecilia Leong-Salobir (ed.), Routledge Handbook of Food in Asia pp. 39-57. London: Routledge.	
Week 13	Research report preparation	Students take this week to complete research report(in group)	
Week 14	Final exam and peer-review	Students will review their classmate's work	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students will averagely need 1.5 hour to prepare each class (except week 1), including reading assigned articles and writing reading notes. Some students may need 2 hours, depending on their English proficiency. They will also spend averagely 2 hours preparing mid-term exam and 4 hours on final exam, including library research, course review, and discussion notes.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide all of the reading materials in the electronic form. Students will download them.

【参考書】

Sheets of weekly reading note, research proposal, research report and grading rubrics for peer-review will be distributed.

【成績評価の方法と基準】

Students' final grades will result on a combination of the following components:

Weekly reading notes (4% x10 times, including weeks 2-6, 8-10) 40%

Mid-term exam 12%

Final exam 30%

Peer-review of research report 3%

Peer-review of reading notes (3% x 5 times) 15%

【学生の意見等からの気づき】

The instructor will help confirm student's reading comprehension. The course activities will be organized in group to increase student's interactions.

【学生が準備すべき機器他】

No

【その他の重要事項】

1. Weekly reading notes (100 words)

Students respond questions in the sheets of reading notes.

2. Mid-term exam (research proposal) (at least 250 words, excluding references list)

LIN100HA

テーマ別英語3（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop students' awareness and ability to discuss healthcare issues and lifestyle choices in the modern world.

【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Students will read and listen to articles about health issues and demonstrate their understanding of texts through applying the issue to their personal experience, and communicate with other students and teacher about those responses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher by weekly worksheets, with feedback from the teacher on student answers. Questions will be both direct or discussion-based. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

This class will be online. Worksheets will be uploaded weekly to Hoppii and classes will be conducted over Zoom. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction	Course introduction and description Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Aging 1	Reading and discussion
Lesson 3	Aging 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 4	Smoking 1	Reading and discussion
Lesson 5	Smoking 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 6	Health and environment 1	Reading and discussion
Lesson 7	Health and environment 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 8	Exercise and health 1	Reading and discussion
Lesson 9	Exercise and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 10	Food and health 1	Reading and discussion
Lesson 11	Food and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 12	Stress 1	Reading and discussion
Lesson 13	Stress 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 14	Review	Review of the course and final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional reading on the topics can be found in Healthtalk by Bert McBean (Macmillan) or other similar Health-related English coursebooks.

【成績評価の方法と基準】

2 x essays. one at mid-term, one at end of term. (2 x 50%) These essays will express the student's opinions about the topics discussed in the preceding lessons.

【学生の意見等からの気づき】

Besides a core group of topics to be studied, an additional selection reflecting students' interests will also be offered.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need a Zoom client (app) and headset for online meetings, and to access Hoppii to obtain the weekly uploads.

【Classes by faculty members with practical experience】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students will engage in readings and discussion of non specialist issues in the area of healthcare. Weekly readings will be followed by a variety of activities to activate relevant vocabulary and expressions appropriate for discussing the topic.

LIN100HA

テーマ別英語4（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To familiarize the students with, and enable them to discuss the development and social history of modern western popular music.

【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th and 21st century. Students will listen to original recordings and read about the political and social issues that are addressed by the various genres.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher by weekly worksheets, with feedback from the teacher on student answers. Questions will be both direct or discussion-based. Feedback on assignments submitted by students will be provided both in meetings and through the Learning Management System.

This class will be online. Worksheets will be uploaded weekly to Hoppii and classes will be conducted over Zoom.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Gospel music and slavery	Sample and discuss early African-American music and its origin
Lesson 3	Blues and the rural poor	Examples of early "CountryBlues" and its social context
Lesson 4	Country music and immigration	Samples of the music brought by early settlers from Britain and Europe, and the rural culture where it took root.
Lesson 5	Folk music and white protest	Examples of music used as tool of political expression during the Great Depression and later
Lesson 6	Jazz and music as art or entertainment	Examples of both popular jazz idioms and the growth of "serious" music
Lesson 7	R & B and race relations	Examples of early rock music and the fissures in society that were exposed by its growing popularity
Lesson 8	Mid-term course review	Open-book quiz of the first part of the course
Lesson 9	The music industry	An overview of money in music, from early sales of sheet music, the rise and fall of record labels to music promotion in the digital age.
Lesson 10	Rock music and youth culture 1	An examination of the rise of youth culture and the maturing of rock music, through the career of the Beatles and other "classic rock" musicians.
Lesson 11	Rock music and youth culture 2	A look at the major genres of rock music in the context of social and political unrest
Lesson 12	Rock reactions and the rise of punk	Some examples of rock music fragmentation in the face of political failure and the rise of the political right

Lesson 13 Soul music and civil rights

Examples of early gospel-influenced soul, through pop, dance and funk styles, in the context of the early and later civil rights movements

Lesson 14 Review and final exam

Review of the course and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

While meeting time will focus on discussion and listening, students are expected to extend their research of the topic by further listening and reading out of class, particularly following up topics of interest identified during discussions.

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson, and students can access most of the musical examples from YouTube or Wikipedia.

【成績評価の方法と基準】

2 x quiz: (2 x 50%T): mid-term and end-of-term quizzes.

【学生の意見等からの気づき】

We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need a Zoom client (app) and headset for online meetings, and to access Hoppii to obtain the weekly uploads.

【その他の重要事項】

This is usually a discussion class. However, in the event of on-demand lessons, students will need to submit short answers to questions on the weekly topics.

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students will listen to illustrated lecture (presentation) on selected topics that illustrate the social and cultural context of popular music development in the 20th century. Lessons will also include readings and discussion of the topics.

HSS400HA

研究会 A

朝比奈 茂

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ人間は○○○だろうか?」といった素朴な疑問をもとに、文献資料より人間の生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を提示し解決しようとする理論と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べるができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献（日本語、英語どちらでも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行う。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。今後の計画を立てる。
第 4 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	中間発表	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 9 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 16 回	研究（調査）テーマ検討および決定	秋学期に行う、研究（調査）テーマを各々で検討し、決定する。

第 17 回 資料収集および講読

図書館やインターネットを通じて、資料を収集する。仕入れた文献を整理して内容を理解する。

第 18 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 19 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 20 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 21 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 22 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 23 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 24 回 DVD 鑑賞

環境全般に関する DVD を視聴し、各々が感じたこと、考えたことを、グループに分けディベート形式で討論する。

第 25 回 レクリエーション（スポーツ大会）

スポーツ活動を通じて、ゼミ員相互のコミュニケーションを図る。

第 26 回 外部講師による講演会

現在社会で活躍している講師（学外）を招聘し講義を行う。

第 27 回 卒業論文報告会

4 年生による卒業論文の発表を行う。

第 28 回 卒業論文報告会

4 年生による卒業論文の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 - ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
 - ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
 - ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫

【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況（80%）、プレゼンテーション（10%）、レポート（10%）を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのがぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。また、オフィスアワーとして毎週月曜日 15 時～16 時 30 分の 1. 5 時間を設ける。オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのがぞましい。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース
人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class is conducted as the seminar, emphasizing in the small group discussion. Students are supposed to be knowledgeable enough to participate in this workshop. Therefore students' preparation for this seminar is essential as well as their positive attitude and active involvement are required. By completing this workshop, students are expected to learn and improve the awareness of health and self-medication, which enable them to create an appropriate decision making and take an action accurately for the health-related issues.

ART400HA

研究会 A

板橋 美也

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術・デザインと持続可能な社会

【到達目標】

美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを理解すること。そして、それを踏まえて、現代社会の課題と、それに対して何がなされているのか、なされるべきかについて、自分の考えを持つことができるようになること。クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

美術・デザイン・ファッション・建築は、ただ「美しさ」や「センスの良さ」を競うだけのものではなく、人々の生活や社会と分かちがたく結びつき、近代化・産業化・消費文化の功罪、グローバル化の中での異文化受容など、その時々々の様々な課題を反映してきました。持続可能な社会の実現のために、美術・デザイン・ファッション・建築等を通してどのような試みがなされてきたのか、そして現在されているのか、一緒に探求します。具体的には、以下のような学習を行います。

(1) 指定したテキストやテーマに関する発表・ディスカッション・グループワークなどを通して、美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを考えます。

(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。

* (1) (2) いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

(3) 場合によっては美術館または建築物などを見学に行く機会を設けたいと思います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第 2 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 3 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 4 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 5 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 6 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 7 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 8 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 9 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 10 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 11 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 12 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 13 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・総括します
第 15 回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第 16 回	4 年生による研究紹介	4 年生が各自行っている研究に関する短い発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション

第 17 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 18 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 19 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 20 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 21 回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第 22 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 23 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 24 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 25 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 26 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 27 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 28 回	1 年間のまとめ	1 年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献をよく読んだり、与えられたテーマについて下調べをするなどして、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、秋学期後半の研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100% とし、研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）と年度末のレポートから総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

美術館見学などの学外学習は、状況（新型コロナウイルスの感染拡大状況など）が許せば、ぜひまた行いたいと思います。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Art and design for a sustainable society

GEO400HA

研究会 A

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境にかかわる理解と考え方は、持続可能な社会を構築する鍵のひとつです。本研究会では、自然環境そのものに加え、自然環境と人間社会のかかわりあいについて、災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境の地域的差異とその要因、歴史の変遷を具体的に説明できる。
自然環境と人間社会のかかわりあい、とくに自然環境が人間社会に与える影響を具体的に記述できる。
調査法や発表法を身につける。
地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献講読やグループ研究、個人研究などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。自然環境にかかわる内容をひろく扱います。

とくに個人研究は、学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、積極的に学び、意義深いテーマや重要な地域を見出すよう期待します。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	趣旨説明、文献検索法説明、論文作成・発表法説明
第 2 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 3 回	文献講読	意見交換
第 4 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 5 回	課題演習	机上作業
第 6 回	野外実習	フィールド巡検
第 7 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 8 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 9 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 10 回	グループワーク	意見交換
第 11 回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第 12 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 13 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 14 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 15 回	個人研究準備	テーマの設定
第 16 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 17 回	文献講読	意見交換
第 18 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 19 回	課題演習	机上作業
第 20 回	野外実習	フィールド巡検
第 21 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 22 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 23 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 24 回	グループワーク	意見交換
第 25 回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第 26 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 27 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第 28 回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）。基準は研究会における取り組みの状況や到達目標の達成度等です。

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Understanding and thinking of the natural environment is a key to improve our social sustainability. We conduct various studies on (1) the natural environment itself, and (2) the relationship between the natural environment and the human society, with emphasis on natural disasters. The approaches are mainly based on physical geography. We examine the impact of the natural environment on the human society and sustainability of the human society.

LAW400HA

研究会 A

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身につける。
卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。

学生による自主的な運営を期待する。

適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際平和の追求	ガイダンス 年間計画
第2回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第3回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第4回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第5回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第6回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第7回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第8回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第9回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第10回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第11回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第12回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第13回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第14回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第15回	国際平和の追求	個人発表と討論
第16回	国際平和の追求	個人発表と討論
第17回	国際平和の追求	個人発表と討論
第18回	国際平和の追求	個人発表と討論
第19回	国際平和の追求	個人発表と討論
第20回	国際平和の追求	個人発表と討論
第21回	国際平和の追求	個人発表と討論
第22回	国際平和の追求	個人発表と討論
第23回	国際平和の追求	個人発表と討論
第24回	国際平和の追求	個人発表と討論
第25回	国際平和の追求	個人発表と討論
第26回	国際平和の追求	個人発表と討論
第27回	国際平和の追求	個人発表と討論
第28回	国際平和の追求	4年生による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、発表担当ではない場合、各2時間が目安である。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年。
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第2版]』有斐閣、2011年。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

山本草二『新版 国際法』有斐閣、1994年。
岩沢雄司『国際法』東京大学出版会、2020年。
松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010年。

【成績評価の方法と基準】

発表：30%
議論への参加：30%
期末レポート：30%
ゼミ運営への貢献：10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要なPC、機器使用のための鍵等を準備すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

TRS400HA

研究会 A

梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】

「環境表象論Ⅰ、Ⅱ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解すること。また、前年度の沖繩離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つられ、研究成果を「共有」できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業計画」の通り、参加者個々の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となります。（ただし、「到達目標」に記した通り、他のゼミ生の研究とのつながりを見つけれ、「共有」できることが大切です。）

大学の行動方針がレベル1の場合は毎週、教室での対面授業を予定していますが、感染状況によっては変更の可能性もあります。事前の学習支援システム等を通じたお知らせで確認してください。

なお「授業計画」に記した発表テーマ例は、一昨年度までの事例に基いた一例であり、昨年度はコロナ禍によりゼミ合宿をはじめ、宿泊型の個人フィールド調査は出来なかったため、昨年度に各自が実施した日帰り型の近場のフィールド調査研究に基づくテーマになります。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	個人研究発表①	発表は1人30分以内程度、題材は主として昨年度の研究発表に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第3回	個人研究発表②	(例) 竹富島の「住」と景観 その1
第4回	個人研究発表③	(例) 竹富島の「住」と景観 その2
第5回	個人研究発表④	(例) 竹富島の「住」と景観 その3
第6回	個人研究発表⑤	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その1
第7回	個人研究発表⑥	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その2
第8回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表
第9回	個人研究発表⑦	(例) 竹富島の「食」の文化 その1
第10回	個人研究発表⑧	(例) 竹富島の「食」の文化 その2
第11回	個人研究発表⑨	(例) 竹富島の祭事・行事と「うつぐみ」精神
第12回	個人研究発表⑩	(例) 竹富島の「観光文化」の歩みと将来
第13回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想②	夏休み前の中間報告
第14回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第15回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
第16回	個人研究発表⑪	題材は昨年度または今年度（夏休み等）の研究発表に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第17回	個人研究発表⑫	(例) 離島のエコツーリズムと環境保全
第18回	個人研究発表⑬	(例) 離島の伝統芸能・祭事とアイデンティティ

第19回	個人研究発表⑭	(例) 港町の産業遺産（倉庫）を活用したツーリズム
第20回	個人研究発表⑮	(例) 宿場町の景観保全とツーリズム
第21回	個人研究発表⑯	(例) 農家民泊とグリーンツーリズム
第22回	個人研究発表⑰	(例) 里山における五感の環境教育（体験プログラム）
第23回	個人研究発表⑱	(例) 文芸の名作を活かしたツーリズム
第24回	個人研究発表⑲	(例) アニメツーリズム（フィルムツーリズム）の試み
第25回	個人研究発表⑳	(例) アート・ツーリズム（アートを活かした地域づくり、感性価値創造）
第26回	グループワーク①	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第27回	グループワーク②	前回の続きとまとめ（学生の自主作業）
第28回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）と個別指導	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自、現地調査の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。なお、3・4年生は先輩として2年生（4限参加）の指導も行うことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65%、参加姿勢やゼミという組織の中での協同性・貢献度等 35%

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきたいです。

・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に合った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様なゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・この金曜5限研究会は、前年度からの継続参加者（3・4年生）が履修登録対象となります。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: "Cultural landscape" and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", we link the viewpoints of eco-tourism, tourism culture, eco-museum and other aspects of Japanese-style ecotourism, tourism culture, and the possibility of human formation utilizing local natural and cultural assets. Conduct case studies through field surveys of their own. Regarding field to be selected in the field survey (field is decided according to their interests and voluntarily planned, including necessarily hearing survey), there are also methods of theme setting not limited to one specific place.

CMF400HA

研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは「持続可能な地域社会の創造」である。特に、環境、経済、社会、文化、公共政策、SDGs など、多様な視点から、21 世紀における地域社会のソーシャルイノベーションについて総合的にアプローチする。また、市民、NPO、地方自治体、企業などの参加と協働に注目する。さらに、「持続可能な地域社会」について学内で探究しながら、高度な「アクティブラーニング」としての地域活動に取り組む。このような挑戦を通して、学生は、大生としての総合的な能力を構築することをめざす。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見を涵養する。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・文章力を涵養する。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。なお、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。グループおよび個人から提出された報告用ペーパーについてはその場でコメントするとともに、後日、必要に応じて、個別に追加コメントを行う。その他、事後的な感想や意見の提出と応答、課題への講評等については、学習支援システムの機能（「お知らせ」[課題]「揭示版」）を活用して行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 6 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 7 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 10 回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 11 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 12 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。

第 13 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 14 回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第 15 回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第 16 回	共通テーマの調査研究	秋学期に行う共通テーマに関する調査研究について確認する。
第 17 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 18 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 19 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 20 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 21 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 22 回	共通テーマの調査研究	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第 23 回	共通テーマの調査研究	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 24 回	共通テーマの最終報告と総括	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 25 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 28 回	1 年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
- ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
- ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

開講時の約 2 週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関する PBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコースの学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will approach synthetically about the social innovation of community in the 21st century from various viewpoints, such as environment, economy, society, culture, public policy, and SDGs. Moreover, we will take notice of participation and collaboration of citizen, NPO, local government, company, etc. Furthermore, we will work on the local activity as advanced "active learning", with exploring "sustainable community" within the campus. The participants in this class shall aim at building the synthetic capability as a university student through such a challenge.

CMF400HA

研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に、SDGs と 21 世紀における地域社会のソーシャルイノベーションに関する学びを基盤として、様々な地域活動を企画し実践する。また学生は、卒業論文を完成させるための調査研究を行う。この研究会の目的は、学生が、社会人として必要な能力の基礎について習得しながら、将来のキャリアイメージを模索することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・ 共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・ 論文作成能力を身につける。
- ・ 問題発見及び分析能力、対応策の立案及び実施能力を涵養する。
- ・ 研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・ プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。グループおよび個人から提出されたペーパーについては、その場でコメントするとともに、後日、必要に応じて、個別に追加コメントを行う。その他、事後的な感想や意見の提出と応答、課題への講評等については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用して行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 6 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 7 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本構想について検討する。
第 10 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施プログラムについて検討する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの工程について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 14 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 15 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。

第 16 回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 17 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言を作成する。
第 18 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 19 回	文献講読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第 20 回	文献講読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第 21 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 22 回	文献講読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第 23 回	映像視聴と討論	共通テーマに関する映像を視聴し議論する。
第 24 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 25 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 28 回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・ 文献の事前学習。
- ・ 地域連携プロジェクトの企画準備。
- ・ 研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

・ 開講時の約 2 週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70 %)、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢 (30 %) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL（問題発見・解決型学習）として、地域実践を企画運営することは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、社会的責任を体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育んでいると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコースに登録した学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will plan and practice the local activity based on learning about SDGs and the social innovation of community in the 21st century. Moreover, students shall conduct research for completing graduation thesis. The purpose of this seminar is for students to search for a future career image, with mastering the basic capability required as a member of society.

SOS400HA

研究会 A

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity

第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes
第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Method	Data Collection / Entry data
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 28 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

David R. Croteau and William D. Hoynes (2015). *Media/Society: Industries, Images, and Audiences* (5th Edition). SAGE Publications.
James W. Potter (2021). *Media Literacy* (10th Edition). SAGE Publications.

John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2018). *Converging Media: A New Introduction to Mass Communication* (6th Edition). Oxford University Press.

Shirley Biagi (2021). *Media/Impact: An Introduction to Mass Media* (12th Edition). CENGAGE Learning.

【成績評価の方法と基準】

1st Semester: In-class participation (20%), a presentation (10%), a take-home exam (10%) and a written assignment (10%). 2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals (10%), a summary of pieces of literature (10%), a group presentation (10%) and a group research paper (20%). Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【その他の重要事項】

This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell'sゼミ B (Human Communication) before.

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

ECN400HA

研究会 A

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2021 年度は、「貧困」がテーマです。途上国のみならず、日本でも近年課題となっている「貧困」について、多面的な理解と今後の解決への展望を考えます。特に新型コロナウイルスの感染が簡単に終息しない現状では「貧困」という問題がこれまで以上に身近に生じる可能性があります。「貧困」をより現実のものとして捉え、その対応について考えておくことが非常に重要だという観点から議論を深めます。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

特に、今年のテーマである「貧困」に関しては、①「貧困」にかかわる基本的な概念を理解すること、②「貧困」の実情（途上国／先進国双方における）について理解すること、③「貧困」と社会の関係について説明できるようになること、④「貧困」の削減手法について理解すること、を重要と位置付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	グループディスカッション 課題 1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	グループディスカッション 課題 2-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	グループディスカッション 課題 3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第 15 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	グループディスカッション 課題 4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 17 回	グループディスカッション 課題 4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 18 回	グループディスカッション 課題 5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 19 回	グループディスカッション 課題 5-2	グループ発表および全体ディスカッション

第 20 回	グループディスカッション 課題 6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 21 回	グループディスカッション 課題 6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	グループディスカッション 課題 7-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 24 回	グループディスカッション 課題 8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 25 回	グループディスカッション 課題 8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 26 回	グループディスカッション 課題 9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 27 回	グループディスカッション 課題 9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介しますが、以下はできるだけ早く読むこと。
 平田 オリザ (著) 「わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か (講談社現代新書) 2012 年
 阿部彩 (著) 「弱者の居場所がない社会——貧困・格差と社会的包摂」 (講談社現代新書) 2011 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (議論への積極的参加や貢献など) (70%)、期末レポート (30%) に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度にオンラインで経験したことを踏まえ、ゼミ生同士のコミュニケーションをさらに深める方法やバリエーションを増やすことに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン/タブレットなどを持参すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This year's seminar is on "poverty". Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea/concept on "poverty", "multidimensional poverty", and "social inclusion" and to nurture their values and attitudes towards an effective measure to reduce/alleviate poverty both in developing countries and developed countries.

SOS400HA

研究会 A

辻 英史

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界と日本の生活保障——社会福祉と市民社会
 グローバル化と新自由主義経済の拡大により日本を含む世界各地で格差社会が進み、多様な生き方が可能になる反面、貧困や孤立の問題が大きくなっていく。

病気や加齢、失業、子育てといったライフイベントのために生活が不安定化してしまった人々を、どのように支え、地域社会やコミュニティに包摂していくのか、それぞれの社会で模索が続いている。

【到達目標】

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に、社会的な弱者の生活を支えるために、どのような試みがおこなわれてきたのかを、それぞれの地域の事情に即して比較して考察します。

今年度は、日本や世界各国におけるさまざまな社会政策・福祉制度について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期はグループワークを積み重ね、その間に文献講義を行う。夏休みには課題図書を設定する。秋学期は課題図書の内容について確認したあと、文献講義に続いてディベートをおこなう。ゼミの前後の時間帯にグループワークやディベートの準備や、研究会修了論文など個別の研究相談のために必要に応じてサブゼミを開講する。 課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明。
第 2 回	概説	ゼミで学ぶ内容について概説し、グループワークの分担を決める。
第 3 回	グループワーク (第 1 回)	グループに分かれて調査する。
第 4 回	グループワーク (第 1 回)	グループに分かれて調査する。
第 5 回	グループ発表 (第 1 回)	グループワークの結果を発表する。
第 6 回	グループ発表 (第 1 回)	グループワークの結果を発表する。
第 7 回	文献講読 (第 1 回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 8 回	文献講読 (第 1 回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 9 回	文献講読 (第 2 回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 10 回	文献講読 (第 2 回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 11 回	グループワーク (第 2 回)	グループワークをおこなう。
第 12 回	グループワーク (第 2 回)	グループワークをおこなう。
第 13 回	グループワーク報告 (第 2 回)	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 14 回	グループワーク報告 (第 2 回)	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 15 回	後半イントロダクション	前半の活動を総括し、後半の課題を整理する。
第 16 回	課題図書報告	夏休みの課題図書について発表する。
第 17 回	課題図書報告	夏休みの課題図書について発表する。
第 18 回	文献講読 (第 3 回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 19 回	文献講読 (第 3 回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 20 回	文献講読 (第 4 回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 21 回	文献講読 (第 4 回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第 22 回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 23 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。

第 24 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 25 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 26 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 27 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 28 回	まとめ・反省	2・3 年生は 1 年間の学習内容を総括し翌年度の学習テーマを決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。
また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、毎回 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

以下のほか、開講時に指示する。
・石塚史樹ほか『福祉国家の転換—連携する労働と福祉』旬報社、2020 年。
・坪洋一『福祉国家』法律文化社、2012 年。橋本俊詔『社会保障入門』ミネルヴァ書房、2019 年。
・堀橋孝文編『どうする日本の福祉政策』ミネルヴァ書房、2020 年。
・田中聡子／志賀信夫編著『福祉再考—実践・政策・運動の現状と可能性』旬報社、2020 年。
・田中拓道『福祉政治史—格差に抗するデモクラシー』勁草書房、2017 年。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論への参加（30 %）、グループワーク、ディベートなどでの貢献（30 %）、秋学期末のレポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。教室で授業をする場合も、Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Seminar on social welfare, social policy and civil society in Japan and other countries

LAW400HA

研究会 A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2021 年度は、英文で書かれたサステイナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times 1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 13 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (1 0)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (1 1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (1 2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (1 3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (1 4)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思えます。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2021 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

LAW400HA

研究会 A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2021年度は、英文で書かれたサステイナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、①4年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、②Japan Times1面の訳、③日経新聞「きょうのことば」の記憶、④米国のPBS放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準1級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の2回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第2回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を2年生のために勉強の仕方等を説明
第3回	春学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第4回	春学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第5回	春学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第6回	春学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第7回	春学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第8回	春学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第9回	春学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第10回	春学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第11回	春学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第12回	春学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第13回	春学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第14回	春学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表、夏合宿課題の説明等
第13回	秋学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第14回	秋学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第15回	秋学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第16回	秋学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第17回	秋学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第18回	秋学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第19回	秋学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第20回	秋学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第21回	秋学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第22回	秋学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第23回	秋学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第24回	秋学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表
第25回	秋学期本ゼミ発表(13)	環境関連の英文CSRに関する発表
第26回	秋学期本ゼミ発表(14)	環境関連の英文CSRに関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準1級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSRに関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思えます。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2021 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

SOC400HA

研究会 A**長峰 登記夫**

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をおとして労働環境を考える。

【到達目標】

本研究会での学習や作業をおとして、学生たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について考える。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 伝統と変化1	日本の雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に焦点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第5回	日本の雇用システム 伝統と変化2	日本の雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に焦点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第6回	日本の雇用システム 伝統と変化3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといってよい。この回ではその特徴についてみていく。
第7回	日本の雇用システムの新たな側面	歴史的にみれば、成果主義的雇用管理（賃金と昇進）は日本の雇用システムのなかの新しい側面といってよい。この回ではそれについて学ぶ。
第8回	日本の雇用システムとジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システムと非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	日本の雇用システムと労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実際をみる。
第11回	日本の雇用システムと労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。原因は何か、それに対して政府や企業はどのような対策を講じているのか等について学ぶ。

発行日：2021/5/1

第 12 回	レポートの途中経過の提示とコメント	学生は 80 % 完成したレポートの途中経過を提示する。レポートの書き方で説明した注意事項にしたがって構成され、書かれているかをチェックし、コメントする。
第 13 回	障がい者の就職支援と雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。
第 14 回	大学生の就職 1（日本の就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 15 回	大学生の就職 2（グローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第 16 回	日本の雇用システムの特徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第 17 回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。
第 18 回	研究の進め方とレポートの書き方	各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。
第 19 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 20 回	学生による研究発表 2	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 21 回	学生による研究発表 3	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 22 回	学生による研究発表 4	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 23 回	学生による研究発表 5	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 24 回	学生による研究発表 6	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 25 回	学生による研究発表 7	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 26 回	レポートの途中経過報告	学生は 80 % 程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。
第 27 回	学生による研究発表 8	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 28 回	完成版レポートの提出	完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣ブックス、2012 年、2310 円。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 各種課題の提出状況、授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点（含出席）等を加味して総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステイナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステイナビリティコース」です。コースについては履修の手引き「7.1 コース概要」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking logically about things and perform them according to a plan.

SOC400HA

研究会 A

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会の（環境）の中で特に「農」「水」「エネルギー」と「人」のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

【到達目標】

第一に、地域社会の「農」「水」「エネルギー」と「人」のかかわり方の実態について学ぶ。第二に、従来の「環境と人」との関係性とは異なった実践に着目し、関連テーマについて社会調査を実施する。具体的には、首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールドにするほか、生活協同組合（生活クラブ生協）の実践に関わりながら、調査研究を行う。この調査を行うことで、一連の社会調査の方法論を学ぶとともに、実践的な研究の方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と並行しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農林業ならびに集落についての現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。大学の行動方針レベルの変更に対応した授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献講読 (1)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献講読 (2)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献講読 (3)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献講読 (4)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献講読 (5)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定 (1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定 (2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査 (1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査 (2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査 (3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査 (4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査 (1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査 (2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第 18 回	各グループにおける調査 (3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 19 回	各グループにおける調査 (4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 20 回	各グループにおける調査 (5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査 (6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査 (7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査 (8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査 (9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査 (10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成 (1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成 (2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読やフィールドワークを課す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』岩波新書（2020 年）
上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書（2018 年）

【参考書】

随時、指定する

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to learn a sociological perspective on the relationship between humans and the environment, especially focusing on agriculture, water, and renewable energy.

This seminar also offers how to create a research design for sociological empirical study and how to write a research paper.

HIS400HA

研究会 A

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境研究

巨大都市・江戸の町にみられる諸相（名所巡り・動物飼育など）を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考え、指定した、あるいは自らの設定した課題を解決する力を養う。そのために、歴史資料の読解、古文書の読解などを行い、実践的な環境史研究を進める。

【到達目標】

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を深めて研究を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会修了論文を提出できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面による演習形式で行う。そのなかで、授業内での発表、課題解決型学習、校外学習を行う。なお、変更が生じた場合は、授業内および学習支援システムの「お知らせ」機能より連絡する。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出されたレポートからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会の目標の周知と環境史研究の方法を学ぶ
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 5 回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第 6 回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 7 回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 8 回	古文書読解①	指定した古文書を読解・分析し、討論を行う
第 9 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 10 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 11 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 12 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 13 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 14 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 15 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う
第 16 回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第 17 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 20 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 21 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 22 回	古文書読解②	指定した古文書を読解・分析し、討論を行う

第 23 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 24 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 25 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 26 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 27 回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 28 回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。配付した歴史史料・古文書を事前に読解・分析する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ発表・個人発表による年間 4 回のレポート提出（1 回当たり 15 %、合計 60 %）、発表の態度・内容（20 %）、平常点（20 %）により総合的に評価する。レポートは word による原稿で提出すること。発表・レポートは研究への取り組み状況と進展状況に応じて、平常点は授業における積極的な関わりの度合いによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Investigates various aspects(e.g.visiting showplaces and feeding animals)of the city of Edo,and we will think about the characteristics of them through literature reviews and field surveys.

MAN400HA

研究会 A

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代企業論、ビジネス歴史、CSR 論 I・II で習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する答えを見出すため、持続可能な社会で求められる企業について考えます。SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics（企業倫理）等のテーマを中心に、サステナブル社会における企業と社会の理想の姿について学びます。

【到達目標】

SDGs や ESG 投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、4 年生は研究会修了論文、2・3 年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、SDGs および ESG 投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは SDGs への取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの ESG 投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 日経ストックリーグ 研究会修了論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール 担当者による報告と全体討議
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告と全体討議
第 7 回	ESG 投資に関する文献 購読①	日経ストックリーグ優秀論文の検討 担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資に関する文献 購読②	日経ストックリーグ優秀論文の検討 担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資に関する文献 購読③	ESG 投資に関する主要な論文の検討 担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告と全体討議
第 11 回	ESG 投資に関する文献 購読④	ESG 投資に関する主要な論文の検討 担当者による報告と全体討議
第 12 回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ グループ中間報告 [1]	これまでの分析結果の報告
第 17 回	研究会修了論文の中間報告 < 1 >	論文テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第 20 回	ストックリーグ活動③ (企業訪問)	企業ヒアリングの結果報告

第 21 回	ストックリーグ グループ中間報告 [2]	ポートフォリオ選定作業の状況報告
第 22 回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリングの結果報告
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリングの結果報告
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリングの結果報告
第 25 回	ストックリーグ グループ中間報告 [3]	ポートフォリオの完成 レポート内容の報告
第 26 回	研究会修了論文の中間報告 < 2 >	論文構成・内容の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート執筆状況の報告
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート完成稿の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業の SDGs 活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs で読み解く責任経営の系譜 - 時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021 年

日本経営協会/長谷川直哉著『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会, 2019 年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂, 2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂, 2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016 年

日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社, 2017 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容

日経ストックリーグレポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出身し、カントリートリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト (CMA)

【Outline and objectives】

This seminar focuses on themes such as SDGs (Sustainable Development Target), Paris Agreement, CSR (Corporate Social Responsibility), Business Ethics and learns the relationship between companies and society in a sustainable society.

LIT400HA

研究会 A

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・正岡子規の書簡、紀行文、評論、随筆等を読み、そこから浮かび上がってくる問題を考える。
- ・子規と交友のあった人々の作品をあわせ読む。
- ・子規たちが受けた近代初期の教育について考える。

【到達目標】

- ・正岡子規を中心にした人々の豊かな人間関係を知る。
- ・俳句、短歌、漢文脈の文献に親しむ。
- ・近代以前の旅の実態について理解を深める。
- ・各自テーマを設定してレポートや論文を執筆し、文章を書く力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・最初の授業で関連する基本文献を紹介する。また本年度の基本テキストを定め、担当箇所を各自に割り当てる。担当者は割り当てられた文章、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。
- ・テキストを輪読する過程で、各自の研究テーマを決め、最終レポートや研究会修了論文の執筆に結びつける。
- ※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
- ※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。
- ※大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	子規山脈	子規についての説明。テキストの説明。参考文献の紹介。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 9 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 10 回	文献講読	テキスト輪読
第 11 回	文献講読	テキスト輪読
第 12 回	文献講読	テキスト輪読
第 13 回	文献講読	テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 23 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 24 回	文献講読	テキスト輪読
第 25 回	文献講読	テキスト輪読
第 26 回	文献講読	テキスト輪読
第 27 回	文献講読	テキスト輪読
第 28 回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
- ・各自に割り当てた基本テキストの担当箇所について、可能な限り調べ、発表の準備をする。
- ・各自テーマを決め、それに関する資料を収集する。
- ・レポートや論文を執筆する。

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容） 70 %
最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the work of Masaoka Shiki.

ART400HA

研究会 A

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、「劇場」について講義・ディスカッションを行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 能・狂言（講義・討論）	1 年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。 能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」・「世話物」・「所作物」について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 2 回	歌舞伎（講義・討論）	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」・「世話物」・「所作物」について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 3 回	文楽（講義・討論）	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第 4 回	伝統芸能のまとめ	伝統芸能各ジャンルの関連性について学びます。話芸にも言及します。
第 5 回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第 6 回	現代演劇 1：翻訳劇の導入から日本の現代劇へ（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 7 回	現代演劇 2：前衛劇・パフォーマンス（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 8 回	現代演劇 3：同時代の日本演劇（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 9 回	民俗芸能（講義・討論）	日本の民俗芸能について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 10 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 11 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 12 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（3）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 13 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（4）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 14 回	春学期の総括	春学期に学んだことを振り返り、ディスカッションを行います。

第 15 回	秋学期オリエンテーション 文献講義・討論（『劇場空間の源流』1）	課題書 2 冊を紹介し『文化政策の展開』各章の担当者を決めます。 文献講義・討論は、『劇場空間の源流』第 1 章「生成する劇場空間」
第 16 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』1）	1. 国の文化政策 2. 自治体文化行政の誕生と行政の文化化
第 17 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』2）	3. 公立文化施設 4. 文化経済学
第 18 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』3）	5. 文化政策飛躍の時代— 1990 年代以降 6. アーツ・マネジメント
第 19 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』4）	7. 多様化する事業主体 8. 多様化する芸術表現
第 20 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』5）	9. アートフェスティバル 10. 場の記憶にこだわるアート
第 21 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』6）	11. 文化による地域再生の時代 (1) — 1990 年代まで 12. 文化による地域再生の時代 (2) — 2000 年代以降
第 22 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』7）	13. 創造経済、創造産業 14. 世界に広がる創造都市政策 15. 創造都市形成へ向けた政策
第 23 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』2）	第 2 章「祭りから歌舞伎小屋へ」
第 24 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』3）	第 3 章「リアルからメタフィジカルへ」
第 25 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』4）	第 4 章「オペラ劇場におけるオーケストラピットの存在感」
第 26 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』5）	第 5 章「活動と呼应する距離感」
第 27 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』6）	第 6 章「日本の劇場創成期」 第 7 章「劇場のモダンデザイン」
第 28 回	総括	2021 年度のゼミを振り返り、講義・文献講読・舞台芸術鑑賞レポートの各項目と相互の関係について、ディスカッションとフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL 等を使用して予習・復習を行ってください。舞台芸術鑑賞レポート・文献講読の予習（発表者はスライドの準備）が重要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田邦弘（2014）『文化政策の展開』学芸出版社
本杉省三（2015）『劇場空間の源流』鹿島出版会

【参考書】

青山昌文（2015）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会
大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社
舞台芸術財団演劇人会議（2005）『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50 %
参加態度、口頭発表（テキスト輪読分と、舞台芸術鑑賞レポートの発表）
【期末レポート】50 %
春学期は、舞台芸術鑑賞レポート
秋学期は、書評レポート（『劇場空間の源流』）

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室での授業です。
Zoom によるリアルタイム型オンラインサブゼミも実施します。頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will discuss regional theatres and performing arts referring to the current Japanese situation of cultural policy and art management.

EVN400HA

研究会 A

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生諸兄が、各自の社会体験などを基本にして関心を有する研究テーマを決め、それについて卒業論文を書くことを目指します。

【到達目標】

4 年生に卒業論文を書くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各人が定めた研究テーマに従って、随時、発表を行い、それについて議論します。

また、ほぼ隔週で書籍を指定します。それを読んで、期日までに書評や要旨、感想などを提出してもらいます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第 2 回	テーマ決め	何に関心があるか
第 3 回	テーマ決め	それは論文になりそうなテーマか
第 4 回	テーマ決め	どのようなデータが入手可能か
第 5 回	テーマ決め	研究は実行可能か
第 6 回	調査開始	データ収集
第 7 回	調査の実施	データ収集 1
第 8 回	調査の実施	データ収集 2
第 9 回	調査の実施	データ収集 3
第 10 回	分析	データ解析
第 11 回	分析	データ解析
第 12 回	分析	データ解析
第 13 回	中間報告準備	データとりまとめ
第 14 回	中間報告	中間報告
第 15 回	テーマの確認	卒業論文が書けそうか
第 16 回	調査の実施	データ収集 4
第 17 回	調査の実施	データ収集 5
第 18 回	分析	データ解析
第 19 回	分析	データ解析
第 20 回	論文執筆	目次案作成
第 21 回	論文執筆	目次案完成
第 22 回	論文執筆	本文執筆
第 23 回	論文執筆	本文執筆
第 24 回	論文執筆	ドラフト完成
第 25 回	論文執筆	ドラフト修正
第 26 回	報告準備	PPT作成
第 27 回	報告	最終報告
第 28 回	論文提出	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 年生は卒業研究を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

指定された図書を読んで記述までにレポートを提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく自己の体験に基づいたテーマにしてください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students who are working adults decide their research themes based on their social experiences. Objective is complete a graduation thesis.

MAN400HA

研究会 A

金藤 正直

配当年度／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィジビリティスタディを通じて、「企業や地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

【到達目標】

経営学や会計学の視点から、企業または地域が今後も持続的に成長するにあたって必要とされるビジネスやその経営手法を論理的に考えながら明らかにしつつ、その結果をわかりやすく、丁寧に説明していく能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①研究グループ（RG）「産業クラスター RG、CSV 事業 RG、再生可能エネルギー・フードロス RG、地域ビジネス RG、エンターテインメントビジネス RG、ヘルスケア事業 RG、ソーシャル・ビジネス（途上国ビジネス）RG」の中の 1 チームに所属し、研究・調査をしていく。

②所属したチームで、研究計画書を作成していく。この計画書をもとに行われる文献（先行研究）の考察やアンケート調査およびヒアリング調査により、研究対象となる企業または地域の現状と課題を明らかにしつつ、その課題への解決策（持続的成長の実現は可能かどうか）も検討していく。

③研究・調査の進捗状況や成果については、異なるチームとの意見交換や中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートまたは研究会修了論文も作成していく。

※各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、大学院生や事業関係者へのプレゼンテーションを始め、学会、インゼミ、企業とのコラボイベント、エコプロなどへの参加、合宿（特別ゼミ）なども予定している。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、チームを作り、その中で各自の 1 年間の目標を検討し、設定する。
第 2 回	研究・調査やその成果報告の方法 (A)	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第 4 回	研究・調査の方向性とその内容に関する検討	各チームで 1 年間の研究・調査の方向性とその内容を検討する。
第 5 回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 6 回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 7 回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 8 回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 9 回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 10 回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 11 回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。

第 12 回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 13 回	研究・調査やその成果報告の方法 (B)	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第 14 回	研究・調査計画書の作成方法	これまでの研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第 15 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (A)	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 16 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (B)	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 17 回	研究・調査に関する映像資料の視聴	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第 18 回	製品・商品の生産・販売店の調査	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 19 回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 20 回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 21 回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 22 回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 23 回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 24 回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 25 回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 26 回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 27 回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。
第 28 回	総括 - 最終報告 -	今年度取り組んだ研究・調査や春学期に作成した計画書（レポートあるいは（小）論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）と報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

チームやそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ①討論への参加（発言内容）（20%）
- ②報告用配布レジュメの内容（20%）
- ③報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ④研究・調査レポート、研究会修了論文（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生の意見や要望などを考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to learn the method of business design for sustainable growth of the region based on literature survey, field survey, and feasibility study.

ENV400HA

研究会 A

松本 倫明

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

最近の活動内容は以下の通りです。2021 年度の全体テーマはゼミ内の話し合いで決めます。

「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。

「文献輪講」（前期）…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC 評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論（STS）の書籍、省庁発行の資料、環境白書を輪講しました。

「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。

「グループワーク」（逐次）…特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。

「報告書」（年度末）…1 年間の成果をまとめた報告書を提出します。4 年生は研究会修了論文（卒論）を提出します。

必要に応じてサブゼミを火曜 6 限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 12 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 13 回	グループワーク発表 グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 16 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第 17 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 28 回	まとめ	1 年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

【参考書】

授業中に指示をします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢（40%）、発表と議論の姿勢（30%）、年度末報告書などの提出物（30%）にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about global warming and related issues.

HSS400HA

研究会 A

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために
ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019 年には 2 万人を割ったが、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション（1）
第 4 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（2）	研究発表とディスカッション（2）
第 5 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（3）	研究発表とディスカッション（3）
第 6 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（4）	研究発表とディスカッション（4）
第 7 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（5）	研究発表とディスカッション（5）
第 8 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（6）	研究発表とディスカッション（6）
第 9 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（7）	研究発表とディスカッション（7）
第 10 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（8）	研究発表とディスカッション（8）

第 11 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (9)	研究発表とディスカッション (9)
第 12 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (10)	研究発表とディスカッション (10)
第 13 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (11)	研究発表とディスカッション (11)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (12)	研究発表とディスカッション (12)
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション (13)
第 18 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (14)	研究発表とディスカッション (14)
第 19 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (15)	研究発表とディスカッション (15)
第 20 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (16)	研究発表とディスカッション (16)
第 21 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (17)	研究発表とディスカッション (17)
第 22 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (18)	研究発表とディスカッション (18)
第 23 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (19)	研究発表とディスカッション (19)
第 24 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (20)	研究発表とディスカッション (20)
第 25 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (21)	研究発表とディスカッション (21)
第 26 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (22)	研究発表とディスカッション (22)
第 27 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (23)	研究発表とディスカッション (23)
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価 (50%)、通常の参加態度 (50%) による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In a stressful contemporary society, many people live with psychiatric disorders. Stress in working environments such as diversification of labor form, overwork and work-life balance issues are increasing. In addition, many people are suffering from lifestyle diseases due to irregular living. There are various barriers for us to live healthily both physically and mentally. Also, in medical care, it is required to perform self-health management by appropriately selecting information to be flooded. This lecture aims at maintaining good health and acquiring knowledge to extend healthy life. Currently, the biggest stress factor in the workplace is human relations. By improving communication skills, speech skills, and discussion skills, students can acquire the ability to maintain good human relations in workplaces.

HSS400HA

研究会 A

宮川 路子

配当年次/単位：2~4 年/4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために
ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019 年には 2 万人を割ったが、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議論進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション (1)
第 4 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2)	研究発表とディスカッション (2)
第 5 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (3)	研究発表とディスカッション (3)
第 6 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (4)	研究発表とディスカッション (4)
第 7 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (5)	研究発表とディスカッション (5)
第 8 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (6)	研究発表とディスカッション (6)
第 9 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (7)	研究発表とディスカッション (7)
第 10 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (8)	研究発表とディスカッション (8)

第 11 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (9)	研究発表とディスカッション (9)
第 12 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (10)	研究発表とディスカッション (10)
第 13 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (11)	研究発表とディスカッション (11)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (12)	研究発表とディスカッション (12)
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション (13)
第 18 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (14)	研究発表とディスカッション (14)
第 19 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (15)	研究発表とディスカッション (15)
第 20 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (16)	研究発表とディスカッション (16)
第 21 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (17)	研究発表とディスカッション (17)
第 22 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (18)	研究発表とディスカッション (18)
第 23 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (19)	研究発表とディスカッション (19)
第 24 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (20)	研究発表とディスカッション (20)
第 25 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (21)	研究発表とディスカッション (21)
第 26 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (22)	研究発表とディスカッション (22)
第 27 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (23)	研究発表とディスカッション (23)
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価 (50%)、通常の参加態度 (50%) による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In a stressful contemporary society, many people live with psychiatric disorders. Stress in working environments such as diversification of labor form, overwork and work-life balance issues are increasing. In addition, many people are suffering from lifestyle diseases due to irregular living. There are various barriers for us to live healthily both physically and mentally. Also, in medical care, it is required to perform self-health management by appropriately selecting information to be flooded. This lecture aims at maintaining good health and acquiring knowledge to extend healthy life. Currently, the biggest stress factor in the workplace is human relations. By improving communication skills, speech skills, and discussion skills, students can acquire the ability to maintain good human relations in workplaces.

ENV400HA

研究会 A

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える ―人間活動の特性理解から社会を考える―

「人」と「環境」の関連性について幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を学びます。特に社会に内在する廃棄物、リサイクルあるいはエネルギーなどに関する諸問題を人間活動の特徴とともに考察します。テーマ例としては、CO₂ の排出と温暖化対策、プラスチックの排出と海洋汚染対策、再生可能エネルギーの可能性と政策、などがあります。現在千代田区が進めている地球温暖化対策とその有効性についても考察する予定です。科学と技術の進歩とはなにか？ という視点を含めて、科学技術と社会の関連性を考えることも重要なテーマです。この他、参加者が関心を持って持っている内容についてもテーマとして取り上げる予定です。

【到達目標】

様々な社会的問題に対する政策について、地球という自然システムの概念を含めて多角的に考える力を身につけることを目標としています。各種資料・文献等の読み合わせや調査および討論などを体験します。これを通して、受講者は自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）を行うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業は教室での対面方式または Zoom によるリアルタイムでのオンラインで行う予定です。実際の授業では、まず著書、文献等の読み合わせを行うことから開始します。これにより本研究会で必要としている基礎事項について修得し、研究を遂行するための準備を行います。また、特定のテーマを定め、それに関連する内容について様々な角度から話し合いを行うことにより、問題を深く掘り下げます。これにより環境問題の特徴や性質を把握することができ、様々な分野の内容を結びつけながら問題解決へ向けて考えようとするセンスが養われます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間の授業計画についての打ち合わせを行う。
第 2 回	導入ディスカッション (文献購読)	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 3 回	導入ディスカッション (資料分析)	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 4 回	導入ディスカッション (討論)	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 5 回	基礎的事項の確認 (資料収集)	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 6 回	基礎的事項の確認 (資料の精査)	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 7 回	基礎的事項の確認 (討論)	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 8 回	共通テーマによる研究と報告 (テーマ選定)	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 9 回	共通テーマによる研究と報告 (分析・評価手法の検討)	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 10 回	共通テーマによる研究と報告 (調査の実施)	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 11 回	共通テーマによる研究と報告 (資料作成)	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 12 回	共通テーマによる研究と報告 (報告準備)	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 13 回	共通テーマによる研究と報告 (報告と検討)	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 14 回	共通テーマによる研究の総括 (総合討論)	研究のまとめと総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	テーマ選定のための検討を行う。

第 16 回	個人研究の報告と検討 (テーマ報告と討論)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 17 回	個人研究の報告と検討 (調査の実施)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 18 回	個人研究の報告と検討 (報告と検討)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 19 回	卒論の中間報告 (論点整理)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 20 回	卒論の中間報告 (課題整理)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 21 回	卒論の中間報告 (報告と討論)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 22 回	個人研究の報告と検討 (分析・評価手法の確認)	個人研究の調査内容について報告する。
第 23 回	個人研究の報告と検討 (報告資料の作成)	個人研究の調査内容について報告する。
第 24 回	個人研究の報告と検討 (報告)	個人研究の調査内容について報告する。
第 25 回	個人研究の報告と検討 (討論)	個人研究の調査内容について報告する。
第 26 回	卒論の最終報告 (報告)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
第 27 回	卒論の最終報告 (討論)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
第 28 回	卒論の最終報告 (総合討論)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としています。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。このほかグループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト (教科書)】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性、レポートの提出状況 (充実度) など 100 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのための PC などは各自用意してください。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: Discussion about environmental problems from a viewpoint of the technology evolution

In this seminar we consider human being and environmental problems caused by a result of the evolution of science and technology in our society. The meaning of the "progress" of technology is inquired here. We mainly discuss both of merits and faults for technologies recently developed. Policy studies are introduced here. In the spring semester, discussion with common themes will be mainly held for all members of this seminar. Result of individual research will be reported in the autumn semester. Students should examine practical instances of technology expanded in society and its influence to our living beforehand. In class, they report prepared contents including their own opinions and suggestion. Discussion will be made by all of participants.

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりを視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力 (プレゼンテーション/レポート能力)
- ③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力 (コミュニケーション能力)
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力 (論理的思考)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 : グループ研究	事前学習
第 3 回	テーマ 1 : グループ研究	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 : グループ研究	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 : グループ研究	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 : グループ研究	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 : グループ研究	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 : グループ研究	事前学習
第 9 回	テーマ 2 : グループ研究	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 : グループ研究	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 : グループ研究	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 : グループ研究	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 : グループ研究	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 : ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 : ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 : ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 : ディベート 4	グループ討議

第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行っていただきます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加していただきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

GEO400HA

研究会 B

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然災害のすがたは、災害をもたらす自然現象（地震や豪雨など）、土地条件（ゆれやすさや浸水しやすさなど）、人間社会の備え（ハード面からソフト面まで）など、さまざまな側面によって決まります。本研究会では、自然災害と防災を取り巻く話題を、主に自然地理学的な観点から考えていきます。

【到達目標】

自然災害と防災について、災害をもたらす自然現象、土地条件、人間社会の備えなどの諸側面から具体的に説明できる。調査法や発表法を身につける。地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献講義を中心とし、時の話題の紹介やグループ研究などにも取り組みます。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。自然災害と防災にかかわる話題を中心に扱います。グループ研究のテーマは、研究会をすすめる中で学生のみなさんと相談しながら検討していきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明
第2回	講義	文献等検索法説明、論文の作成法・発表法説明
第3回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第4回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第5回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第6回	課題演習	机上作業
第7回	野外実習	フィールド巡検
第8回	文献講読	意見交換
第9回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第10回	文献講読	意見交換
第11回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第12回	文献講読	意見交換
第13回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第14回	まとめ	春学期のまとめ
第15回	ガイダンス	趣旨説明、文献等検索法説明、論文の作成法・発表法説明
第16回	グループ研究	テーマや地域の設定
第17回	課題演習	机上作業
第18回	野外実習	フィールド巡検
第19回	文献講読	意見交換
第20回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第21回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第22回	グループ研究	発表、質疑応答・討論
第23回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第24回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第25回	グループ研究	発表、質疑応答・討論
第26回	文献講読	意見交換
第27回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第28回	グループ研究	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）。基準は研究会における取り組みの状況や到達目標の達成度等です。

【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Natural disasters result from various factors such as natural phenomena that cause disasters (earthquake, heavy rain, and so on), topographic environment at each area (vulnerability for ground motion, flooding, and so on) and disaster management in each human society (from social infrastructures to human behaviors). We examine topics surrounding natural disasters and their mitigation, based on physical-geographic approaches.

SOS400HA

研究会 B

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際平和の追求	ガイダンス
第 2 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 3 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 4 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 5 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 6 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 7 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 8 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 9 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 10 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 11 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 12 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 13 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 14 回	国際平和の追求	まとめと討論
第 15 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 16 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 17 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 18 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 19 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 20 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 21 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 22 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 23 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 24 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 25 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 26 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 27 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 28 回	国際平和の追求	まとめと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。
繫田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

発表：30 %
議論への参加：30 %
期末レポート：30 %
ゼミ運営への貢献：10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要な PC、機器使用のための鍵等を用意すること。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

TRS400HA

研究会 A

梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」（訪問先＝八重山諸島）での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

【到達目標】

「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業計画」に示すように、教室では同学年の共同作業（共同研究発表の準備）や個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換など、グループワークが中心となります。春学期は主として、夏休みに実施する沖縄離島ゼミ合宿の事前学習、秋学期は主として、合宿の成果をまとめる共同作業を行います。

なお、大学の行動方針「レベル1」の場合は毎週、教室で対面授業を行う予定ですが、感染状況によって変更になる場合もあります。事前の学習支援システム等を通じたお知らせにより確認してください。

また、沖縄離島合宿は、感染状況によっては21年度春休み（22年3月）に延期する可能性があり、その場合の春学期・秋学期の計画については、授業開始時に説明します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	沖縄・八重山離島についてのガイダンス	合宿で訪問する地域について概観的な予備学習
第3回	導入課題の小発表（グループワーク）	竹富島を訪ねる旅を想定した自主企画（日帰り／1泊）
第4回	講義とグループワーク①	竹富島の集落景観（有形部分）の価値Ⅰ
第5回	講義とグループワーク②	伝統文化継承と「観光」の両立 その経緯
第6回	講義とグループワーク③	島の針路選択の成功
第7回	講義とグループワーク④	集落景観の価値Ⅱ（無形部分） 祭事・行事の意義など
第8回	講義とグループワーク⑤	「うづくみの心」と観光文化（第2回からのまとめ）
第9回	講義とグループワーク⑥	竹富島の「循環する自然」に即した生活文化
第10回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて／合宿のグループ分け
第11回	講義とグループワーク⑦	石垣島白保集落について 概観
第12回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動について—竹富島との共通点・相違島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第13回	夏合宿の打ち合わせ①	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク
第14回	夏合宿の打ち合わせ②	合宿を振り返り、その成果をまとめたポスター作成（ゼミ相談会用）と共同発表に向けた打ち合わせ
第15回	秋学期オリエンテーション	構成（コンテンツ）、見出し、解説文、写真選定等
第16回	共同作業①（ポスター作成）	小グループ毎に、前回の細部をつめる
第17回	共同作業②（ポスター作成）	
第18回	共同作業③（ポスター完成）	ゼミ相談会のポイント打ち合わせ

第 19 回	共同作業④ (共同プレゼンの準備)	ポスター作業の取獲をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第 20 回	共同作業⑤ (共同プレゼンの準備)	前日に続いてポスター作業の取獲をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第 21 回	共同作業⑥ (共同プレゼンの準備)	レジュメ完成
第 22 回	共同作業⑦ (共同プレゼンの準備)	プレゼン予行練習
第 23 回	個人研究発表①(学年末論文作成の準備)	個別に合宿の成果を発表。1人20以内で1回2~3人程度。第1グループ(例)伝統的な食文化と健康
第 24 回	個人研究発表②(学年末論文作成の準備)	第2グループ(例)「住」の景観と連帯感・共同規範
第 25 回	個人研究発表③(学年末論文作成の準備)	第3グループ(例)祭事・芸能と共同体の規範、絆
第 26 回	個人研究発表④(学年末論文作成の準備)	第4グループ(例)伝統を活かすツーリズムと、破壊する観光開発(リゾート問題)
第 27 回	2年生共同発表	3・4年生も参加、聴講
第 28 回	個別論文指導	グループワークを行う中で、一人一人を呼んで教員がアドバイス

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集(主に春学期)。授業内(教室)以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65%、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35%。

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に合った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声か、定評としてあります。
・学部フィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・「環境表象論ⅠⅡ」を未履修の人は、今年度休講のため、次年度に受講してください。
・この金曜4限研究会は2年の新規参加者が履修登録対象になります。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: "Cultural landscape" of the sea and remote islands and ecotourism
Based on the concept of "cultural landscape", the possibility of ecological region formation and human formation making full use of the isolated natural and cultural assets of remote islands and beaches, Japanese ecotourism, tourism culture, eco-museum etc. perspective While linking, we conduct case studies taking advantage of surveys and experiences at "Okinawa island seminar camp" (Yaeyama Islands) where we plan and implement during the summer vacation.

CMF400HA

研究会 B

ESTHER STOCKWELL

配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

* Human Communication *

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第2回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第3回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第4回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第5回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第6回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第7回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第8回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第9回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第10回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第11回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay

第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper	<p>[Outline and objectives] Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.</p>
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques	
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.	
第 15 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication	
第 16 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships	
第 17 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships	
第 18 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups	
第 19 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups	
第 20 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture	
第 21 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication	
第 22 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network	
第 23 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication	
第 24 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process	
第 25 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects	
第 26 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis	
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis	
第 28 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations	

[授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）]

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

[テキスト（教科書）]

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

[参考書]

Adler, R., & Rodman, G. (2021). *Understanding Human Communication* (14th Edition). New York: Oxford.

Joseph A. DeVito (2018). *Human Communication: The Basic Course* (14th Edition). Pearson.

Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2021). *Human Communication* (7th Edition). Boston: McGraw Hill.

[成績評価の方法と基準]

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes. Assessment will consist of in-class participation (forum) (30%), a presentation (20%), a take-home exam (20%) and a written assignment(30%). Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

[学生の意見等からの気づき]

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

[実務経験のある教員による授業]

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

ECN400HA

研究会 B

武貞 稔彦, 竹本 研史

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2021 年度は、私たちが当たり前のものとしている、「国家、社会、共同体」について考えます。他者との共生を前提とし、国内外を問わず社会における格差/不平等について考えることが持続可能な社会の構築には必要です。特に新型コロナウイルスの感染拡大を経験し、「ソーシャル・ディスタンス」が求められた私たちは、個人と社会の関係について考えるべき点が多々あることに改めて気づいたのではないのでしょうか。社会と類似の概念に捉えられがちな国家や共同体についても、あらためてその意義を問い直す必要が未来の社会を考える上で必要となるでしょう。

【到達目標】

本研究では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像/構想できるようになることを目標とします。

特に今年度のテーマに関しては、①「国家」、「社会」、「共同体」の概念とその来歴について理解する、②現実の生活における「国家/社会/共同体」と個々人の関わり（関わる出来事）を抽出し再考する、③よりよい未来のために必要な「国家/社会/共同体」と個人との関係のあり方について何らかの考えや価値観を持つ、ということに重点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	何が「問題」か？	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第 3 回	誰にとって「問題」か？	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第 4 回	グループディスカッション課題 1（「国家/社会/共同体」と「個人」との関係総論）(1)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、これらと個人との関係について意見交換する。(1)
第 5 回	グループディスカッション課題 1（「国家/社会/共同体」と「個人」との関係総論）(2)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、これらと個人との関係について意見交換する。(2)
第 6 回	グループディスカッション課題 1（「国家/社会/共同体」と「個人」との関係総論）(3)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、これらと個人との関係について意見交換する。(3)
第 7 回	グループディスカッション課題 2（日本における「国家/社会/共同体」と「個人」との関係）(1)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(1)
第 8 回	グループディスカッション課題 2（日本における「国家/社会/共同体」と「個人」との関係）(2)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(2)
第 9 回	グループディスカッション課題 3（先進国における「国家/社会/共同体」と「個人」との関係）(1)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(3)

第 10 回	グループディスカッション課題 3（先進国における「国家/社会/共同体」と「個人」との関係）(2)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(4)
第 11 回	グループディスカッション課題 4（途上国における「国家/社会/共同体」と「個人」との関係）(1)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(1)
第 12 回	グループディスカッション課題 4（途上国における「国家/社会/共同体」と「個人」との関係）(2)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(2)
第 13 回	グループディスカッション課題 4（途上国における「国家/社会/共同体」と「個人」との関係）(3)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(3)
第 14 回	「国家/社会/共同体」とは？	春学期の学びの総括を行う。
第 15 回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	「問題」を「解決する」とは？ (1)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第 17 回	「問題」を「解決する」とは？ (2)	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第 18 回	「問題」の捉え方を学ぶ	「国家/社会/共同体」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方フレームングについて学ぶ。
第 19 回	グループディスカッション課題 5（過去における「国家/社会/共同体」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 20 回	グループディスカッション課題 5（過去における「国家/社会/共同体」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 21 回	グループディスカッション課題 6（現代における「国家/社会/共同体」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション課題 6（現代における「国家/社会/共同体」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 23 回	グループディスカッション課題 7（途上国における「国家/社会/共同体」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション課題 7（途上国における「国家/社会/共同体」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 25 回	グループディスカッション課題 8（途上国における「国家/社会/共同体」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション課題 8（途上国における「国家/社会/共同体」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第 27 回	グループディスカッション課題 8（途上国における「国家/社会/共同体」）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第 28 回	年間の学びの総括	「国家/社会/共同体」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介しますが、以下についてはできるだけ早く読んでください。
篠原一（著）「市民の政治学—討議デモクラシーとは何か—」岩波新書 2004 年

【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献（70%）、期末レポート（30%）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍で行ったオンラインゼミの経験も踏まえ、ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを確保すること、個々人の成長の確認方法について工夫を加えたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【実務経験のある教員による授業】

担当者（のうち1名）は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、貧困削減や格差是正のための支援の経験を通じて得られた「国家／社会／共同体」に関する知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This year's seminar is on "State, Society and Community." To understand these concepts correctly and think about the relationship between individual and society is essential to create sustainable future society, especially after the Covid-19 pandemic. Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic concept and function of "state, society, and community" and to nurture their values and attitudes towards the better relationship between society and individual.

SOC400HA

研究会 B

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとらして労働環境を考える。

【到達目標】

前期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。後期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をとらして、私たちが卒業後就職してからかかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。後期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、前期と後期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について考える。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 1(終身雇用)	日本的雇用システムの特徴について学ぶ。この回では、とくにいわゆる終身雇用に焦点を当て、その歴史的变化を見ていく。
第5回	日本の雇用システム 2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム 3(企業内組合)	日本的雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいが等についてみていく。
第7回	日本の雇用システム 4(成果主義的雇用管理)	日本的雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム 5(雇用とジェンダー)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのか等について学ぶ。
第9回	日本の雇用システム 6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間 1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。

第 11 回	仕事と労働時間 2 (長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。原因は何か、それに対して政府や企業はどのような対策を講じているのか等について学ぶ。
第 12 回	レポートの途中経過の提示とコメント	学生は 80 % 完成したレポートの途中経過を提示する。レポートの書き方で説明した注意事項にしたがって構成され、書かれているかをチェックし、コメントする。
第 13 回	障がい者の就職支援と雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。
第 14 回	レポート提出とチェック	最終レポートの提出とチェック
第 15 回	大学生の就職 1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 16 回	大学生の就職 2 (大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等とおして最新の情報を確認する。
第 17 回	前期学習の復習 1 (日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第 18 回	前期学習の復習 2 (日本の雇用の新たな流れ)	日本的雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第 19 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 20 回	学生による研究発表 2	学生による発表と質疑応答
第 21 回	学生による研究発表 3	学生による発表と質疑応答
第 22 回	学生による研究発表 4	学生による発表と質疑応答
第 23 回	学生による研究発表 5	学生による発表と質疑応答
第 24 回	学生による研究発表 6	学生による発表と質疑応答
第 25 回	学生による研究発表 7	学生による発表と質疑応答
第 26 回	学生による研究発表 8	学生による発表と質疑応答
第 27 回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第 28 回	レポート提出	最終レポートの提出とチェック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、後期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるよう準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

前期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 (改訂版)』有斐閣ブックス、2012 年、2310 円。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点 (含出席) 等を加味して総合的に行う (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生が期限内に指示された作業 (レジュメ作成や報告、レポート作成等) を終えられるよう、指導する。

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステイナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステイナビリティコース」です。コースについては履修の手引き「7.1 コース概要」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking logically about things and perform them according to a plan.

HIS400HA

研究会 B

根崎 光男

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近世日本の地域環境について、地域の歴史を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考える。そのために、歴史史料の読解、古文書の読解、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を深める。

【到達目標】

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を深めて研究を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会レポートを提出できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式による対面授業を行う。そのなかで、授業内での発表、課題解決型学習、校外学習を行う。なお、変更が生じた場合は、授業内および学習支援システムの「お知らせ」機能により連絡する。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出されたレポートからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明とゼミの進め方の確認を行う。
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 4 回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第 5 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 6 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 7 回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第 8 回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第 9 回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第 10 回	古文書読解①	指定した古文書を解説・分析し、ディスカッションを行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	中間発表の総括と課題の検討	中間発表を総括し、新しい課題について意見交換する。
第 15 回	グループの研究テーマの確認	グループ学習の研究テーマを確認し、秋学期の課題を明確にする。
第 16 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 17 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 18 回	史料読解⑦	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 19 回	史料読解⑧	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 20 回	古文書読解②	指定した古文書を解説・分析し、ディスカッションを行う。
第 21 回	史料読解⑨	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 22 回	特定テーマグループ研究発表①	設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。

第 23 回	特定テーマグループ研究発表②	設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第 24 回	古文書解説③	指定した古文書を解説・分析し、ディスカッションを行う。
第 25 回	特定テーマ研究発表①	各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 26 回	特定テーマ研究発表②	各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 27 回	特定テーマ研究発表③	各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 28 回	特定テーマ研究発表④	各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
配付した歴史史料・古文書を事前に解説・分析する。
グループ・個人の研究テーマにかかわる文献収集・分析を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ発表・個人発表による年間 4 回のレポート提出（1 回当たり 15 %、合計 60 %）、発表の態度・内容（20 %）、平常点（20 %）により総合的に評価する。レポートは word による原稿で提出すること。発表・レポートは研究への取り組み状況と進展状況に応じて、また平常点は授業における積極的な関わりの度合いに応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Examines the history of the region, and explores the characteristics of the regional environment in the early modern period of Japan through literature reviews and field surveys.

MAN400HA

研究会 B

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、企業価値とは何かをテーマに、SDGs、CSR、統合思考、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG 投資（責任投資）など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値について学びます。

【到達目標】

証券投資理論、SRI（社会的責任等）、ESG 投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実証的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス スケジュール	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	日経ストックリーグ サステナビリティ経営に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	サステナビリティ経営に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	サステナビリティ経営に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	サステナビリティ経営に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	日経ストックリーグ 投資テーマの報告と討議 [1]	テーマの方向性と問題意識についての報告と全体討議
第 7 回	コーポレートガバナンスに関する基本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第 8 回	デジタルトランスフォーメーションに関する基本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第 9 回	経営戦略論に関する基本文献の購読	担当者による報告と全体討議
第 10 回	日経ストックリーグ 投資テーマの報告と討議 [2]	テーマに基づく分析手法の報告と全体討議
第 11 回	証券投資論に関する基本文献の購読①	担当者による報告と全体討議
第 12 回	証券投資論に関する基本文献の購読②	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析に関する基本文献の購読①	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析に関する基本文献の購読②	担当者による報告と全体討議
第 15 回	日経ストックリーグ グループ活動報告①	ファンドテーマ決定企業の調査手法・調査スケジュールの報告
第 16 回	日経ストックリーグ グループ活動報告②	定量分析の結果報告と全体討議
第 17 回	日経ストックリーグ グループ活動報告③	定性分析の結果報告と全体討議
第 18 回	企業ヒアリング報告①	投資対象企業に対するヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 19 回	企業ヒアリング報告②	投資対象企業に対するヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 20 回	企業ヒアリング報告③	投資対象企業に対するヒアリング調査の結果報告と全体討議

第 21 回	日経ストックリーグ グループ活動報告④	投資ユニバースの報告と全体討議
第 22 回	企業ヒアリング報告④	投資対象企業に対するヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 23 回	企業ヒアリング報告⑤	投資対象企業に対するヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 24 回	日経ストックリーグ グループ活動報告⑤	ポートフォリオ企業の報告と全体討議
第 25 回	日経ストックリーグ グループ活動報告⑥	レポートのフレームワークの報告と全体討議
第 26 回	他大学とのインターゼミ の発表準備①	発表内容の説明と全体討議
第 27 回	他大学とのインターゼミ の発表準備②	発表内容の説明と全体討議
第 28 回	レポート完成稿の発表	完成したレポートの内容説明と全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業の SDGs 活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs で読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021 年

日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会, 2019 年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂, 2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂, 2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016 年

日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社, 2017 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容

レポート（70%）日経ストックリーグレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出向し、カントリリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline and objectives】

In this seminar we will learn the importance of non-financial information of corporate activities such as SDGs, CSR, integrated thinking, stewardship code, corporate governance code, ESG investment (responsible investment). In addition, we will discuss the corporate image and corporate value required in a sustainable society.

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション/レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
 - ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
 - ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
 - ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます
- また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1：グループ研究	事前学習
第 3 回	テーマ 1：グループ研究	グループ討議
第 4 回	テーマ 1：グループ研究	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1：グループ研究	グループ討議
第 6 回	テーマ 1：グループ研究	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1：グループ研究	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2：グループ研究	事前学習
第 9 回	テーマ 2：グループ研究	グループ討議
第 10 回	テーマ 2：グループ研究	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2：グループ研究	グループ討議
第 12 回	テーマ 2：グループ研究	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2：グループ研究	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3：ディベート 4	グループ討議

第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

MAN400HA

研究会 B

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

なお、この授業は、対面授業として実施される予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第2回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第3回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第4回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第5回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第6回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第7回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第8回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第9回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第10回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第11回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第12回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第13回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第14回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997年）、配布プリント。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績は、小テストの合計点（70%）と班による発表評価（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起草してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要となる事項を書き込むといった説明を行うことができる。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.

ENV400HA

研究会 B

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国が直面する環境問題の実態を知り、その解決の方法を考える。

【到達目標】

- ・中国の環境問題について理解を深める。
- ・中国の環境問題の解決のために行動する人々の活動状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の時間に使用する基本テキストについて説明する。その上で、参加者に担当箇所を割り振る。担当者はテキストを精読して、問題点を把握し、他の文献等に当たって可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論を行なう。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストについて	基本テキスト及び関連資料の説明。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 10 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 11 回	文献講読	テキスト輪読
第 12 回	文献講読	テキスト輪読
第 13 回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第 14 回	総合討論	研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・テキストの該当箇所を下読みし、議論の種を見つけておく。
- ・担当者は担当箇所に関して、可能な限り調べ、レジメを作成する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業の進行に合わせて、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・発表） 70 %

最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目につき該当なし。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Chinese environmental problems.

MAN400HA

研究会 B

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、自治体、民間企業、区民の立場から、千代田区における循環型社会システムの現状や課題を明らかにし、また、その課題への対応策を経営学や会計学の視点から検討し、最適なシステムモデルを提案することを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、経営学や会計学の視点から、千代田区で発生する廃棄物や温室効果ガスの削減を推進する循環型社会システムモデルを検討する。これを通じて、企業や地域における経営の基礎知識、分析能力、論理的思考など、社会で活躍していくための基礎力を身につけていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①学習チームを作って、経営学と会計学の基礎基本（ビジネスモデルの構築方法に関する内容）を学習していく。

②学習後、新たに研究チーム（今年度は、古紙、プラスチック、ビン・カン・ペットボトル、食品ロスの4チーム）を作って、千代田区における循環型社会システムの現状や課題を検討する。

③学んだこと（①）や調べたこと（②）をもとに、千代田区に対して最適なシステムモデルを提案する。なお、必要に応じて、新たな文献の考察や、関係者へのアンケート調査やヒアリング調査も実施していく。

④①から③の成果をもとに、子供から大人までが楽しみながら環境意識を高めていくための教育開発（教材やビジネスゲームの開発）を行う。

⑤①から④の成果については、中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートも作成していく。

※ゼミでは、各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、千代田区関連のイベントや委員会を始め、学会、インゼミ、企業イベント、エコプロなどへの参加も予定している。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、各自1年間の目標を検討し、設定してもらう。
第2回	研究・調査のための諸文献の分析方法（A）	テキストや他の著書を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第3回	研究・調査のための諸文献の分析方法（B）	論文や報告書などを用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第4回	諸文献の分析内容の報告・議論①	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第5回	諸文献の分析内容の報告・議論②	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第6回	諸文献の分析内容の報告・議論③	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第7回	諸文献の分析内容の報告・議論④	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第8回	研究・調査テーマの選定・検討方法	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）の選定・検討方法を説明するとともに、実際にその事業を選定し、検討していく作業も行う。
第9回	研究・調査テーマの分析方法	第7回までの講義内容に基づいて、第8回で選定・検討した研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析していくための方法を説明する。
第10回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第11回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。

第12回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第13回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第14回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第15回	研究・調査に関する報告会（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論する。
第16回	研究・調査に関する報告会（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第17回	現地調査の方法（A）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）の方法を説明する。
第18回	現地調査の方法（B）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）のための調査票の作成方法を説明するとともに、実際に調査票の作成作業も行う。
第19回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-1	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第20回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-2	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第21回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-3	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第22回	製品・商品の生産・販売店の調査（A）	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第23回	製品・商品の生産・販売店の調査（B）	第22回で調査した結果を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第24回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑥	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第25回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑦	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第26回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑧	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第27回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑨	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第28回	総括 研究・調査テーマの検討内容の整理	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成されるレポートに活かしていく方法を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）と報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

チームやそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。
・討論への参加（発言内容）（20%）
・報告用配布レジュメの内容（20%）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
・研究・調査レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

全てのコースが対象

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to learn the methodology of circular business design for sustainable growth of Chiyoda ward based on the literature survey and the field survey.

CUA400HA

研究会 B

高橋 五月

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bゼミのテーマは「文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成する。

【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4) 先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第 2 回	エスノグラフィー入門 (1)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 3 回	エスノグラフィー入門 (2)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 4 回	エスノグラフィー入門 (3)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 5 回	エスノグラフィー入門 (4)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 6 回	エスノグラフィー入門 (5)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 7 回	エスノグラフィー入門 (6)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 8 回	エスノグラフィー入門 (7)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 9 回	エスノグラフィー入門 (8)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 10 回	エスノグラフィー入門 (9)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 11 回	エスノグラフィー入門 (10)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 12 回	エスノグラフィー入門 (11)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 13 回	エスノグラフィー入門 (12)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる

第 14 回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を 発表、提出する。
第 15 回	ガイダンス	後期の進め方についての説明
第 16 回	調査研究の中間報告 (1)	フィールドワークの進み具合、残りの 調査内容について発表し、討論する
第 17 回	調査研究の中間報告 (2)	フィールドワークの進み具合、残りの 調査内容について発表し、討論する
第 18 回	調査研究の中間報告 (3)	フィールドワークの進み具合、残りの 調査内容について発表し、討論する
第 19 回	調査研究の中間報告 (4)	フィールドワークの進み具合、残りの 調査内容について発表し、討論する
第 20 回	エスノグラフィー分析 (1)	関連先行研究文献を講読し、データの 分析方法について学びながら、各自が フィールドワークで得たデータを分析し、 発表・討論を交えながら分析内容を 洗練する
第 21 回	エスノグラフィー分析 (2)	参考書を講読し、データの分析方法に ついて学びながら、各自がフィールド ワークで得たデータを分析し、発表・ 討論を交えながら分析内容を洗練する
第 22 回	エスノグラフィー分析 (3)	参考書を講読し、データの分析方法に ついて学びながら、各自がフィールド ワークで得たデータを分析し、発表・ 討論を交えながら分析内容を洗練する
第 23 回	エスノグラフィー分析 (4)	参考書を講読し、データの分析方法に ついて学びながら、各自がフィールド ワークで得たデータを分析し、発表・ 討論を交えながら分析内容を洗練する
第 24 回	エスノグラフィー分析 (5)	参考書を講読し、データの分析方法に ついて学びながら、各自がフィールド ワークで得たデータを分析し、発表・ 討論を交えながら分析内容を洗練する
第 25 回	エスノグラフィー分析 (6)	参考書を講読し、データの分析方法に ついて学びながら、各自がフィールド ワークで得たデータを分析し、発表・ 討論を交えながら分析内容を洗練する
第 26 回	研究成果の発表 (1)	調査論文を発表し、討論する
第 27 回	研究成果の発表 (2)	調査論文を発表し、討論する
第 28 回	研究成果の発表 (3)	調査論文を発表し、討論する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。調査準備とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究テーマに関連する先行研究文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社 (2010)

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加 (20%)、文献感想文 (20%)、文献発表 (20%)、研究論文 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

現地調査を自ら計画して遂行するのは苦労も多いですが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

【学生が準備すべき機器他】

高橋ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

どのコースの学生でも履修可能

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a seminar course, which is designed to learn basic knowledge of ethnographic research methods and writing.

CUA400HA

研究会 A

高橋 五月

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Aゼミのテーマは「文化人類学の視点から文化を探る」です。文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自ら興味のあるテーマを選択し、エスノグラフィーを用いたフィールドワークを行なう間を探索し、卒業論文にまとめます。

【到達目標】

- 1) 先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) 現地調査を通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
- 4) エスノグラフィックな視点と思考を磨き、普段「当たり前」として過ごされてしまう物事に埋め込まれている複雑な文化的側面に面白さを見出し、「問い」を組み立てるスキルを養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生の卒論研究テーマに関連する先行研究を講読と意見交換をしながら、エスノグラフィーと文化人類学的理論についての理解を深める。また、学生は各自で卒論研究のフィールドワークを引き続き実行すると同時に、先行研究の講読と意見交換を参考にしながら卒論研究での理論的議論の発展に努める。また、ゼミでは各自の卒論研究の経過を報告し、他学生や教員からのコメントや質問を随時卒論執筆に反映させる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミの進め方、課題についての説明。文献講読の司会担当決め。
第 2 回	本年度の卒論研究計画の発表 (1)	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 3 回	本年度の卒論研究計画の発表 (2)	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 4 回	先行研究の講読 (1)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 5 回	先行研究の講読 (2)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 6 回	先行研究の講読 (3)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 7 回	先行研究の講読 (4)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 8 回	先行研究の講読 (5)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 9 回	先行研究の講読 (6)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 10 回	先行研究の講読 (7)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 11 回	先行研究の講読 (8)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 12 回	先行研究の講読 (9)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 13 回	先行研究の講読 (10)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 14 回	前期のまとめ	期末課題の提出、発表。中間発表の順番決め。
第 15 回	卒論研究中間発表 (1)	卒論研究の中間発表
第 16 回	卒論研究中間発表 (2)	卒論研究の中間発表

第 17 回	卒論研究中間発表 (3)	卒論研究の中間発表
第 18 回	卒論研究中間発表 (4)	卒論研究の中間発表
第 19 回	先行研究の講読 (1 1)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 20 回	先行研究の講読 (1 2)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 21 回	先行研究の講読 (1 3)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 22 回	先行研究の講読 (1 4)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 23 回	先行研究の講読 (1 5)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 24 回	先行研究の講読 (1 6)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 25 回	先行研究の講読 (1 7)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 26 回	先行研究の講読 (1 8)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 27 回	卒論発表 (1)	卒論提出予定者による研究成果発表
第 28 回	卒論発表 (2)	卒論提出予定者による研究成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、文献発表（20%）、課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

グループワークなども取り入れながら、今後も学生同士で意見交換できる環境を積極的にサポートしていきたいと思っております。

【学生が準備すべき機器他】

高橋ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a seminar course, which is designed for students to prepare for their senior theses.

PHL400HA

研究会 A

竹本 研史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の問題を考察するために必要な、自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティといった諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきた。本研究会では、ヨーロッパや近現代日本の文化や社会について、必要な文献講読や芸術作品の分析を通じて、上記諸概念に関する歴史的議論の内容と背景や表象のあり方などを理解し、それらの現代社会における意義を考察することを目標としている。

2021 年度は「文化とは何か?」をテーマとする。

【到達目標】

(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」や「社会」、「民主主義」をはじめとする諸概念それ自体が、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。

(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) ヨーロッパや近現代日本の文化や社会に関する文献の輪読+個人研究発表。

(2) 学期に 1 回、事前学習のうえ、映画館・美術館・博物館、劇場、コンサート・ホールなどでプチ FS。

(3) ゼミ合宿（夏休みか春休み）。

(2) と (3) については、コロナ禍があげたらという条件のもとでの設定である。学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内およびZoomを用いた面談でフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、および各人の 1 年間の研究スケジュールの確認
第 2 回	テキストの精読 (1)	文化に関する基礎的文献の講読 (1)
第 3 回	テキストの精読 (2)	文化に関する基礎的文献の講読 (2)
第 4 回	テキストの精読 (3)	文化に関する基礎的文献の講読 (3)
第 5 回	テキストの精読 (4)	文化に関する基礎的文献の講読 (4)
第 6 回	テキストの精読 (5)	文化に関する基礎的文献の講読 (5)
第 7 回	テキストの精読 (6)	文化に関する基礎的文献の講読 (6)
第 8 回	テキストの精読 (7)	文化や社会に関する古典の精読 (2)
第 9 回	テキストの精読 (8)	文化や社会に関する古典の精読 (2)
第 10 回	映像分析 (1)	社会を描いた映像作品の分析と議論 (1)
第 11 回	映像分析 (2)	社会を描いた映像作品の分析と議論 (2)
第 12 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (1)	4 年生を対象とした卒論中間発表 (前編)
第 13 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (2)	4 年生を対象とした卒論中間発表 (中編)
第 14 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (3)	4 年生を対象とした卒論中間発表 (後編)
第 15 回	テキストの精読 (9)	文化や社会に関する古典の精読 (3)
第 16 回	テキストの精読 (10)	文化や社会に関する古典の精読 (4)
第 17 回	テキストの精読 (11)	文化や社会に関する古典の精読 (5)
第 18 回	テキストの精読 (12)	文化や社会に関する古典の精読 (6)
第 19 回	プチ FS 事前学習会	プチ FS (映画館・美術館・コンサートホールなどを訪問し作品鑑賞) に必要な予備知識について学生が発表
第 20 回	2、3 年生研究構想発表 (1)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (1)
第 21 回	2、3 年生研究構想発表 (2)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (2)
第 22 回	2、3 年生研究構想発表 (3)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (3)
第 23 回	2、3 年生研究構想発表 (4)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (4)

第 24 回	2、3 年生研究構想発表 (5)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (5)
第 25 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (1)	研究会修了論文第 2 章までの執筆段階において中間発表を行う (前編)
第 26 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (2)	研究会修了論文第 2 章までの執筆段階において中間発表を行う (中編)
第 27 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (3)	研究会修了論文第 2 章までの執筆段階において中間発表を行う (後編)
第 28 回	まとめ	1 年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 (1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。(2) 日頃からとにかく本を読むこと。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、お笑いなどを積極的に鑑賞、観戦すること。(3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業当初はプリント。後半で扱う古典については教場で指示する。

【参考書】

教場にて指示。

【成績評価の方法と基準】

(1) 2、3 年生は、授業中に年間 2 回の発表と積極的な議論への参加 (20%)、夏・冬 2 回の期末レポート (50%) と 2 ヶ月に 1 度のブック (映画)・レポート提出 (30%)。
 (2) 4 年生は、授業中の積極的な議論への参加 (15%)、および、研究会修了論文の 2 回にわたる中間報告 (20%)、研究会論文を提出すること (50%)。6 月まで月 1 回のブック (映画)・レポート提出すること (15%)。ただし、課題を 1 回でも未提出の場合は単位を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

毎年どのようなテキストを取り扱うのかを教員、学生双方で議論し合いながら決定している。

【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of democracy. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and writing research papers.

LAW400HA

研究会 A

横内 恵

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国の環境法政策について調査をし、ディスカッションやディベートを通してそれらの課題について深く考え、理解することを目指します。また、受講者各自で研究テーマを設定し、主体的に研究して 4 年生終了時までに論文を書き上げることを目指します。

【到達目標】

本研究会では、(1) 受講者各自で設定した研究テーマについて、よく調べて発表し、皆で議論すること、(2) 学部 4 年次には、研究会修了論文を提出し、その内容について発表することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とする。状況に応じて、オンライン授業を行ったり、対面授業とオンライン授業を併用したりする可能性もある。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会のテーマや進め方について解説する。受講者の春学期の報告スケジュールを決定する。
第 2 回	イントロダクション	本研究会における研究の進め方について詳細に解説する。
第 3 回	研究報告 (1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 4 回	研究報告 (2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 5 回	研究報告 (3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 6 回	研究報告 (4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 7 回	研究報告 (5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 8 回	研究報告 (6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 9 回	研究報告 (7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 10 回	研究報告 (8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 11 回	研究報告 (9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 12 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 13 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 14 回	まとめ	春学期の復習を行う
第 15 回	秋学期の研究計画	各受講者の研究テーマについて協議し、報告スケジュールを決定する
第 16 回	研究報告 (1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 17 回	研究報告 (2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 18 回	研究報告 (3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 19 回	研究報告 (4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 20 回	研究報告 (5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 21 回	研究報告 (6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 22 回	研究報告 (7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 23 回	研究報告 (8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う

発行日：2021/5/1

第 24 回	研究報告 (9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 25 回	研究報告 (10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 26 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	秋学期の総復習を行い、次年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告準備にあたっては、事前に文献調査をしっかりと行ってください。適宜、受講生に課題を出すこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第 5 版〕』（弘文堂、2020 年）。

【参考書】

大塚直『環境法〔第 4 版〕』（有斐閣、2020 年）。
その他、必要に応じて研究会中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

総合評価（目安としては、平常点 85 %、課題 15 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar offers undergraduate students opportunities to acquire knowledge in environmental administrative law and compose graduation theses.

SOC400HA

研究会 A

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では「身体社会学」の中から医療、ジェンダー、多様性に焦点を当てて理解を深めます。

【到達目標】

1. 「身体」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得る。
2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前期と後期でそれぞれに設定されたテーマに基づいてグループプロジェクトを行います。また、個人研究に関する発表やディスカッションの場を設けます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第 2 回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 3 回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 4 回	グループプロジェクト (1) プレインストーミング	アイデアや情報の共有、ディスカッション
第 5 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 6 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 7 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 8 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 9 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 10 回	グループプロジェクト (1) 発表	報告、質疑応答
第 11 回	グループプロジェクト (1) 総括	ディスカッションとまとめ
第 12 回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第 13 回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第 14 回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第 15 回	ガイダンス	秋学期の計画について確認; 夏季休暇中の課題に関する報告; グループワークについてディスカッション
第 16 回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第 17 回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第 18 回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第 19 回	グループプロジェクト (2) プレインストーミング	アイデアや情報を共有、ディスカッション
第 20 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 21 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 22 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 23 回	グループプロジェクト (2) 発表	報告、質疑応答
第 24 回	グループプロジェクト (2) 総括	ディスカッションとまとめ
第 25 回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第 26 回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第 27 回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第 28 回	1 年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 50%; 最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションや発表の時間を増やし、学生がより主体的に参加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar on the Sociology of the Body focuses on issues surrounding medicine, gender, and diversity.

HUG400HA

研究会 A

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2021 年度は「地域の経済」について調べ、考え、議論します。

【到達目標】

この研究会では「地域」や「社会」や「経済」をキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマ「地域の経済」についてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第 2 回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説する
第 3 回	基礎文献購読と報告（1）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 4 回	基礎文献購読と報告（2）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 5 回	基礎文献購読と報告（3）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 6 回	基礎文献購読と報告（4）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 7 回	基礎文献購読と報告（5）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 8 回	テーマ・ワークショップ（第 1 回）	研究会全体でワークショップを実施する
第 9 回	調査計画の報告（1）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 10 回	調査計画の報告（2）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 11 回	調査計画の報告（3）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 12 回	調査計画の報告（4）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 13 回	調査計画の報告（5）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 14 回	研究会（春）のまとめ	春学期の総括と秋学期の課題を話し合う
第 15 回	オリエンテーション（秋）	秋学期の研究会の進め方について話し合う

第 16 回	テーマ・ワークショップ (第 2 回)	研究会全体でワークショップを実施する
第 17 回	グループ研究報告とディスカッション (1)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 18 回	グループ研究報告とディスカッション (2)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 19 回	グループ研究報告とディスカッション (3)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 20 回	グループ研究報告とディスカッション (4)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 21 回	グループ研究報告とディスカッション (5)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 22 回	個別研究についての報告 (1)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 23 回	個別研究についての報告 (2)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 24 回	個別研究についての報告 (3)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 25 回	個別研究についての報告 (4)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 26 回	個別研究についての報告 (5)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 27 回	個別研究についての報告 (6)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 28 回	年間のふりかえりとまとめ	「食からみた社会」という共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でのフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

・適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

文献講読報告 (30%)、グループ調査計画 (20%)、グループ研究報告 (30%)、個別研究計画報告 (20%) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体性を大切にしたい研究会運営をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In 2021, I will investigate, think and discuss about "the economy of local".

PHL400HA

研究会 A

吉永 明弘

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境倫理学と都市問題・住宅問題について学ぶ

【到達目標】

環境倫理学の概要を理解するとともに、倫理的な考え方を身につける。また、都市問題、住宅問題についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境倫理学、都市問題、住宅問題などに関する文献をたくさん読んで議論する。どのジャンルの本の重点的に読むかは参加学生と相談して決める。その他、アメニティマップ (魅力ある場所と問題のある場所を色分けして記したマップ) の製作と発表も行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、購読するテキストを決める。
2	イントロダクション (2)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、購読するテキストを決める。
3	文献購読 (1)	テキストの購読を行う。
4	文献購読 (2)	テキストの購読を行う。
5	文献購読 (3)	テキストの購読を行う。
6	文献購読 (4)	テキストの購読を行う。
7	文献購読 (5)	テキストの購読を行う。
8	文献購読 (6)	テキストの購読を行う。
9	アメニティマップ概説	アメニティマップについて説明する。
10	アメニティマップ準備	アメニティマップ製作の準備を行う。
11	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
12	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
13	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
14	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
15	中間考察	テキストと地図作りから得られた知見について話し合う。
16	文献購読 (7)	テキストの購読を行う。
17	文献購読 (8)	テキストの購読を行う。
18	文献購読 (9)	テキストの購読を行う。
19	文献購読 (10)	テキストの購読を行う。
20	文献購読 (11)	テキストの購読を行う。
21	文献購読 (12)	テキストの購読を行う。
22	冊子の製作 (1)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
23	冊子の製作 (2)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
24	冊子の製作 (3)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
25	冊子の製作 (4)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
26	冊子の製作 (5)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
27	冊子の製作 (6)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
28	冊子の製作 (7)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当者はテキストを読んでレジュメをつくってこること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

担当分のレジュメ（30％）、アメニティマップ（20％）、冊子の作成（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You can understand environmental ethics, urban problems and housing problems.

LAW400HA

研究会 B

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国における循環型社会政策について、とりわけ、海洋プラスチックごみ問題や食品ロス問題に関する政策について、それらの現状と課題について調査し、検討する。

【到達目標】

本演習は、我が国の循環型社会政策について基礎的な知識を習得することと、それらをめぐる現状を調査し、現在の制度やその運用における課題を見出すことを目標とするものである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ハイフレックス授業を基本とする。状況に応じて、オンラインのみの授業を実施する可能性もある。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会のテーマや進め方について解説する
第2回	研究報告(1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第3回	研究報告(2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第4回	研究報告(3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第5回	研究報告(4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第6回	研究報告(5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第7回	研究報告(6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第8回	研究報告(7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第9回	研究報告(8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第10回	研究報告(9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第11回	研究報告(10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第12回	ディベート(1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第13回	ディベート(2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第14回	春学期まとめ	春学期の総復習を行う
第15回	オリエンテーション	春学期の復習をし、秋学期の進め方について解説する
第16回	研究報告(1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第17回	研究報告(2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第18回	研究報告(3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第19回	研究報告(4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第20回	研究報告(5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第21回	研究報告(6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第22回	研究報告(7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第23回	研究報告(8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第24回	研究報告(9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う

第 25 回	研究報告 (10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 26 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	1 年間の復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
 必要に応じて指定します。

【参考書】
 必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
 総合評価（目安としては、平常点 70 %、課題 30 %）

【学生の意見等からの気づき】
 特になし。

【実務経験のある教員による授業】
 本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】
 This seminar is designed to explore the issues of sound material-cycle society

SOC400HA

研究会 B

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学的視点を養いながら、実践的な社会科学の調査（質的調査）のスキルを身につけるための研究会です。

【到達目標】

- 質的調査の方法を学ぶ。
- 英語文献・論文を探し、読み、使いこなせるようになる。
- 各人のテーマに沿って研究計画書を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

調査方法についての講義、個人プロジェクトに関する発表やディスカッション、その他のワークショップを行います。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第 2 回	社会学の「社会の見方」;	ジャーナリズムと社会学; 質的調査と量的調査
第 3 回	個人研究 ワークショップ	何を知りたいか; どのような方法で調べたいか
第 4 回	個人研究に使用する文献 (日本語) の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 5 回	英語文献の探し方 (図書)	図書館にてワークショップ
第 6 回	個人研究に使用する文献 (英文図書) の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 7 回	英語資料の探し方 (新聞、雑誌記事、学術論文)	データベースの使い方
第 8 回	英語論文の読み方	構成を知る; 目的に沿った読み方; 読み方のコツ
第 9 回	個人研究に使用する文献の発表 (英語論文)	報告、質疑応答とディスカッション
第 10 回	半構造インタビュー、フォーカス・グループ	インタビューの依頼; 準備; 手法; ラポール
第 11 回	参与観察	観察の方法; フィールドノートの取り方; 整理方法
第 12 回	テキスト分析	雑誌、新聞、テレビ番組等の内容をどのように社会調査に使うか
第 13 回	質的データの分析方法	データの管理; 整理と分析; コーディング
第 14 回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第 15 回	ガイダンス	秋学期の計画について確認
第 16 回	リサーチクエスト	問いの立て方; 先行研究とのつながり
第 17 回	研究計画書の書き方	内容と構成
第 18 回	先行研究のまとめ	研究課題との繋げ方
第 19 回	先行研究のまとめについて発表	個人研究のために用意した先行研究のまとめの報告とディスカッション
第 20 回	調査方法のワークショップ	個人研究で使用する調査方法に関するグループワークとグループディスカッション
第 21 回	調査方法についての発表	個人研究で使用する調査方法について発表
第 22 回	アウトラインの共有	個人研究の計画書アウトラインについて発表、質疑応答
第 23 回	ピアレビュー	受講者同士、計画書の第 1 稿にコメントと質問
第 24 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 25 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 26 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答

- 第 27 回 研究計画書の発表 個人研究の計画書について発表、質疑
応答
- 第 28 回 1 年間のまとめ 今年度の学習内容と研究活動のふりか
えり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること、課題を定められた期間内に仕上げる、文献を読み、報告やディスカッションに備えること、自主的に研究を進めることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%; 課題 60%; 最終レポート（研究計画書）20%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやディスカッションの時間を増やし、学生がより主体的に参加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使います。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar is designed to have students obtain skills necessary for conducting qualitative social research while cultivating sociological perspectives.

HUG400HA

研究会 B

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域経済、人文地理学、歴史学、民俗学、文化人類学などの視点から興味があるテーマを調べ、考え、議論します。受講生の問題関心に合わせて、2021 年度の「研究テーマ」を設定します。

【到達目標】

この研究会では受講者でテーマを決定し、それをキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマについてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第 2 回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説した後、研究会メンバーで共通テーマを決める
第 3 回	基礎文献講読と報告（1）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 4 回	基礎文献講読と報告（2）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 5 回	基礎文献講読と報告（3）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 6 回	基礎文献講読と報告（4）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 7 回	基礎文献講読と報告（5）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 8 回	春のワークショップ	研究会全体でワークショップを実施する
第 9 回	基礎文献講読と報告（1）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 10 回	基礎文献講読と報告（2）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 11 回	基礎文献講読と報告（3）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 12 回	基礎文献講読と報告（4）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 13 回	基礎文献講読と報告（5）	関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 14 回	研究会（春）のまとめ	春学期の総括と秋学期の課題を話し合う
第 15 回	オリエンテーション（秋）	秋学期の研究会の進め方について話し合う
第 16 回	調査計画の報告（1）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 17 回	調査計画の報告（2）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 18 回	調査計画の報告（3）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する

第 19 回	調査計画の報告（4）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 20 回	調査計画の報告（5）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 21 回	秋のワークショップ	研究会全体でワークショップを実施する
第 22 回	グループ研究報告とディスカッション（1）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 23 回	グループ研究報告とディスカッション（2）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 24 回	グループ研究報告とディスカッション（3）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 25 回	グループ研究報告とディスカッション（4）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 26 回	グループ研究報告とディスカッション（5）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 27 回	個別研究テーマの報告	個人ごとに研究テーマを報告し、議論する
第 28 回	年間のふりかえりとまとめ	共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

文献講読報告（30 %）、調査計画（20 %）、研究報告（30 %）、研究会への主体的参加（20 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップについては、参加者と相談の上テーマと日程を設定します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We study, think and discuss topics of interest from the viewpoints of local economy, humanities geography, historical studies, folklore studies, cultural anthropology and so on. In accordance with the students' problem concerns, we will decide the "research theme" in 2021.

PHL400HA

研究会 B

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理・動物倫理・環境倫理の本を読む。

【到達目標】

生命倫理、動物倫理、環境倫理に関する専門書を協力して読むことによって、内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生命倫理、動物倫理、環境倫理に関する本を輪読する。参加者の関心のあるテーマを中心に読んでいく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に対応した授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介を行い、読む本を選定する。
2	生命倫理に関する本を読む（1）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
3	生命倫理に関する本を読む（2）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
4	生命倫理に関する本を読む（3）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
5	生命倫理に関する本を読む（4）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
6	生命倫理に関する本を読む（5）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
7	生命倫理に関する本を読む（6）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
8	生命倫理に関する本を読む（7）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
9	生命倫理に関する本を読む（8）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
10	動物倫理に関する本を読む（1）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
11	動物倫理に関する本を読む（2）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
12	動物倫理に関する本を読む（3）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
13	動物倫理に関する本を読む（4）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
14	動物倫理に関する本を読む（5）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
15	動物倫理に関する本を読む（6）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
16	動物倫理に関する本を読む（7）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
17	動物倫理に関する本を読む（8）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
18	環境倫理に関する本を読む（1）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
19	環境倫理に関する本を読む（2）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
20	環境倫理に関する本を読む（3）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
21	環境倫理に関する本を読む（4）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
22	環境倫理に関する本を読む（5）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
23	環境倫理に関する本を読む（6）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
24	環境倫理に関する本を読む（7）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
25	環境倫理に関する本を読む（8）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
26	書評の作成と添削（1）	書評の作成と添削を行う。
27	書評の作成と添削（2）	書評の作成と添削を行う。

28 書評の作成と添削（3） 書評の作成と添削を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人の関心のあるテーマについて調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のレジュメ（50 %）と書評（50 %）の作成に対して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Read books on bioethics, animal ethics and environmental ethics.

SOC400HA

研究会 B

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 6/Tue.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの文献を講読し、それぞれの領域の最先端の議論を理解するとともに、実証的な社会学研究を自ら行うための方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会的なまなざし、アプローチの特徴を理解することができる。また、実証的な社会学の方法論を学ぶ事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究（国内外）を決定し、講読する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第 2 回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 3 回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 4 回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 5 回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 6 回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 7 回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 8 回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 9 回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 10 回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 11 回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 12 回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 13 回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 14 回	講読文献の内容の比較検討 (1)	春学期に講読した文献を比較検討し、実証研究の方法論の検討する。
第 15 回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 16 回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。

第 17 回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 18 回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 19 回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 20 回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 21 回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 22 回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 23 回	文献購読 (21)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 24 回	文献購読 (22)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 25 回	文献購読 (23)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 26 回	文献購読 (24)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 27 回	文献購読 (25)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 28 回	講読文献の内容の比較検討 (2)	秋学期に講読した文献を比較検討し、実証研究の方法論の検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業（文献講読、調査、論文執筆等）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

筒井淳也『社会を知るためには』（ちくまプリマー新書）2020 年
ケン・ブラマー『21 世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫）2021 年

【参考書】

随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本演習は火曜日 5 時限目にサブゼミとして延長して実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to understand the latest discussions in the fields of environmental sociology, community sociology, urban sociology, rural sociology. This seminar also offers how to create a research design for sociological empirical study and how to write a research paper.

ENV400HA

研究会 B

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。

- ①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
- ②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
- ③環境教育・コミュニティ・企業活動・市民活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
- ④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらに関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

【到達目標】

本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的思考力（コンサルタント力・デザイン力）を高めます。併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムである CES（千代田エコシステム）への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①グループ研究…半期に 2～3 テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定 → 情報収集 → 分析評価 → 伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。
- ②個人研究 1…共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。
- ③個人研究 2…個々人の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。
- ④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベントに参加する等の活動を行います。
- ⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせで持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通して、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	基礎学習 1（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 3 回	基礎学習 2（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 4 回	基礎学習 3（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 5 回	基礎学習 4（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 6 回	フィールド学習 1	現地調査 1
第 7 回	グループ研究 1	緑地に関するグループ討議
第 8 回	グループ研究 2	緑地に関するグループ討議・発表
第 9 回	グループ研究 3	水辺に関するグループ討議
第 10 回	グループ研究 4	水辺に関するグループ討議・発表
第 11 回	フィールド学習 2	現地調査 2
第 12 回	グループ研究 5	生物に関するグループ討議
第 13 回	グループ研究 6	生物に関するグループ討議・発表
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	グループ研究 7	認証と評価に関するグループ討議
第 17 回	グループ研究 8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第 18 回	グループ研究 9	計画とデザインに関するグループ討議
第 19 回	グループ研究 10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第 20 回	フィールド学習 3	現地調査 3
第 21 回	個人研究 1	テーマ検討と意見交換
第 22 回	個人研究 2	研究構成の検討と意見交換
第 23 回	個人研究 3	研究のプッシュアップ
第 24 回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討

第 25 回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第 26 回	個人研究成果の発表 1	研究結果の発表と討論 1
第 27 回	個人研究成果の発表 2	研究結果の発表と討論 2
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をします。各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.

- ① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.
- ② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
- ③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, citizen activity, landscape creation and maintenance activities.
- ④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

OTR400HA

研究会修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

A タイプ研究会を原則として 2 年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各 A 研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第 2 回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 3 回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 4 回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 5 回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第 6 回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第 7 回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第 8 回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第 9 回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第 10 回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第 11 回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第 12 回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第 13 回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第 14 回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②B タイプ研究会受講者は登録できない。（B タイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

OTR400HA

コース修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。
- ③Aタイプ研究会受講者は登録できない。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for type B seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

OTR400HA

プログラム修了論文**人間環境学部教員**

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人リフレッシュ・ステージ・プログラム（RSP）で入学した学生が、人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、プログラム修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラム修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②プログラム修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、プログラム修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

③ RSP 以外の学生は登録できない。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for RSP program students). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

OTR200HA

人間環境セミナー（都市の持続可能性）

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土3/Sat.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な都市を実現するために必要な観点を、さまざまな研究領域から探っていく。

【到達目標】

多方面からの話を聞くことによって、持続可能な都市を実現するためにはどのような政策、制度、倫理が必要なのかを考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、都市関連の講師を学外から招き、毎回それぞれのテーマに関する講演を聴講する。講義の後に質疑応答の時間を設ける。受講者は各回にコメントペーパーの提出が義務づけられる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市の持続可能性：総論	都市の持続可能性についての論点を示し、セミナー全体の流れを紹介する
2	都市の現在（1）	外部講師による講義
3	都市の現在（2）	外部講師による講義
4	都市の現在（3）	外部講師による講義
5	都市の現在（4）	外部講師による講義
6	都市計画と市民参加（1）	外部講師による講義
7	都市計画と市民参加（2）	外部講師による講義
8	都市計画と市民参加（3）	外部講師による講義
9	世界の都市の問題（1）	外部講師による講義
10	世界の都市の問題（2）	外部講師による講義
11	世界の都市の問題（3）	外部講師による講義
12	都市の過去と未来（1）	外部講師による講義
13	都市の過去と未来（2）	外部講師による講義
14	都市の過去と未来（3）	外部講師による講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義資料などを使用して予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて外部講師によるプリント（資料）が配布されます。

【参考書】

各回の講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%
レポート：60%

・原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行いません（D評価となります）。

・講義開始から10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。

・講義中のスマートフォンの使用は禁止します（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とします。ルールを守らない場合は、減点または欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選んでください。

【その他の重要事項】

【履修方法】

本セミナーは受講者数によっては定員制で行う。その場合は、事前に学習支援システムに仮登録をした学生の中から抽選によって履修者を決定する。

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。

本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、1回目の授業で示す。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】
Interdisciplinary studies for sustainable city.

OTR200HA

人間環境セミナー（「持続可能な開発目標（SDGs）」と私たちー 2030年とその先を自分事化する）

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土3/Sat.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下 SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGs についての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。

【到達目標】

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだ SDGs については、主に国際機関、政府や NGO / NPO が主体的に活動するものと思われがちである。しかし SDGs では、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ当学部の学生として、① SDGs に関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、② SDGs にあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本セミナーの目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、SDGs に関わり実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者の SDGs や現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

また、同時に可能な範囲でアクティブラーニングの要素を取り入れた回を設け、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

担当：武貞稔彦他

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	グループディスカッション	参加者を特定のテーマに沿ってグループ分けし、SDGs 実現のための行動計画について意見交換を行う。
第14回	試験	これまでのセミナー内容に関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意しておく（参考文献などがあらかじめ指定される場合もある）。
復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそうの理解や興味を深めていく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%
テスト・レポート：60%

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

【その他の重要事項】

-講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。
-本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表する。
-なお、来年度以降のセミナー開催予定については「履修の手引き」に掲載している。

【実務経験のある教員による授業】

複数の担当者が、SDGsのゴール／ターゲットの実現に関わりを持った実務経験があり、それらの経験から得られた知見も活用されている。

【Outline and objectives】

This course focuses on "Sustainable Development Goals (SDGs)", putting emphasis on how and why each individual will commit oneself to participating in everyday effort for achieving interested goal or target. Number of lectures by experts and/or practitioners of the SDGs will give participants ideas and motivation to be a part of the worldwide endeavor.

OTR200HA

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 6/Wed.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、さまざまな健康関連の問題が山積している現代社会を健康に生きていくために、学生の間で習得しておくべき知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

現代社会において、健康関連の情報は氾濫しているといっても過言ではない。それら膨大な情報の中から自分にとってプラスとなるものを選び出し、さらには健康行動を実行に移すことは非常に難しいと考えられる。本講義では健康関連諸問題に着目し、各分野における重要な知識、さらには必要に応じて最先端の知識を身につけ、健康に生きていくための術を学ぶ。最終的には自分や家族の健康について振り返り、考え、行動していくことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、学外から各種専門分野の講師をお招きしてさまざまなテーマについての講演を聴講します。各講師の豊かな経験、知見に触れることで、受講者の視野が広がることを期待しています。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方について。各回の講師と講演タイトルについては4月以降、決定次第掲示します。
第2回	外部講師による講義(1)	外部講師による専門的な講義
第3回	外部講師による講義(2)	外部講師による専門的な講義
第4回	外部講師による講義(3)	外部講師による専門的な講義
第5回	外部講師による講義(4)	外部講師による専門的な講義
第6回	外部講師による講義(5)	外部講師による専門的な講義
第7回	外部講師による講義(6)	外部講師による専門的な講義
第8回	外部講師による講義(7)	外部講師による専門的な講義
第9回	外部講師による講義(8)	外部講師による専門的な講義
第10回	外部講師による講義(9)	外部講師による専門的な講義
第11回	外部講師による講義(10)	外部講師による専門的な講義
第12回	外部講師による講義(11)	外部講師による専門的な講義
第13回	外部講師による講義(12)	外部講師による専門的な講義
第14回	試験	試験を授業内に行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布されたプリント、講義の内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%
テスト・レポート：60%
なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々には丁寧にご回答くださいますので、理解を深められるはずですが、セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、掲示板及び学部ウェブサイトにて発表します。なお、外部講師の都合でテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります。

また、来年度以降のセミナーの開催予定については「履修の手引き」に掲載しています。

【Outline and objectives】

Various health-related problems are piling up nowadays in our society. The purpose of this lecture is to provide students the knowledge about health care in order to live healthily.

OTR200HA

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第4回		
第5回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第10回		
第11回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
～第13回		
回		
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合は、原則として費用は返還されない。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

OTR200HA

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第3回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第10回		現地体験の総括講義、報告会等。
第11回	事後講義	
～第13回		
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skills to analyze the role of business to contribute to solving global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable Development Goals. As governments alone cannot solve problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders to reduce negative impact across their value chains and deliver high-impact business solutions to challenging sustainability issues. Through this course, students learn various efforts of global companies to solve challenges on the earth and how they are creating shared value (CSV) and realizing sustained growth.

【到達目標】

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are creating shared values (CSV) and realizing their sustained growth.
- (2) Develop logical thinking skills to set hypotheses, collect necessary information, and test the hypotheses through systematic analysis on themes that students choose.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

(1) The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. To acquire basic knowledge on global sustainability and roles of companies, students will review and present selected academic literature and sustainability/Integrated reports issued by major global companies. If students are interested in a specific industry or company, they conduct research and share the research findings with other members of this course.

(2) Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lectures and discussions
Week 3	Reading academic literature (2)	Student presentation and discussions
Week 4	Reading academic literature (3)	Student presentation and discussions
Week 5	Reading academic literature (4)	Student presentation and discussions
Week 6	Reading academic literature (5)	Student presentation and discussions
Week 7	Reading academic literature (6)	Student presentation and discussions
Week 8	Reading academic literature (7)	Student presentation and discussions
Week 9	Reading academic literature (8)	Student presentation and discussions
Week 10	Reading academic literature (9)	Student presentation and discussions
Week 11	Reading academic literature (10)	Student presentation and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Student presentation and discussions
Week 13	Reading academic literature (12)	Student presentation and discussions
Week 14	Reading academic literature (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared.
For students' own research topics, students are required to read materials and summarize key points on a regular basis.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Academic literature will be introduced during the orientation.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active participation in class discussion: 50%
- (2) In-class presentations: 25%
- (3) Final writing assignment: 25%

Details will be explained in class.

【学生の意見等からの気づき】

More business cases will be reviewed and discussed.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

In this course, all discussions and presentations will be conducted in English therefore it is preferable that students thinking of taking this course have advanced English communication skills.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skills to analyze the role of business to contribute to solving global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable Development Goals. As governments alone cannot solve problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders to reduce negative impact across their value chains and deliver high-impact business solutions to challenging sustainability issues. Through this course, students learn various efforts of global companies to solve challenges on the earth and how they are creating shared value (CSV) and realizing sustained growth.

【到達目標】

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how businesses are creating shared values (CSV) and realizing their sustained growth.
- (2) Develop logical thinking skills to systematically analyze by setting hypothesis and collecting necessary information.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. To acquire basic knowledge on global sustainability and roles of companies, students will review selected academic literatures and sustainability/integrated reports issued by major global companies. The summary of those materials will be reported by students. If students are interested in a specific industry or company, they can conduct research and share the research findings with other members of this course. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading academic literatures(1)	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures (2)	Student presentation and discussions
4	Reading academic literatures (3)	Student presentation and discussions
5	Reading academic literatures (4)	Student presentation and discussions
6	Reading academic literatures (5)	Student presentation and discussions
7	Reading academic literatures (6)	Student presentation and discussions
8	Reading academic literatures (7)	Student presentation and discussions
9	Reading academic literatures (8)	Student presentation and discussions
10	Reading academic literatures (9)	Student presentation and discussions
11	Reading academic literatures (10)	Student presentation and discussions
12	Reading academic literatures (11)	Student presentation and discussions
13	Reading academic literatures (12)	Student presentation and discussions
14	Reading academic literatures (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared by reading textbooks and references. Also, students are required to complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Academic literatures will be introduced during the orientation.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1)Active participation in the class discussion: 50%
- (2)In-class presentations:25%
- (3)Final writing assignment:25%

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit unless they have a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

Based on students' feedback, more actual business cases will be reviewed and discussed.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

In this course, all discussions will be conducted in English therefore it would be preferable for students thinking of taking this course to have advanced English communication skills.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Hidemi YOSHIDA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar, students will learn about sustainability by reading a report of international organizations and discussing related cases.

【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) have skill to read reports and academic papers,
- (2) develop skills of academic research based on individual interest,
- (3) deepen understanding of sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will consist of students' report summary, complementary lecture and discussion.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading report (1)	Short lectures and discussions
3	Reading report (2)	Student presentation and discussions
4	Reading report (3)	Student presentation and discussions
5	Reading report (4)	Student presentation and discussions
6	Reading report (5)	Student presentation and discussions
7	Reading report(6)	Student presentation and discussions
8	Individual research(1)	Student presentation and discussions
9	Individual research(2)	Student presentation and discussions
10	Individual research(3)	Student presentation and discussions
11	Individual research(4)	Student presentation and discussions
12	Individual research(5)	Student presentation and discussions
13	Individual research(6)	Student presentation and discussions
14	Summary & reflection	Feedback from instructor and students.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

The textbook will be introduced on the first class day. It is assumed that it can be downloaded from the websites of international organizations.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation: 40%
- (2) Completion of in-class reporting (presentation) assignments: 40%
- (3) Final writing assignments: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Reading materials are subject to change based on students' understanding and interest.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

I welcome those who are not confident in their English reading comprehension and are willing to do their best.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Hidemi YOSHIDA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar, students will learn about international migrants by reading a UN report and discussing related cases.

【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) learn about the current trend of international migrants,
- (2) understand issues related to migrants,
- (3) have skill to read reports with statistical data.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. The course will consist of students' report summary, complementary lecture and discussion.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading UN report (1)	Short lectures and discussions
3	Reading UN report (2)	Student presentation and discussions
4	Reading UN report (3)	Student presentation and discussions
5	Reading UN report (4)	Student presentation and discussions
6	Reading UN report (5)	Student presentation and discussions
7	Reading UN report(6)	Student presentation and discussions
8	Reading UN report(7)	Student presentation and discussions
9	Reading UN report(8)	Student presentation and discussions
10	Reading UN report (9)	Student presentation and discussions
11	Reading UN report (10)	Student presentation and discussions
12	Reading UN report (11)	Student presentation and discussions
13	Reading UN report(12)	Student presentation and discussions
14	Reading UN report (13) and course summary	Student presentation and discussions, and course summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

"World Migration Report 2018" by International Organization for Migration

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation: 40%
- (2) Completion of in-class reporting(presentation) assignments: 40%
- (3) Final writing assignments: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Reading materials are subject to change based on students' understanding and interest.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

I recommend that students with an interest in development studies continue to attend this seminar. In addition to reading the textbook, I plan to give guidance in line with each research theme.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Shamik Chakraborty

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability. We will learn various issues related to landscape sustainability through active learning. This course is directly related to the aims of the Sustainability Co-creation Programme (SCOPE) at Hosei University.

A vital attribute of the seminar course is developing a “class project” where students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., literature review, interview, questionnaire, observation). Students will then be required to write a report, summing up their investigations. Depending on their research projects, students will also get chances to learn from fieldworks, and from local stakeholders/resource managers regarding various local sustainability problems.

【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about sustainable landscapes from a socio-ecological viewpoint are welcome. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of the various challenges of sustainable resource use mainly through critical thinking, and discussions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The course will mainly be based on on-campus classes and field trips.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and orientation	Guidance for the seminar course. What are socioecological landscapes? How socioecological landscapes can inform sustainability studies.
Week 2	Brainstorming on students research interests	Discussions on students research interests. Relating these interests with various dimensions of sustainability issues.
Week 3	Research methods: A brief introduction	Guidance and discussion on research methods and field study topic.
Week 4	Commons in socioecological landscapes	Commons in socioecological landscapes, change, degradation and resilience.
Week 5	How we can co-create sustainability?	Knowledge and commons Use of multiple knowledges for landscape sustainability
Week 6	Critical thinking and discussion	Discussion based on lecture of week 4 and week 5
Week 7	Individual guidance 1	Guidance on students' class projects
Week 8	Individual guidance 2	Guidance on students' class projects
Week 9	Individual guidance 3	Guidance on students' class projects
Week 10	Individual guidance 4	Guidance on students' class projects
Week 11	Presentations 1	Students class presentations on research projects

Week 12	Presentations 2	Students class presentations on research projects
Week 13	Preparation for final report	Comments on students first draft of research report
Week 14	Summary	Summary and course wrap-up. What we have learnt from the course and looking forward.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class.

【参考書】

References will be provided in the class

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were made based on students' comments

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

None.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Shamikh Chakraborty

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Advanced)

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability issues through engaging with local socio-ecological landscapes/seascapes. This seminar will be a continuation of the seminar held in the fall semester and give an insight into the concept of landscapes and its application in studying landscape sustainability.

A major part of the research will link the notion of landscapes together with learning from local knowledgeable stakeholders to have a critical understanding of sustainability studies. A vital attribute of the seminar course is developing (or continuing) a "class project" where the students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., interview, questionnaire, observation) from topics introduced. Students will then be required to write a report, summing up their investigations.

【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about landscapes and sustainability issues (such as the traditional agriculture and/or fisheries-based systems), including directly visiting these ecosystems, and learning from local stakeholders, are welcome. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of different types of landscapes and the challenges they face. They will also work through critical thinking, discussion, and writing to explore workable solutions to these challenges. Students will learn vital oral and written communication skills, mainly through their class projects. These skills will help them in their future studies and research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The course will mainly be based on on-campus classes and field trips (tentative).

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the concept of "landscapes"	What are "landscapes"? Evolution of the notion of landscapes
Week 2	Landscape and landscape governance	How the notion of landscapes can be used for an integrated landscape governance
Week 3	Research methods 1	Guidance and discussion on research methods and study topics.
Week 4	Research methods 2	Guidance and discussion on research methods and study topics.
Week 5	Landscapes and resilience 1	Landscapes and resilience (reflection through students' projects and lectures).
Week 6	Landscapes and resilience 2	Landscapes as complex adaptive systems
Week 7	Knowledge component and landscapes	Indigenous and local knowledge in cultural landscapes and their resilience (reflection through the field studies and invited lecture).
Week 8	Field visit 1	Location TBA
Week 9	Field visit 2	Reflections on field visit
Week 10	Individual guidance 1	Guidance on individual projects
Week 11	Individual guidance 2	Guidance on individual projects
Week 12	Individual guidance 3	Guidance on individual projects
Week 13	Individual guidance 4	Guidance on individual projects

発行日：2021/5/1

Week 14 Course summary Wrap up, final guidance for writing report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to carry out their field studies with close supervision from the instructor. They are encouraged to raise fresh issues or offer critical viewpoints on the readings.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were required based on students' comments

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【その他の重要事項】

N/A

